

内港地区の将来像と
山下ふ頭再開発の新たな事業計画策定に向けた
市民意見及び事業者提案の結果について

横浜市港湾局

目次

第1章 市民意見募集結果

1	市民意見募集の概要	1
(1)	目的	1
(2)	募集期間	1
(3)	募集方法	1
(4)	回答数	1
(5)	回答者の属性	2
2	市民意見募集の集計・分析方法	3
(1)	単純集計、クロス集計	3
(2)	自由意見分析	3
3	各問の集計・分析結果	4
問1	「内港地区の将来像」について	4
問2	「山下ふ頭の再開発のイメージ」について	7
問3	「山下ふ頭にふさわしい導入機能」について	21
問4	「山下ふ頭の再開発に取り入れる視点」について	35
	問1から問4に当てはまらなかった意見について	49

第2章 市民意見交換会結果

1	市民意見交換会の概要	54
(1)	開催趣旨	54
(2)	実施概要	54
(3)	当日の流れ	55
2	当日の記録	58
(1)	第1回（5月29日）東部エリア	58
(2)	第2回（6月12日）西部エリア	95
(3)	第3回（6月18日）北部エリア	113
(4)	第4回（6月26日）南部エリア	146
3	総括（統括ファシリテーターによるまとめ）	180
(1)	各回の総評	180
ア	第1回（5月29日）東部エリア	180
イ	第2回（6月12日）西部エリア	183
ウ	第3回（6月18日）北部エリア	185
エ	第4回（6月26日）南部エリア	188
(2)	全4回の総括	191

第3章 事業者提案募集結果

1 事業者提案募集結果の概要	202
(1) 目的	202
(2) スケジュール	202
(3) 提案項目	202
(4) 提案件数	202
(5) 提案事業者名	202
(6) 令和4年8月29日公表内容	203
2 事業者提案の内容	205
(1) 内港地区の将来像、及び、山下ふ頭再開発の開発コンセプトや土地利用イメージ図、 想定する導入施設	205
(2) 山下ふ頭再開発に取り入れる視点	247
(3) 開発の事業性	254
(4) 市へのご意見・ご要望	255

第 1 章 市民意見募集結果

1 市民意見募集の概要

(1) 目的

ベイブリッジ内側の内港地区の将来像の検討及び山下ふ頭再開発の新たな事業計画策定に向け、市民等の皆様からの意見募集を行い、港湾計画の改訂や山下ふ頭再開発の事業計画の検討に活用していくことを目的とします。

(2) 募集期間

令和3年12月23日（木）から令和4年6月30日（木）まで

(3) 募集方法

リーフレット付属の専用はがきやインターネットの入力フォームによるアンケート形式とします。ただし、これによらない自由な意見・アイデアも受け付けます。

(4) 回答数

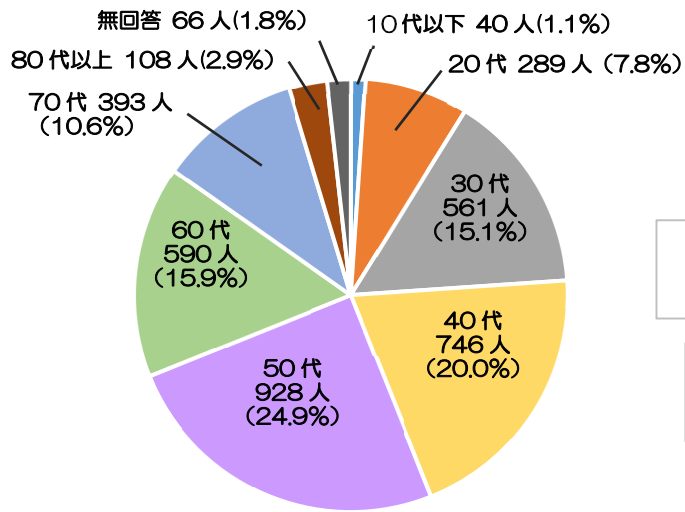
3,721件 ※うち、自由意見があったもの：1,942件

【参考】提出方法の内訳

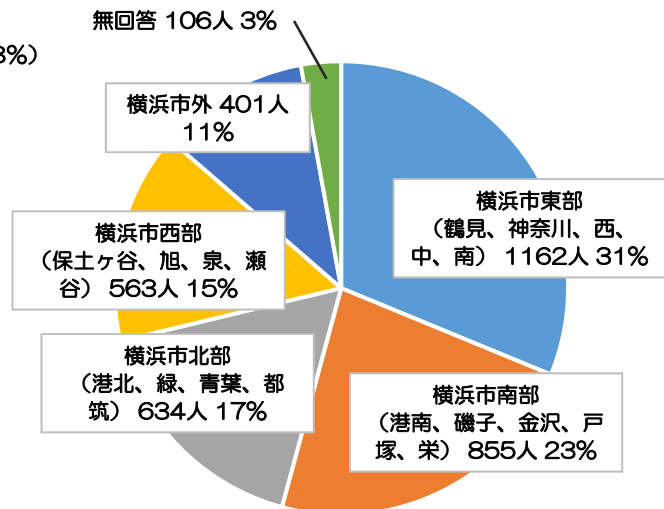
専用はがき	597件	
インターネット入力フォーム	3,049件	(うち、eアンケート 1,529件)
電子メール等	75件	(うち、市民からの提案等の広聴事業経由 16件)

(5) 回答者の属性

図表 1-1 年代別割合



図表 1-2 居住地別割合



図表 1-3 年代、居住地別人数一覧

	～10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代～	(無回答)	小計
鶴見区	1	8	46	35	31	35	32	3	2	193
神奈川区	2	14	30	62	68	40	19	6	4	245
西区	3	17	30	40	43	29	11	1	2	176
中区	3	23	43	68	104	66	25	7	5	344
南区	5	20	21	48	43	46	19	2	0	204
港南区	1	18	29	39	44	45	27	13	2	218
保土ヶ谷区	1	14	19	36	53	38	27	9	1	198
旭区	1	9	19	34	48	24	33	6	0	174
磯子区	3	11	16	27	46	23	17	10	2	155
金沢区	0	7	13	30	43	37	34	4	0	168
港北区	0	17	37	61	70	36	26	5	4	256
緑区	5	4	12	26	29	19	8	7	4	114
青葉区	2	6	10	27	44	23	23	8	1	144
都筑区	0	13	12	23	35	20	13	3	1	120
戸塚区	1	13	24	33	63	42	29	9	3	217
栄区	2	2	12	23	23	17	13	5	0	97
泉区	4	11	8	18	26	23	16	3	1	110
瀬谷区	0	5	5	11	27	12	14	7	0	81
横浜市外	6	76	105	105	87	13	7	0	2	401
(無回答)	0	1	70	0	1	2	0	0	32	106
小計	40	289	561	746	928	590	393	108	66	3,721

2 市民意見募集の集計・分析方法

(1) 単純集計、クロス集計

各問における選択肢回答について、集計を行いました。また、回答者の年代や居住地による傾向を把握するため、問2～問4についてクロス集計を行いました。

(2) 自由意見分析

自由意見については、その具体的内容の傾向を把握するとともに、単純集計、クロス集計の結果を具体的に補足するため、以下の手順で分析を行いました。

ア 自由意見を一文ずつに分け、アフターコーディング^{※1}の手法により、問2～問4ごとに合致するものを抽出

イ 問ごとに抽出した一文について、テキストマイニング^{※2}の手法により、出現頻度の高い単語を抽出

※1 アフターコーディングとは

自由意見に対して類似の意見を少数のカテゴリーに振り分ける手法。定性的な情報を定量的に分析することが可能となる。

※2 テキストマイニングとは

文章を単語で区切り、それらの出現の頻度、相関などを解析することで有用な情報を、明確化する分析方法。

内港地区に関する意見（問1）は、全体3,541件のうち137件（3.9%）と極めて少数であり、適正な評価ができないため、問2～問4について分析を実施しました。

図表 2-1 抽出先の内訳

抽出先	文の数	割合
問1（内港地区の将来像）	137	3.9%
問2（山下ふ頭の再開発のイメージ）	1,079	96.1%
問3（山下ふ頭にふさわしい導入機能）	1,272	
問4（山下ふ頭の再開発に取り入れる視点）	1,053	
合計	3,541	100%

問2～問4に合致しないご意見については、その他の意見として分類しました。

インターネット入力フォームや専用はがきによらない形でいただいた意見については、自由意見の一つとして扱い、分析の対象としています。また、ご提案いただいた事業の具体的なアイデア等については、今後の事業計画の検討にあたり、参考とさせていただきます。

3 各問の集計・分析結果

問1 「内港地区の将来像」について

【市民意見の傾向（集計結果を踏まえた見解）】

全体的に「海・みなと」「賑わい・楽しさ」「国際性」が多く見られました。

瑞穂ふ頭や大黒ふ頭、東神奈川臨海部周辺では「海・みなと」、横浜駅周辺では、「賑わい・楽しさ」に加えて「交流・出会い」、みなとみらいでは「賑わい・楽しさ」に加えて「国際性」、関内・関外では「歴史性」や「文化・芸術性」が上位となり、地区ごとに異なる将来像がイメージされる傾向となりました。

それぞれの地区の特徴を捉えながら、機能の連携や分担を図り、山下ふ頭も含めた内港地区全体で相乗効果が得られるよう、まちづくりを進めていくことが重要。

(1) 単純集計の結果

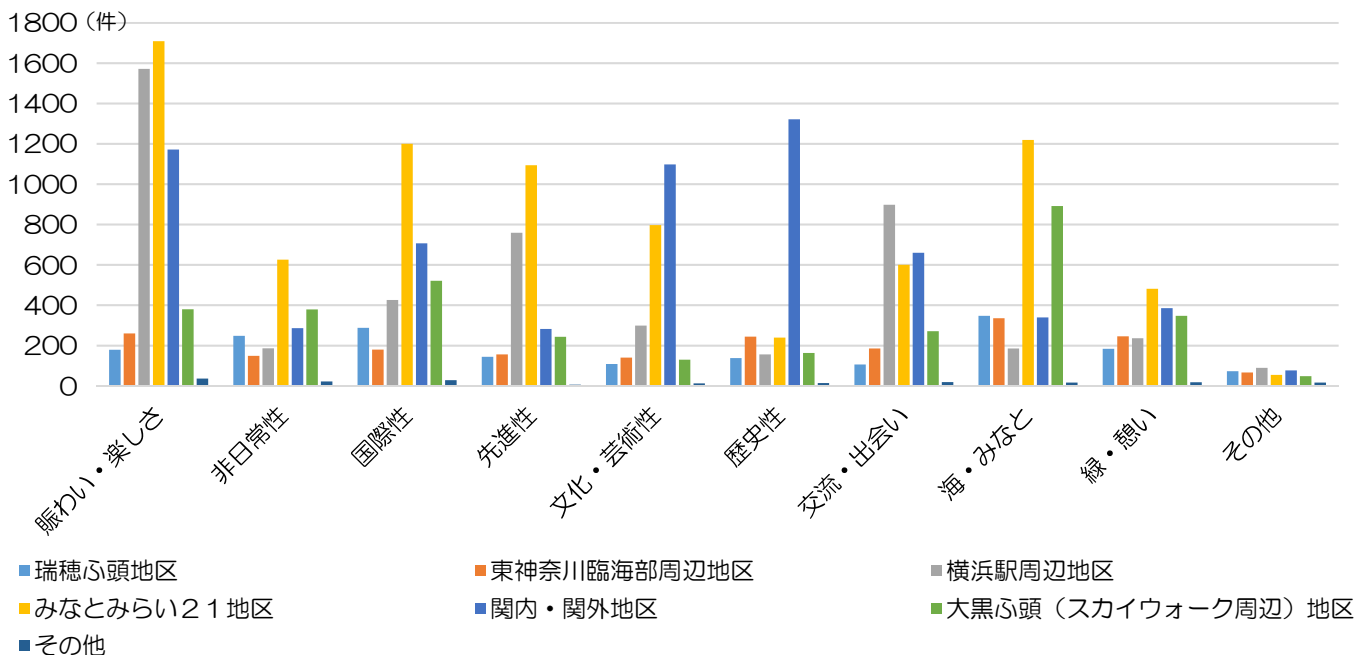
各地区で回答数の多い将来像のイメージ上位3つは図表 3-1 のとおりです。全体的に「海・みなと」「賑わい・楽しさ」「国際性」が上位に入っています。

選択肢回答の集計結果については、図表 3-2 のとおりです。

図表 3-1 将来像のイメージ（上位3つ）

	瑞穂ふ頭	東神奈川臨海部周辺	横浜駅周辺	みなとみらい21	関内・関外	大黒ふ頭(スカイウォーク周辺)
1	海・みなと	海・みなと	賑わい・楽しさ	賑わい・楽しさ	歴史性	海・みなと
2	国際性	賑わい・楽しさ	交流・出会い	海・みなと	賑わい・楽しさ	国際性
3	非日常性	緑・憩い	先進性	国際性	文化・芸術性	賑わい・楽しさ

図表 3-2 将来像のイメージ（各地区一覧）



(2) 主な自由意見（抜粋）

ア 瑞穂ふ頭地区

- ・瑞穂ふ頭地区は自衛隊の船舶が停まる場所に活用するのが望ましい
- ・瑞穂埠頭地区は第2のみなとみらいのようなオフィス、居住、観光などが一体となった新都心地区として欲しい
- ・瑞穂ふ頭は近寄りがたく、大黒ふ頭はあくまでも物流の拠点であり、再開発というより、それぞれの役割の機能強化をしていった方が良いのではないか
- ・ベイサイドエリアを東神奈川や瑞穂ふ頭エリアに広げる取り組みをしてほしい

イ 東神奈川臨海部周辺地区

- ・東神奈川地区の卸売市場の存在を初めて知ったので、新エリアで食のマルシェ・キッチンカー・体験教室なども絡めて、認知度UPを
- ・飛行機での集客を考えるなら東神奈川臨海部か瑞穂埠頭を中心に再開発すべき
- ・東神奈川には中央卸売市場があるので、今より行きやすい食堂やお店、食の体験ができるところがあると嬉しい
- ・東神奈川臨海部は、近世末から近代末の東海道が通り、横浜開港までは地域内でもっとも栄えた歴史的エリア
- ・老朽化した東神奈川駅西口の再開発の計画を希望する

ウ 横浜駅周辺地区

- ・特に横浜駅はエキサイト横浜計画をスケールを落とさず実現させて欲しい
- ・西横浜／戸部地域は駅（戸部一日ノ出町、西横浜、平沼橋）が小規模（改札が一つで駅ビルも一切ない）で開発がまだ進んでいない一方、徒歩・タクシーで横浜駅・みなとみらい・海岸通り地域にアクセス可能という点でも将来性がある
- ・横浜駅周辺は一步駅の外に出るとポイ捨てなど治安が良くないと感じるため、もう少し条例を整備して気軽に出かけられるような場所づくりをしてほしい
- ・横浜駅前も桜木町のようにおしゃれにしてほしい
- ・横浜駅直結で新しい観光地がほしい
- ・歴史的な観点で言えば、関内や関外地区の方が先に発展してきたので仕方ないと思うが、横浜駅というターミナル駅があるから、横浜市の玄関口として、何かランドマークになるものが欲しい
- ・横浜駅を含め、周辺は再開発が進む一方、ゴミゴミとして、MM地区に比べ、不潔で洗練されていない印象（特に西口）があるため、巨大ターミナル駅周辺として、もっとMM地区のようにデザインなどが統一された開発を進めてほしい
- ・横浜駅～みなとみらい～元町・中華街の回遊性を生かした街づくりを強く希望する
- ・横浜駅を中心に、東西南北をゾーニングし、過去・現在・未来を楽しめるコンセプトを明確にし、街づくりを立案する

エ みなとみらい21地区

- ・せっかくみなとみらいの街で電線・電柱を地中化したのだから、その方向性を保ち、歴史的価値に繋がるような長期的視野にたった開発を願いたい
- ・現在は MM 地区に横浜美術館が有る程度で文化的要素は薄い、エアキャビンが出来たり現代的交通面も良くなり、この新しい文化と歴史上の文化を取り入れた地域で有って欲しい
- ・みなとみらいに足を運んだ際に、カップル層が多く見受けられたので、カップル向けの施設を建設するとより多くの方に知って頂けるのではないか
- ・みなとみらい21地区や山下ふ頭地区は自然環境とDXが調和した日本にそして世界に唯一の臨海世界都市を目指してその機能と魅力作りに取り組んでほしい
- ・みなとみらい地区は古くから存在する歴史性あるモノは余り手を加えず残し新規開発エリアでは非日常・先進性ある施設の拡充など、一つに絞ってしまわずに本来あるべき姿を追求すべき

オ 関内・関外地区

- ・関内や山下公園付近は雰囲気の良い建造物が多くあるので、その景観を利用してヨーロッパの旧市街的なまちづくりをするのも面白そう
- ・関内関外は旧市中心部を取り戻し整備すべく、横浜駅地区へ一極集中が進んでしまった行政・金融・業務などの回帰促進と共に、同じく元来広域商業メインだった伊勢佐木町を広域商店街へ復活させる方策を望みたい
- ・関内地区は、緑と水の関わりがすばらしく、その関係をのばしていければよい
- ・いわゆるミナトヨコハマのイメージは昭和からかもしれないが、関内関外には開港からの歴史を物語る物、コトが多い
- ・関内地区、横浜駅地区は古い建物の高層化を推進して欲しい
- ・特に、関内・関外地区に関しては、横浜の始まりが多く、歴史的な建造物等が沢山あり、これらを将来にわたり残して行くことが、大切、是非是非保存に力を注ぎ私達の横浜を守ってほしい
- ・関内駅周辺、特に伊勢佐木町エリアは大規模な再開発が必要だと感じる
- ・関内周辺に残っている歴史的建造物のデザインがとても好き

カ 大黒ふ頭(スカイウォーク周辺)地区

- ・大黒ふ頭までの船便がほしい
- ・コットンハーバーから山下埠頭、対岸の大黒埠頭と水辺の観光資源（風景、歴史的建物、新しい商業施設）が沢山あるのに活かし切れていない感じがする
- ・大型客船の岸壁からスカイウォーク入り口を経て京浜運河入り口にかけて公園を整備し、緑と憩い、開放感、キャンプ施設、大黒地区の災害対策（避難場所）になるような整備をしてほしい
- ・大黒ふ頭あたりは車好きな人がドライブで夜景を見に行くスポットとしてのイメージもある
- ・大黒ふ頭は新たな景観と賑わいの場を創出する

問2 「山下ふ頭の再開発のイメージ」について

【市民意見の傾向（集計・分析結果を踏まえた見解）】

選択肢では、「海・みなと」「国際性」「賑わい・楽しさ」を選択した割合が多く見られました。

30代以下は「賑わい・楽しさ」、40代から70代は「海・みなと」、60代以上は「国際性」を選択する傾向にあり、また、市外在住者は市内在住者よりも「賑わい・楽しさ」「非日常性」を選択する傾向にあるなど、年代や居住地による違いも見られました。

自由意見では、横浜らしい文化や歴史、海・みなとを中心とする自然との調和、観光をテーマに子供から大人まで市民も楽しめる再開発といった意見が多い傾向となりました。

海・みなと、国際性、賑わい・楽しさをメインテーマとしつつ、文化や歴史、海と緑の調和、観光、市民も楽しめるまちづくりなどの視点を取り込むことも必要。

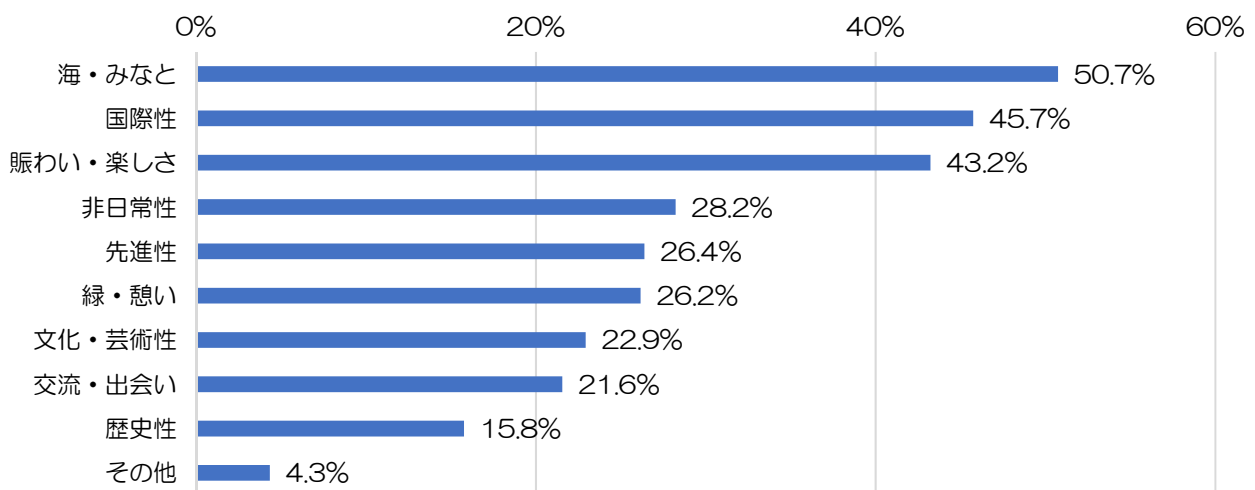
「山下ふ頭の再開発のイメージについて」の選択肢回答（3つまで選択可）の集計結果については、図表 3-3 から図表 3-7 のとおりです。

なお、グラフ横軸の割合は、アンケートによる回答件数のうち、その選択肢を回答した件数の割合を示しています。

(1) 単純集計の結果

選択肢ごとの集計結果では「海・みなと」が 50.7% を占めて最も多く、「国際性」45.7%、「賑わい・楽しさ」43.2% で続いています。

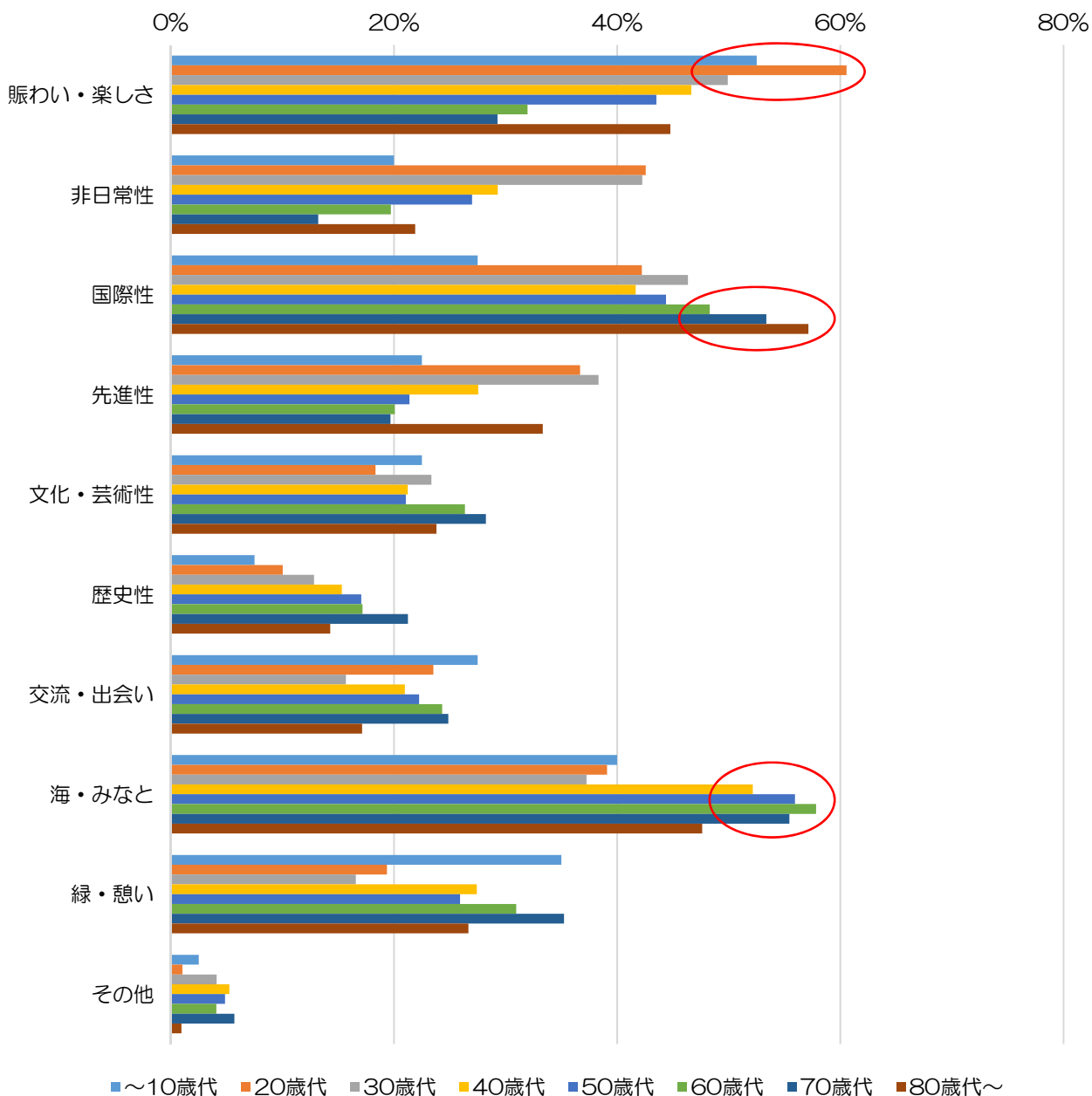
図表 3-3 再開発のイメージ



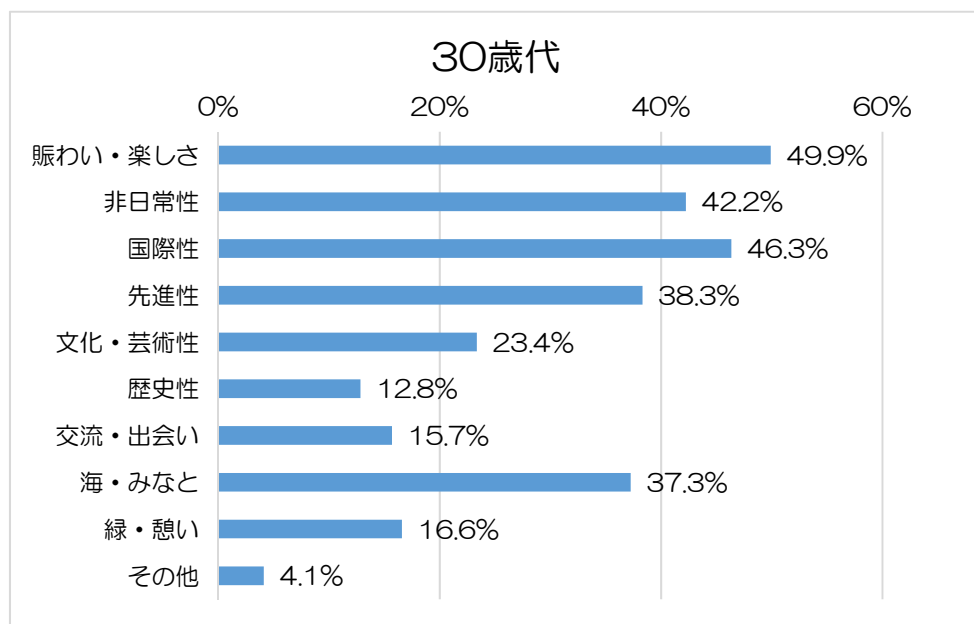
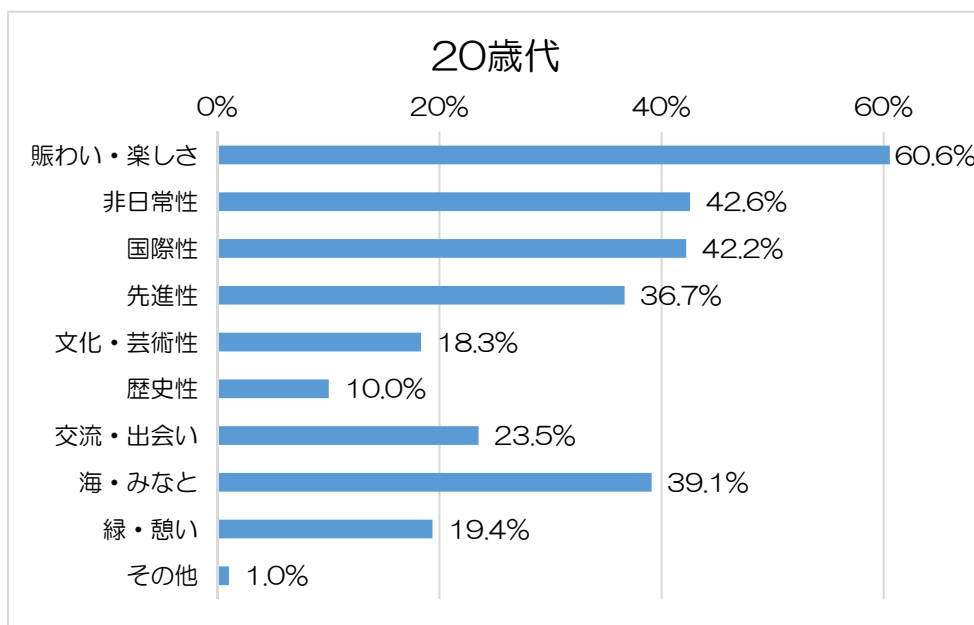
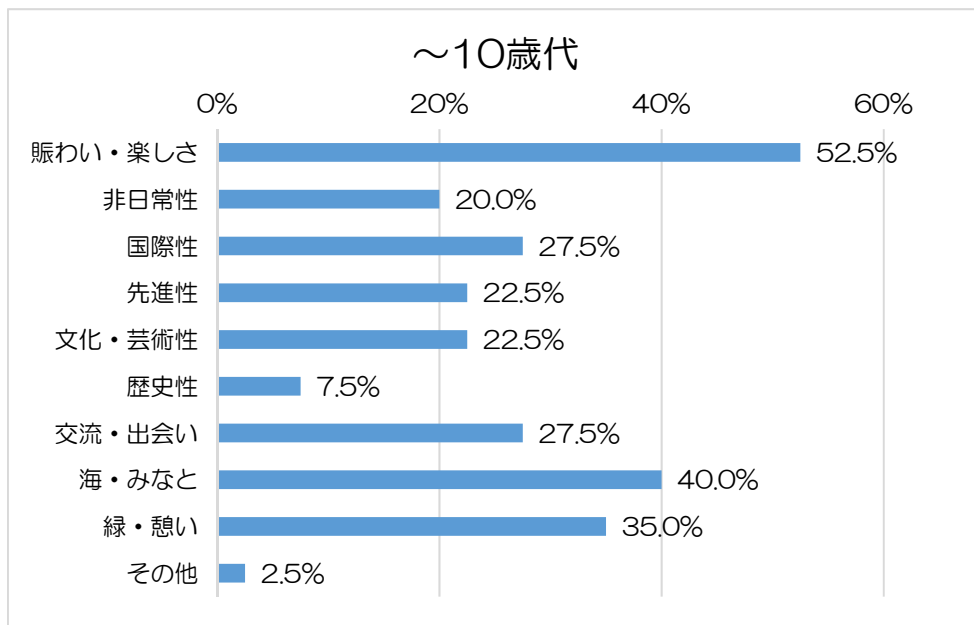
(2) クロス集計の結果（年代別）

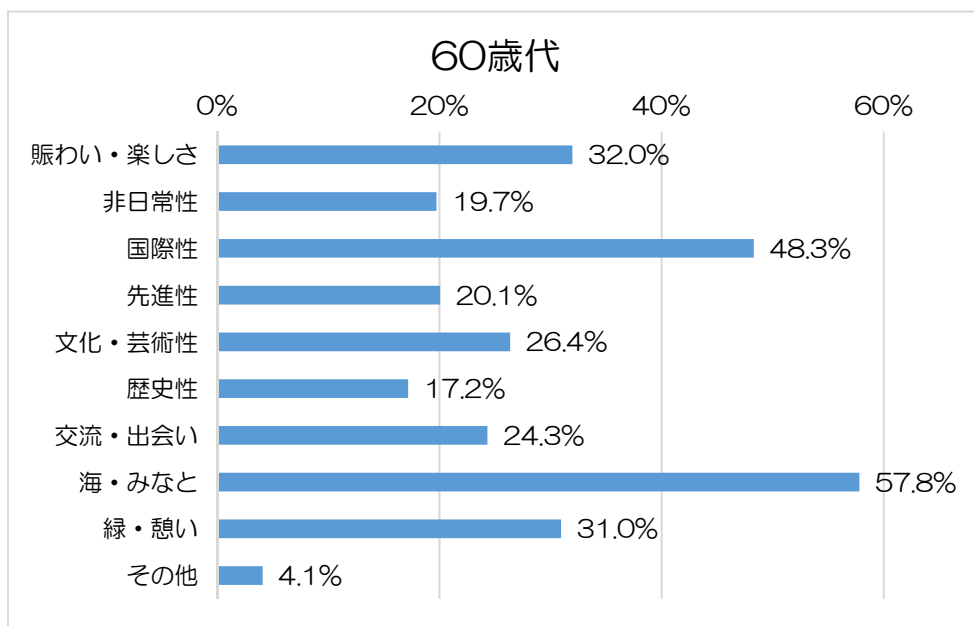
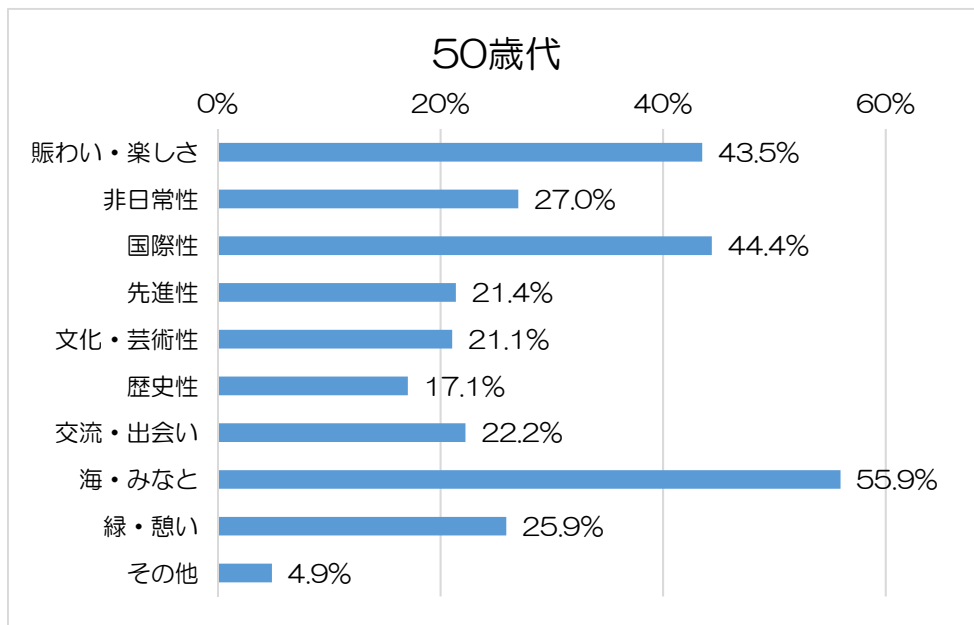
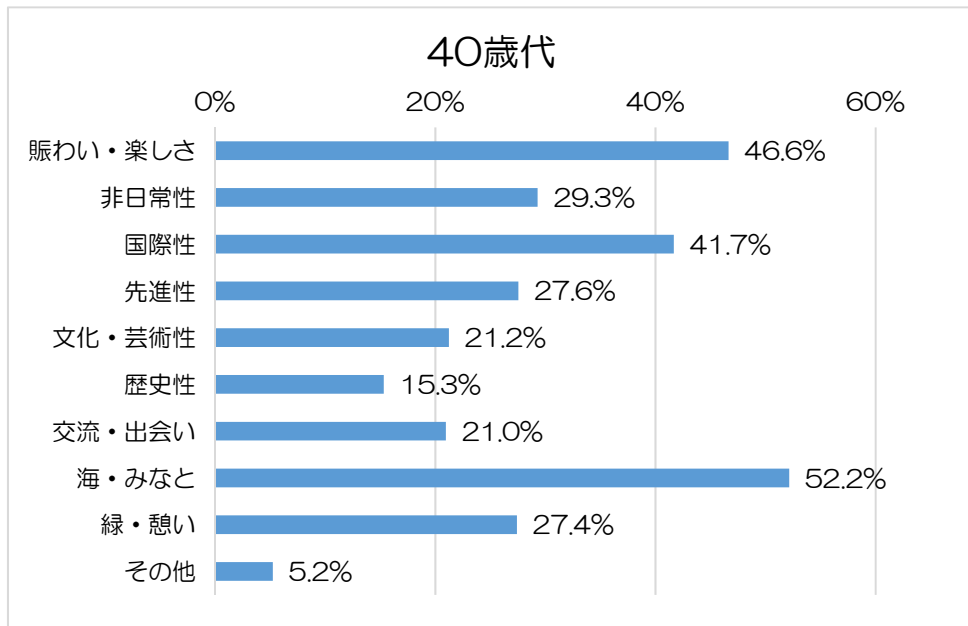
年代別の集計結果では10歳代から30歳代は「賑わい・楽しさ」を選択する割合が多く、40歳代から70歳代は「海・みなと」を選択する割合が多く、60歳代から80歳代は「国際性」を選択する割合が多くなっています。

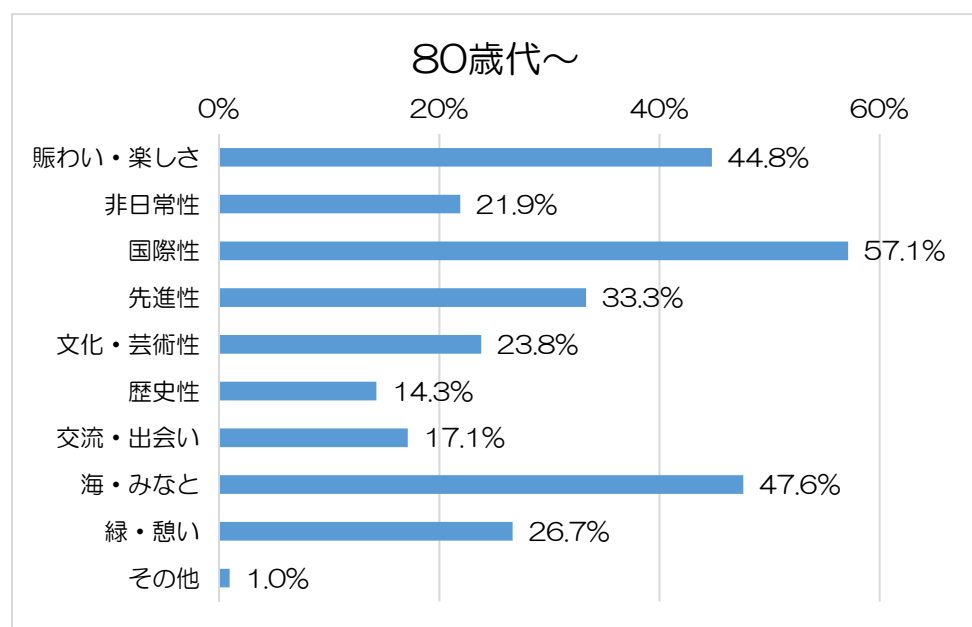
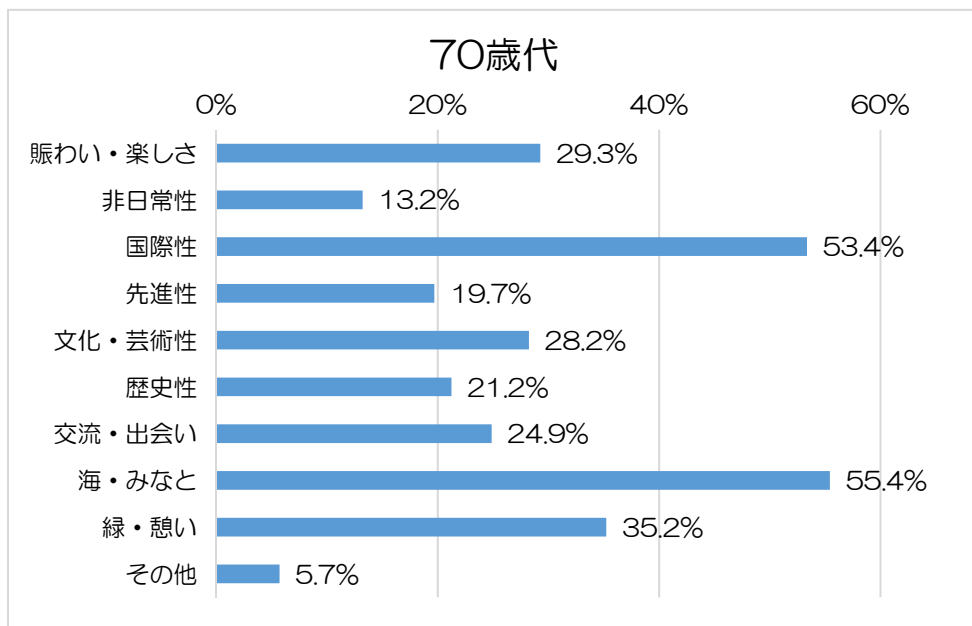
図表 3-4 再開発のイメージ（年代別一覧）



図表 3-5 再開発のイメージ（年代別）



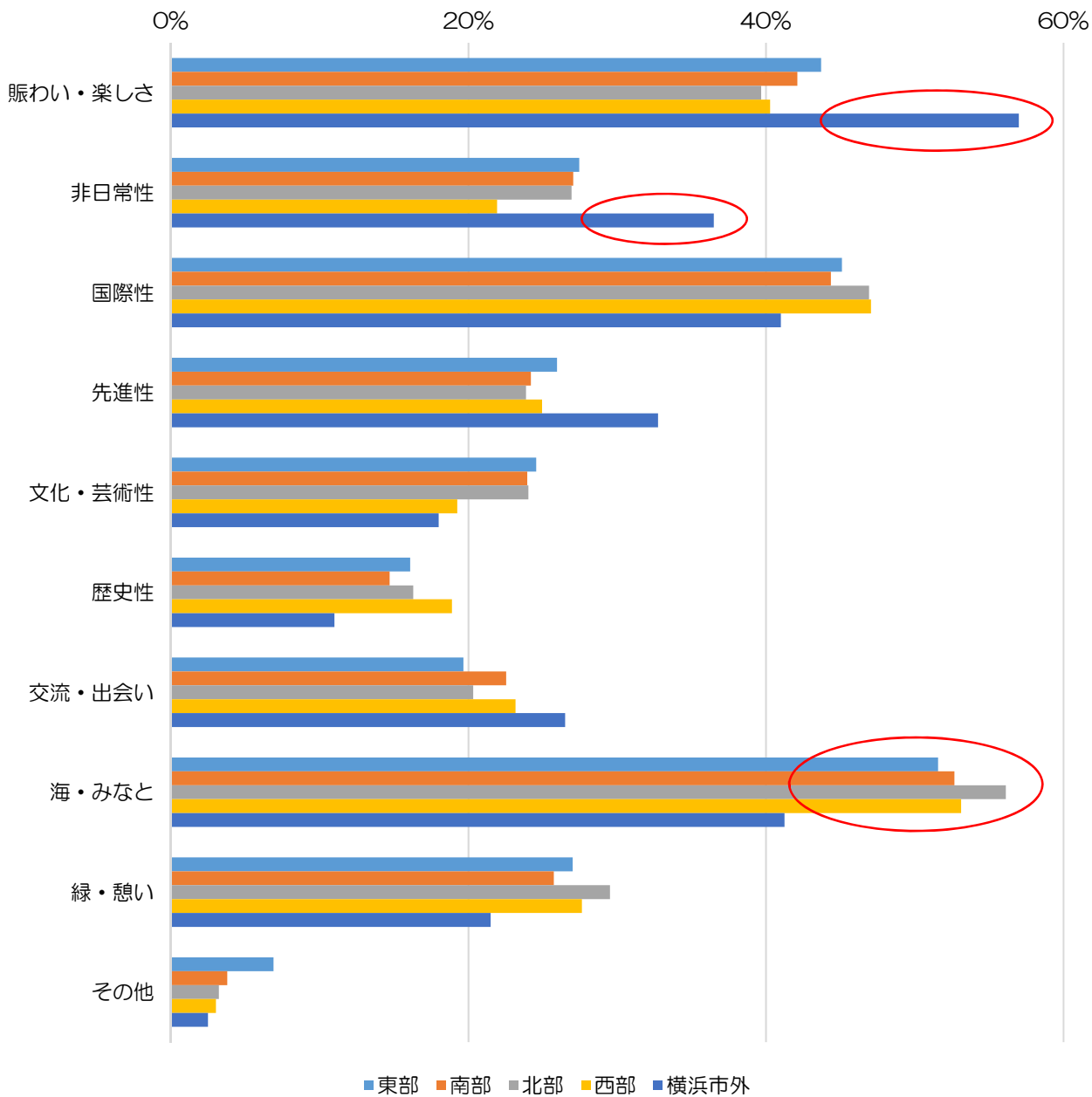




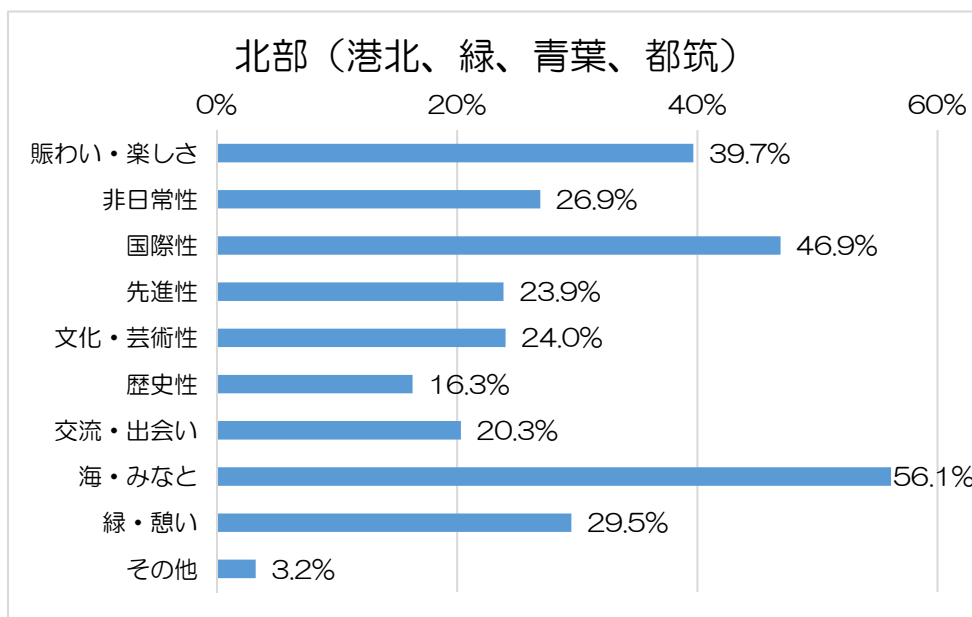
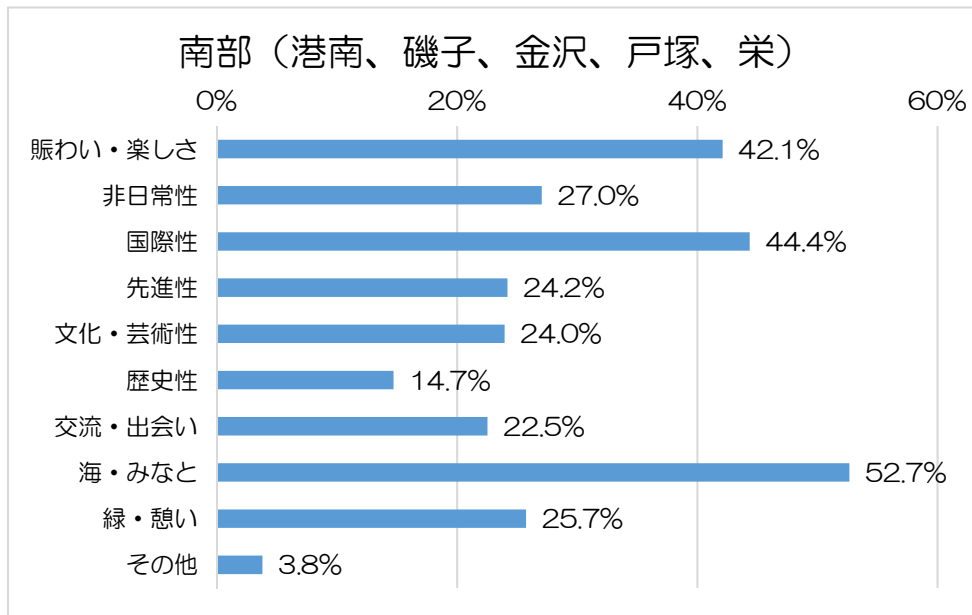
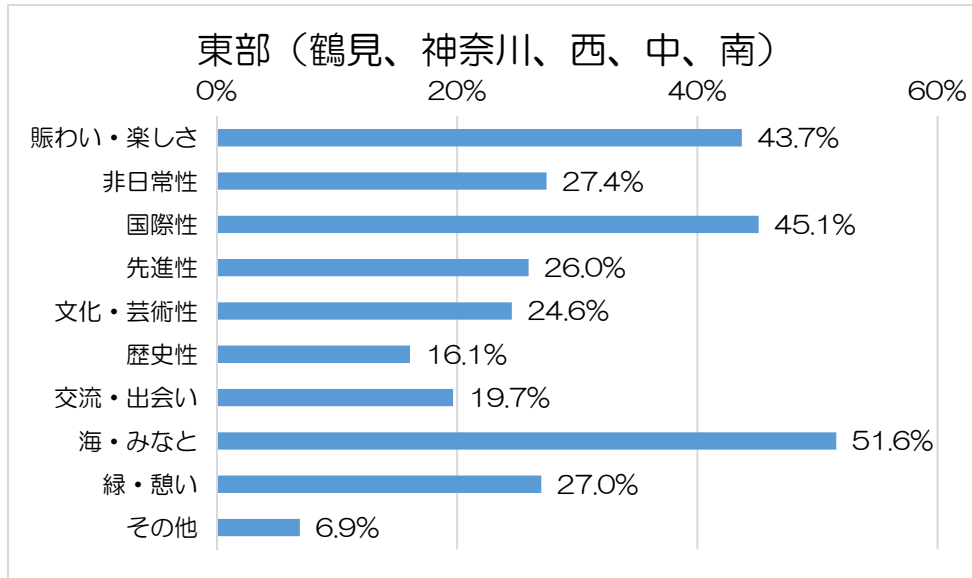
(3) クロス集計の結果（居住地別）

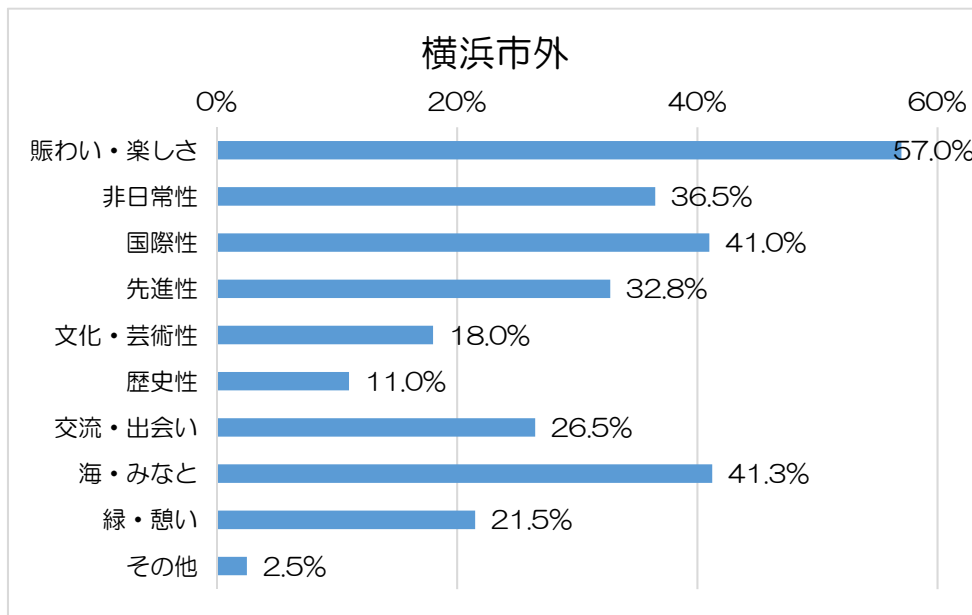
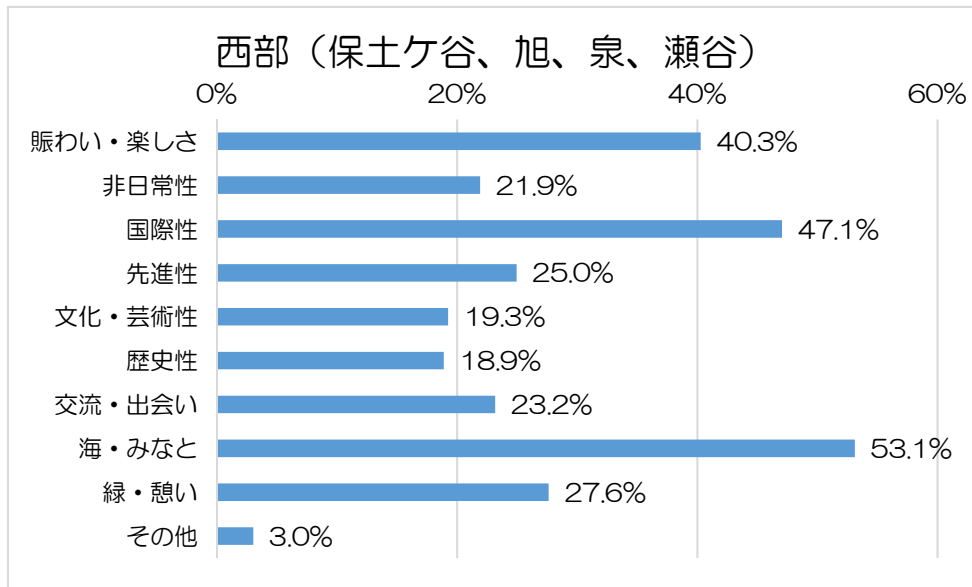
居住地別の集計結果では、市外在住者は市内在住者より「賑わい・楽しさ」や「非日常性」を選択する割合が多い一方で、「海・みなと」を選択する割合が少なくなっています。

図表 3-6 再開発のイメージ（居住地別一覧）



図表 3-7 再開発のイメージ（居住地別）





(4) 自由意見の分析結果

分析結果については図表 3-8 から図表 3-9 のとおりです。

「港」「歴史」「緑」「文化」「市民」「楽しい」「国際」「海」「観光」という単語が多く見られました。

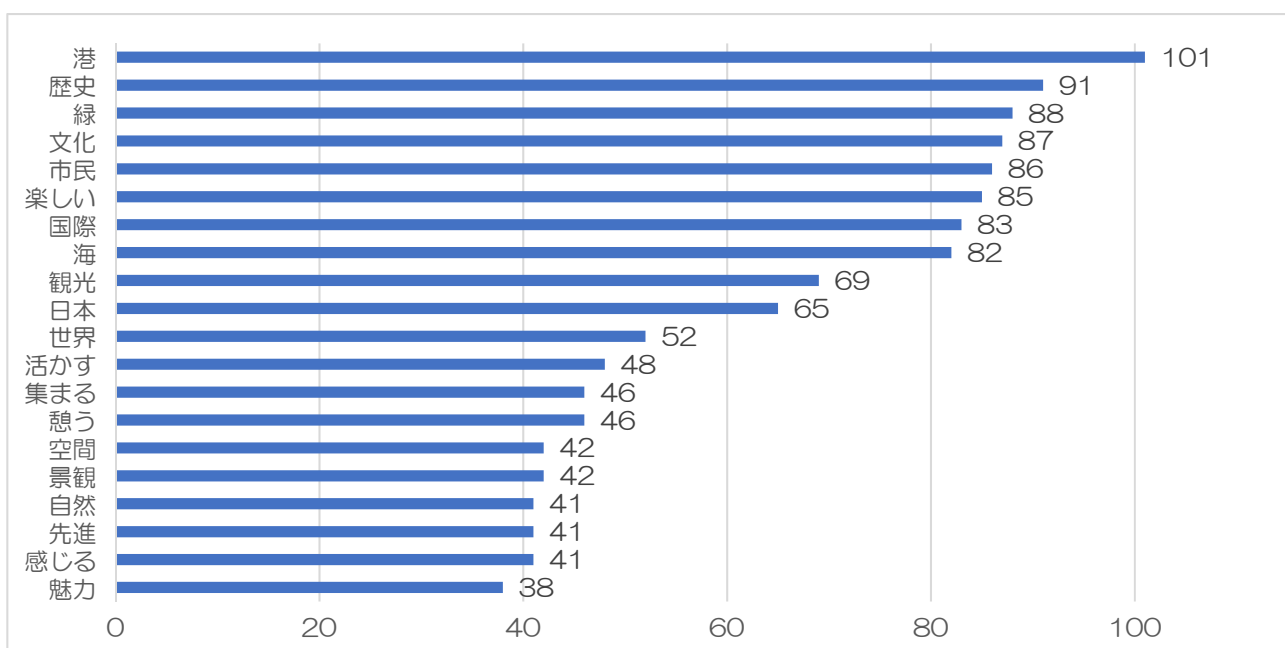
横浜らしい文化や歴史を活かしつつ、国際的であることを求める意見や、海・みなの中心として、緑などの自然との調和を求める意見、観光をテーマに子供から大人まで市民も楽しめることを求める意見が多い傾向となりました。

図表 3-8 ワードクラウド*

*テキストデータを視覚化するための方法、単語の頻度が多いほど、大きく表示される



図表 3-9 文書全体で使われている単語の頻度



(5) 主な自由意見（抜粋）

- ・市民・県民が押し寄せるエリアには、国内外の人たちにも興味を持ってもらえる可能性が高く、人が人を呼び、にぎわうエリアになる
- ・豪華客船が来て、外国人が日本の文化に触れながらショッピングしたり、日本食を楽しんだり賑わいのあふれる港
- ・開港都市横浜の利点を活かし、歴史を大切に、賑わいを創出できる空間を形成してほしい
- ・多様な人が集まり、地域全体に賑わうような再開発を期待する
- ・国内外から多くの人を呼び込む賑わいの創出を最重点事業とする
- ・既存商店街、都心臨海部の各地区などと十分に相乗効果が発揮され賑わいの創出が図られるよう推進してほしい
- ・子供から老人まで広い世代が楽しめる場になってほしい
- ・現在、都心臨海部は日帰りを楽しむ方が多いが、国内外からもっと宿泊して楽しんでもらいたくと思う
- ・山下ふ頭は、シンガポールのセントーサ島のように、お金がある人もない人も文化やエンタメを楽しめる場所になって欲しい
- ・収入を得ることも大事ですが、身近な横浜市民や神奈川県民が気楽に楽しく過ごせる施設を作ってもらいたい
- ・観光客だけでなく、横浜市民が楽しめること
- ・インバウンド客が横浜を楽しめるような施設を作ることで、街の魅力が増え利益を生み出すようになり、市民だけでなく日本全国から観光に訪れる人が絶えない場所になると思う
- ・多くの人々が何度も行ってみたいくなるような憧れの街になってほしい
- ・音も周りの迷惑も気にすることなく、年代関係なく遊べる場所をぜひ山下埠頭エリアに創り出してほしい
- ・山下ふ頭の再開発は、今までちょうど良かった都心臨海部の日帰りの規模感を、日帰りでは時間が足りないとしてくれる変わり目になると思う
- ・横浜市民からも誇りに思え、楽しんでもらえる事により、国内外から訪れたい、楽しそうだな、行ってみたいなどと思ってもらえるのではないだろうか
- ・今回開発されるふ頭エリアは、エンターテインメント性があると、非日常感を求めてより人が集まり、それに伴って、同じ最寄りの元町中華街もさらに発展していくと思う
- ・非日常が楽しめる街づくりをしてほしい
- ・先進的なデザインのホテルや商業施設、スポーツやエンタメなど非日常の空間であり、とても夢のある山下埠頭の再開発案
- ・非日常的な体験ができる、値段が高くても、特別な思い出に残る施設
- ・山下ふ頭の立地を活かし、誰もが海を身近に感じられるとともに、この場所でしか体験できない非日常性を感じられる場所にしてほしい
- ・横浜に来なければ世界のどこにもない、音楽、アニメ、先進的なテクノロジーで溢れた非日常的な街
- ・エンターテインメント性のある非日常が楽しめる街づくりを目指して欲しい
- ・開発される山下ふ頭エリアでしか体験できない事を非日常として楽しんでいただき、水辺の景観を生かし、地域経済を豊かにしてくれると思う

- ・大型船舶が自由に入出入りし国際的な賑わいを後押ししてほしい
- ・国際的な拠点として、人に魅力を感じさせる、人に行ってみたいと思わせる、訪問して感銘を受ける、何回も訪れたい、などの観点を考慮してほしい
- ・国際色豊かなイベントや催しが行われる、開かれた場所にしてほしい
- ・海外から人が集まるような国際性のある開発を
- ・港町だからこそ国際的に通用する観光地として発展してほしい
- ・開港都市横浜ならではの、海外に開かれる街を目指し、海外から人が集まるような国際性のある開発をして欲しい
- ・山下埠頭は世界の人に横浜をしってもらえるような国際的なリゾートになって欲しい
- ・国際的なビジネス地区にすると良い
- ・大都市の都心部という立地と、歴史的にも横浜の核となるエリアの一つなので、国際競争力を高め、今後の都市間競争を勝ち抜く視点での大規模な開発が必要
- ・市民の憩いの場は既に海沿いにあるので、多様なものを受け入れ、国際的な先進性のある地としてチャレンジして欲しい
- ・先進的で国際色豊かな開発を期待している
- ・私たちは150年前の横浜を作り上げた人々の上に立っているので、過去の維持では無く、今から150年後の市民に残せる先進的な都市作り
- ・伝統と先進性をコラボしたデザインを期待
- ・映像や人が乗れる大きなメカニクスに関わる先進技術の拠点
- ・これまでの日本には無い先進的な開発を行い、海外から人を呼び込める施設を展開してもらいたい
- ・市民が未来に希望を持てるような、世界のどこにもない先進的な街づくりを切に願う
- ・再開発するからには先進の技術を日常化するような企画を行なったらよいかと思う
- ・横浜の先進性や文化性が活かされた再開発がされると素敵だなと思う
- ・横浜には歴史的に由緒のある地域が多いが、山下ふ頭は新しく整備するのだから、むしろ先進的な先駆的な企画・視点が欲しい
- ・都市の未来像を示す先進性を目指すと共に、地域性及び歴史性を感じられるようにする事で、他の競合との差別化を目指すべき
- ・山下ふ頭の開発については、海外からも人を呼び込めるような先進的な開発を目指すべき
- ・先進的な技術や外観を取り入れた施設をつくる
- ・「横浜」というと先進的、国際的なイメージが強いのでそこを取り入れ、伸ばしていくべきだと思う
- ・トリエンナーレ、音祭り、ダンスなどの国際フェスティバルの会場、コンベンションやライブ会場となるオルタナティブなスペースを作り、多くの人でにぎわい、横浜の文化や産業を振興する拠点とするのがよいと思う
- ・横浜市の文化的、知的価値を高めるために土地を使ってほしい。安易に商業施設を作らないでほしい
- ・日本が世界に誇るアニメ文化は海外から来日客を誘致する強力な武器
- ・他の都市では出来ない横浜らしさと、日本らしさを世界に向けてアピールし、クルーザーなども入港出来、プレミアムなホテルなども誘致、港町ヨコハマ・観光・食文化・などの発信拠点とし、

「横浜」というブランド価値の向上を図る

- ・日本の観光・自然・文化・政治を世界に発信できる拠点・人材を設ける
- ・世界の多様な文化に触れられるといいと思う
- ・横浜の歴史と文化を、魅力的に世界に発信してほしい
- ・江戸時代での開国時、横浜は外国人を受入れたように、今海外から最先端の文化や技術を取入れた地区にしてほしい
- ・大人も、色々な国の文化芸術を学んだり、各国の名物料理を食べたり、特産品を購入できる場があると楽しいが、加えて、それぞれの国が抱えている問題について、一緒に解決策を考え、話し合える場になると良い
- ・海外からの旅行者が日本の文化芸術を直に触れ合える情報発信基地であっていただきたい
- ・長く多くの人に愛される、日本のアニメ文化、ゲームの世界、eスポーツなどの特徴あるコンテンツ
- ・近隣エリアに大学が集まっていることで文化的都市の趣を形成することができる
- ・新しい技術や文化を世界に発信していけるといい
- ・多様性、国際性、教養的なもの、等、横浜の文化やイメージを活かした他都市との差別化
- ・もの（食べ物、ファッション、その他）を大量に消費する「物質的豊かさ」の時代ではなく、文化芸術、教育、スポーツなど「活動を通じた豊かさ」の時代だと思うので、それを踏まえて考えてほしい
- ・公共性が絡むと陳腐になりがちな場所なので、ライゾマティクスなどとの提携により、芸術性と先進性を兼ね備えたデザインで、常にニュースに取り上げられるような話題性のある場所にして欲しい
- ・オーストラリアのオペラハウスの様な横浜を象徴させる特徴的な建物を建設して芸術の都をめざす街作りを行うことを提案する
- ・横浜の歴史を味わえる異空間
- ・古くから横浜を支えてきた港湾機能として歴史ある山下ふ頭は、山下公園や中華街とも近く、歴史ある横浜の魅力を再発見できるようなスポットとして魅力を創出するべきだと思う
- ・山下ふ頭の歴史的面影を、きちんとわかる形で残して欲しい
- ・横浜の歴史を踏まえて、未来に向けた横浜を世界に発信する街づくりを考えて欲しい
- ・横浜らしく国際的で歴史と新しい文化が入り混じった、わざわざ足を運びたくなるようなエリアになってほしい
- ・歴史を感じさせつつ、いつまでも最先端でいてほしい
- ・どこにでもある商業施設ではなく、横浜の歴史と未来性の両方を取り入れた最先端で利便性の高い、誰もが気軽に行きやすい場所になって欲しい
- ・将来のための先進性と歴史ある横浜の融合を未来につなぐ開発を期待する
- ・港は横浜の象徴にふさわしいエキゾチックな雰囲気と歴史的な文化を失わない建て物を作ってほしい
- ・横浜の歴史・風景を残した再開発を望む
- ・宿場町と港町から始まり、居留地や国際交流の場として栄え、また江戸時代から今まで先進的な開拓で発展してきた歴史を踏まえた、永続的に魅力を発信し続けられる開発を望む
- ・歴史を上手く残しつつ、新しいことを取り入れるのが大切だと感じる

- ・歴史を大切にしたい、昔ながらの景観を残してほしい
- ・海外の歴史地区の様な旧市街的な雰囲気を醸し出すと、みなとみらいとの対比も相まって一層魅力的なヨコハマになると思うので、多少の不便さはあっても、景観を保つべき
- ・国際的に人気のある場所というのも魅力ではあるが、歴史のある建造物が多くあるイメージでもあるので海外向けばかりではなく日本人にも行きたくなるような日本文化を生かしたかつ地球にやさしい場所ができるのを望む
- ・横浜の歴史文化を継承するためにも、新しい世の中を発信する都市であり、良い歴史を感じられる都市でも有ることが大切だと思う
- ・山下埠頭が、高度成長に果たした歴史の継承・発展を明らかにすることが、未来につなぐまちづくりになる
- ・ITの進歩もあるが、現実での交流も改めて必要で、戸外で遊べる、活動できる良さも自宅待機から必要性が求められていると感じるので、自由に活動できる戸外の間（遊び場・憩い）
- ・国内外の地域文化と技術を紹介交流できる世界的拠点
- ・海と文化を活かした交流と住居施設を整備すべき
- ・異文化交流を積極的にできる施設や交流の場が欲しい
- ・高齢者と若年層との交流で学習、体験、チャレンジができる場所になって欲しい
- ・戦後の歴史的な役割を表明でき歴史性と文化・芸術性とともにより市民交流などができる開放的な雰囲気の施設とすることが望まれる
- ・景気に左右されずに、環境を大切にしたい、人間の交流・温かさある 100 年後も安心できる、国際交流できる港街を
- ・横浜市内に住む人たちが、何らかの交流できる場所を作りたいことを検討してほしい
- ・マリナーズ（サーフィン、SUP、シーカヤック）、ここに来たら大人も海で遊べる、過ごせる街
- ・湾内を見渡せる立地を活かし、海側に広場や滞在ができる場所を作れるとよい
- ・市民がもっと海に触れる機会が増える事で、環境へ配慮する心も育まれる
- ・海に親しめるような柵のない水辺と、砂浜や干潟、森などの自然を再現してほしい
- ・山下ふ頭は、山下公園とつながりをもたせることも可能だと思うし、横浜市は浜辺がほぼないので、海水を浅く引き込み、もっと体験的に海を楽しめる憩いの広場が中心部にあってもよい
- ・海風を感じられる爽快感と海側から横浜を眺められる埠頭の良さを生かしたら素敵な場所になる
- ・港・物流と新たな賑わい、両方があってもよい
- ・のんびりした港の雰囲気を残すのも景観上も大切
- ・国際港としての機能を生かし強化する
- ・日本にあまりない高級感のある港の景観を世界に誇れる施設がいい
- ・港としての機能と新しい価値を提案する機能を共存させるか、それとも完全に分離させるかも含めて検討してほしい
- ・横浜のみなと町として、人が直に海に慣れ親しんでもらえるような人的交流や海上の物流やレジャー等にも優しく理解が深められるような地域になるような港の姿であってほしい
- ・せっかくクルーズ船が停泊できるターミナルがあるので港湾都市としての魅力をもっと発信してほしい
- ・バンクーバーやオークランド（ニュージーランド）のようにヨットハーバーがあると港らしい景

観がアップする

- ・自然に触れる機会が少ないので、緑が多く憩いの場があると良いと思う
- ・緑地帯、公園、など市民が、憩うことができる広い空間がいい
- ・セントラルパークのような緑地帯をぜひ望む
- ・森や干潟など生物多様性を感じられる、自然を再現した緑豊かな憩いの場
- ・開発は好むけど、緑と文化を大事にしてほしい
- ・山下ふ頭に緑地を増し、水辺で人々がいこえるゾーンの拡大
- ・豪華な施設や高層ビルでなく、港、船、公園・緑、家族を視点とした広々とした安らぎの場として開発してほしい
- ・横浜市に関係するイベント、博物館、植物園や日本庭園など緑と港、海を一体化して、休日をゆっくり過ごせる場所になると良い
- ・山下公園から続く、緑・いこいを感じつつ未来都市的なゾーンとして欲しい
- ・農業や食の視点を大切にし、ありきたりのショッピングモールではなく自然、緑いっぱいの陸地と海を持続的に楽しめる企画が望ましい
- ・山下公園は完全な都市型公園なので、海を親しめると同時に土と緑が広がる市民がゆっくり出来るような公園
- ・やはり緑が多い、場所を作り、子供たちや家族連れでにぎわう、または来たくなる街づくりをすることで、横浜をさらに誇りに思えると同時にそのような施設の拡充を希望する
- ・老若男女が気軽に訪れられる、緑あふれる地域にしてほしい
- ・緑化を最優先した再開発がテーマと考える
- ・みなとみらいのようにビル中心の殺風景な街ではなく、水辺や緑があり、徒歩での回遊性のある（歩行者やランナー等に優しい）街づくりをしてほしい
- ・商業施設等を誘致するのではなく、誰でも訪れることができ、憩いの場となるような公的な空間となることを望む
- ・市民も観光客も憩いの場として愛される場所になりますように
- ・山下ふ頭が他の内港地区になく、横浜の都心部でなかなか感じとることができない憩いの場になると、目的がはっきりとして市民が利用したくなると思う
- ・山下ふ頭は、「市民や旅行者の憩いの場所」として、訪れる人を癒す公園としてほしい

問3 「山下ふ頭にふさわしい導入機能」について

【市民意見の傾向（集計・分析結果を踏まえた見解）】

選択肢では、「エンターテイメント機能」「水辺・親水機能」「文化・芸術機能」を選択した割合が多く見られました。

20代から40代は「エンターテイメント機能」、50代以上は「文化・芸術機能」「水辺・親水機能」「クルーズ船受入機能」を選択する傾向にあり、また、市外在住者は市内在住者より「エンターテイメント機能」を選択する傾向にあるなど、年代や居住地による違いも見られました。

自由意見では、ホテル等の滞在機能と合わせて、スタジアム等のスポーツ機能やテーマパーク等のエンターテイメント機能を複合的に導入し、観光や交通の充実を意識した意見や楽しめることを求める意見が多い傾向となりました。

エンターテイメント機能、水辺・親水機能、文化・芸術機能のほか、スタジアム等のスポーツ機能やホテル等の滞在機能を複合的に導入していくとともに、観光・交通の充実、楽しさなどの視点も必要。

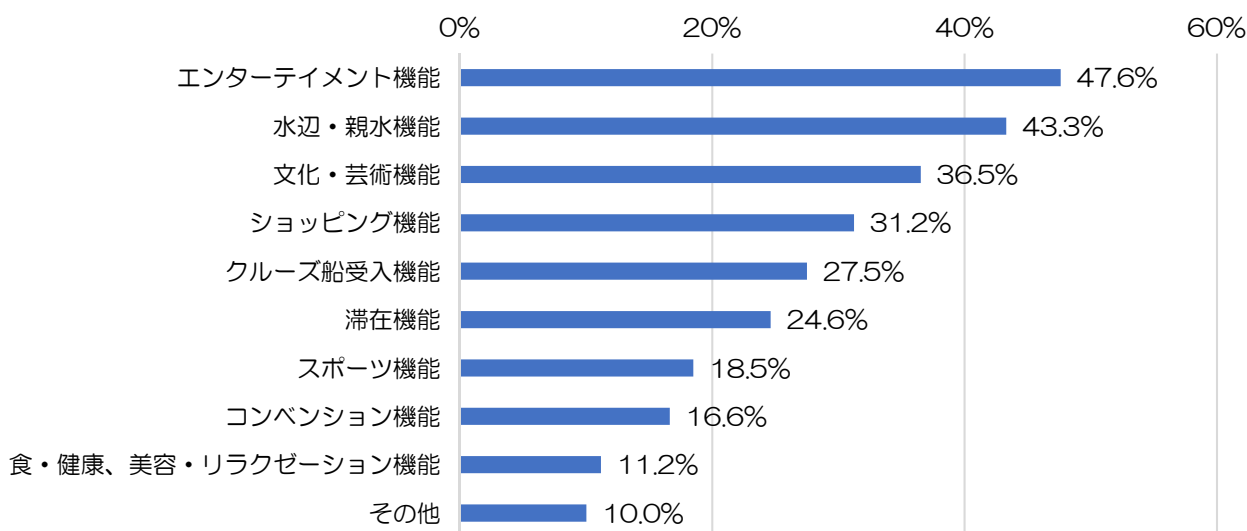
「山下ふ頭にふさわしい導入機能について」の選択肢回答（3つまで選択可）の集計結果については、図表 3-10 から図表 3-14 のとおりです。

なお、グラフ横軸の割合は、アンケートによる回答件数のうち、その選択肢を回答した件数の割合を示しています。

(1) 単純集計の結果

選択肢ごとの集計結果では「エンターテイメント機能」が 47.6%を占めて最も多く、「水辺・親水機能」43.3%、「文化・芸術機能」36.5%、「ショッピング機能」31.2%、「クルーズ船受入機能」27.5%で続いています。

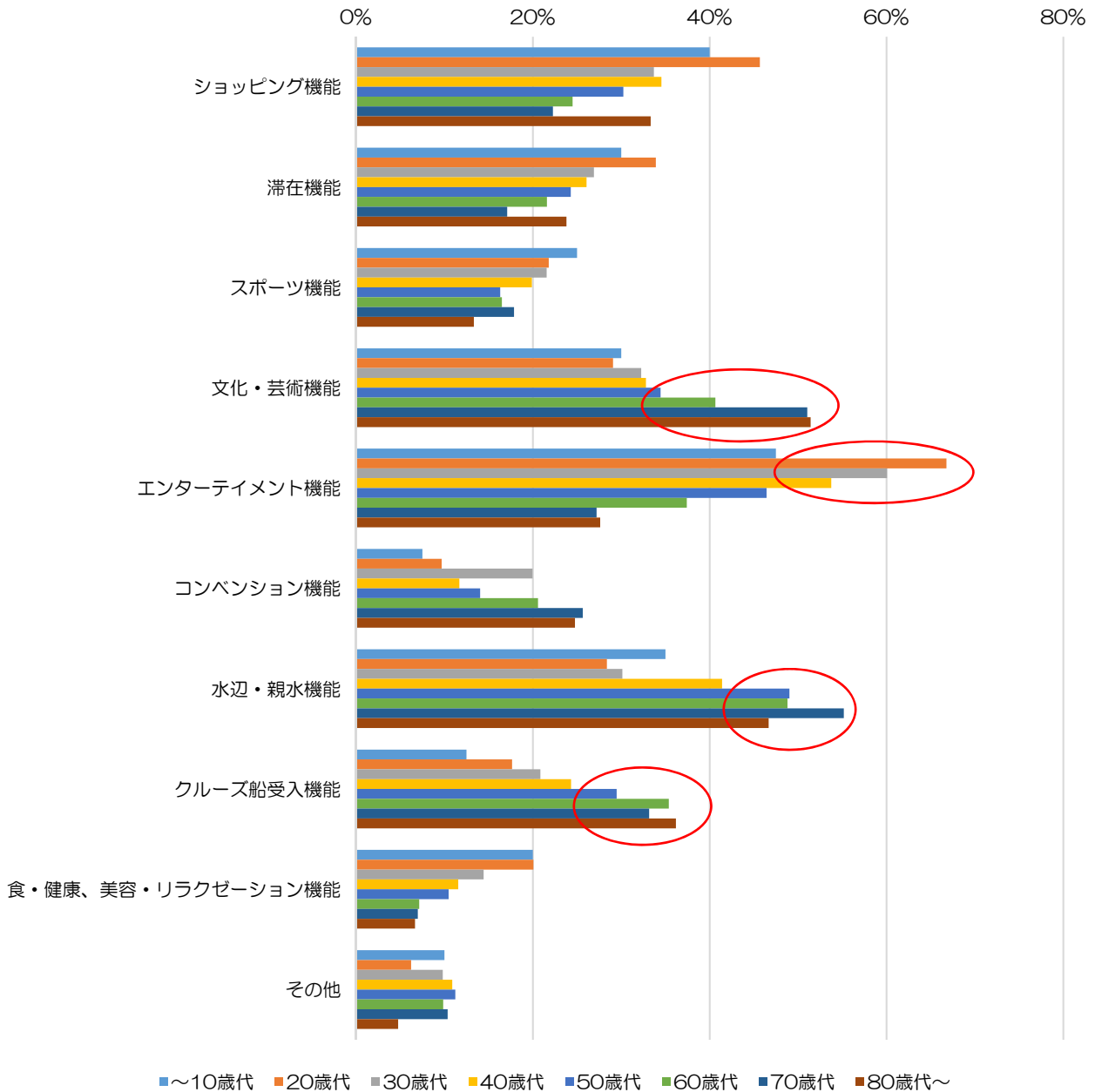
図表 3-10 ふさわしい導入機能



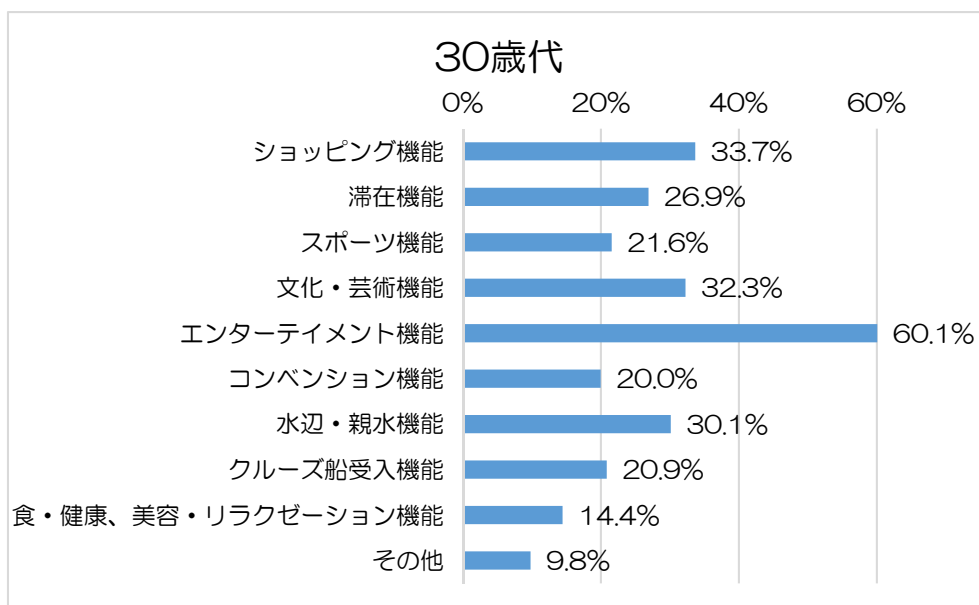
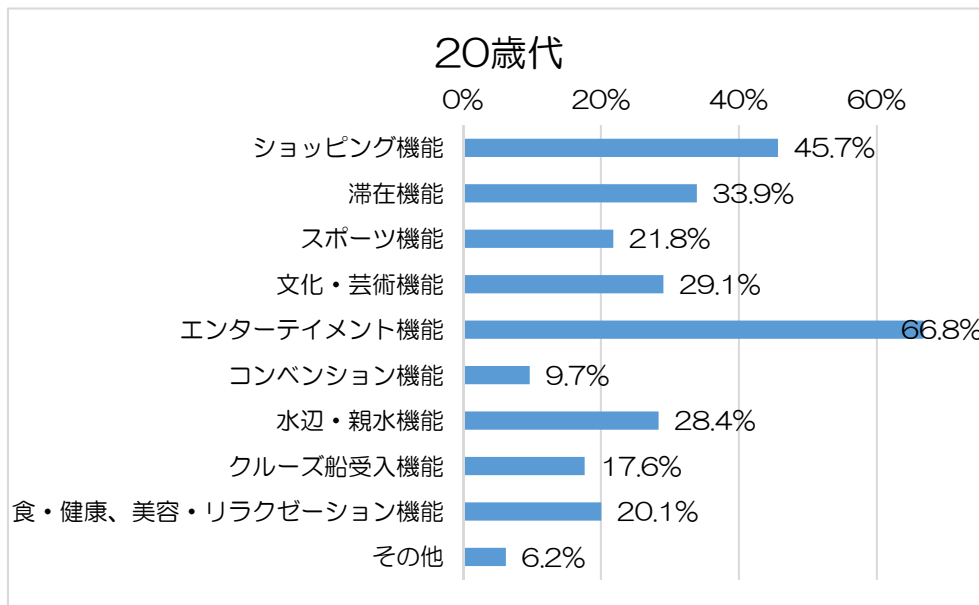
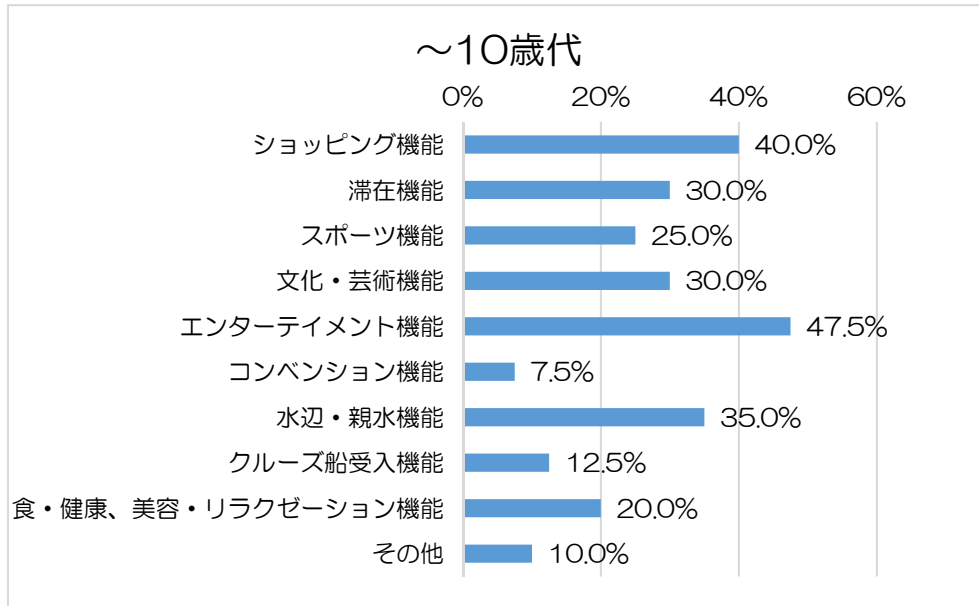
(2) クロス集計の結果（年代別）

年代別の集計結果では20歳代から40歳代は「エンターテインメント機能」を選択する割合が多く、50歳代から80歳代は「文化・芸術機能」や「水辺・親水機能」、「クルーズ船受入機能」を選択する割合が多くなっています。

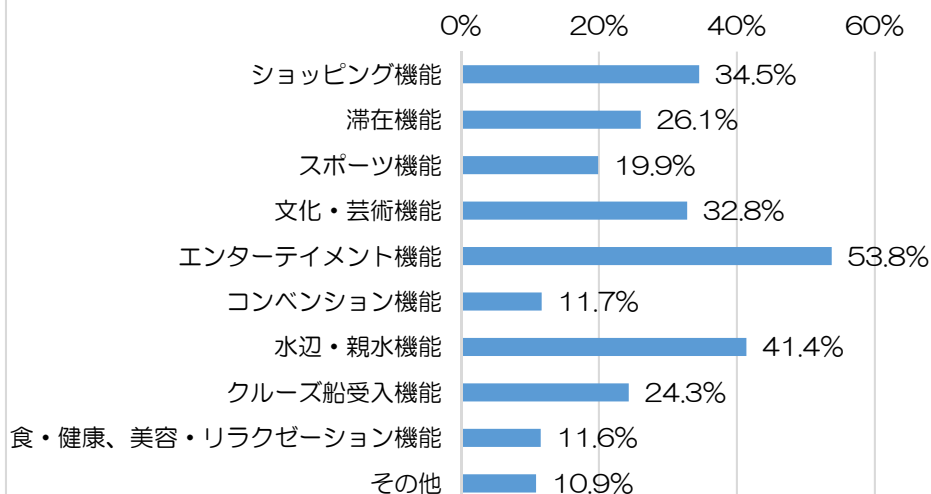
図表 3-11 ふさわしい導入機能（年代別一覧）



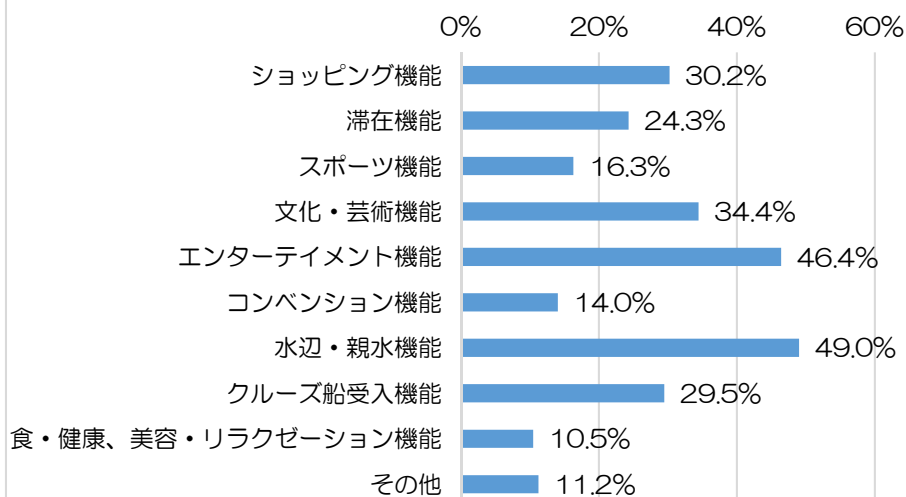
図表 3-12 ふさわしい導入機能(年代別)



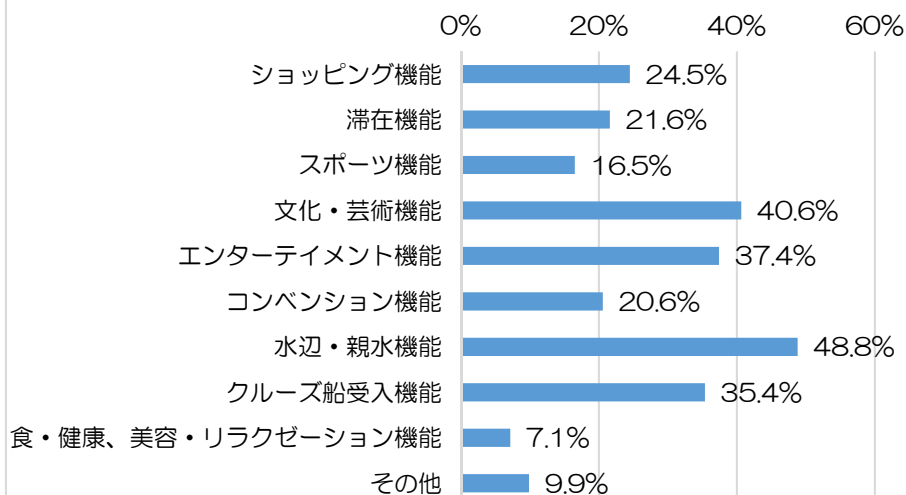
40歳代



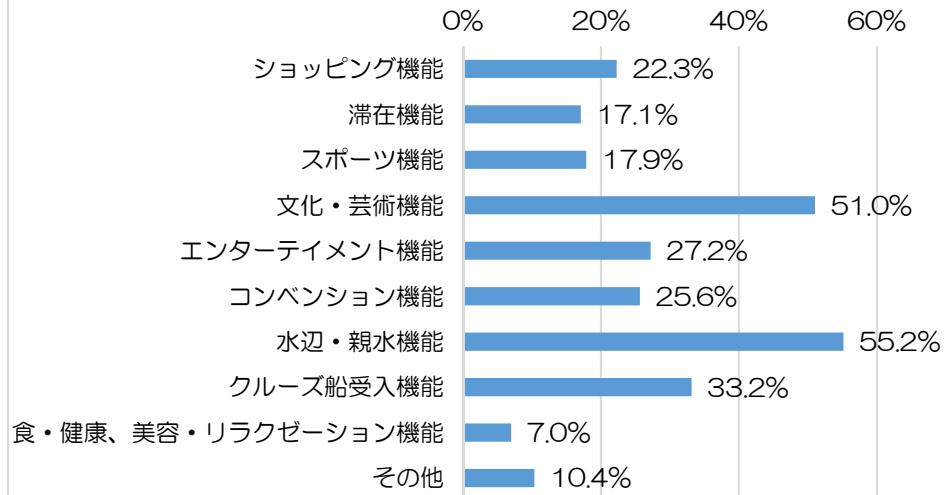
50歳代



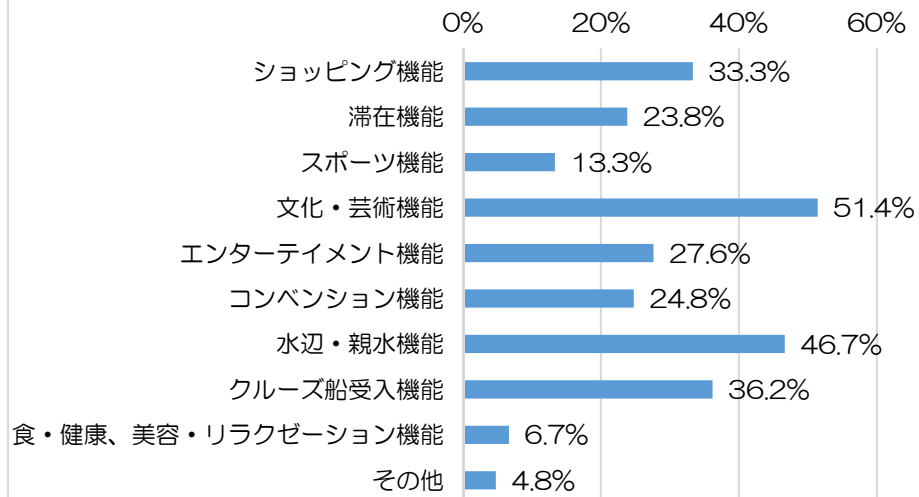
60歳代



70歳代



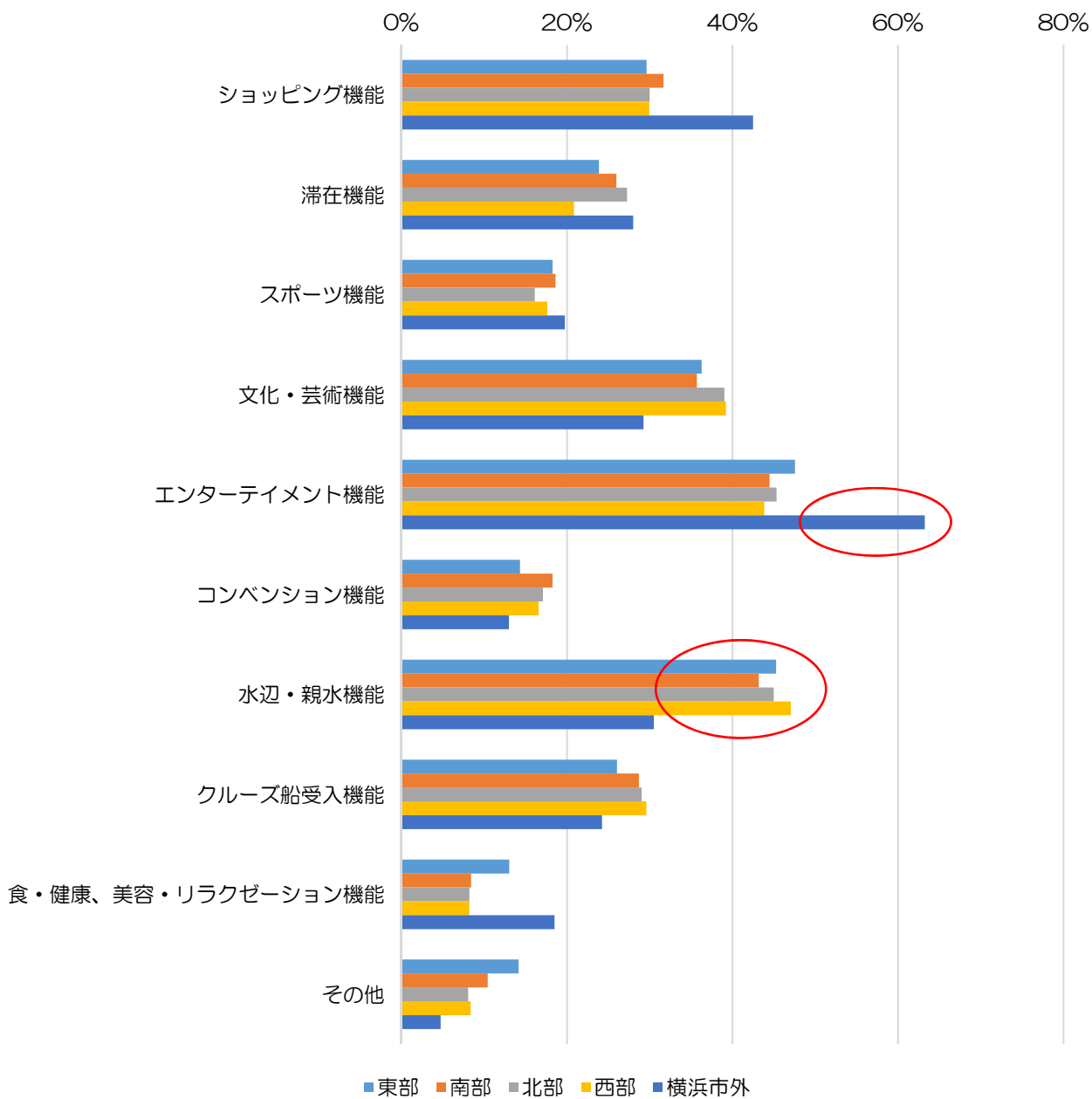
80歳代～



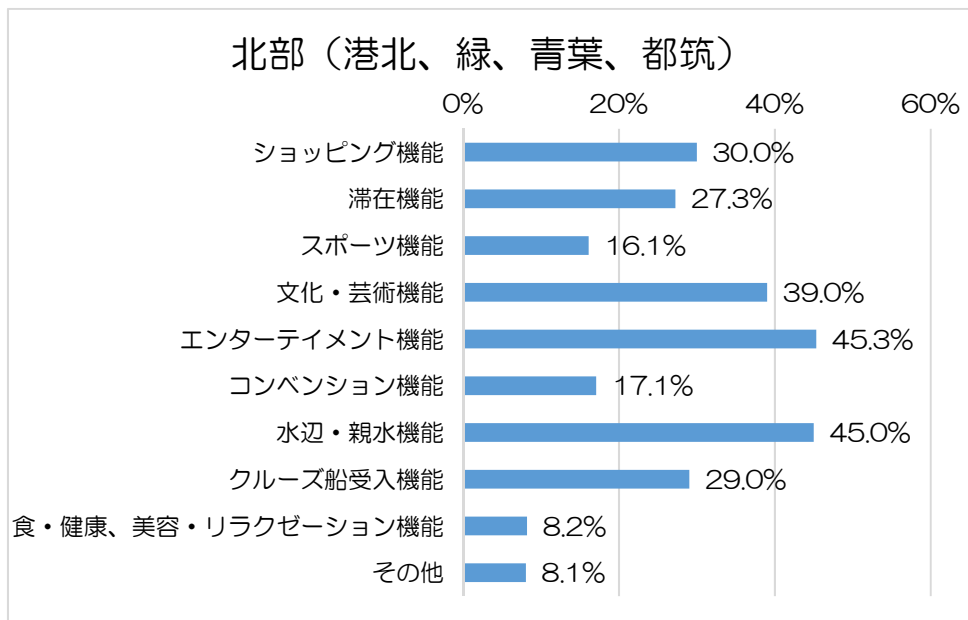
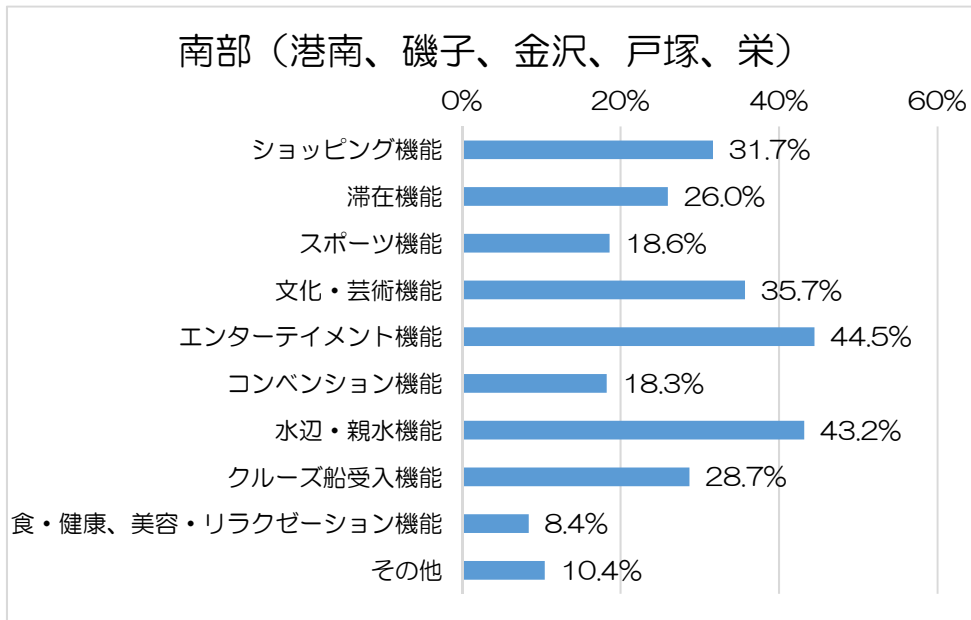
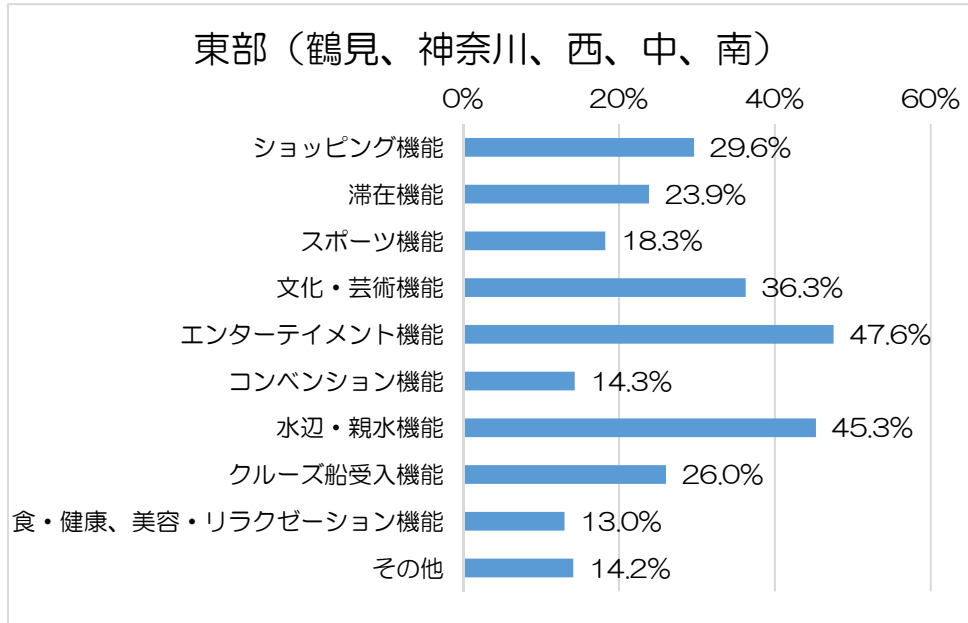
(3) クロス集計の結果（居住地別）

居住地別の集計結果では市外在住者は市内在住者より「エンターテイメント機能」を選択する割合が多い一方で、「水辺・親水機能」を選択する割合が少なくなっています。

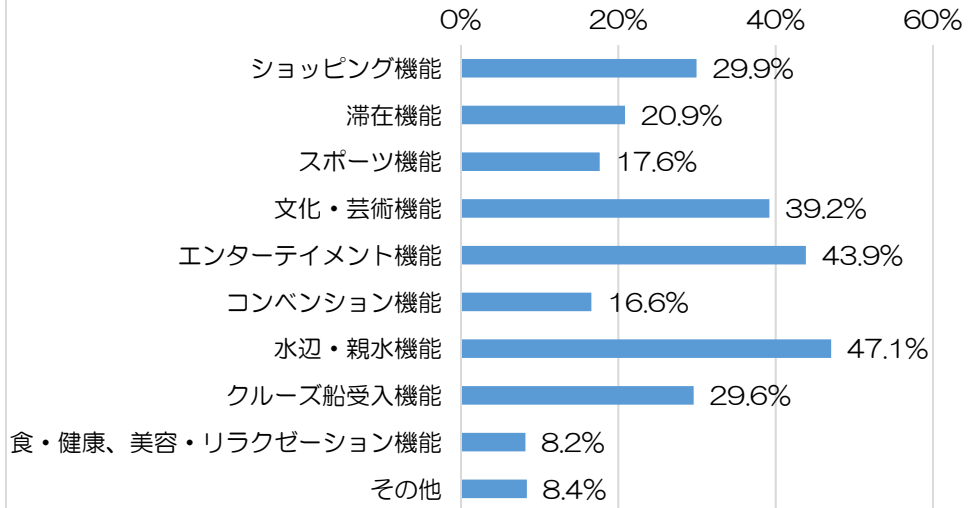
図表 3-13 ふさわしい導入機能(居住地別一覧)



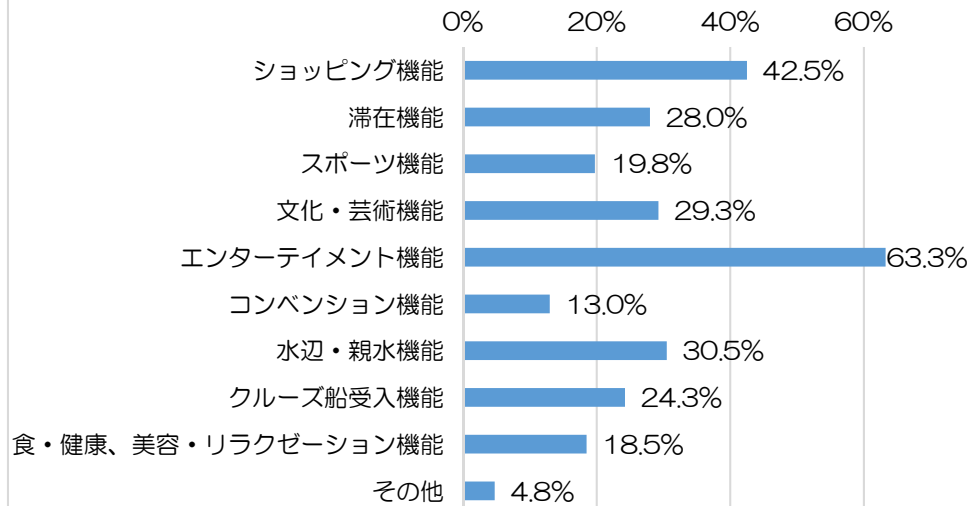
図表 3-14 ふさわしい導入機能(居住地別)



西部（保土ケ谷、旭、泉、瀬谷）



横浜市外



(4) 自由意見の分析結果

分析結果については図表 3-15 から図表 3-16 のとおりです。

なお、本項における分析においては、導入したい機能に関する意見を可視化するため、「スタジアムの整備に反対する」といったネガティブ意見は取り除いて分析を行いました。

「楽しい」「スポーツ」「スタジアム」「観光」「テーマパーク」「海」「交通」「ホテル」という単語が多く見られました。

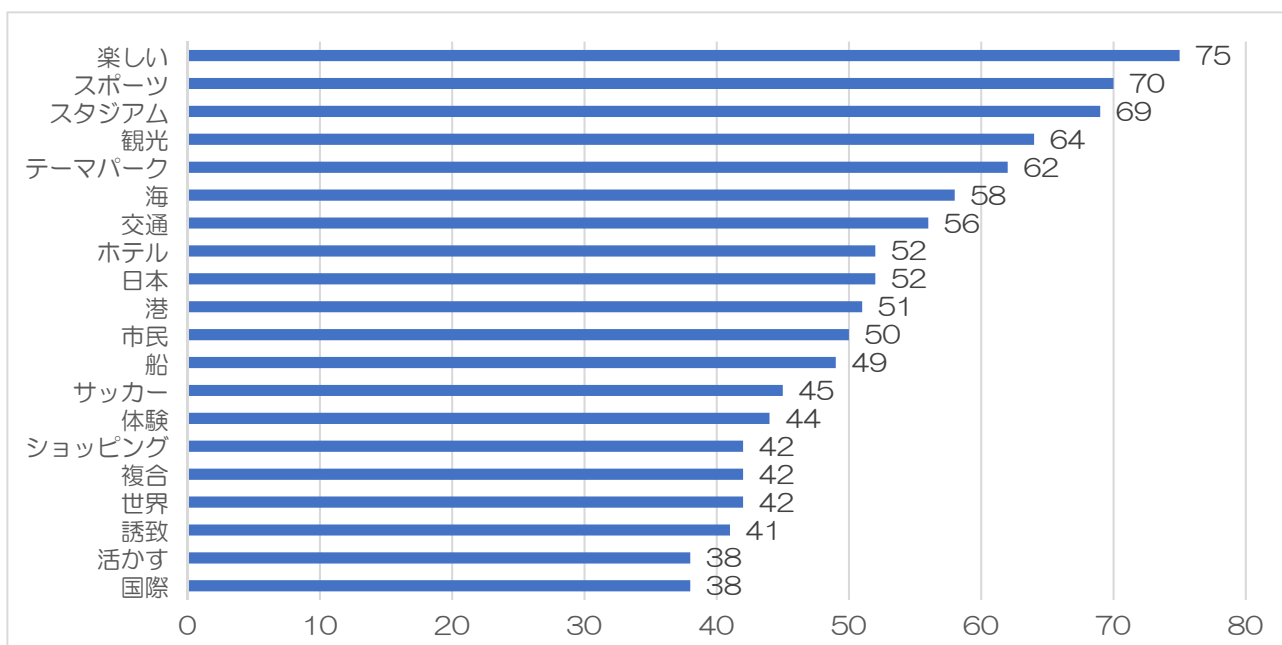
ホテル等の滞在機能と合わせて、サッカースタジアム等のスポーツ機能や日本を代表する体験型のテーマパーク等のエンターテイメント機能を複合的に導入し、観光や交通の充実を意識した意見や楽しめることを求める意見が多い傾向となりました。

図表 3-15 ワードクラウド*

*テキストデータを視覚化するための方法、単語の頻度が多いほど、大きく表示される



図表 3-16 文書全体で使われている単語の頻度



(5) 主な自由意見（抜粋）

- ・世界に開かれた港としてインポートマーケットを作りショッピングに楽しい施設を作る
- ・地元住民への還元として、大型のディスカウントショッピングモールが設置されればと思う
- ・ショッピング機能（買回品・飲食）に関しても、すでに周辺にハンマーヘッドや赤レンガ倉庫などの商業施設があるため、新しく作る必要性を感じない
- ・個人的には外国の町並み（ベネチアなど、ゴンドラにのれる）を再現したショッピング施設や水族館とプールが一体化したような施設が楽しそう
- ・埠頭全体、各種スポーツ施設を取り囲むようにショッピングモールとアウトレットパークを形成
- ・複合的な施設（ショッピング、映画館、劇場、美術館、子供が遊べる場所、高齢者が憩える場所等を含む）で、かつ、エコフレンドリーな施設があるとよい
- ・子育て世代を集客するような施設が周囲にあまりないため、ショッピングモール、公園、習い事施設、学童、保育園などの一体とした開発
- ・山下ふ頭内だけで一日楽しめるショッピングモールなども考えてもらいたい
- ・他にはない独自性のあるコンテンツとして、様々な劇場やホールが集約され、スタジアム、ショッピング等も配置された複合的なまちができると良い
- ・ショッピングはみなとみらいや元町と競合するため最小限とすべき
- ・国内外の観光客が長期滞在できるようなリゾート開発
- ・水辺をきれいな砂浜やヨットハーバー、海上プール、海上ジェットコースターなどの遊具を設けて、滞在型リゾートハーバーにする
- ・宿泊したい、滞在したいと思ってもらえる地域にしてほしい
- ・子供から大人まで幅広い世代の方が安心して楽しめるエンタメ施設と滞在施設を併設することで長く滞在したいと思える地域になると良い
- ・目玉施設（プール、複合商業施設、イベントホール等）を中心に宿泊施設や各種ショップ、ブティック、飲食店が建ち並ぶリゾート
- ・ディズニーやマリオなど世界で対抗できるコンテンツとしてポケモンをテーマとしたホテル、レストラン、アトラクション等を備えた「ポケモンリゾート」を整備する。ポケモンは世界中で絶大な人気があり、インバウンドも期待できるとともに、国内でも幅広い世代に認知されており、国内集客も確実に見込める
- ・リゾート施設は要らない
- ・すでにみなとみらいにはショッピングやパシフィコ横浜、ホテルなどがあることから、同じようなものを取り入れても差別化を図るのは難しい
- ・カジノ計画は今はなくなったので、また変わるのかわからないが、大型5つ星ホテルなど誘致し、エアキャビン延伸、など、人を呼べる地域になればいいと思う
- ・ホテルは長崎や神宮を参考に、観戦も可能な複数の高層ホテルとし、MMのようにスカイラインと夜間照明に注視したものとする
- ・ホテルも江戸時代の宿とかガンマンが泊まる小屋とか非日常性の中、ロケがない日は楽しめる空間の提供など壮大な構想を作してほしい
- ・ハイグレードのホテル、エンターテイメント、文化芸術、コンベンション機能がふさわしいと思う。宿泊してみたいとさせてくれる5つ星のホテル、海外の美術館と提携し、世界的な作品が見れる美術館、この為に横浜を訪れたいとさせてくれるクオリティ高いもの、世界的なエンターテ

- イメントショー、一日中楽しめるエンターテイメント施設、ビジネスで訪れるコンベンション施設、また日中の賑わいが夜まで続く機能が必要だと思う
- ・海を眺めながらゆっくりと時間を過ごせる公園やカフェ、海を感じながら過ごせる一流のホテル、世界中からのアーティストが呼べる最高水準のホール、子供から大人まで楽しめるテーマパークなどがあるといい
 - ・歴史ある港に洗練された新たなウェルネス環境を創出しながら、これまでにない機能として、XGamesのようなエクストリームスポーツの拠点施設や育成施設を導入して、横浜港他地区や世界にはどこにもない独自性の高いみなとまちとなることを望む
 - ・今回の再開発で、スポーツ球技場を軸とした再開発をしてほしい
 - ・サッカー専用スタジアムの建設等、スポーツに特化した施設の建設
 - ・子供から高齢者までもが、安心してスポーツを楽しめるような全天候型の施設があるとよい
 - ・内港地区に欠けていると思われる、マリーン・スポーツを核として検討して頂きたい
 - ・東京オリンピックでも活躍したスケートボード等のアーバンスポーツができるエリアを作り児童や若者が交流できる場所を作ってほしい
 - ・サッカーやラグビーの専用の球場、緑豊かな憩いの場、市民が楽しめるスポーツ施設
 - ・そもそも横浜は他の大都市と比べると観光スポットや各商業施設が分散しているので、横浜スタジアムと共に野球とサッカーという二大スポーツの拠点となればこの地域の更なる繁栄と活性化に繋がると思う
 - ・陸域だけでなく水域も活用して横浜に専用のスタジアムを持たないプロスポーツが誘致できれば、横浜は世界にも類を見ない複合的なスポーツ文化発信地となるのではないかと
 - ・ボールパークを核とした、eスポーツを取り入れたスポーツスタジアム
 - ・横浜スタジアムや横浜国際総合競技場と並ぶような、世界的なスポーツ行事会場になり得る大型スポーツ施設を建設してほしい
 - ・eスポーツの国際大会を開催できるアリーナの整備やそれに付随したゲームやアニメなどサブカルチャー施設の整備
 - ・サッカー専用スタジアムが市内にあると盛り上がると思う
 - ・横浜市内に大型のサッカー専用スタジアム建設を希望する。野球場、陸上競技場は国内屈指の施設があり誇らしい一方で、Jリーグクラブが3つあり地元での競技人気が高いことやW杯決勝も開催したレガシーをもっと活かして欲しい
 - ・次の50年を見据え、子ども達に夢と感動を与えられる舞台となるスタジアムを希望する
 - ・市民が楽しめる文化施設を公園内に作ってほしい
 - ・幕末・明治の横浜開港場を復元し、英語教育・英語ビジネスの発祥地として、その歴史・文化・経済を学び、体験できる日本初の魅力溢れるテーマパークを企画し、運営する
 - ・外国人と日本の若者が日本文化を体験出来る芸術村
 - ・非日常性が有り宿泊施設が有り大人が遊ぶ所の有り文化・芸術が出来る場所がいいのではないかと
 - ・横浜は歴史が浅い街で和の文化を発信することがこれまでできなかったが、日本的な建造物でエンターテイメント機能を付加した和の体験やアニメの世界観を体感できる場所と市民が海と緑等の自然につながる場所、豊かな食を楽しめる場所、駐車場等の機能を付加し、来場者が多彩な魅力をSNSで発信できるような場所にしてほしい
 - ・インバウンド旅行者も視野に入れた、世界的に名を知られた文化的総合施設

- お金がある人には落とせる施設を作りつつ、無い人も無料で楽しめる文化的な公共空間を作る
- 日本のスポーツの文化や功績を展示したり学べたり遊べたりするスポーツ博物館を作る
- 横浜港を一体化した開発の中で、山下ふ頭にはエンターテイメント文化集積地(ショービジネス、歌舞伎、コンサート)
- 横浜にも横浜でしかできないアート・芸術の国際展(見本市)とその常設会場(オルタナティブなアートスペース)が欲しい
- 公共の芸術鑑賞の場所
- 小中規模の芸術関連の展示・公開施設、個別分野の資料保存施設
- 個人的には大型のミュージカルの上演もできるような劇場が横浜市にあると嬉しい
- ブロードウェイのような複数の劇場が立ち並ぶ観光地を目指してほしい
- デジタル技術を利用した美術館のようなプラネタリウムのような施設でコンサートもできるようなホール
- ファミリー、高齢者、単身と全ての層が1日楽しめるような施設を作り上げ、長年愛される持続的なエンターテイメントの場を作りあげることが理想だと感じる
- スポーツや音楽やダンス、映像(芸術)のエンターテイメントを融合した地域をつくる
- 今後も更なるエンターテイメント性を育み、テーマパークの様な街づくりを期待する
- 商業・エンターテイメント機能などこれ以上は不要
- 国際競争力を高めるようなエンタメ施設やコンベンション施設などの誘致もしてほしい
- カジノは取りやめになったが、集客力のあるエンターテイメント性の高いテーマパークや公園ができるとうまい
- 歴史をテーマにしたテーマパークなどはどうか
- 山下ふ頭の立地はアクセスに優れており、集客力のあるテーマパーク誘致が良いのではないかと
- 氷川丸があるが、それだけではなく、帆船や貨物船など、歴史の積み重ねがわかるような「船のテーマパーク」を作ると良いと思う
- 譲渡会会場はもちろん、アニマルウェルフェアの食べ物を提供するレストランやペットと楽しめる施設とか、バーチャル動物園、野鳥観察ができる場所、引退した競走馬と触れ合える場所など日本初の動物愛護テーマパークを作してほしい
- ディズニーやUSJ程のテーマパークができると、皆が楽しめ、経済効果もあり、観光客の滞在日数も増えると思う
- 体験型のテーマパークや、各社の最先端の実証を行ったり見学ができたりする施設、子供から大人まで楽しめるもの
- 海をテーマパークにしたアミューズメントを作るのも良い
- キッザニアのような小さい子から高校生ぐらいまでの子供たちが近未来的スマートシティを体験できるような小さなテーマパーク的なものがあったらいいかもしれない
- よくあるショッピングモールではなく、強い魅力あるテーマパークが必要。横浜と言えばここに行きたい!となるようなコンテンツ。ワクワク感で、世界から人を惹きつける、お金を落としてくれる施設が必要
- コンベンションセンターや宿泊施設は既にみなとみらい地区にあるので競合しない施設作りが重要と考える
- IR といつかカジノの誘致は撤回されたが、都市型(ハーバー)リゾートとして開発が進めば、MICE

の誘致との相乗効果があると思うので、ぜひ開発を進めて欲しい

- ・アイデアはどんどん広がりますが、敷地内にホテルとコンベンションセンターを建設すれば、ビジネスと観光の両立がパーク内で可能になり、港内隣接区域と連携することにより世界に類を見ないユニークな MICE インフラが整う
- ・最先端の医療施設・文化施設・先端的なコンベンションを設けることはどうか
- ・コンベンションセンター国際的なイベントに使用
- ・MICE の誘致には多大なコスト負担があることから、再開発事業の内容に加えてはならない
- ・機能面では、近隣の観光地と相乗効果が見込める MICE 機能を入れ、イベントを通じてさまざまな人が訪れる施設とする
- ・MICE の必要性は再検討すべき
- ・SDGs の最先端都市として、緑あふれる街づくりを推進している横浜らしく、もっと海側に緑地帯を設け、山下公園から連続する臨海公園として、親水性のある緑あふれるランドスケープアーキテクチャーに配慮した開発を希望する
- ・山下埠頭で釣りや水辺の生き物を観察できる施設があれば、高齢者や子供にも良い
- ・現状アクセス良くないエリアなので、水上タクシー等の交通を活用する等、他の親水施設（市庁舎前大岡川沿い等）と結んでみなとみらいエリアを含めた水辺空間の活性化をして欲しい
- ・シンガポールの「ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ」のような、海と緑のテーマパークの誘致が面白いと思う
- ・市民の憩いの場となるよう、海を見ながらの散策路、緑が多く鳥の声も聞こえる公園が必要
- ・食事処、横浜土産の購入、海を眺める事が出来るデッキ(ベンチ)があると良い
- ・球技場や劇場、大規模ホテルなど、巨大な建造物は造らず、緑地や砂浜、干潟など、また、海の中が見える場所など、環境学習ができて、自然と触れ合える場所にして欲しい
- ・海水淡水化の技術開発拠点を山下ふ頭に整備
- ・美しい横浜港の景観を楽しめる公園としての機能
- ・シンガポールのマリーナベイサウンズみたく、港湾の景色を眺めながらゆったりと泳げる様な大型プール施設があると嬉しい
- ・横浜ならではのみながにぎわうような親水施設を希望する
- ・ディズニークルーズラインを誘致して、世界から観光客の受け入れて欲しい
- ・ベイブリッジ側はクルーズ船やフェリー乗り場を設けて、旅客港機能の充実、内側は持続可能エネルギーを活用した商業施設や海洋関係の事柄を学べる施設などの整備を希望する
- ・クルーズ船に限らず他の地区との海上交通と陸上交通の乗り換え地
- ・山下埠頭地域全体を、「船」「ロボット」「未来」をテーマにしたエンターテイメントエリアにし、テーマパークと、多国籍なレストラン、ヨットハーバーやクルーズ船の寄港地で構成される賑わいのある地区とする
- ・ショッピングモールなどより、クルーズや国際交流などを軸にした体験・交流など、いろいろな経験を楽しむことを意識して欲しい
- ・自信を持って国際級ホテルや商業施設、海外富裕層が所有する大型クルーズ船が直接停泊可能な港等を整備して欲しい
- ・山下埠頭をモナコを超えるハーバー、日本でクルーズ船寄港地と言えば YOKOHAMA と謳われるよう願っている

- ・伝統ある港町のイメージを保ちつつ強力な観光資源になる洋上エンターテインメントが欲しい。出港を前提にすると気軽に立ち寄れないので、例えば宿泊、食事、ショッピング機能を持った中小規模の客船を停泊中一般公開して複合商業施設として利用するなど。ディズニークルーズの誘致ができるディズニーランドとの相乗効果が期待できる
- ・海を見渡せるレストラン、引退した豪華客船を利用したホテル等、横浜らしさを大切に、地元の事情をよく知る地元の有識者や市民、地権者、業者の意見を取り入れて開発してほしい
- ・山下埠頭に観光大型客船が接岸出来れば更に良い
- ・公共ヨットハーバー（海の駅）を建設し、国際的に開放して、日本の誇るハーバーになってほしい
- ・食・健康、美容・リラクゼーション機能などで最先端のものに触れる
- ・多様な食文化を楽しむことができる場
- ・横浜の「食」を考え、流通の拠点となるような視点
- ・中央市場があるエリアでもあるので、賑わい市場やモール、アウトレット、居住地区を設け、横浜の『食』をテーマとしたエリアにしてほしい
- ・「食」をメインに据えないと人は集まらない気がする
- ・わざわざ足を運びたいような、特別感のある場所にしてほしい（美容・健康増進に効果のある温泉施設や、世界中の美食を楽しめる施設を作る等）
- ・「日本食」「温泉」「自然や四季の体感」などのテーマパークなどにニーズがあるのではないか
- ・フィッシャーマンズワーフのような「食と漁業・農業」の施設があってもいいのではないか
- ・横浜を愛する人たちが老後も健康的・文化的に過ごせる住宅（介護サービス付）を多数・大キボに提供してほしい
- ・都心のみ集中するのではなく、全市に幅広く楽しく健康的な施設の設立をお願いしたい
- ・スポーツを愛好する人を増やし、健康への関心を高めるため、ゲーム性のある色々なスポーツ施設（アスレチックセンター）を建設する
- ・健康と運動をテーマにしたテーマパークおよび実際体をうごかせる大規模テーマパークを作ってほしい
- ・海を見渡せるフィッシャーマンズワーフを造り、ヨット発祥の地を記念してヨットをモニュメントとしてディスプレイしたレストランを建設して、茹でたてのエビ、かに、寿司などの海鮮料理を提供するシーフードレストランを造る

問4 「山下ふ頭の再開発に取り入れる視点」について

【市民意見の傾向（集計・分析結果を踏まえた見解）】

選択肢では、「持続可能なまちづくり」「多様性社会」「実験都市」を選択した割合が多く見られました。

全世代で「持続可能なまちづくり」を選択する割合が多く、20代及び30代は「サブカルチャー」を選択する傾向にあるなど、年代による違いも見られました。

自由意見では、市民への還元に関する意見や防災や環境に関する意見、将来を見据えたまちづくりや税収の確保、企業誘致による産学連携を意識した意見が多い傾向となりました。

持続可能なまちづくり、多様性社会、実験都市といった視点に加え、市民への還元、防災や環境対策の充実、将来を見据えたまちづくり、税収の確保、企業誘致による産学連携などの視点も必要。

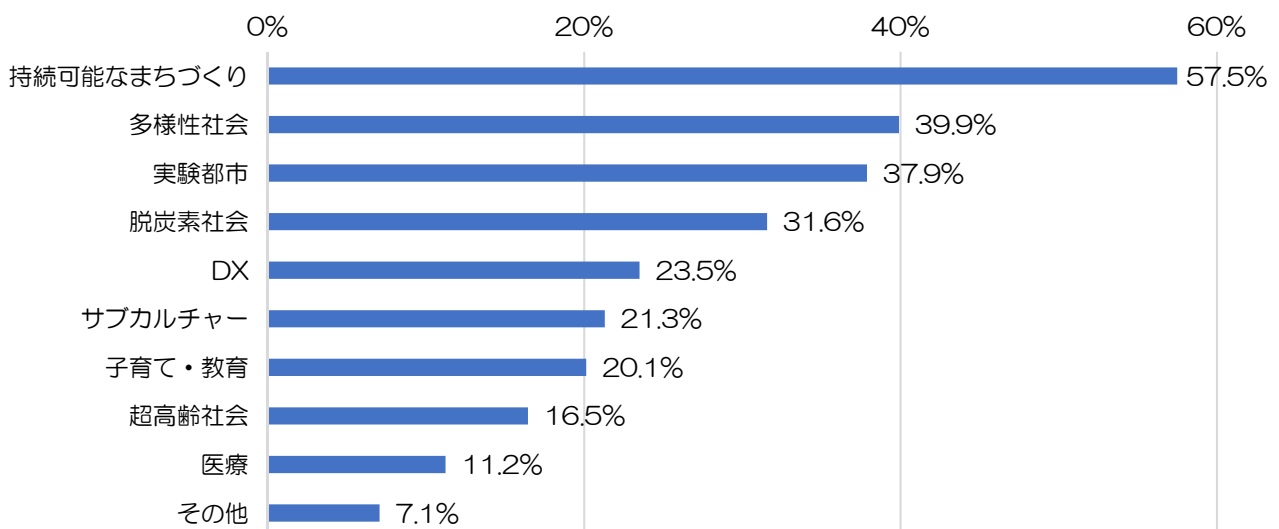
「山下ふ頭の再開発に取り入れる視点について」の選択肢回答（3つまで選択可）の集計結果については、図表 3-17 から図表 3-21 のとおりです。

なお、グラフ横軸の割合は、アンケートによる回答件数のうち、その選択肢を回答した件数の割合を示しています。

(1) 単純集計の結果

選択肢ごとの集計結果では「持続可能なまちづくり」が 57.5%を占めて最も多く、「多様性社会（ダイバーシティ）」39.9%、「実験都市（スマートシティ等）」37.9%、「脱炭素社会（カーボンニュートラル）」31.6%で続いています。

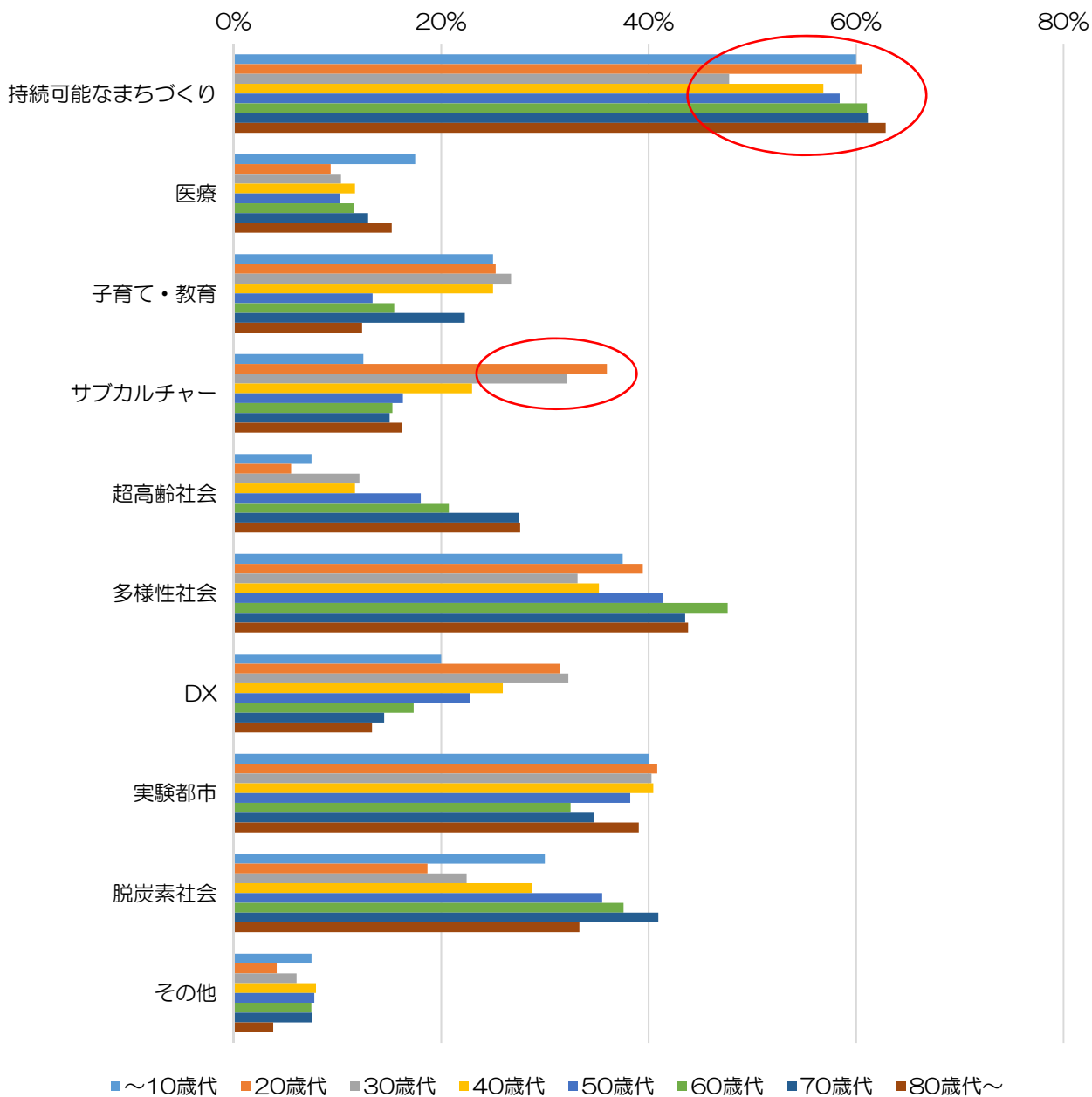
図表 3-17 再開発に取り入れる視点



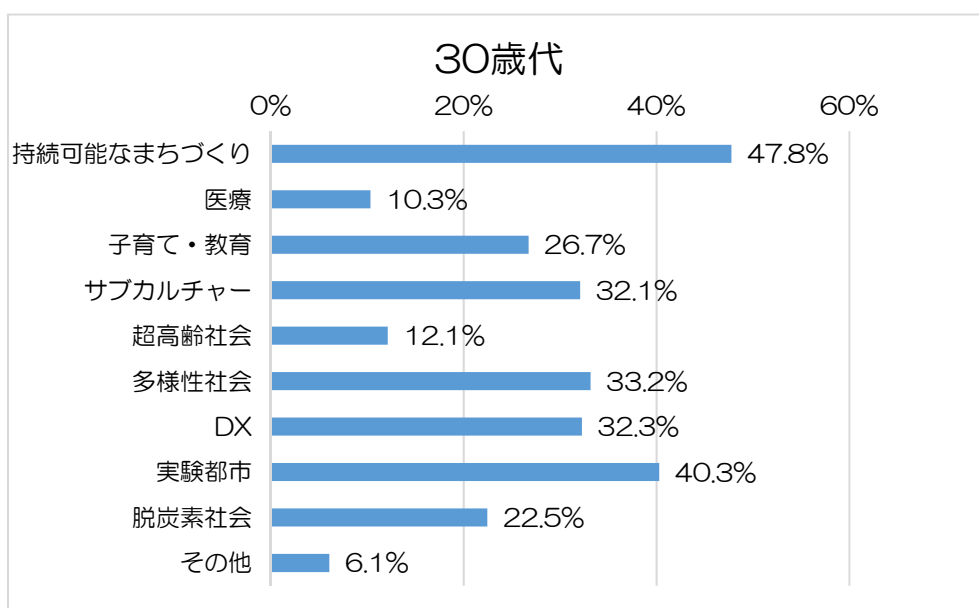
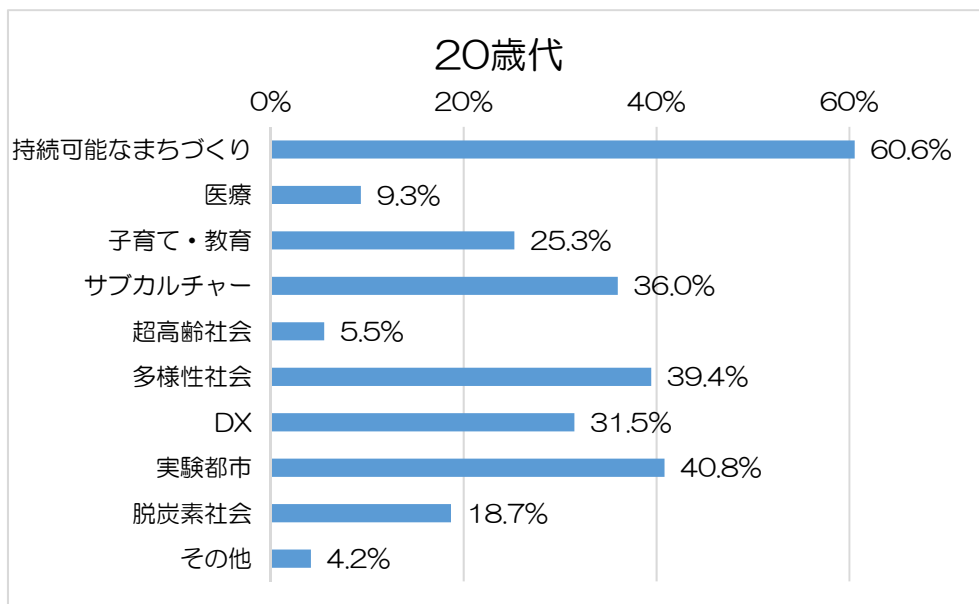
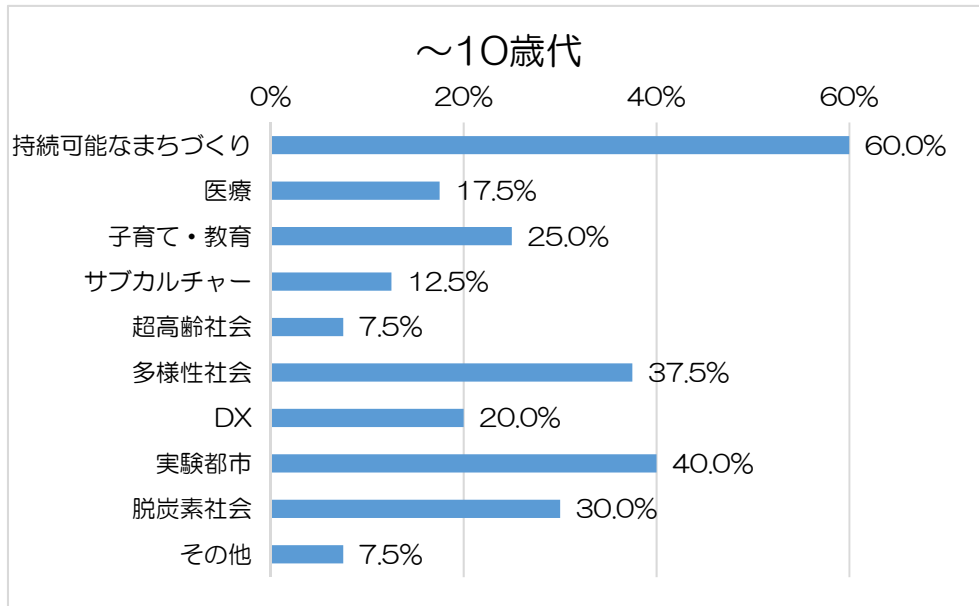
(2) クロス集計の結果（年代別）

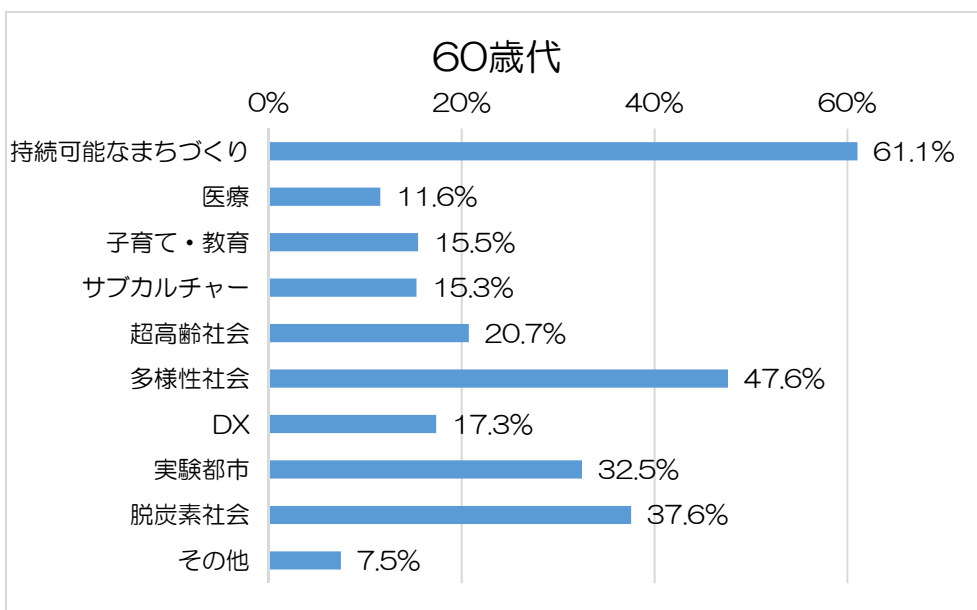
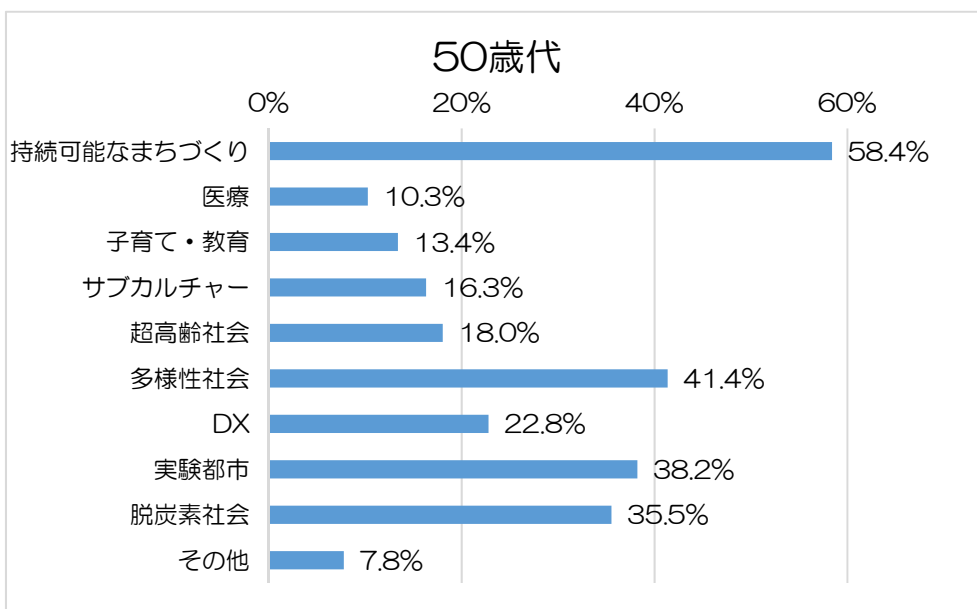
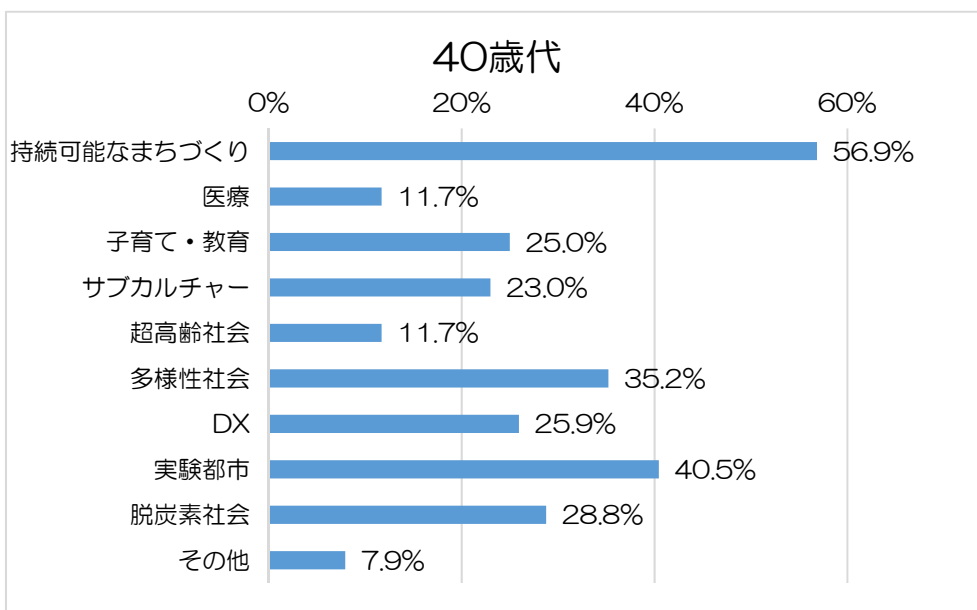
年代別の集計結果では全ての世代で「持続可能なまちづくり」を選択する割合が多く、また、20歳代及び30歳代では「サブカルチャー」を選択する割合が、他の世代に比べて多くなっています。

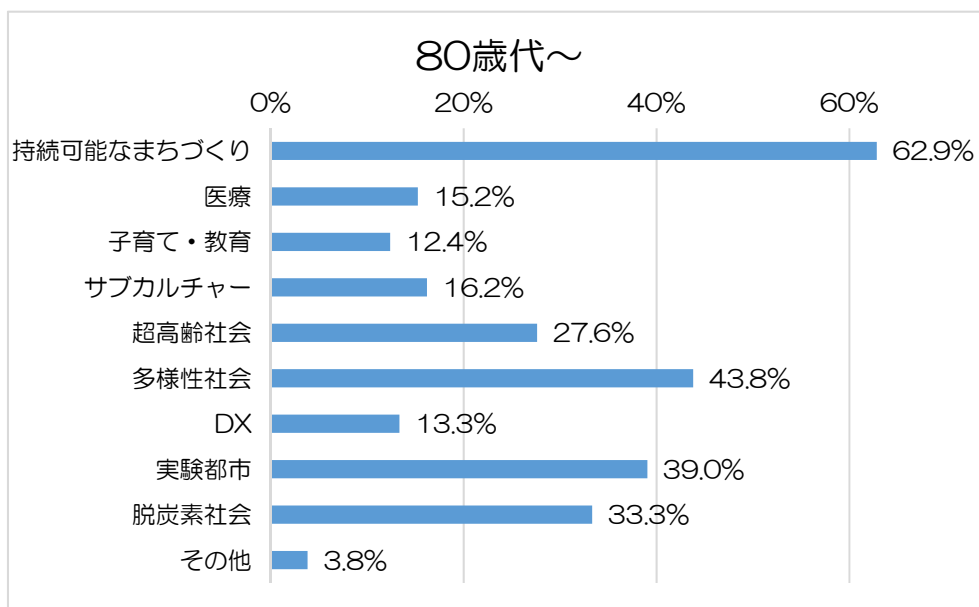
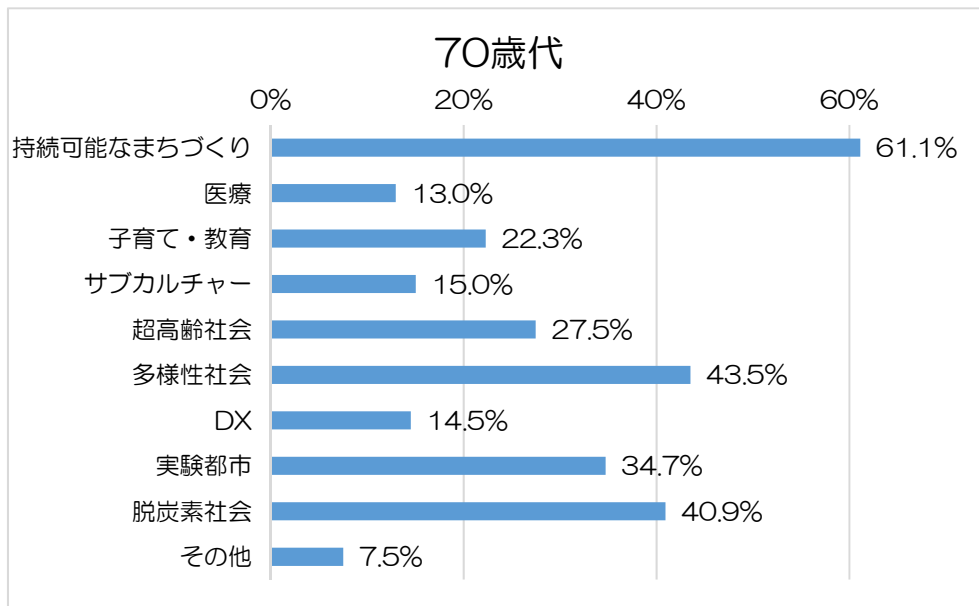
図表 3-18 再開発に取り入れる視点（年代別一覧）



図表 3-19 再開発に取り入れる視点(年代別)



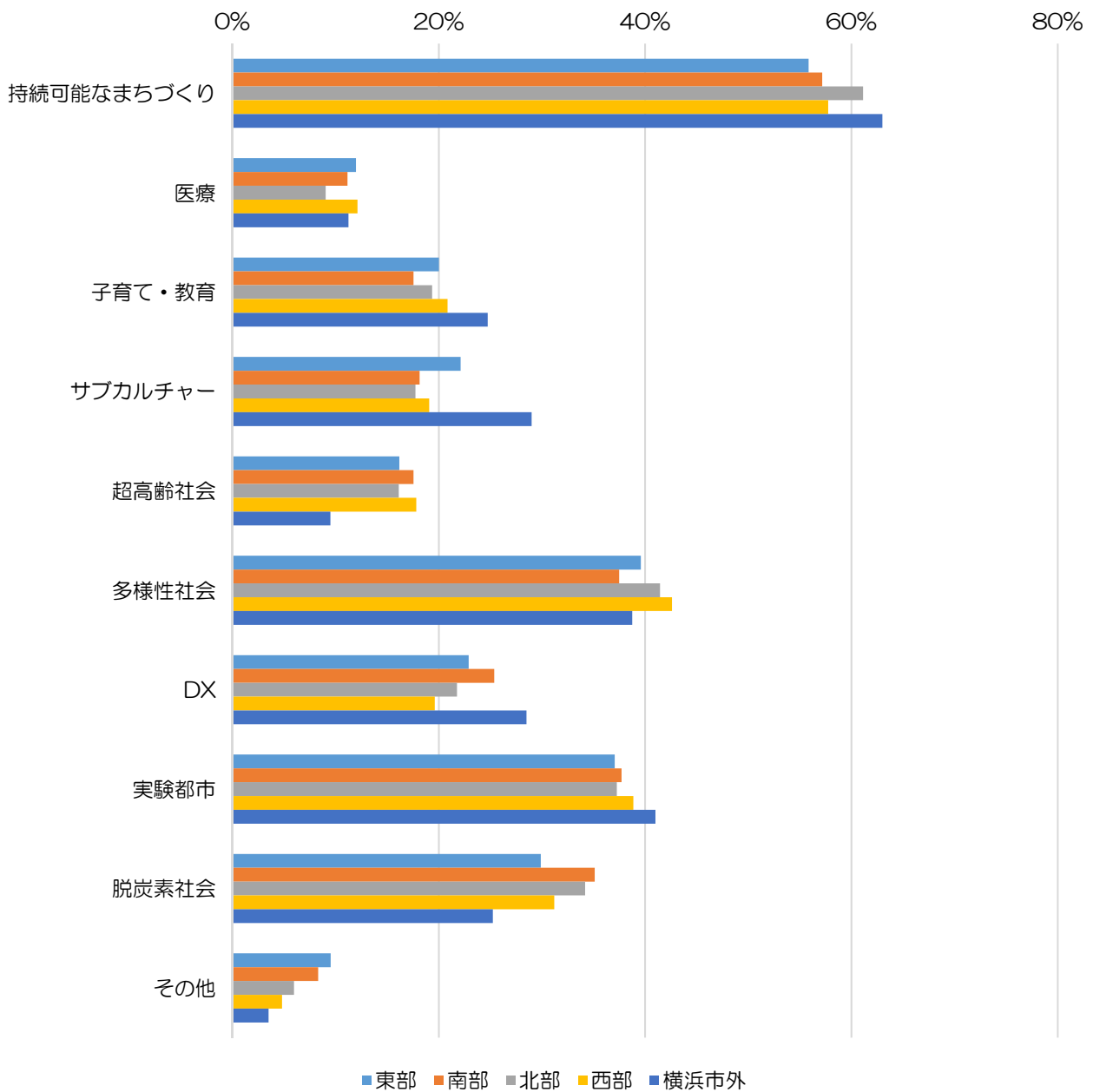




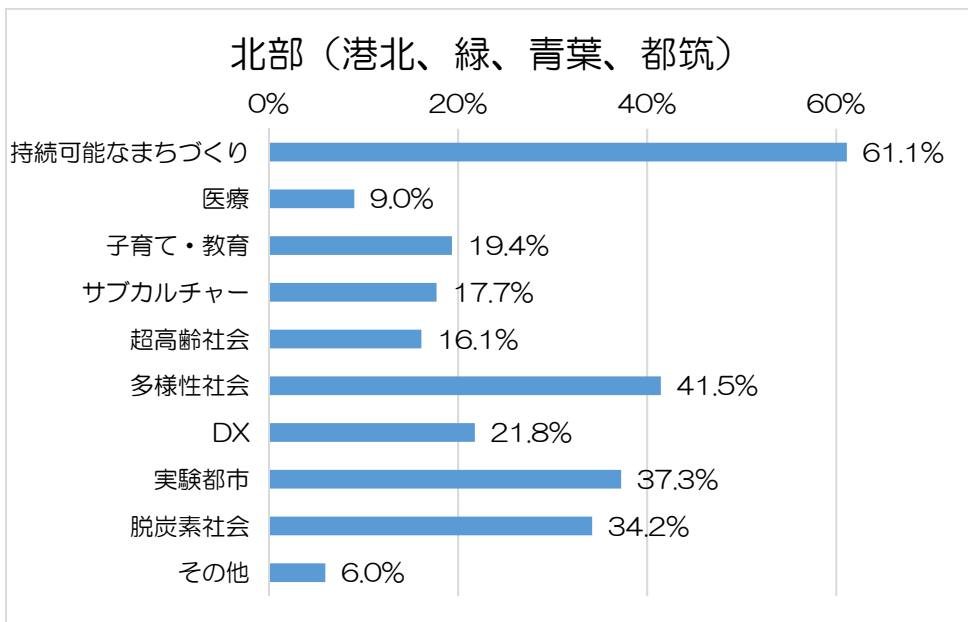
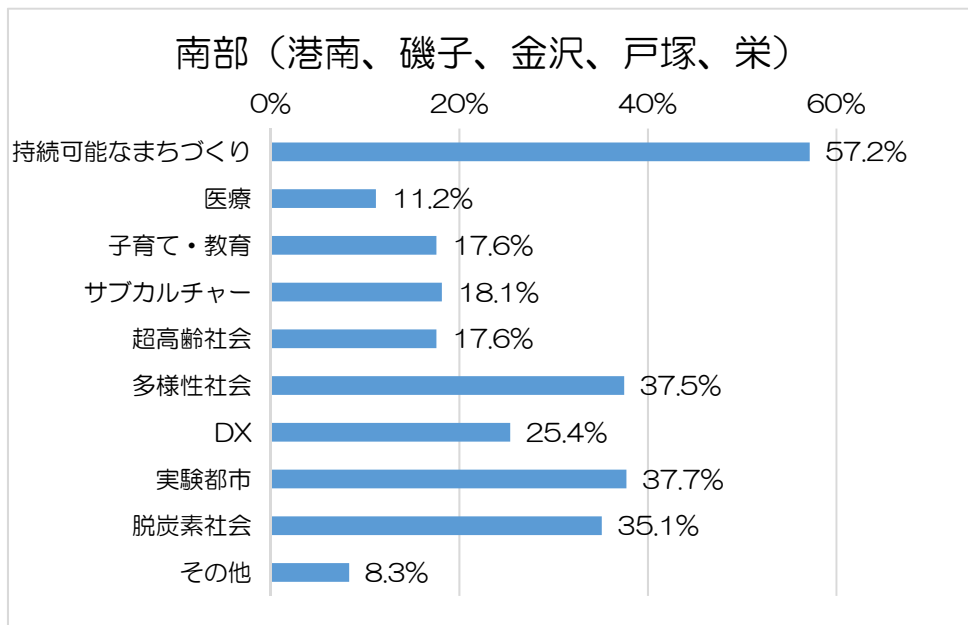
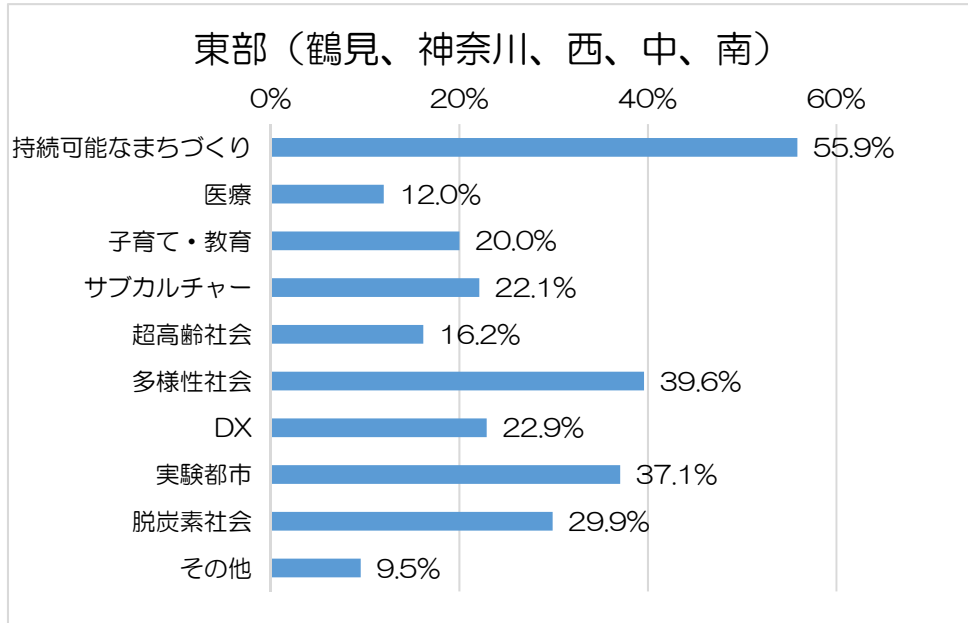
(3) クロス集計の結果（居住地別）

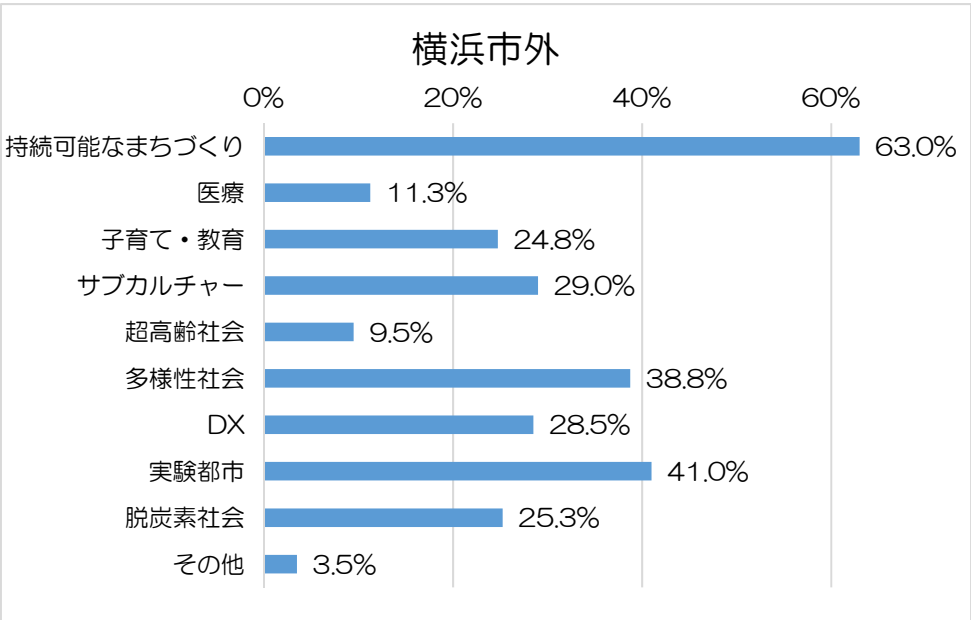
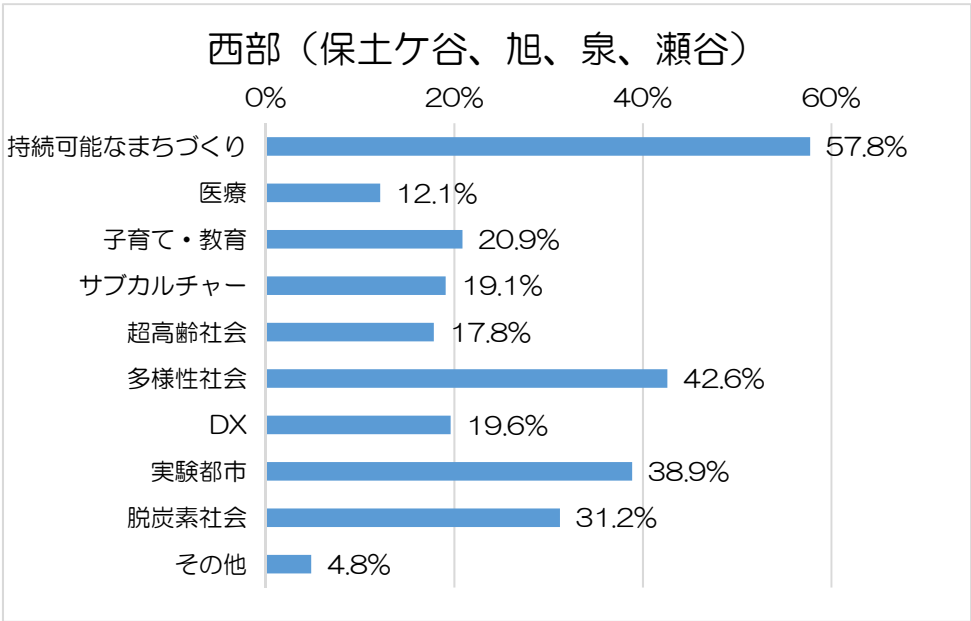
居住地別の集計結果では大きな傾向は見られませんでした。

図表 3-20 再開発に取り入れる視点(居住地別一覧)



図表 3-21 再開発に取り入れる視点(居住地別)





(4) 自由意見の分析結果

分析結果については図表 3-22 から図表 3-23 のとおりです。

「市民」「防災」「将来」「税」「環境」「企業」「誘致」「経済」という単語が多く見られました。

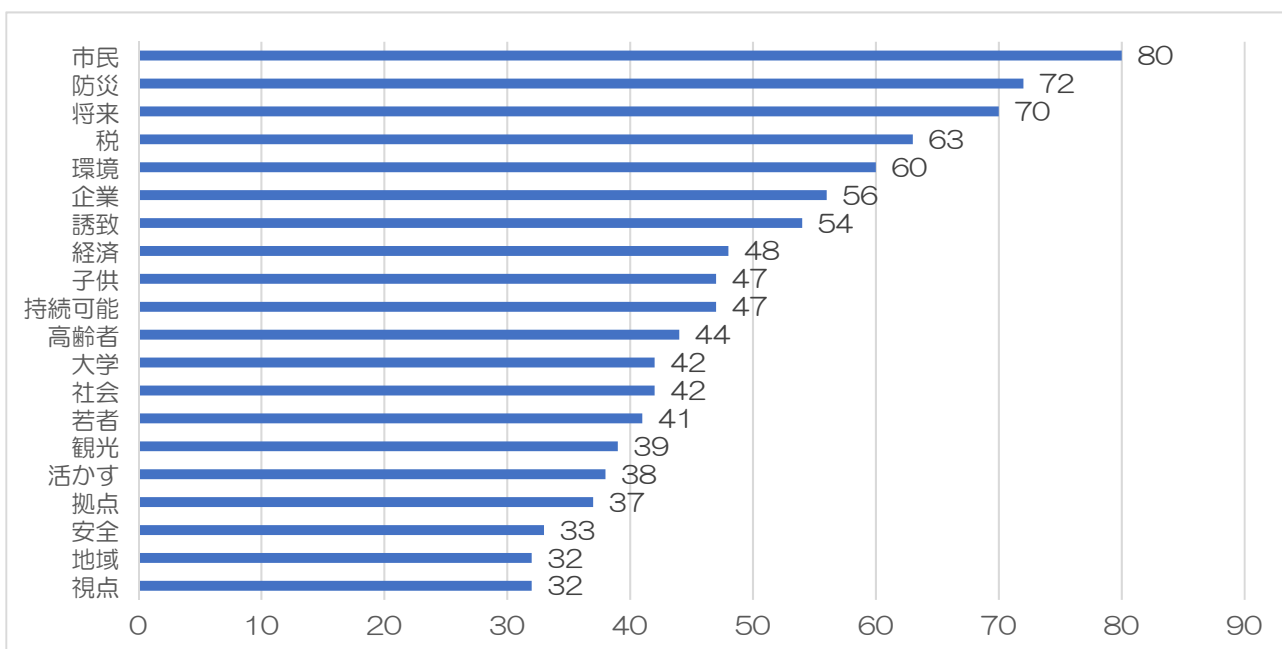
市民への還元を求める意見、災害時の活用や対策など防災を意識した意見や環境への配慮を意識した意見、将来を見据えたまちづくりに関する意見、税収の確保による経済の活性化を意識した意見、企業誘致や大学の集積による連携を意識した意見などが多い傾向となりました。

図表 3-22 ワードクラウド*

※テキストデータを視覚化するための方法、単語の頻度が多いほど、大きく表示される



図表 3-23 文書全体で使われている単語の頻度



(5) 主な自由意見（抜粋）

- ・ゼロエミッション、ゼロウェイスト、サーキュラーエコノミーなど最先端の技術で持続可能な地域を目指して欲しい
- ・サステナブルで健康的で、市民が横浜(日本)を誇ることができ、観光客も訪れるエリアとしての開発が望ましいと思う
- ・美しい景観、海と緑とともにサステナブルに生きる横浜の先進的で洗練されたイメージを崩さないようなできるだけ自然と人間との共生を目指した場所
- ・横浜らしさを失わず、環境に配慮したサスティナブルな街づくりをお願いしたい
- ・持続可能な近未来都市を目指していただきたい
- ・SDGS・持続可能性の積極的励行を提案出来る、地球の未来・子供たちの教育の観点にふさわしい施設が良いと思う
- ・街を育てる、持続可能な長期的視点が今後の都市造りには欠かせないとする
- ・DX、脱炭素、サステナビリティなど流行り言葉に惑わされず、本当に魅力のある街づくりをしてほしい
- ・収益性を考慮し、持続可能な安定した市財政を望む
- ・人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現していただきたい
- ・人口海岸を形成し、そこを起点とした、持続可能なしくみづくり、生き物の再生、人が集まる場所を開発してもらいたい
- ・持続可能な社会の構築というコンセプトを確認して基本計画の見直しから始めるべき
- ・付近の大学、高校を巻き込んで 次世代の海洋都市構想は、非常に夢のある SDGS 活動と考える
- ・SDGs を徹底的に推進していく街づくり、そのような企業には有利な条件で誘致させる
- ・周囲には最先端の医療、学術研究施設をつくり国内外から研究者を呼び入れ、観光だけではなくアカデミックな国際都市を目指して欲しい
- ・ウィズコロナを見据えた医療関係機能
- ・医療ツーリズムを受け入れる
- ・万人の医療と高齢社会に向けて軸に入れてほしい
- ・市大病院の移転先とし、それを核とした医療関係企業などからなるまちづくり
- ・高齢化も進み、コロナ等の新しい形の感染もあり、これから高次に医療が求められると思う
- ・世界から人が訪れるような医療者のトレーニング施設を作る
- ・ワクチン開発や製薬会社、ベンチャー企業などを誘致して医療特区、IT 経済特区にし、海外からの研究者や留学生を迎える受皿作りも再開発としての醍醐味ではないか
- ・横浜市民に対しては、多様性の場として子育て教育、健康にも配慮した施設を建設する
- ・子育てし易い街の象徴となるような、子供を遊ばせられるような、普段使いできる場所にして欲しい
- ・「子育て・教育」の拠点などは収入に結びつかず、長期的な持続性の視点が欠けている
- ・この街に住んで子育てをしたいと思う人が増えるように
- ・シンガポールの「ガーデンバイザベイ」のような植物園だったり、若い世代が遊びに来て、将来、この街に住んで子育てをしたい！！と思えるような場所を作っていただきたい
- ・次世代の子供たちのために、国際会議場、国際交流センター等をつくった場合、必ず見学できる場所、あるいは体験できる場所をつくり、子供たちの教育に役立てたい

- ・英語文化を一定エリアで作ることにより、教育、雇用面でもプラス作用がありそう
- ・どの年代でも学ぶことが可能な「教育」での視点
- ・子どもを育て教育しやすい地区にして、若い人を横浜に呼び込み出産率を高める地域としてインフラなどを整えて欲しい
- ・小中学校等の教育との連携、学びの場
- ・個人的には、これからのアクティブシニアが、ビジネス、エンタメ、アミューズメント、アート、人材交流、リカレント教育などの面で生き生きと魅力的に暮らし、お金を使いたくなる街になる事によって、今の若者にそのライフスタイルや将来像がイメージできるロールモデルが描ける暮らしが見える街になって欲しい
- ・先端的な医療・福祉の施設や、グローバル人材を育成する大学院等の教育機関
- ・子供達が平等に英語を使えるような場所、未来の子供達教育に利用してほしい
- ・日本が世界に誇るアニメやゲームなどのサブカルチャーに関するものもあったらいいと思う
- ・今、動くガンダムがあるのだから、それをこの先も活かして、日本の得意とするところのアニメやサブカルの日本最大級の聖地みたいな物を一画に造っても良いと思う
- ・世界には日本のアニメやサブカルが大好きな方々が大量居るのだから、埠頭という立地条件を活かしてクルーズ船で来て頂くとか、定期的にアニメクルーズみたいな物を計画しても良いと思う
- ・例えば、アニメーションなどサブカルチャーの中心地にしてもよいと思う
- ・高齢者が DX を含めた新たな仕組みや取り組みに触れたり学んだりする機会を提供出来るような街づくり
- ・家族などをはじめ、子どもから老人まで世代を越えて集える場
- ・子供も高齢者にも安心・安全
- ・障害者や高齢者に優しい町
- ・高齢者もゆったり過ごせるよう、徹底的にバリアフリー化を図り、自動運転の乗り物で園内を移動することが可能
- ・お年寄りが楽しめるような場所にしてほしい
- ・高齢者が活躍できるような、楽しめるような場所ができると健康寿命も延びる気がする
- ・今後の年金問題などもあり先行き不安な世の中だが、若い人でなく、高齢者も元気に働ける街として、全国に先駆けて横浜市がこのような構想を実現化するのは画期的な事になるはず
- ・美しい横浜に国内外からたくさんの人々が集い、高齢者も障害者も楽しみながら安心して歩けるような地区であることを願う
- ・高齢者しか使わないような無駄な市民利用施設を造らずに、将来世代に向けて、あくまで収益性を追求した開発を行うべき
- ・開発地域付近は高齢者が歩きにくい街づくりとなっているため、高齢者が外出しやすい工夫が必要だと思う
- ・人種、国籍やジェンダーを超えた多様性
- ・多様性（年齢、国籍、職業などを問わない）や、子どもたちの成長を育む将来性などが豊かな街づくりを公民一体で進めて行って欲しいと願っている
- ・誰かを優先ではなく、年齢問わず、性別問わず皆が心地良く過ごせる事を大前提にして欲しい
- ・どの年代の人も、どの国の人も、性別も関係なく自由に楽しめる場所づくり
- ・マリントワー、ランドマーク、赤レンガ倉庫など美しい街並みを活かした、老若男女、障害者、

ジェンダー全てに優しい国際色豊かな街作りを期待する

- ・ダイバーシティにもつながりますが、国際都市として、多様な海外の方々の流入を見込んだ投資の呼び込みが重要だと思う
- ・山下ふ頭ベースプランを基本として、港湾の施設（リアル）とDX（デジタル）を組み合わせた先進的な横浜らしい「みなと」を整備するとよいと考える
- ・DX、スマートを実験できるエリアを設定
- ・観光客や子供達に未来の夢と希望を与える教育とエンターテインメント、デジタルアーカイブ関連作業を育成、官産学のDX関連専門家育成にも活用し、国際文化観光都市横浜にふさわしい未来のレガシー構築、パイオニアを目指し拠点を整備する
- ・スマートスタジアム、自動運転交通機関、デジタル化された決済システム、5Gより速い次世代通信、言葉の壁を感じない翻訳システム、子供でもお年寄りでも優劣のない仕組み（交通、段差のない歩道）、保育所完備、手軽な物流、ロボットの導入、セキュアな認証、災害に強い街、データ収集と活用）など様々なものを取り込むエリアにする
- ・中小企業が容易に使えるイベント会場や常設展地場をつくり最先端技術やロボットなどの製品の展示、海運歴史博物館、体験施設も併設 既存建物を活用してスマートシティーやSDGs、Society 5.0などの実験都市・体験都市を作る
- ・今まであまり横浜の街並みでやってこなかったが、すでにガンダムやエグザイルカフェで成功している若者向けコンテンツと、新しい実験的試みのカーボンニュートラルやSDGsのパilotプロジェクトが山下埠頭に合っていると思う
- ・主に内港エリアに集積している企業、大学、アーティスト等が様々なアイデアを社会に実装していくために使える実験都市が良い
- ・トヨタが東富士で実施している Woven City のような、外の住環境と完全に隔離した実験都市の実現
- ・完全自動運転専用、EV専用（バスなども含む）実験空間としての機能都市の構築
- ・先端技術を使ったDXを使った実験都市
- ・横浜発祥のものを、再び新しく開発できる場や実験場を作る
- ・入口が狭く、海に囲まれているので、セキュリティが確保しやすいコト、住居が現状ないコトから、横浜（世界）で問題になっている問題解決の研究、実験フロンティア地区を創ってはどうか
- ・企業がやってみたい先端技術を実現させる実験地域 企業にお金を出してもらって実現したいものを特区と法的な規制も緩和して小規模でも実現させる
- ・EV自動運転を使った交通システム導入と太陽光発電による水素生産による水素社会の実現を目指した実験都市の設置
- ・共創主義のプレーヤーをいかに呼び込めるかが大切であり、インスピレーションとアーティスト・クリエイター等の共創相手が近接し高密に集積する環境を山下ふ頭で実験的に展開する
- ・港湾都市の豊かな発展のための安全を考え、実証実験する場として、世界初の「海面上昇対応都市」のプロトタイプ街区として位置づける
- ・みなとみらい地区では研究開発施設が集積しているので、山下ふ頭においても様々な最先端技術や企業連携の実験ができるエリアを設けてほしい
- ・最新の技術を導入しスマートシティーの実現を目指して欲しい
- ・スマートモビリティの導入など先進的な取り組みを期待

- ・ 持続可能、ダイバーシティ、脱炭素はマストだと思う
- ・ 「脱炭素」「再エネ利用」などの先進性を横浜より発信したい
- ・ 世界さきがけの脱炭素、再エネ利用地区
- ・ 電動アシスト自転車、セグウェイなど脱炭素移動車で街を楽しむのは良いと思う
- ・ 脱炭素社会に向け、再生可能エネルギーの拡充をすすめるとりくみを期待する
- ・ 環境に配慮したスマートエリアとして、脱炭素化を目指した循環型エネルギーの活用、緑地の導入、防災センターの設置をしてほしい
- ・ 海という自然の影響を受けやすいこの場所だからこそカーボンニュートラルを意識した街づくりを発信していつてもらいたい
- ・ 先進的なカーボンニュートラルの取組がなされるといいと思う
- ・ CNP による陸域のカーボンニュートラル化の創出拠点として先進技術の研究開発、実証の場所となることを期待する
- ・ 横浜の「都市デザイン」の理念が活かされること、その理念が市民主体で市民のための都市づくりを目指すものであることが大切であり、地域の市民が積極的にまちづくりに参加できるような仕組みの構築をしながら進めてほしい
- ・ 市民全体の生活の向上に寄与する場としてほしい
- ・ 環境・自然・文化・歴史・持続可能性、多様性に彩られた街づくりにむけて市民の英知を結集する場をつくってほしい
- ・ 市街地の商業の活性化され、横浜市収入が増え、市民へのサービスレベルの向上を図ることができること
- ・ 市民の経済的メリットも享受できるような開発にしてほしい
- ・ これまでの横浜の都市づくりに関わってきた人々、人材の知恵と力を最大限生かし、地域で活動する市民が積極的にまちづくりに参加できるような仕組み作りが必要である
- ・ 人間中心の都市、持続可能な環境、人材・知財を活かす社会、文化芸術創造都市の展開、市民社会の実現等を具現化する企画を期待したい
- ・ 市民が利用者だけでなく当事者になる仕掛け、市民誰もがメリットを享受できる場とすることが重要
- ・ 日本の防災技術を結集し、打開策創出の研究と実践を継続的に目指すことで近未来のオーシャン・フロント都市「横浜」を実現する
- ・ 大災害時援助受入拠点など普段は楽しめて、有事に防災最前線基地の視点
- ・ 大規模災害（大地震、津波等）に備える都市
- ・ 建物などは災害や緊急事態に対応出来る作りで有ることは大変望ましい
- ・ 防災機能（万一のとき、災害対策や避難民支援の拠点となるような設計）
- ・ 大規模災害などに備えて、大量の避難民を収容できる施設もぜひ作るべきだと思う
- ・ 大規模な災害が発生した際の海上交通を利用した市外への避難拠点、または他の被災地からの海上交通を利用した被災者の受け入れ拠点（医療体制・仮設の滞在施設等が設置できるよう発電、上下水道等のインフラ整備）
- ・ こども・未来・持続可能社会をめざす
- ・ 将来の横浜の経済基盤の育成もぜひ
- ・ 将来世代に禍根を残さないでほしい

- ・横浜市に限らず日本が人口減少に転ずる中で、健全な財政を保ち、未来の子ども達の負担を減らすには、海外からの投資の呼び込みが必要
- ・再開発資産が 50 年後 100 年後どう評価されるのかの視点も加え、横浜らしい先進的で品格のあるセンスの良い財産を未来の人々に引き継いでいってほしい
- ・ライフサイクルコストをよく考え、将来減少していく税収に見合った、最小規模で維持可能なものしか作らない、という視点も、そろそろ必要
- ・子どもたちの思い描く未来が、未来の現実の横浜市であってほしい
- ・将来財政負担をすることになる、若者層の意見をもっとくんであげてほしい
- ・将来に向け、市全体に大きな収益をもたらす仕組みと施設を望む
- ・山下ふ頭の開発は、横浜の将来を担うインパクトがあるので、次世代を担う若い人たちの意見にもっと耳を傾けるべき
- ・未来を担う若者や子どもを中心とした視点が不可欠
- ・国内外を問わず、住民税に頼らず、来場者を通じて高い税収を得られる都市
- ・市税が足りない中、税収あげる開発
- ・維持管理費のかかる箱物施設は、今後の税収減を考えるとさけるべきと思う
- ・事業がうまく軌道にのり、事業所を横浜市内にかまえてもらえれば、横浜市の税収アップにもつながるのではないかと思う
- ・税収を上げて継続的な開発と市民への還元、子供への投資をして発展を目指してほしい
- ・税収の多くを個人市民税に頼る構造を大きく変えるために、民間事業からの増収へ構造転換すべき
- ・山下埠頭の開発には税金を使った開発はやめて欲しい
- ・横浜が他の都市に埋もれず存在感を維持し続けることで人や企業を引き込み、長期的に税収を確保して市民に還元することが必要と考える
- ・横浜市の税収増に資するような活力ある場になって欲しいと思う
- ・市の税収確保や健全な財政を維持できるような事業スキームとすべき
- ・優良企業を誘致することにより、雇用が安定し周辺地域での消費も増えると思う
- ・市と参加民間企業・大学で協議会を創り、国・県・経済団体の支援を得て整備運営主体の法人化を行い、協賛資金等を確保して早期に事業化する
- ・市大医学部を誘致して、関係企業を集積する
- ・誘致した大学に対して、若者の知恵とアイデアを披露する情報空間を提供し、スタートアップを支援する
- ・本社機能誘致、消費拡大を目指すべきであり、特に山下埠頭だけでなく周辺部に波及する効果を期待すべき
- ・大学、大学病院・研究機関などを誘致して、学園都市のようなアカデミックな構想を願っている
- ・アフリカ諸国の産業・教育を支援し、留学生の受け入れや国家の出先機関の誘致などを推進してほしい
- ・せっかく研究開発施設や大学が集積しているので、アジアのシリコンバレーを目指して更なる連携の促進や誘致など取り組みを進めてほしい

問1から問4に当てはまらなかった意見について

問1～4のいずれにも当てはまらなかった主な意見（抜粋）は以下のとおりです。

- ・横浜は「横浜市歌」のように港を中心に栄えてきた歴史のある街である
- ・いまコロナワクチン問題や最近の地震が多いことに大災害などの対策について心配している方々が多いと思われる
- ・日頃行かない所、でも若い時には行った臨海部、ずい分海水面が変わった
- ・山下ふ頭は市民の大切な財産である
- ・横浜は街と海（港）の距離が適度に近く、都市型（ハーバー）リゾートとしての高いポテンシャルを持っていると思う
- ・ヴェネツィアの歴史と発展が参考になると思う
- ・横浜は日帰りの観光客が多いと聞いたことがある
- ・山下ふ頭は現在でも上屋や倉庫が立地しており、良い意味で港らしい雑多な雰囲気を持っている
- ・他の港湾都市での巡演も可能な催し物を企画するのも良いと思う
- ・気候変動の対策は生物多様性保全を脆弱化させるものもあるが、生物多様性保全の対策は気候変動対策にも有効とされる
- ・横浜市は超高齢者の高齢化都市になってしまった
- ・現在の社会情勢から鑑みると、労働による給与や老後の年金では将来の資金が賅えないと騒がれている
- ・人を呼び込む事で都市設計するのはおかしい
- ・これからの時代、リスクばかり追求していても課題解決にならない
- ・子供達は未来を知ること、将来の夢を描くことができる
- ・経済のグローバル化において安易に海外の安い労働力を求めて工場を外国に移転したため、日本国内では生産が減少し、産業活動は空洞化した
- ・海外では多くの港にヨットハーバーがあるのに比べ、日本は海洋国であるのにヨットハーバーが非常に限定されている
- ・VRが進むと50年後には触感や嗅覚も疑似体験可能になっているだろう
- ・理念なき都市開発は、雑居ビルの街を作るようなもの
- ・横浜市の企業のほとんどは中小企業であり、中小企業がイノベーションに取り組むには技術が必要
- ・近頃の行政のつくる施設は国立競技場などその後の活用を考えていないように感じる
- ・横浜は開港以来、様々な文化を受け入れてきた日本で最も先進的な街で誇りに思う
- ・山下ふ頭の再開発は都心臨海部の更なる魅力を高める為に最も重要な事項
- ・臨海部全体を網羅した計画が必要なのではないか
- ・トライアスロンのスイムをこの地域でやっていた際に、この海は泳げる場所であったと認識を直した
- ・旅客船入出港の少なさは寂しさを感じる
- ・抽象的な設問が多く回答がしにくかった
- ・コロナ後は世界各国から観光船が殺到すると思う
- ・現状の横浜には、京都のような歴史遺産はないが、その他はすべて揃っている

- ・実現可能な計画実施を希望
- ・必要な情報を公開して行くべき
- ・50年100年後に地球はどのように変化しているかを予測するのがむずかしい、きっと海岸線がまた昔のようにもどるきもする
- ・私にはこれからの世代の人の為になる横浜の港、特にお金を生み出す方法が思いつかない
- ・山下ふ頭は、三方を海で囲まれ、対岸との間に橋梁・トンネルもないため、アクセスを改善しようもなく、集客には極めて条件が悪い
- ・今はどこに行ってもスケボー禁止、キャッチボール禁止、公園は殆ど危ないからと禁止している
- ・都心部ではどこに行っても同じ内容、店舗などの施設が多い気がする
- ・全ての歩道橋にエレベーターを
- ・山下との空港アクセスは東京都心よりも明確でなく、現行の横浜駅の混雑や高速道路の混雑を見ても良好とは言えない
- ・市民意見募集では事業性の観点をあまり考えずに市民の皆様方は意見・提案をしようと思うので、私は同時に行われている事業者提案募集に期待する
- ・このアンケートが実施されていること自体が、まだ市民の共通認識が形成されていないことを感じさせる
- ・市の経済基盤を外貨（観光客による収入とか）で稼ぐというマインドではなく、横浜市民自ら経済を回し市政は、市民に還元する内需的なサイクルがうまく回ると、市民としては嬉しい
- ・「横浜」の魅力とは何か？ 市民が納得できる施策を望む
- ・市民、住民の意思を確認することが肝要
- ・市民利用などを考慮すれば一般市民からの賛同は得やすくも、国際貿易で発展して来た肝心の横浜の強み弱体化にもつながり兼ねない
- ・計画が変わった山下埠頭については、早めにイメージがわくようなものが示されるとありがたい
- ・横浜は日本でも有数の都市計画を実行してきた実績がある
- ・埋め立てを行なってまで再開発の必要性を感じない
- ・今後、人口が減り行く日本だが、街を発展させるには、人は必要
- ・まず、間違っているのは現在の社会情勢を踏まえようとしている点
- ・今検討したところで、良いプランになるとは思えない
- ・真に市民のためになる施策が、市政の役割であると考えて
- ・横浜の将来の在り方に関わる大きな問題であるため、今回のワークショップだけでなく、幅広い市民の参加をした討論の場を何回も開き、地元業者も含めた市民参加で計画を検討する必要がある
- ・多様性が騒がれている中で、日本人は周りと同じ考えに美徳を感じていたり、空気を読んで周りに合わせるという考えが多い気がする
- ・コロナ禍で海外観光客にPRしづらかったのが非常に惜しいと思う
- ・ゾーニングありきでは市民の意見を有効に聴こうという姿勢が欠如している
- ・事業者提案を受けることなく、市民意見募集を改めて前置して行ってほしい
- ・開発ばかり行ってどの地域もダメになれば共倒れになるばかりか、しわ寄せが起こる
- ・山下ふ頭の倉庫群が取り払われて、港の見える丘公園からようやく港が「よく見える」ようになった

- ・日本が経済的にナンバーワンの時代なら理解できるが、横浜市民の方に負担が大きいのではないか？ 今でも横浜は十分に魅力的である
- ・是非、IR 誘致を再検討してもらいたい
- ・横浜ならではの、港町を活かし海外から人が集まるような IR 施設などの開発をして欲しい
- ・山下埠頭の開発については、IR 誘致は今後の横浜市の発展の上では必ず必要だと思う
- ・IR は横浜を再生させるために必要
- ・行政改革も一向に進まない中、せめて収入を増やす策として金を落としてもらうことを前提に考えた統合型リゾートの開発が必要
- ・IR 計画がなくなり良かった
- ・山下ふ頭には、絶対にカジノ IR は反対
- ・なぜ、IR を市民が反対したと判断したのかがわからない
- ・間違ったイメージで横浜市の経済に寄与する計画を頓挫させてしまうことなく、正しいイメージを持って再度横浜市の経済に将来に渡って寄与する「カジノを含む IR 構想」を検討すべきである
- ・市民が IR およびカジノを反対した理由は、ギャンブル依存症や治安悪化を懸念するだけでなく、これ以上の開発を望まないからではないか
- ・IR を中心としたコンベンションやエンターテインメントは非常に期待値が高いと思うし、横浜市だからこそ成し得ると考える
- ・IR 無しで大きな税収を見込めない開発は必要なし
- ・カジノや関連商業施設を呼び込む、IR 事業をやれば横浜市の税収も上がると思う
- ・いずれにしても、IR 案が廃案となり、とても魅力的なプランと変わっていてとても期待している
- ・IR が頓挫したのならば、開発を急ぐ必要は無いと思う
- ・IR とリゾートで集客して、周辺地域に周遊してもらい賑わいを作り出す起点
- ・IR 誘致くらいのインパクトがなければ、国内での都市間競争から徐々に取り残されていく。IR 誘致を再考すべきであるし、一部の声の大きい反対者に惑わされずに、将来を担う若い人たちの声に耳を傾けるべき
- ・IR 誘致の取組を振り返るのが先である
- ・せっかくの一等地なので、カジノがなくても人は呼べると思う
- ・カジノ案が否定される理由の大部分が治安の悪化やギャンブル依存症などであった
- ・誤解があるようで大変残念だが、カジノはフォーマルドレスで参加して非常にゴージャスなものだった
- ・民意を持って見直しの機会を得たので、カジノ寄りの施設から対局にある方向での検討を望む
- ・横浜は国際的な認知度が極めて高く、また、横浜の文化や歴史に精通していれば、カジノは全く必要ないと思われる
- ・カジノが撤回された事は喜ばしく大変評価している
- ・カジノよりも税収が見込める事案が作れないのであれば、カジノを再検討すべき
- ・カジノは他の都市との差別化として良い案だったと思う
- ・カジノは治安の悪化やギャンブル依存症への影響があり、市民の安全が脅かされる懸念があるので、計画が廃止になりよかったと思う

インターネット入力フォームや専用はがきによらない形でいただいた意見

インターネット入力フォームや専用はがきによらない形でいただいた意見については、自由意見の一つとして扱い、分析の対象としていますが、様々な観点からの意見をいただいているため、意見のタイトル等を掲載します。ただし、非公表を希望している意見は掲載していません。（五十音順）

- ・あおばコミュニティ・テラスで行ったワークショップを踏まえた提案
- ・アスレチックセンターを設置して運営する
- ・カジノの跡地について
- ・カジノ廃止による、山下ふ頭の再開発案
- ・関内・関外の歴史地区に横浜ゆかりのシドモア桜植樹の提案
- ・近代的冷凍庫基地を検討してもらいたい
- ・クリーンエネルギーセンター
- ・現在の景観破壊のみで景観保全を大事にしない横浜市の対応に再考を伝えたい
- ・公約に掲げた3つのゼロについて
- ・子供の為とか、病人の為とか世のためになる、施設を作って下さい
- ・産業用太陽光発電システムのご提案
- ・市大移転で横浜の未来を
- ・世界最大の国際展示場 大規模洋上空中庭園一体型
- ・先日、横浜市の副市長が4人になったと知り、国際関係を充実させていたく、手紙を書きます
- ・提案書／内港地区の将来像と山下ふ頭の再開発
- ・内港地区（インナーハーバー）と山下ふ頭に関するマスタープランについて
- ・内港地区・山下ふ頭に関するマスタープランについて
- ・内港地区・山下ふ頭の再開発について
- ・内港地区の将来像、山下ふ頭再開発の新たな事業計画策定に向けた意見
- ・内港地区の将来像と山下ふ頭の再開発 についての意見
- ・内港地区の将来像と山下ふ頭の再開発について
- ・内港地区の将来像と山下ふ頭の再開発について 提案書
- ・内港地区の将来像と山下ふ頭の再開発についての意見
- ・内港地区の将来像と山下ふ頭の再開発に関する意見
- ・内港地区の将来像と山下ふ頭の再開発に係る意見募集
- ・内港地区の将来像と山下ふ頭の再開発の意見とアイデアについて
- ・内港地区の将来像と山下埠頭の再開発の提案
- ・内港地区の将来像に関する提言
- ・「内港地区の将来像」と「山下ふ頭の再開発」についての意見
- ・「内港地区の将来像」と「山下ふ頭の再開発」についての質問及び意見交換会への要望
- ・「内港地区の将来像」と「山下ふ頭の再開発」への意見
- ・「内港地区の将来像と山下ふ頭の再開発」についての市民意見の応募
- ・「内港地区の将来像と山下ふ頭の再開発」に対する意見書
- ・「内港地区の将来像と山下ふ頭の再開発」市民等の皆様からの意見募集に対する市民意見
- ・「内港地区の将来像の検討」と「山下ふ頭再開発の新たな事業計画策定」に向け「山下ふ頭再開発について」意見とアイデア提案を応募させていただきます
- ・東神奈川地区等にハイブリッドインターナショナルスクール設立のご提案～国際教育の充実に向

けて教育特区の設定～

- ・再び民主主義が問われる
- ・防災&防疫に役立つ『エデュテイメント型・遊園地』を開発する提案書
- ・三ツ沢公園の新スタジアム計画について
- ・未来の子供達の為になるものを開発して頂きたい
- ・山下ふ頭、カジノレジャーに代わる代替案なら、やはり ベイスターズの新球場横浜ベイドームしかない
- ・山下埠頭と内港地区の埋め立て再開発の概要
- ・山下ふ頭における「横浜開港英語パーク構想」のご提案
- ・山下ふ頭の活用法
- ・山下ふ頭の再開発について 【基本姿勢】「知」を軸にした横浜市の新展開を願って
- ・山下ふ頭の再開発に関する市民からの一提案
- ・山下ふ頭の再開発に対する意見
- ・山下ふ頭開発基本計画 New Yokohama 構想
- ・山下ふ頭再開発について
- ・山下ふ頭再開発に関する意見書
- ・山下ふ頭再開発に伴う e スポーツシティの構築に向けた提言書
- ・山下ふ頭再開発の新たな事業計画策定に向けた取組に関する要望について
- ・山下ふ頭再開発も「市民の視点」で検討してほしい
- ・山下ふ頭再開発案 はいからランド
- ・山下ふ頭再開発検討ワークショップへの提案
- ・山下埠頭 IR について
- ・山下埠頭の活用について
- ・山下埠頭の将来的利用について
- ・山下埠頭の提案募集について
- ・山下埠頭再開発
- ・山下埠頭再開発・市民意見
- ・山下埠頭地区の再開発についての提案～クリエイティブリユースを拠点とした～アートネックレス計画
- ・山下埠頭地区の再開発案
- ・「山下ふ頭」再開発計画に対する意見の申し入れ
- ・＜山下ふ頭の再開発についての意見募集について＞
- ・山中市長への提言
- ・ヨコハマドリームランド
- ・横浜・山下ふ頭周辺の開発計画「日本庭園」を作る
- ・横浜 IR について。中区山下埠頭（IR みなど）再開発について
- ・横浜 IR 代替案
- ・横浜国際デジタル博物館構想
- ・横浜内港域の将来像についての提案と要望
- ・5つの提案をカジノ予定の跡地利用として提案します
- ・IR 区域に創る設備

第 2 章 市民意見交換会結果

1 市民意見交換会の概要

(1) 開催趣旨

「内港地区の将来像の検討」と「山下ふ頭再開発の新たな事業計画策定」に向けた市民意見交換会は、全市から集まった幅広い年齢層の市民の皆様がグループで議論することによって、互いに様々な価値観に触れ、協力し合いながら意見をまとめていただくことを目的に開催しました。これにより、一人では思いつかないアイデアが得られるなど、考えに至った背景なども含めて、ご意見を把握できると考えました。

(2) 実施概要

定員 200 名に対し 302 名のご応募があり、会場設営の工夫や参加者の日程調整へのご協力により、応募された全員の方が参加できるようになりました。その結果、221 名の幅広い年齢層が参加し、3,120 件（付箋で示された意見の数）のご意見をいただくことができました。

ア 募集期間

令和 4 年 5 月 9 日（月）～ 5 月 23 日（月）

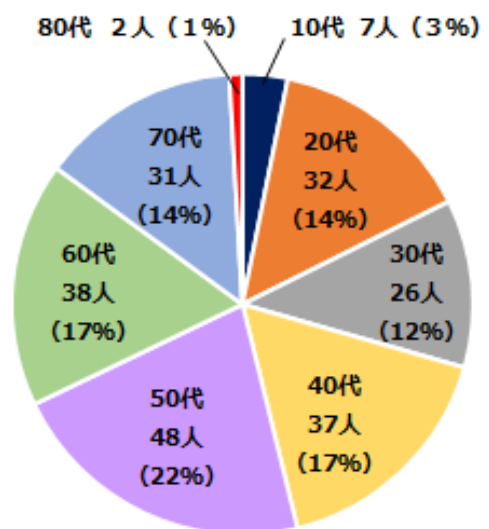
イ 実施期間

回	開催日時	エリア	会場	募集人数	参加者数
第 1 回	5/29（日） 14：00～17：30	鶴見、神奈川、西、中、南	横浜市庁舎 18 階	50 人	70 人
第 2 回	6/12（日） 14：00～17：30	保土ヶ谷、旭、泉、瀬谷	泉公会堂	50 人	34 人
第 3 回	6/18（土） 14：00～17：30	港北、緑、青葉、都筑	港北公会堂	50 人	60 人
第 4 回	6/26（日） 13：00～16：30	港南、磯子、金沢、戸塚、栄	金沢地区センター	50 人	57 人

統括ファシリテーター：大木 淳

各グループ担当ファシリテーター

大木 淳	第 1 回、第 2 回、第 4 回
林 一則	第 1 回、第 2 回、第 3 回、第 4 回
岡村 竹史	第 1 回、第 2 回、第 3 回、第 4 回
角野 渉	第 1 回、第 2 回、第 3 回、第 4 回
高橋 慧一	第 1 回、第 3 回、第 4 回
小泉 瑛一	第 2 回、第 3 回
佐藤 宜章	第 1 回、第 3 回、第 4 回
相澤 くるみ	第 1 回、第 3 回、第 4 回
小林 春美	第 1 回、第 3 回、第 4 回



参加者の年代別割合

(3) 当日の流れ

ア 開会・ご挨拶

冒頭、横浜市港湾局より、ご挨拶申し上げます。募集時に1回あたり定員50人、4回合計200人を想定したところ、定員を超える応募があり、市民の皆様の高いこと、当日は多くの市民の皆様にご出席いただいたことについて感謝を述べるとともに、内港地区のまちづくり及び山下ふ頭の再開発に関する活発な意見交換が行われることへの期待等についてお話をさせていただきました。



イ 統括ファシリテーターからの事前説明

統括ファシリテーターより、当日のスケジュールやグループワークの進め方、話し合いにあたって現代のまちづくりに求められる視点等について説明しました。



ウ 横浜市からの説明

横浜市港湾局より、横浜港の変遷や、内港地区における各地区の写真を活用しながら、関内・関外地区、みなとみらい21地区、横浜駅周辺地区などの現況や開発計画等を紹介するとともに、山下ふ頭の状況等について説明し、各地区の基本情報やイメージを共有しました。



エ グループワーク

各グループにてファシリテーターの進行によって、前半は「内港地区の将来像のイメージ」、後半は「山下ふ頭のまちづくりのテーマ」と「導入施設のイメージ」について話し合っていたいただき、皆様の意見をグループごとにまとめていただきました。



オ 各グループからの発表

各グループでまとめていただいた成果を、グループ内で選出した発表者に約5分で発表をしていただきました。



カ 統括ファシリテーターからのコメント

統括ファシリテーターの大木より、各グループの発表を聞いた感想と、当日ご参加した皆様からのご意見の傾向についてコメントさせていただきました。



キ 閉会

横浜市港湾局より、閉会のご挨拶を申し上げます。ご参加いただいたお礼を申し上げますとともに、ワークショップでいただいたご意見を委員会の場で活用させていただき考えをお伝えしました。再開発に関するご意見を受け止めながら検討を進めることをお話させていただきました。



2 当日の記録

模造紙に書かれた文言や付箋を基本に、発言趣旨が伝わるようにファシリテーターが記載したものです。

(1) 第1回（5月29日）東部エリア

Aグループ（10人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

●国際色豊かなエリア

- ・外国船が寄港する国際的なエリア
- ・山下ふ頭はかつてトリエンナーレの会場だった。とても広い印象
- ・マラソン大会など国際的なイベントが多い
- ・鶴見にはブラジル人や沖縄出身者が多い
- ・東神奈川事業所、みなとみらい、ドイツビール、国際的

●歩いて楽しいエリア

- ・日常のお散歩コースにしている
- ・歩いて楽しいところが好き
- ・歩く＝それだけでエンターテイメント
- ・みなとみらいは歩いて楽しくない

●スポーツが盛ん

- ・サッカー、フットサル、マラソン、水上スポーツ
- ・新横浜にスポーツ施設は集中している印象
- ・山下ふ頭印象うすい

●海沿いと内陸部に格差を感じる

- ・鶴見から見て、都会だと感じる

- ・海沿いは発展しているが、内陸部はごちゃごちゃしている

- ・海沿いと内陸部に格差を感じる

●内港地区の活気が落ちている？

- ・結婚式で来たことがあるが、観光するには中途半端
- ・ランドマークタワーが寂れてきている
- ・東神奈川、市場
- ・鶴見、学校行事、山下公園、都会
- ・鎌倉や千葉の方が活気があるように思う
- ・伊勢佐木町、馬車道、横浜橋、どこも活気が落ちている
- ・横浜のスケールが小さくなっている

【これからのまちづくりへの期待】

●最先端のまちに

- ・先進技術を伸ばし、最先端のまちづくりを
- ・ドローンタクシー、環境技術など
- ・横浜市立大学も都心部に置くべき

●歩けるまちづくり

- ・歩いて楽しいまちづくりを望む
- ・シーバス、水上バスのルートの内陸部に延伸して、もっと身近なものにしてほしい
- ・自転車環境を充実してほしい
- ・工場夜景

●国際色豊かなまちづくり

- ・様々な国際大会を誘致
- ・海外大学の誘致

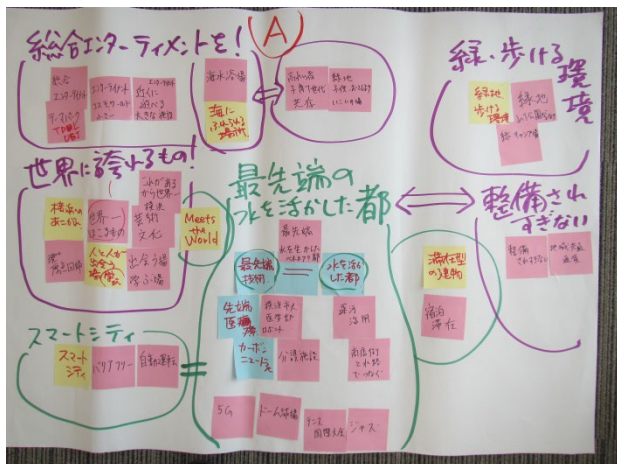
●**先端のスポーツを体験できるエリアに**

- ・e スポーツ体験、国際大会の誘致
- ・山下ふ頭にはスポーツアリーナを
- ・ラグビー
- ・テニス（山手は日本テニス発祥の地）
- ・スポーツ体験にはサウナ、銭湯が不可欠

●**歴史や食文化の発信**

- ・横浜ならではの歴史をもっと発信すべき
- ・食も文化であり人を惹きつける重要な要素

② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



【まちづくりの前提】

●整備されすぎないことが大事

- ・一気に開発ではなく、将来の余地も残しておくべき
- ・地域共通通貨

●何があれば“幸せ”か

- ・夜、ゴーストタウンになってしまっはいけない
- ・まちづくりには人が住むという視点が必要なのではないか
- ・住む人が求める幸せは何かを考えてまちづくりをするべき

●まちづくりのターゲット

- ・横浜市民、日本人、外国人、来街や宿泊、住宅のターゲットは誰か
- ・日本、神奈川の玄関口
- ・仮住まいが可能な市営住宅
- ・船の形のホテルなど、外国人にアピールできる宿泊機能が必要

【まちづくりのテーマ】

●すぐ近くにある総合エンターテイメントエリア

- ・コスモワールドは遠い、小さい
- ・TDL、USJ並み総合エンターテイメントエリア
- ・住んでいるところからすぐ近くにあって遊べる施設がほしい

- ・高齢者、子育て世代共存
- ・緑地、子供お年寄り憩いの場

●世界に誇れる横浜に Meets the World

- ・かつて多くの人々が横浜にあこがれを持っていた。その原点回帰が必要
- ・世界一のもの、世界に誇れるもの。これがあるから横浜と言えるものが必要
- ・芸術文化を通じて、人と人が出会う場、学ぶ場であってほしい

●緑・歩ける環境を

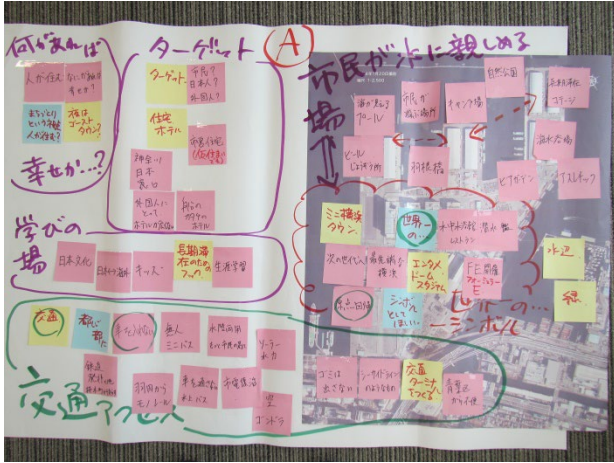
- ・山下公園に近接する以上、緑は不可欠
- ・市民が気軽に散歩できる、緑に触れられる環境を
- ・海に触れられる場所がない
- ・海水浴場があってもいい
- ・キャンプ場

●“最先端”の“水”を活かした“都”をつくる

- ・最先端技術と海辺の環境を活用した“都”
- ・先端医療を研究開発する大学（横浜市立大学など）、最先端の介護施設などを誘致
- ・先端技術による完全バリアフリー化
- ・自動運転、ICTによるスマートシティ
- ・先端技術によるカーボンニュートラル
- ・運河の活用、内陸の商店街と海辺をつなぐ
- ・5G
- ・ドーム球場、テニス国際大会
- ・ジャズ



③ 導入施設のイメージ



●市民が水に親しめる場

- ・市民が気軽に遊ぶキャンプ場や自然公園
- ・海水浴場、海が見えるプール、アスレチックなど
- ・ビール醸造所、ビアガーデン
- ・3つの突端をつなぐ跳ね橋

●日本、横浜文化の学びの場

- ・日本文化を学べる場、機能
- ・キッズだけでなく生涯学習の場にした
- ・学びの場は、ここに長期滞在するフックになる

●“世界一”のシンボルを

- ・世界一と呼べるシンボルを置くことで、最先端の横浜を世界にアピール。
- ・原点回帰。次世代に継承できるもの
- ・エンタメドームスタジアム、フォーミュラーEの開催
- ・水中水族館、水中レストラン、潜水艦
- ・ミニ横浜タウン

●交通アクセス、交通環境について

- ・山下ふ頭は広い。アクセスだけでなくエリア内の交通環境を考える必要がある
- ・交通ターミナルが必要。やはり郊外からだアクセスは不便
- ・鉄道発祥の地、桜木町駅からモノレール、バスなどを走らせる
- ・市電の復活
- ・羽田からの直接アクセス
- ・水上バスによるアクセス
- ・ゴンドラなど空からのアクセス
- ・エリア内には車を入れない
- ・無人バス、ソーラーカーなど、環境に配慮した交通手段を充実
- ・水陸両用、もっと市民の足に
- ・ゴミは出さない

●ターゲット

- ・市民？日本人？外国人？
- ・神奈川、日本、窓口
- ・住宅、ホテル
- ・市営住宅（仮住まいでも）
- ・外国人にとってホテルが広くない
- ・船の形のホテル

【ゾーニング・空間のイメージ】

- ・3つの突端をつなぐ跳ね橋を整備（くぼんだ所は海水浴場に）
- ・エリア中央付近に世界一のシンボルを

《ファシリテーター（大木 淳）からのコメント》

- ◇内港地区の将来像については、海沿いの発展に対して内陸部で格差を感じているという意見が印象的でした。
- ◇山下ふ頭のまちづくりについては、世界に誇れる最先端の街にという意見がある一方、一気に開発ではなく、将来の余地も残しておくべき、整備しすぎないという意見がありました。
- ◇また、居住機能や市民が利用しやすい環境を求める声も多く、内港地区について語られた印象や期待がここにも投影されていると思いました。

Bグループ（7人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

●イメージが良い、魅力的なまち

- ・住んでみると世界的にも良いところ
- ・魅力的なまち
- ・イメージが良い
- ・ランニングが楽しめるまち

【まちづくりへの思い、将来に向けての期待】

●世界的に有名になって欲しい、世界の人に来て欲しいと思える、他にはないまちに

- ・世界の人がまず横浜に来て欲しいと思えるように、世界の人には横浜を知らない（東京、京都、広島、長崎に比べ）
- ・海外に開かれている国際都市
- ・他でやっていないことで差別化する（神戸や東京とも違う）
- ・他にはない港町になると良い

- ・横浜といえばここというシンボリックなもの
- ・世界的にアピールする建築 UAEのように

●地元の人をもっと来てくれるように、そのためには陸と海の隔てを無くし、つなぐ

- ・横浜駅は海に一番近い（大きな）駅といえることに注目したい
- ・街と海の結びつきを強めるように
- ・海に出ていける場所がない
- ・「海岸通り」はどこ？という感じがする
- ・大岡川や橋、海から見た陸地とのつながりを強めていきたい

●若い人たちを呼び込む、つなぎ留める、大学の若い力を生かしていく

- ・多くの大学（関東学院、芸大、国大、市大）、若い力を生かしていく
- ・東京に出ていく若い人をつなぎ留める 野毛があるのに
- ・Greenroom Fes などやっても飲むところがないと帰ってしまう
- ・地域の人とのつながり、コミュニティを活発に生かしていく

●市内の奥の方までとの連携も強めていく

●海への、また海からの景観、スカイラインを大事にしたい

- ・スカイラインを守りたい
- ・港が見える丘公園から見える景色が魅力
- ・観覧車やベイブリッジなどの写真にとれる景色が大事
- ・海から見た時の陸、まちの見え方が横浜の特徴

●海と川、水そのものをきれいにして楽しむ

- ・きれいな水でトリアスロンを
- ・山下公園前の水はかなりきれいになった
- ・大岡川も含めて、きれいな水で楽しめるように
- ・横浜ができた頃の砂浜がよかった、見直したい
- ・波止場の時代の歴史、イメージを大事に

●まちの記憶、古いものを生かしながらまちづくりを進める

- ・高い建物だけでなく昔ながらのイメージを生かす
- ・街の記憶がなくなっていくのはさみしい
- ・景観を大事にしながら耐震に取り組む
- ・リノベーションでの街おこしを広げる
- ・赤煉瓦はよくできている。残した努力に学ぶ必要がある
- ・日本郵船も残しながら開発

●環境ベースで持続可能なまちづくりを

- ・横浜の強みを生かして、持続可能なまちづくりを
- ・ハコモノ主体ではなく環境ベースで進める
- ・タワーマンションはもういらないだろう



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



【大事にしたいこと】

● 山下ふ頭と周りの街をつなぐストーリーを紡ぐ

- ・ 本牧や元町とつないで考えるべき立地
- ・ 若い人が元町などに流れれば街も変わっていく、女性だけでなく男性の客向きの商売も広がる
- ・ 季節ごとに楽しみ方がある巡り方を（ドイツのロマンチック街道のようにアピール）
- ・ ストーリーを作れる素材はすでにたくさんある

● 周りの街にお金が落ちる取り組みが必要

- ・ サステイナブルな事業を考えると税収も忘れてはいけない

- ・ お金が周りの街に落ちるような取り組みに
- ・ アートや映像の強みを生かして、若い人がコミットできる取り組みを
- 固定的に考えずに、可変的に使い続けていく(時代に応じて変化しても良い)
- ・ 時代に応じたフレキシビリティが大事
- ・ 固定的な大きな施設をつくってもただ空間としてあるだけになりがち
- ・ 循環的、可変的な場所としてイベントを仕掛けていく
- ・ 広い有休地を生かしていく 更地の段階も生かす活動を
- ・ 横浜のアート系の強みを生かすトリエンナーレやクアントレナーレを、ここを中心に街に広がる催しに
- 夜も朝も楽しめる眺望、景観の魅力を活かす
- ・ 大棧橋からの初日の出を遮らないスカイラインに
- ・ 高い建物が建つと周りからの見通しが妨げられる
- ・ ベイブリッジから見たMMの夜景のため、この地区は光を落とすことも
- ・ 水と接する長さを生かしていく

③ 導入施設のイメージ

【スポーツを中心にした複合的な公園】

●スポーツ系の複合施設を核に 港がきれいに眺められる広い芝生のある公園

- ・ X Games のようなスポーツイベント
- ・ 大きな屋外コンサート、エグザイルのコンサートも集まった
- ・ コンベンションやeスポーツもできるところに
- ・ 新横浜のスタジアムとは違った使い方が期待できる
- ・ 新潟のビックスワンと公園のように総合的なものに
- ・ 他とは競合しないものになる
- ・ トライアスロン、横浜マラソンも連携可能性

●アーバンスポーツのメッカに 24 時間日本一うるさく遊べる場所(スケボー、ストリートカルチャーなど)

- ・ スケートボードが思い切りできる
- ・ ストリート系とも相性が良い
- ・ 若者カルチャーの発信
- ・ 音を出しても、周りに住宅がないことは大きなメリット

●オールシーズン人を呼べるスタジアム

- ・ 使う季節に限られる点は、コンベンションや音楽イベントで通年活用
- ・ プロスポーツのホームにすると動員力は大きい
- ・ ラグビー向けのフィールドを、サッカーとの共用は芝生のメンテが課題なので別にあつたほうがよい、県内ラグビーチームはいくつもある

【実験的なまちづくりの取り組みの場に】

●アートや建築、文化の実験的なまちづくりの拠点に

- ・ ヴェネツィアのビエンナーレのように、映像から建築まで国際的なイベントを行う
- ・ 施設群は木造建築でつくる
- ・ 新しいロケ地

- ・ 空中タクシー

●海辺の環境づくりの実験的な取り組み

- ・ 水域では養殖の実験 海を生かした産業づくり、海をきれいにする取り組みになる
- ・ のり、あおさ、アマモ場の養殖農場
- ・ 世界一美しいビーチをつくる
- ・ ゴミのリサイクルの先進的な実験

●ヨコハマの港の歴史やまちを案内できる起点に

- ・ ヨコハマの初めてをまとめて紹介し、分散する様々なミュージアムを案内して、まち歩きの起点になる シルクセンターなどもっと活かす
- ・ 氷川丸を活かして昔の栈橋の情景を体験したい
- ・ 街のシンボルになるもの 大きくはなくてもマーライオンのように

【水上のアクセスを整えるのが鍵になる】

●使いやすい水上バスで内湾を、さらに川と結んでいく

- ・ 地上の交通の便、渋滞を補う海からのアクセスを
- ・ 地下鉄の導入は難しいだろうから船での利用でアクセスを改善
- ・ ヴェネツィアのような内港循環水上バス、大黒へも
- ・ さらに川を遡り関外、吉田新田方面ともつないでいく
- ・ 楽しい交通があれば使うようになる、海からは景色も良いし
- ・ 釣り人にもたまらない
- ・ ワンコインで乗船できる
- ・ 乗り放題チケット 900 円にする 今の水上バスは使いにくい
- ・ あかいくつ号などバスともセットにした 1 日チケットがほしい

《ファシリテーター(林 一則)からのコメント》

- ◇内港地区の将来像については、世界的にもアピールできるシンボルになるものが欲しいという話と、歴史、海の環境、水辺の景観的な魅力を生かし高める取り組みが大事という意見が多くありました。
- ◇山下ふ頭のまちづくりについては、周辺のまちや水辺とつないで、まちづくりの実験的な起点にするということ、将来に向けて循環的、可変的に考えたいということが印象的でした。
- ◇提案は、オールシーズン楽しめるスポーツ施設を複合した公園が中心になりました。新潟出身の方が2名おられ、新潟の水辺のスタジアム複合施設のイメージが反映しています。
- ◇また水上交通で内港周辺から大岡川や中村川までつなぐことへの声が多くありました。
- ◇その他、国際レベルのアート活動、海の自然環境の再生に関心の深い方がおり、そうした取り組みをここから周辺の市街地、海と川にまで広げていきたいという話が特徴的でした。

Cグループ (10人)

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

- 横浜の「顔」となるエリア！ 華やか、キラキラ
 - ・鉄道や地理上、他の県にはない特徴を持っている、唯一無二の場所である
 - ・東京とは違った華やかさがあり、日本の最先端である
 - ・鶴見に住んでいるが、鶴見から見るとキラキラしている
 - ・良くも悪くも、横浜の顔というイメージ
- 昔の良さ(歴史)が失われつつある
 - ・外面は良いが昔の良さが壊されかけている
 - ・キラキラし過ぎても、つまらない
 - ・在来線のイメージがある
- 住みやすいまち
 - ・住みにくいと思ったが、いざ住んでみると、住みやすい
- 地区ごとの特性があって、役割が明確な印象
 - ・各地区の役割が区分されているイメージである
- 東神奈川臨海部周辺地区が内港地区に入っていて嬉しい
 - ・地元の東神奈川は素通りしてMM地区等に行ってしまうが、今回、対象になっているので、嬉しい

【期待度(将来像)】

- 今は少し寂しい印象、ハイカラなイメージを打ち出してもっと賑わいを
 - ・昔はもっと賑わっていたが、今は少し寂しい感

じがする

- ・ハイカラなイメージを打ち出したい
- 横浜ならではのものが希薄になっている
 - もっと「らしさ」を出す
 - ・新しいものがどんどん増えて欲しい(以外と保守的なので)
 - ・「横浜ならではの」のものや場所がないので、そういったものを増やして欲しい(例：ポケモンのテーマパークなど)
- 横浜独自の歴史を活かしたい
 - ・貴重な歴史がある場所なので、子供と一緒に気軽に行けるようになると良い
 - ・横浜独自の「横浜の歴史」がわかるように
- アートやスポーツなど若い人が表現できる場を
 - ・税収アップができる何かを
 - ・過去から現在、現在から未来が描けるように、若い人が表現できる場を提供する(アートやスポーツなど)
 - ・横浜は日帰り観光なので、宿泊客を増やすようなコンテンツが必要
- まちづくりの基本的なテーマ
 - ・景観をもっと大事にしてほしい
 - ・安全なまちづくり、防災拠点
 - ・各地区が分断されているので、一体感を醸成させたい
- 東神奈川臨海部周辺地区
 - 歴史はあるが目立っていない、目立たせたい
 - ・歴史はあるが目立っていないので、目立たせたい
 - ・住宅地区と観光地区の棲み分けをもっと行う。東神奈川は観光地区として、もっと集客できるように
 - ・歴史、文化を活かす…旧東海道、葛飾北斎の有名な浮世絵(神奈川沖浪裏)の舞台
 - ・中央卸売市場を豊洲のように開発する。築地のように海の幸が楽しめるが良い
 - ・海の近くなので、騒音が気にならないので、音楽の練習などに使ってほしい

② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●持続性のあるまちづくり すぐ飽きられるような用途はNG

- ・ショッピングセンターなど、すぐに飽きられるような用途はNG、絶対に廃れる。
- ・環境に配慮…カーボン・ニュートラル 等

●取り入れる基本的な視点 多様性、防災は大事

- ・多様性…色々な人の思い出に残るような場所に
- ・防災

●多機能を詰め込まずに一点に集中する、狙いを絞る

- ・中途半端はNG
- ・多機能を詰め込まない、「こちょこちょ」やらない
- ・したがって、ゾーニングは不要
- ・中途半端なものを詰め込むのであれば、何も作らない、公園のみにした方が良い

●交通アクセスの改善が不可欠

- ・交通アクセスを改善する必要がある
- ・交通を考えると、市民向けは諦めて、外向けの機能をメインにすることが想定される

●どんな人が訪れても問題ないような基盤づくり ユニバーサルデザイン

- ・どんな人が訪れても問題ないような、受け入れる基盤だけを用意しておく
- ・上モノの用途・使い方は、市民に任せる

●まちづくりの前提

- ・横浜だけの問題ではなく、国の発展の起点になるので、その役割を推進する・税収アップにつなげたい
- ・若者を誘致したい
- ・The 山下ふ頭となるまちづくり…山下ふ頭らしさ、ここにしかないものを



③ 導入施設のイメージ

●大学の誘致と連携

- ・2040年問題をにらんで、医療やDXにつながるように、市に動いていただきたい。そのためには、教育が重要である
- ・世界的な海外の大学を誘致し、日本から優秀な人材の流出を防ぐ
- ・横浜が潤うような、海外大学の誘致方法を検討して欲しい
- ・本牧などにはインターナショナルスクールがあるが、結局大学は海外に行ってしまう（横浜の税収を増やす意味でも大学を誘致）
- ・サイエンスフロンティア高校があるので、サイエンスふ頭もあるか
- ・関内には関東学院大学があるが、別の形の大学ができると良い
- ・SFCを移転する
- ・京都大学の研究機関が資金繰りに苦勞しているようなので、横浜に誘致する
- ・市民に対して開かれた大学
- ・外観を含め、横浜のランドマークになるような大学にしたい…ありきたりのビルはNG、既存の倉庫等を活用することもあるか

●研究機関の誘致

- ・「大学」に限定せず、幅広く考えて、研究施設でも良い
- ・未来に向けた研究所

●研究機関、企業等による未来の実験場

- ・最新技術の特区
- ・自動運転のテスト場…例：オープンシティ
- ・海外旅行を疑似体験できる

●世界に誇れるテーマパーク

- ・世界に誇れるコンテンツを発信する
- ・ポケモンやガンダムもある
- ・職業体験（キッザニア）
- ・歌舞伎座の誘致
- ・映像に特化する…ハリウッド（映画村）、大規模スタジオ

●開港当時の横浜を感じたり、体験できる施設

- ・文明開化村（AIを駆使して、横浜の過去・現在の旅行体験ができる）
- ・ミニ横浜を作って、横浜が疑似体験できる

●鉄道発祥の地

- ・日本で初めて鉄道が通った車両を模した乗り物を走らせる
- ・鉄道博物館

●外国人向けの機能 インバウンドの基地

- ・インバウンドの基地とする
- ・最先端の医療、美容等がある
- ・海外の富裕層向けのラグジュアリーな施設
- ・海外の大型客船がつけられるような岸壁を整備する

●ドーム球場、国技館などスポーツ施設

- ・市民参加型のスポーツ施設
- ・プロスポーツの誘致
- ・開閉式ドーム野球場
- ・国技館（大相撲横浜場所、柔道、剣道大会）

●サイクリングコースなど市民向けの機能

- ・サイクリングコース
- ・海に見える墓地

●交通アクセス（みなとみらい線への接続、横浜駅から市電、LRTなど）

- ・みなとみらい線にきちんと接続できるようにする（延伸）
- ・横浜駅から市電の復活、LRTの導入

●その他

- ・家族が楽しめる複合娯楽施設（アウトレットなど）
- ・超巨大な仏像

《ファシリテーター（岡村 竹史）からのコメント》

- ◇内港地区の将来像については、「横浜の顔づくり」という点が共通していたことと、東神奈川臨海部周辺地区に関心のある参加者が多かったためか、他の地区よりも意見が集中していました。
- ◇山下ふ頭のまちづくりについては、「中途半端な機能を詰め込むのではなく、絞り込むことが肝要で、それは大学・研究機関である」ということで意見がまとまりました。また、「すぐに飽きられるような用途は避けるべき」という意見も皆さん納得されていました。NGな用途という発想が都市計画的（用途地域による規制）に思えて印象的でした。

Dグループ (10人)

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

●東京とは違う、横浜らしい魅力がある

- ・東京とは違う横浜らしさ
- ・歴史的建造物
- ・住みやすい

●進化や変化が著しい、それが魅力

- ・10年で大きく変わったほどの変化のはやき
- ・進化や変化が著しく、それが魅力
- ・高層ビルができてその中に閉じたコミュニティが形成される。それぞれのコミュニティに閉じこもるのではなく、それらが交差するミクストコミュニティの場が必要
- ・開発は高層化、大型化している。高層ビルはもういない
- ・みなとみらいはもう古い
- ・新しい構造ビルは建つが、そこに横浜らしさがない
- ・高層ビルに頼らない発展が必要
- ・みなとみらいは大型施設ばかり
- ・いろんな人が住めない街になってきている
- ・お金持ちしか住めない環境になっている
- ・住居の価格が上がって行って、人が住みにくなる

●行政が勝手に話を進める(不信感)

- ・カジノの話は聞いてないのに急に現れた
- ・行政の強引な進め方に不信感
- ・山下ふ頭は既に開発の内容が決まってしまうのではないか

●観光地として中途半端、海を楽しめる親水の場がない

- ・観光の凋落
- ・友人に自信を持って勧められる観光地がない、中途半端
- ・観光に頑張って欲しい
- ・海が近いのに海を楽しめる親水の場がない

●これまでの計画に限界も

- ・交通インフラが弱い
- ・50年前からビジョンがある
- ・都市デザインによる内港地区

【期待すること、将来像】

●期待すること

- ・横浜の特性を活かしたまちづくり
- ・内港地区の地域ごとに関連性
- ・海沿いのエリアに公園や緑地を作って
- ・親水公園を作って船や路面電車で巡れるようにして欲しい
- ・災害に対して弱い街なので、浸水や液状化といった災害対策にも力を入れて欲しい

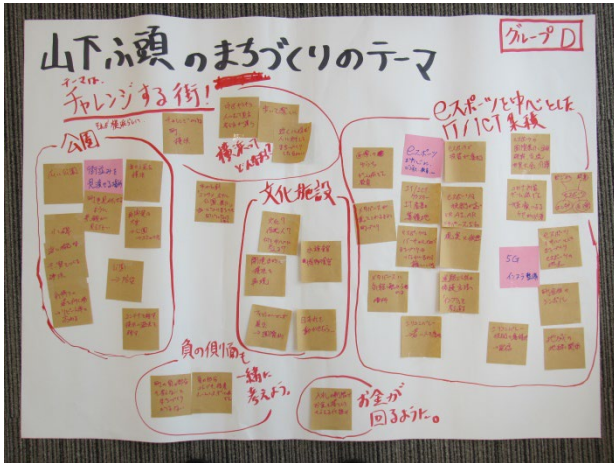
●町全体でお金が落ちるような

- ・お金が落ちる仕組みが多様性を生む

●多様性のある次世代コミュニティの構築、それらが繋がる場を

- ・他世代のコミュニティを構築できる場
- ・港北ニュータウンで成功している(実績ある)、多様性のあるコミュニティづくり
- ・複数のコミュニティに所属できることが大切だ
- ・職場や学校、家庭といったそれぞれにコミュニティが閉じている。分断されたコミュニティが繋がる場が大切

② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



【まちづくりの前提】

- ・横浜は「チャレンジする街」。山下ふ頭でもチャレンジ性が大事
- ・高層ビルは建てない
- ・街全体のシンボルになるもの
- ・地域の地縁関係も大切にしたい
- ・道路以外のアクセス方法の確保

【留意すること】

- ・工事は横浜の事業者にしてもらいたい。お金が横浜市内で回る
- ・格差やホームレスの問題など「負」の部分も考えないと“まちづくり”ではない

●横浜ってどんなまち？

- ・中区キラキラ、人によって見方・考え方が違う
- ・歩いて楽しい
- ・市からの方針ではどこのまちも同じになってしまう

【まちづくりのテーマ、イメージ】

●海、街が見渡せる公園、浜

- ・広大な面積を利用した公園
- ・街並みを見渡せる場所
- ・海から横浜が見える場所
- ・再開発は大変。公園やコミュニティにとっての場にして欲しい
- ・横浜の景観を見れないので、街を見渡せるようにして欲しい

- ・小磯を作る
- ・海に接することができる場所
- ・干潟や砂浜を作る
- ・海を感じて気持ちの落ち着く場所を作る。そうすればリピーターも多く生まれる。
- ・防災拠点としても頼りになる場所にしたい。
- ・コンテナや港湾施設を残して活用することで、横浜の辿ってきた過去を残す

●eスポーツを軸としたIT/ICT関連の集積

- ・eスポーツを中心にビジネスや教育、研究、医療といった機能の集積
- ・ゲーム依存症などに取り組む医療の誘致
- ・eスポーツは投資が集まる
- ・eスポーツの国際展示、学校、研究施設、交流、世界大会、介護展開
- ・コロナ対策やゲーム依存は医療によるケアが必要
- ・IT/ICTクラスターを形成
- ・eスポーツはバーチャルなのでまちづくりと繋がるのは難しいのではないか→メタバースと連携した実空間のまちづくりを内港地区で展開
- ・現実と仮想現実の重層
- ・5Gなどの情報インフラ整備
- ・eスポーツを中心としたまちづくり、eスポーツの拠点
- ・シリコンバレー、技術の集積地として、発信力も強くする。若い世代も集積
- ・道路以外の接続方法、「インフラ」を考え直す
- ・町全体のシンボル
- ・地域の地縁関係

●水族館、博物館など文化施設の集積

- ・水族館や博物館といった文化施設を中心にした、文化の都市が表現される場とする。
- ・何を中心に考えるべきか、明確に示す必要がある
- ・日本丸を動かせたら、着岸させたい
- ・フィッシャーマンズワーフや国際的な展示を行う
- ・開港時の横浜を再現

③ 導入施設のイメージ



●「赤い靴ふ頭」など、横浜らしい名称に

- ・横浜らしい場所の名前をつける

●海を感じられる公園

- ・「港の海」を全身で感じられるような落ち着いた場所にしたい。
- ・金沢区の「海の公園」の港湾版
- ・プール
- ・現在の良質な景観を損なわないように。

●eスポーツによるIT/ICTの集積

- ・教育機関、研究施設
- ・ホテル、病院
- ・アミューズメントパークで集客し、周辺にお金を落としてもらう
- ・エンターテインメント性のある施設
- ・学生寮

●ベンチャー誘致のシリコンバレー

- ・ベンチャーシリコンバレーとする

●博物館、水族館などの文化施設

- ・博物館、水族館
- ・ベンチの設置
- ・倉庫は残して使う

●交通アクセスの向上

- ・内港地区を海側で移動する水中通路
- ・山下公園から入りやすいようにする
- ・普段バスは使わないので、それ以外でも行きやすくしてほしい
- ・老若男女にアクセスしやすいインフラ整備

●海底に大栈橋まで通じる水中通路を

- ・女神橋のように水際線を歩けるように
- ・海底に大栈橋まで通じる散策路を作る

●水上交通の充実

- ・内港地区で運用する船を停泊させるハーバーの整備
- ・屋形船
- ・船を借りられる場所
- ・「海」を感じられる小型船の発着場
- ・船での通勤、通学
- ・船が止められれば、船の往来ができる
- ・シーバスを増やす

【ゾーニング・空間のイメージ】

- ・突端から山下公園側は公園的な利用を（倉庫を一部残して使う）
- ・街を見渡すビューポイント
- ・海底に大栈橋まで通じる散策路を整備
- ・山下公園から入りやすいようにする



《ファシリテーター（角野 渉）からのコメント》

- ◇内港地区は横浜の中でも景観の変化が早いエリアとして認識されていますが、お金をもつ人を相手にした開発が多く、そのような変化を許す政策への不信感が多く語られました。
- ◇観光政策に対する不満が複数の参加者から上がっていました。観光先としてどこも中途半端な印象を持ち、知人等に自信を持って勧められない歯痒さを感じているようでした。
- ◇街では人の属性ごとにコミュニティが分断されており、それらをブリッジングする場が求められていました。
- ◇東京とは異なる魅力として「海を感じられる」ということを大事にし、また、eスポーツを中心とした新しい産業・研究・商業の一大集積地とすることに希望を感じていました。

Eグループ (10人)

① 内港地区の将来像



【期待していること】

●先進的な実験都市

- ・日本にいながら世界と繋がる場所
- ・新しい試みの実験がしやすい場所
- ・東京に負けない都市間競争力の強化
- ・世界にアピール自慢できるまち、世界にアピールできる都市
- ・世界の人に注目を集められる街

●自然や水辺の計画

- ・世界に誇れる安全で魅力ある都市型パドルスポーツのゲレンデに
- ・内港地区内の海上交通
- ・水辺という立地を大切に。お台場の砂浜のような空間
- ・自然を楽しめる場所になって欲しい
- ・都市と環境

●歴史や各地区の特色を活かした計画

- ・歴史を活かしながら開発
- ・地区による特色を！
- ・山内ふ頭の有効活用
- ・瑞穂ふ頭の活用

●モビリティの強化

- ・地区間を舟運で動きやすく
- ・水辺のモビリティを多様化

●企業との連携

- ・新規ビジネスの拠点
- ・働く場所、企業が増えて欲しい！！

●ライフワークと密接に関わる場所

- ・子供が思い切り遊べる場所
- ・市民のウィルネス向上のプラットフォームに

【良いところ、印象】

●観光都市

- ・デートに人気
- ・インスタ映え
- ・景観設計されている
- ・集客施設と観光名所の集結

●海や自然との接点が高い

- ・開港、よこはま、明るい街
- ・海との距離が近い。海と陸が近い。海で楽しく遊べるエリア
- ・海と川、風、太陽、都市のアドベンチャー
- ・緑と海と空の美しい街
- ・アーバンネイチャー
- ・マリンスポーツを楽しめる

●特色のある景色が多い

- ・エモーショナルなまち、景色が良い
- ・SL
- ・コンテナの景色

●歴史文化の継承

- ・東京にはない歴史
- ・新旧の混在

●立地が良い

- ・都市の活力の中心、横浜の都心
- ・羽田空港に近い立地、外国人観光客を呼び込める



【まちづくりの課題】

●市民との距離、繋がりが薄い

- ・なんとなく市民不在。多くの市民にとって身近な場所になっていない
- ・観光も大事だが、もっと市民の居場所にした
- ・大黒ふ頭地区と市民の繋がりが薄い
- ・ベットタウンならではの市民の関わりが少ない
- ・行政と市民の距離がある
- ・つながりを追求しがち。一人でも楽しめるまちを
- ・市民ギャラリーや市民活動で活用できる施設が少ない
- ・子供が自由に遊べる場所、体験できる場所が少ない

●物足りない都市機能

- ・大学が少ない
- ・もったいない感、瑞穂ふ頭がもったいない
- ・外国人観光客が楽しめる場所が少ない

●アクセスの悪さ

- ・交通利便性が低い、駅が遠い
- ・アクセス、周囲との繋がりが
- ・ベイバイクで移動できる範囲が限られているのが残念
- ・住宅街と臨海部のアクセスが悪い。バリアフリーになっていない
- ・不便なところが多く、合理的でない

●景観の悪さ

- ・高速道路の見え方
- ・図書館が古い
- ・あか抜けない。ダサイ

●企業独占

- ・極端な大手依存。大手企業に利用されそうなのが心配
- ・既得権益
- ・誰のためか分からない新築のビルが建っている

② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●先進的な財政、開発、ビジネスが回る場所

- ・ヒト・モノ・カネの集まるまち
- ・今ある資源を活かした開発
- ・新山下とあわせた開発
- ・都市競争を勝ち抜く「選ばれる」都市に
- ・財源に頼らず、ビジネスで自律できるまち

●海辺、水辺、自然の魅力を活かした場所づくり

- ・単純に近代化するのではなく、海浜地区という特色を活かした計画を
- ・海と気軽にふれあうまち
- ・水辺との距離が近いまちづくり
- ・若者を呼び込む（海辺が映えるまち）
- ・山下ふ頭からの景色
- ・非日常のパワースポット
- ・市民ウィルネス向上アーバン

●市民と観光客の共存

- ・市民、観光客と一緒に変化していく（時代に合わせた柔軟なまちづくり、持続可能性）
- ・市民×観光客。掛け合わせのまち（混ざる、絡む）
- ・市民参加型のまちづくり。提供側は様々な実験ができる
- ・社会の分断化を止める何か

●みんな一緒につくるITの都市

- ・e パラスポーツ、e スポーツ×パラスポーツ、新しいスポーツエンターテインメント
- ・メタバースとリアルとの結節点となる

●市民が楽しめるエリア

- ・市民が「帰りたくなる自分たちの場所」
- ・市民生活の利便性
- ・一人でも楽しめるまち
- ・市民が楽しめる場所（市民無料）
- ・いい生まれ方ができ、いい死に方ができるまち

●超偏向とがった街

- ・ぶっとんだ超偏向な街、脱金太郎飴
- ・「アジア NO.1 のショーケース」、最新、実験性、IT、メタ

●その他

- ・開発検討委員会に市民（女性）も入れてほしい

③ 山下ふ頭にふさわしい導入機能



●市民のための施設

- ・市民ギャラリーなど、文化芸術を発表する施設
- ・大型開発ではなく、市民が利用できる施設。子供たちが遊べる場所
- ・市民のワイガヤ会議場
- ・市民がイベントを開催できる
- ・誘致する企業を市民が審査できる仕組み

●教育的施設

- ・大学、研究所、イノベーションセンター
- ・子供が色々なことを体験したり、チャレンジしたりできる施設

●自律した施設機能

- ・中枢管理機能の向上、自立した都市づくり
- ・会社、働く場所
- ・自然に集まり、仕事したり遊んだりできるしかけ（場、コーディネート）

●海上の交通機能 市内からのアクセス機能

- ・市内からの交通の便
- ・羽田から海上でダイレクトアクセス
- ・地区間を結ぶ水上交通施設
- ・移動としての舟便の充実
- ・横浜ウォーターウェイズの拠点として

●良きライフサイクルを実現する機能

- ・サイバースポッチャのように、パラスポーツにITを掛け合わせた新しいスポーツエンターテインメントの拠点、象徴
- ・所得に関わらず安心して子供を産める施設
- ・終末医療拠点（ホスピス等）。良い死に方

●その他、意見のあった機能・施設

- ・市場移転。食のテーマパーク
- ・リトリート施設。遊びを提供するのではなく、自ら遊ぶ
- ・防災機能の強化（大雨、高潮に）
- ・SUPステーション
- ・外資を稼ぐ機能
- ・コンテンツの東京都の差別化
- ・神奈川冲浪裏の舞台
- ・ポケモン
- ・IR

《ファシリテーター（高橋 慧一）からのコメント》

◇内港地区については、今後のまちづくりに期待度が大きいことや、良いところがたくさんあるなどの意見がある一方で、市民とのつながりが薄いなどの課題や物足りなさなどの不満がありました。

◇山下ふ頭のまちづくりについて、市民と観光客の共存やみんなで作るといった意見が印象的で、導入機能もそれを反映した市民のための施設や教育施設などの意見が多かったように思います。

Fグループ（9人）

① 内港地区の印象



【内港地区の印象】

●海が近く、生活や仕事、遊びの場があり横浜の顔になるエリア

- ・海が近い Good
- ・水辺が楽しい
- ・ヨコハマといえばの場所
- ・生活、仕事 海、船につながる
- ・遊びに来る場所

●山下公園、自動車道が魅力的

- ・山下公園が市民の憩い
- ・自動車道がすばらしい 汽笛とアニヴェルセルの鐘の音の2つが聞こえる
- ・山下公園から山下ふ頭への入口がいい感じ

●ウォーカブルなまち

- ・歩いてまわれるのが良い
- ・女神橋のお陰でランニングしやすくなった

●新しさと歴史が共存している

- ・先進さと歴史が共存、バランスが良い
- ・横浜田舎町だと思っていたが、最近お台場と同じ雰囲気

●南北の違いやエリアごとの特徴が際立っている

- ・神奈川区がさみしい
- ・中央卸市場で街がひとつ終わる印象
- ・北側の生活感、南側の観光感 急に東神奈川あたりで変わる
- ・山下ふ頭から先（南）は荷役のトラック多くて雰囲気が変わる

●雑多な場所がある（横浜駅周辺、中華街など）

- ・横浜駅周辺の猥雑さ 極端
- ・中華街味わい良いけど雑多な感じもあり
- ・治安の差が激しい、海外の都市っぽい

●川が汚い、水辺を有効に活かしていない

- ・川が汚い。水がきれいならいいのに
- ・新田間川 活かしていない（河川活かしていない）
- ・横浜駅近くの川が汚い
- ・海、港が有効に使われているか分からない。

●人の流れが分散している印象がある（みなとみらいに集客がとられている）

- ・分散しすぎ
- ・中心はどこ？
- ・みなとみらいに集客取られている→集客山下公園減少

●最近はどこも同じように画一化されている

- ・野毛の“どこにでもある飲み屋街化”すすんでいる
- ・伊勢佐木町はレトロ感が薄くなってしまっている
- ・関内の劣化 本町近辺飲み街
- ・横浜は国際都市なのか？どこも同じ
- ・最近街並みが画一化しがち
- ・みなとみらいの新造される建物の色のコンセプトが白から黒になり、統一されなくなってきた

●車が必要な大黒ふ頭

- ・大黒ふ頭側、車ないと行きづらい

●教育に力を入れている（実は文教エリア）

- ・文教エリア 教育に力を入れることは横浜市にとって良いから

●歴史が活かされていない

●津波などの防災面に不安がある

【内港地区の将来像】

●内港地区へのアクセス手段を充実させたい

- ・羽田空港第4・第5滑走路 横浜ターミナルを見越す。シーバスで横浜港内と直結
- ・東京駅、新宿駅並みのバスターミナルほしい（関内駅前、市庁跡とか）
- ・海外クルーズ客のハブ、バスターミナルにする

●必然的に歩く距離が長くなるため、座れる場所が欲しい

- ・座れるところが多いといいな ベンチとか

●動線を明確にして新しい発見や散策ができるといい

- ・動線を明確にしてほしい

●MICEやIR(カジノ除く)で集客ができるといい

- ・各地区へのMICE集約化
- ・IR(カジノ除く)の開発(集客)

●日常と非日常の位置付けを明確にできると良い(ハレの日に行く「みなと横浜」と普段使いの「ハマ」)

- ・ハレの日に行く「みなと横浜」と、普段使いの「ハマ」を綺麗に区切るのか、融合させるのか、方向性を定めて景観をつくってほしい
- ・内港地域での生活と、生活以外(非日常、外出、お出かけ)が結びつくような仕掛けが欲しい。雑多な横浜も綺麗な横浜も、何かつながり持ちたい

●雨の日に一日中遊べる場所がほしい(点々とするが、移動でぬれる)

●教育に力を入れるのはどうか

- ・「子供、若者、教育、文化、芸術」に力を入れることは、将来的に良いと思います。
- ・大学等の教育機関の誘致によって、盛り上がる自治体があったので、港の盛り上がり「教育」の要素を入れると良いと思う

●公園やデッキ、広さを感じる空間をもっと整備

- ・公園、もっと立体感ほしい
- ・デッキが欲しい
- ・広さを感じる空間
- ・真のスマートシティになってほしい(エネルギー自給自足)

●船の移動ルートを充実させることで、渋滞緩和につながると良い

- ・船の移動ルートがもっと増えると個性が出るのでは？
- ・海路(水路)を使った羽田からの直行乗入れ
- ・ベイブリッジの山下ふ頭地区への分岐
- ・人気スポット→車の渋滞になる 陸路、海路を生かして全体的に交通緩和をしたい
- ・市民のための空間
- ・水上交通を発達させてほしい(山下公園発東神奈川行船みたいな)
- ・川 運河 港の水を総ざらいして水運を栄えさせる

●水辺とまちの融合、一体化したい

- ・船との接点を多く持てるようにしてほしい。「港町ヨコハマ」で人と港、船の接点が多くなるようになってほしい
- ・水辺と街を融合→関東近辺との差別化
- ・本当の水辺？
- ・氷川丸と帆船日本丸は横浜港のシンボル？有効活用

●100年先まで残るものであって欲しい

- ・横浜=? ほしい、100年後に残るイメージ
- ・商店街に賑わいを 横浜橋商店街、松原商店街、藤棚、元町など
- ・100年後の世界遺産を目指す、大正ロマンを町づくりの美意識の軸にする。日本人の憧れであり続ける。インバウンド効果はあとから

● **オリジナリティのあるヨコハマ(文明開化、猥雑さも魅力、レトロ感)**

- ・ 地に根付いた文化を守り、育てられるように規制と緩和をして欲しい 例えば、野毛のチェーン化問題、どこにでもあるまち化問題など
- ・ 猥雑さも魅力です。レトロ感が素敵
- ・ 野毛の雰囲気盛り上げて

● **港町のライフスタイル・なりわい、世界から見てオリジナリティを**

- ・ ライフスタイルの観点で、世界を代表する港町になって欲しい(港町のライフスタイル定義)
- ・ 港町横浜 世界から見てオリジナリティが欲しい
- ・ 横浜本来の良さの発掘

● **人と船の触れ合いが水辺の活性化に**

- ・ 船がたくさん入港して、市民(横浜を訪れた人)と船の接点が多くなると、水辺の活性化につながる



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●スマートシティ中心の管理されたまち

- ・スマートシティ中心、安心のための管理下エリア
- ・パスポートを国内で使えるエリア

●市民参加の場、社会実験、意見交換、アイデア出しができるまち

●学生もチャレンジできるまち

- ・学生がチャレンジできる実験、実践できる

●アーティストが育ち世界に羽ばたくまち

- ・アーティストが実験展示できる場所

●最先端の技術を取り入れながら自然環境にも配慮できるまち

- ・最先端の技術を取り入れながら、自然環境も配慮を！

●サステナブル、ふ頭内でのエネルギー循環が充実しているまち

- ・港、海辺ならではのサステナブルな建物、空間、設備、ライフスタイル（そしてそこから学べる）
- ・全体を風力、波、バイオマス等の発電でまかなう エコ重視
- ・ゴミゼロシティーとエネルギーの自給自足
- ・環境対策推進（サステナブル）
- ・一つの町として車乗り入れない 電車（車種線延長） 海路 横浜・山下・周回バス
- ・カーボンゼロ体験 羽田 ～電動船～ 山下ふ頭
- ・倉庫を活かす

●モノではなく「コト」消費の場があるまち

- ・モノではなくコトをコンセプトに体験型

●既に機能は充実しているので、広い空間があると良い

- ・ただ広い空間があればフェスもできる なにもない

●水に実際に触れることができる

- ・水と実際に触れ合える機会を大切にしたい

●船を活用した防災拠点、基地になるまち

- ・防災対策（いろいろな種類の船が入港できるふ頭）
- ・日本の病院船の基地（今回のコロナから）
- ・安全の不夜城
- ・防災拠点
- ・災害対策物資運搬基地
- ・ふ頭内設備と人が生き残れるノアの方舟
- ・水辺防災
- ・大震災時の津波に耐え得る街←地域の防災拠点

●横浜市内を回遊するときの出入り口として位置づけたい

- ・元町・中華街駅からのスタートとして横浜、内港を一覧できるエリア 各エリアのつまみ食いの的な
- ・内港地区のゴール地点として、身体・精神ともにしっかり休める場所

●海の移動の玄関口になるまち

- ・外に開放的（開かれた）港（人と文化の交流）人のにぎわい

●移動手段やアクセスが多様化されているまち

- ・ふ頭へのアクセス多様化 ヨットハーバー ベイブリッジからの直通 羽田との直通

●もっと人を呼びたい(外国人、県内外から子供たち、若者、お年寄り)

- ・市民が利用でき、横浜市の利益も生むことが出来る工夫を
- ・県内外からの人をさらに集められる みなとみらいに続く観光地
- ・子連れファミリー 若者が来やすい
- ・子供たちに未来を感じさせられること
- ・健全で健康的な空間作りを
- ・国際的(日本語英語 二か国語ゾーン) 文明開発の完成 欧米価値観教育
- ・高齢者をターゲットにする

③ 導入施設のイメージ



- 旧市街(OLD CITY)としてデザインとコンセプトを明確にする
 - ・観光案内の表記に「旧市街 OLD CITY」となっていると観光客は魅かれる
 - ・古民家の移築、再利用
 - ・外観装飾は明治・大正風（例・椿屋コーヒード） デザイン性を統一
 - ・統一した雰囲気の外観
 - ・全て木組みの建物（高層も、不燃も）
- 雨天対応できる施設
 - ・雨天関係なく一日中過ごせる娯楽施設
- 広場、芝生、デッキがあると良い
 - ・広い芝とデッキ、テーブルと椅子、イートインの設置も 市民、観光客いられる場所
- This is 横浜が揃っている施設
 - ・越後の“ぼんしゅ館”のようなイメージで、内港のサービスや食等を“おためし”出来るサービス、施設
- 国際的なりゾート拠点(ラグジュアリーよりも「世界観」)
 - ・ラグジュアリーよりも「世界観」
 - ・IR検討(カジノ除く)の再利用
- 建物ごとに SDGs のカラーと機能を設けられると良い
 - ・施設・エリア毎のゴール(SDGs)を決め、対応した色分け 建物、エリア
- スマートシティを体現する機能があると良い
 - ・「スマート」テーマパーク
 - ・ドローン物流空港

- スタジアム+水族館(かつて横浜博でクジラが来た)
 - ・山下公園横浜博の際にくじらがいたことから、横浜スタジアム+水族館 日本最大級
- 排他的でなく誰でも使える場所、施設に
 - ・国際会議場を一般の人でも内部を利用できる型でお願いしたい
 - ・非チェーン店利用、サステナビリティ関連サービス利用でのトークン付与“コト消費”にトークンを利用できる(換金性なし)で→ルーツ、サステナビリティの応援
 - ・メジャー/マイナーあらゆる Type・分野の sports 推進 将来のオリンピック
 - ・「ちょっと泳ぐか」「ちょっと走るか」みたいな感じで気軽に運動できるステーション等 人の動きが感じられる(横浜マラソン・トライアスロン)
- 防災機能
 - ・防災対策で船に供給する設備 水(陸→船) 電気(船→陸) 岸壁に宿泊施設
 - ・船をたくさん入港させることを想定して陸上電源、設備(排気ガス削減)
- サバイバル体験(BBQ、釣り、スキル体験習得)
 - ・現代人に足りていないサバイバルスキルが体験習得できる
 - ・「水」を軸にしたテーマパーク(水族館、室内プール、飲食店、海上スポーツ)
 - ・BBQつり体験場所 火を使える所
- ディズニークルーズの誘致
 - ・ディズニークルーズの寄港を実現してほしいファミリーは絶対に大喜びです
 - ・YDS(Yokohama Disney Sea)
- まちなかでのF1開催
 - ・F1の開催 市街地サーキット スタート場所
- 海外の分校を誘致、誰でも教育が受けられる
 - ・海外の小・中・高校分校を誘致 インド式、イギリス式 etc. 24時間教育が行われているふ頭。誰でも全年齢学びに通う

《ファシリテーター（佐藤 宣章）からのコメント》

- ◇内港地区の将来像については、港まちである横浜らしく、水上交通を積極的に導入して渋滞の緩和をねらいつつ、周辺都市から集客をしたいという意見のほか、100年先まで残る港まちのライフスタイルや空間形成を目指したいというご意見が印象的でした。
- ◇山下ふ頭のまちづくりについては、最先端の技術とサステイナブルでふ頭内でのエネルギー循環を両立させたいというご意見が多くあがりました。他にも、船を活用して、地域の防災拠点・基地とするアイデアも印象的でした。
- ◇山下ふ頭の導入機能については、上記のまちづくりのテーマに関連したアイデアのほか、芝生やデッキなどの憩いの空間や、横浜を代表する景観に資する建物のデザインについてのご意見もみられました。

Gグループ（7人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

- 景観が美しい
 - ・ 美しい港町
 - ・ 夜景の美しさ
 - ・ MM地区は海への視界が抜けていて良い
- 好きなイベントがある(開港祭、花火など)
 - ・ 臨港パークの開港祭が好き 花火が見える
- 地区のつながりがうすい、遠い、散発的になっている
 - ・ 各地区のつながりがうすい
 - ・ いろいろ楽しく面白いものがあるが、まとまっておらず散発的
 - ・ 東神奈川から山下までわりと遠い
- どの地区も元気があまりない、存在感が薄い
 - ・ 山下ふ頭は内港の他の地区と比べて存在感が薄い
 - ・ 元町も同様に元気がない、馬車道も元気が乏しくなっている、伊勢佐木町もさびれている (コロナもあるが…)
 - ・ 発展のあるのはMM地区のみ (但し、バス他交通の利便性が少ないか?)
 - ・ 大黒ふ頭は殺伐としている バーベキューしたけど何か寂しい 海づり公園をもう少しテーマパーク化
- 船で移動できる
 - ・ 船で移動できる
 - ・ 海上交通便利に
 - ・ 海の移動手段が限られている

- 海が近くて見れて幸せ
 - ・ 海が近くて遠い 見れて幸せ 船には乗らない
- 工場だらけで美しい
- 買い物する場所が多すぎる
- 東神奈川は古いまちの印象
 - ・ 東神奈川は横浜と近いわりには古い町の印象、海側の開発はどうなのか?

【これからの内港地区に期待するもの】

- 気軽に船に乗れるように海上交通ならでのルートを作る
 - ・ 海上または岸 船ならではの行先、目的地
 - ・ 海上交通を便利に 水中も (船と整理して)
 - ・ 船で移動しやすい感じ (ロンドンみたいな)
- ベイブリッジの高さを上げて大型客船が入れるように
 - ・ ベイブリッジの海上の高さが設計時から低すぎた。クイーンエリザベス号を含め世界中のすべての船が大栈橋まで入港できるように嵩上げすべき
- Sea Plane が来れるようにしてほしい
- 自転車でも移動しやすく、自転車が止めやすく
 - ・ 駐輪場の充実
 - ・ 車がなくても移動しやすい街 (自転車やランニングで移動できる)
- 敷設タイル、舗装をランナーに優しくしてほしい
- 車がなくても海と陸の複合的な交通の流れを
 - ・ 内港地区の更なる発展には上空、地下、海上の利用か?
 - ・ 海と陸の総合活用
 - ・ エンドポイントまでの複合的な交通
 - ・ 全体をまとめた入り口のような場所
 - ・ ベイサイドブルー (バス) をもう少し色々な所を走らせてほしい。いまいどこを走っているかわからず
 - ・ 地下鉄の駅から地上に出たときにわかりやすい看板、サインがあるとよい

- エアキャビンハンマーヘッドまで伸ばして
 - ・ロープウェイをハンマーヘッドまで伸ばしてほしい
 - ・ゴンドラを港の方まで伸ばす
- エアキャビンの料金が安い
 - ・内港地区はエアキャビンの延伸は大事か？
但し、利用料金は高い！イメージとして、バス料金の3倍以下
- 景色を楽しめ自然と触れ合えるまちに
 - ・歩きながら景色を楽しめる街
 - ・自然と触れ合える空間があるとよい
- 横浜のシンボリックなランドマークを
 - ・オンリーワンのランドマーク
 - ・象徴的な像やタワー 大きいもの
 - ・象徴的なモノが欲しい
- リピートしたい施設や公園の充実を
 - ・ショッピングモールや飲食店ではない魅力的な滞在施設もしくは公園の充実（くり返し行きたい場所）
 - ・ハンマーヘッドは特定の人しか利用できない。多様化してほしい

- 子供が遊べる砂場が欲しい
 - ・人口浜辺を作してほしい
 - ・子供が遊べる海岸（砂浜）があったら良い
（山下ふ頭とか良い）
- 子育て世代に安心なまちに
 - ・子育て世代にとって安心できるまち、福祉の充実
- 瑞穂ふ頭を開放してほしい
 - ・瑞穂ふ頭は米軍だけどたまに開放とかしないのか？
- 元町のお店は若い人にももっと門戸を開こう
 - ・元町のお店で世代調整ないしは整理
- もっとスポーツ施設がほしい
- 海上で過ごしやすい場所を



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



- 商業オンリーではなく、公共性があり、多目的なゾーンにして、しかも税収入を得たい
 - ・ 税収入を得たい
 - ・ 公共性のあるもの (Not 商業)
 - ・ 多目的 (10 個ぐらいの目的)
- 山下ふ頭へのアクセスをどうするかが大切
 - ・ アクセスの利便性を高める ex. みなとみらい線の延伸
 - ・ みなとみらい線の 1 駅延伸を!
 - ・ 気持ちよく歩いて行ける道路があると良い
 - ・ 歩行者ネットワークの充実を (桜木町エリアの元東横線脇の道路が渡りづらい)
 - ・ 歩車分離をしっかりと
 - ・ 自転車でのアクセスをやすく
 - ・ 駐輪場も必要 (番号を入れたら自転車が出てくる駐輪場もある)

● サステイナブルで健康的な暮らしにつながる

- ・ サステイナブル
- ・ 健康的 (精神・肉体共に)
- ・ 運動と健康と体力を高める施設を作る
- ・ 緑地化し、夏でも涼しい場所

● 子育てや教育に資するゾーンに

- ・ 子育て、教育
- ・ 海を利用した遊園地 横浜ならではの

● 他エリアとのコネクティビティを大切に

- ・ THE 横浜の他エリアとのコネクティビティ

● IoT 等先進性のあるエリアにしていきたい

- ・ 先進性のあるエリア (IoT 等)

● 未完のまち、常に進化するという精神で!

- ・ TDL みたいに常に進化する未完成の都市
- ・ 時代に合わせて変化する
- ・ 新しいことを取り入れる、横浜の気質を大切に!

● 常に進化するサステイナブルなまち 山下ふ頭町

- ※ キャッチフレーズ的な言葉をグループで検討
- ・ そこに行けば一日中楽しく過ごせ、何度でも行きたくなる場所 山下ふ頭町
- ・ 新しいまち、また行きたいまち 山下ふ頭町
- ・ 日常的に行きたくなる、何度でも行きたくなる場所、山下ふ頭町
- ・ 一日中過ごせる、何度でも行きたくなるまち、山下ふ頭町

③ 導入施設のイメージ



●シンボリックな施設やフотスポットなどがあるとよい

- ・海とのつながり（うかぶ小島等）
- ・港湾の土地（周りに高いビル無し）を活かしたシンボリックな建物、フオトスポット
- ・ショッピングエリアはもう要らないかな 景観、エンタメ（音楽、芸術、宗教）
- ・全体のシンボル 象徴
- ・ガンダム、アンパンマン+etc でコンテンツを集める

●海を生かした機能、施設を

- ・浮かぶブロック（連結可）
- ・水中施設
- ・海で入るプール（シドニーの計画のように）
- ・ライブ会場（海を利用した） 演出にも活かす
- ・かんたんなダイビング 海の水族館

●幅広い世代が学び・生涯学習の機能を

- ・幅広い年齢が楽しめる、エンターテイメント的な港の歴史ミュージアム
- ・水辺で子供が遊べる、海洋生物が見える
- ・教育を高める施設を作る。ex. 図書館、テニスコート場
- ・生涯教育施設を作る

●日本やアジアの歴史を学ぶテーマパークを

- ・ピュイ・デュ・フー・ジャパン（フランスのテーマパークをモデルにして、日本、アジアの歴史のテーマパークを作る）

●市民が利用するようなホテル、地産地消マーケット、レストランを

- ・リーズナブルなホテル、レストラン
- ・横浜市内の野菜などが売っているマーケット、地産地消
- ・食文化を楽しめる施設を作る ex. 和・洋レストラン
- ・農産物、魚介類、絵画、手工芸品などのオープンマーケットを随時開催
- ・随時ショッピングモールを展開する
- ・ヨーロッパの街中に見るバザーや音楽祭等が催せるオープンな場所を作る
- ・横浜（日本）が良いなと思える（誇りに思える）

●市民が使えるスポーツ施設

- ・屋外活動、アスレチック
- ・スポーツ施設をまとめる 野球、サッカー等（神島のイメージ）
- ・スポーツコート（野球、サッカーだけでなく、スケボー、ミニバイクなどのマイナースポーツも含む）

●外周に散歩、ジョギング、サイクリングのルート

- ・周囲を①散歩 ②ジョギング ③サイクリングの3ルートを作る

●マラソン大会や釣り、花火大会などが行われる場所に

- ・マラソン大会、花火大会、魚釣り大会などが行われる場所を作る
- ・海づり公園ヨコハマ

●野外フェス等ができるように

- ・野外フェス等の施設
- ・ボードパーク ダンスパーク
- ・野外シアター

●ドローンセンターを

- ・横浜ドローンセンター行きたい所をあらかじめ

●エアキャビンやスカイウォークを延伸する

- ・エアキャビンをもっと遠くへ
- ・エアキャビンを大黒ふ頭まで

●人に優しい施設を

- ・近代的であってもロボットっぽくない人に優しい施設

●外国人観光客にも良いエリア内 NO 現金

- ・エリア内NO現金 基本アプリ等 プリペイド非接触カード等

●山下ふ頭以外でも使える地域通貨を

【ゾーニング・空間のイメージ】

- ・外周に散歩、ジョギング、サイクリングのルート

《ファシリテーター（小林 春美）からのコメント》

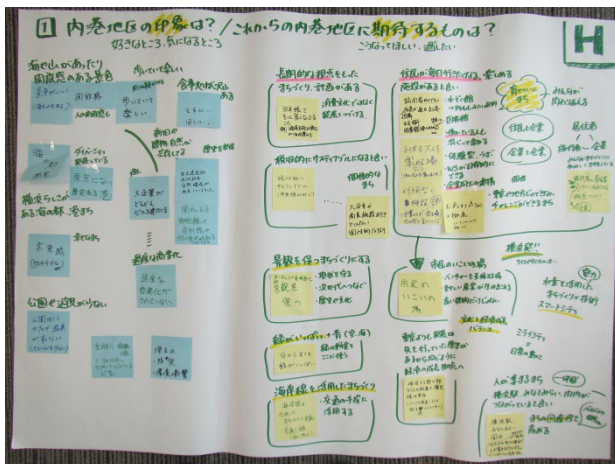
◇内港地区の将来像については、海上交通の充実に期待するほか、自転車での移動のしやすさも含め、複合的な交通ネットワークの充実を求めるご意見が多くありました。

◇山下ふ頭のまちづくりについては、上記と同様に山下ふ頭へのアクセスの充実が大切というご意見や、商業オンリーではなく公共性があり、多目的なゾーンにしてしかも税収入を得たいというご意見のほか、新しいことを取り入れる横浜の気質を大切に、時代に合わせて変化しサステイナブルなまちに、というご意見が賛同を集めていました。

◇山下ふ頭の導入機能については、観光客だけでなく市民が日常的に利用するような、スポーツ施設・地産地消マーケット・ミュージアムや生涯学習施設などの学びの場への期待も多くありました。

Hグループ（7人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

●海や山があったり、開放感のある景色

- ・ 景色がいい（海や山もある）
- ・ 開放感
- ・ 人の開放感もある

●景色が変わり、歩いていて楽しいまち

- ・ 歩いていて楽しい
- ・ 周りの景色が変わる

●食事処が沢山あり困らない

●新しい建物や歴史的建造物、自然が共存している

- ・ 大企業がどんどんビルを建てている
- ・ 歴史建造物、近代都市、自然環境が両立しているところ
- ・ 関内にある博物館や資料館が地区の歴史を知ることができる
- ・ 過度な商業化がされていない

●横浜らしさがある海の都、港まち

- ・ 海の都感覚
- ・ 東京にない歴史ある港
- ・ 未来感（サステイナブル）
- ・ ダイバーシティ、発展している

●公園や遊具、カフェなどが少ない

- ・ 公園内にカフェや遊具がすくない（イスなどもすくない）

●内港地区の中でもセパレートされている印象がある

- ・ 東神奈川、瑞穂ふ頭とそれ以外にセパレートされている印象

●埋立による環境への影響や防災が気になる

【内港地区の将来像】

●長期的な視点をもったまちづくり、計画があることが大切

- ・ 30年経ってもっと良くなっていること。例えば、海洋生物が増える、のりが獲れる
- ・ 消費文化ではなく発展し続けるまち

●税収的にもサステイナブルなまちになると良い

- ・ 税収的にサステイナブル（市民税以外で）
- ・ 大企業や商業施設ありきではない、個性的な街

●住んでいる人も働く人も毎日行きたくなる、楽しめる施設があると良い

- ・ 訪問者だけでなく近隣住民が毎日立ち寄れる街。例えば、海に関わる世界一の図書館とか
- ・ 子供も大人も楽しめる、学べる場（住んでいる人も働いている人も）
- ・ 体験型の施設（企業の共創ラボ、学べる場）参加型で育てていく！

●オープンイノベーションの拠点

- ・ スマートシティとかも面白いけど
- ・ 旅行者と居住者ともに活用できる拠点
- ・ 野毛山みたいに無料の水族館
- ・ 働いている人も混じって楽しめる施設
- ・ ワークショップが日常的にできる

●企業同士の連携

- ・ みんなが関わり合える、育てていくまち
- ・ 居住者、旅行者、企業がまちづくりに参加している、見守っている

●景観を保つまちづくり

- ・ ヨーロッパを手本に景観を保つ
- ・ 現状の景観を守る
- ・ 次世代へつなぐまちづくり
- ・ 歴史や文化を継承する

●緑がいっぱい+青(空、海)

- ・空から見ても緑がいっぱい
- ・緑の税金がここに使われているとわかる場所

●海岸線を活用したまちづくり

- ・海岸線を活用したまちづくり計画、交通手段(海上、陸上)
- ・交通の手段に海を活用する

●高い建物だけじゃない、市民のいこいの場を

●東京や地方ではできないチャレンジができる街

- ・ベンチャーを支援する場
- ・新しい産業が生み出される
- ・文化と経済成長のバランス
- ・アイスやテニスのように「横浜発」となるものが生まれる

●経済の成長拠点へ

- ・確固たる都市部としての成長と歴史性の共存(1つ1つの発展に注力、街を造ろうとしない)
- ・東京よりも発展の先を行っていた歴史

●内港地区の一体感が高まり、人が集まるまち

- ・横浜駅、MM、関内 それぞれの理由で人が集まるようにする。+1つの都心として意識する。→都市計画により「補助」
- ・各駅ごとに賑わいが集中しているので、それらがつながっていると良い
- ・徒歩やベイバイクなどでのまちの回遊性を高める

●エリア全体でエネルギーが自給自足できるスマートシティ

- ・水素を活用した発電
- ・まちづくり×技術
- ・ミライシティ



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ、
導入施設のイメージ



※参加者の意向もあり、テーマと導入施設を分
けずに一緒に検討

●「山下ふ頭まちづくり原則」として大切にしたい考
え方、必要な機能

- ・テーマコンセプトは「Look 200（開港200年）」
- ・住む人、働く人、来る人を対象とするまちづくり
- ・来れば笑顔で元気になって帰れる場所
- ・いつでも新しい発見や体験ができる場所
- ・住人も定期的に行きたい、歴史・文化ただよふ地区
- ・産学拠点、将来の横浜の縁の下の力持ち
- ・ダイバーシティの発信地、外国人誘致、スタートアップ企業
- ・未病対策ができる（セルフメンテナンス）地区
- ・再生可能エネルギーを活用した観光資源の開発と人材資源の集約の実現
- ・世界水準の再生エネルギー地区である

●特区に指定する

- ・先端技術特区に（医療・教育）
- ・教育・国際特区
- ・セルフメデュケーションサポート施設（憩いの場にもなる楽しみながら健康になれる場所）
- ・学校

・憩いの場にもなる楽しみながら健康になれる場所

・子育てサポートや障がいのある方、未病の方のサポートなど

●海からしか入れないエリアにする

- ・舟で入ってくる
- ・みなとみらいではできないことを実現する
- ・市民だけは山下公園横のゲートから入場できる

●長期に発展できるまちづくり、計画、視点を持つ

- ・市街地が1つの施設化？→立地は不利（絶対有利ではない）→それ自体の独自の集客性+市街地としては小粒→1つの施設 {経済的施設かどうかは問わない} 1つの施設→商業施設ではない+できればスポットでもない
- ・データセンター、ラボ施設
- ・防災シミュレーションができる
- ・構造的な発展拠点
- ・大学の誘致をすることで学生が横浜に貢献・還元する機会になる
- ・大学生以外の人にとっての学びの場
- ・開かれた産学連携拠点

●海外から留学や就職で人が来る仕組み

- ・外国人誘致 住居？外資企業？学校？
- ・経済成長
- ・人口減少
- ・働ける、住める環境をつくる

●カーボンニュートラルな未来型工業都市

- ・エリアの中でエネルギーの全てをまかなう
- ・カーボンニュートラル（山下ふ頭内のみでの実現）発電
- ・山下ふ頭だけで内港全体の電力を
- ・未来型工業都市と（水素とか風力とか）生活都市の融合

●防災も学べる体験型施設

- ・子供も大人も一緒に学べる場、防災も学ぶ
- ・日本全国のご当地ならではの体験ができ、文化も学べる（コンテンツは定期更新）
- ・内容を更新して一度来たら終わりにしないようにする
- ・横浜の発展とは何か？→経済発展として、構造的な発展が必要→それ自体がビジネススポットというより、ビジネススポットを下支えする機関にする→大学など？ 横浜の大学→郊外、市街地と切り離されている。山下ふ頭→道路活用では市街地と一体化可能、サステイナブル的試みも可能

●日常的に買い物ができるようなお店

- ・デパ地下はいつも賑わっているのに、日常的にも人が来るのではないか

●地域通貨があるまち

- ・エリアの中で使える地域通貨がある
- ・手数料を税込とする

《ファシリテーター（相澤 くるみ）からのコメント》

◇「もっと大規模なワークショップもやってみたい」「具体的なサブジェクトについて他の市民の方と話し合えるのは貴重であり、改めて自分の住む場所について考えられてよかった」などの皆さんからの感想がありました。

◇また、「今回のワークショップをHP等で見える化してほしい」「開発状況を丁寧に開示していただきたい」「最終的に決定した方針について、今回挙げた意見と比較して、どの点で優位であったかを明確にしてほしい」「市民の意見を反映させるプロセスを透明」などの今後の開発のプロセスに関する要望がありました。

(2) 第2回（6月12日）西部エリア

Aグループ（8人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

●海、開放感がある

- ・海が近くて景色が良い
- ・開放的
- ・イベントで人が集まる、時々行くところ
- ・海が見れる、散歩、くつろげるところ

●内港地区は横浜の顔

- ・間違いなく横浜の顔と呼べるところ
- ・最新のものがあって、常に変化している

●空地が目立つ、寂しい印象もある

- ・みなとみらいは空地が多い。寂しい印象
- ・ふだんはほとんど行かない
- ・きれいな場所だが、やる事が意外にない

【まちづくりへの期待】

●最新のインフラ整備を

- ・港の物流、国際的な競争力を維持する
- ・風力などのエネルギーインフラ
- ・世界一の交通インフラ

●国際交流の拠点

- ・国際交流の拠点として、市民が気軽に交流できる場にしてほしい

- ・市民、特に若者が交流、連携できる場
- ・ホテルが増えすぎではないか
- ・海外の観光客が安心して滞在できる救急医療体制も必要

●緑・歩く環境

- ・もっと歩いてみたいと思える環境づくりを
- ・もっと緑化を進めても良いと思う
- ・緑化（率）No.1の地域に

●人が住める、ふれあう空間づくり

- ・人が住める、ふれあう環境、空間づくり
- ・高齢者、障がい者、ペットにとってもバリアフリーな環境を
- ・ジェンダー平等
- ・関内、伊勢佐木町、中華街は活気がある。これらを見本にもっと活気を生み出したい

●チャレンジな街、世界から“クール”と言われる街

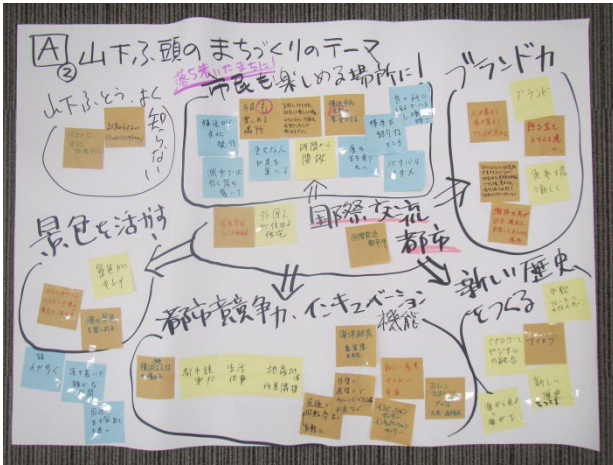
- ・未来に向けて新しいチャレンジができる街
- ・若者が集まる街。先端医療、研究開発など
- ・日本一の何かを
- ・研究所の連携と体験施設を内港地区発展の起爆剤に。世界から“クール”と言われる街に

●普遍的なまちづくりを

- ・普遍的なまちづくりのテーマが望まれる
- ・ずっと残っていてほしい
- ・長い期間、引き継がれるまちづくりを
- ・企業中心の開発ではなく、長期的な視点を持ったまちづくりを
- ・横浜産の塩



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



● 山下ふ頭のこと、良く知らない

- ・今までは単なる物流倉庫
- ・行ったことがない、良く知らない

● 市民も楽しめる、落ち着いた街に

- ・どんな開発であっても、市民“も”楽しめる場所に
- ・気軽に行きやすく、散歩して楽しい場所に。みなとみらい方面を望む展望デッキなど
- ・横浜市民全員が享受できる
- ・横浜市民が横浜を紹介するところ。ここから横浜文化を発信
- ・良いところに住んでいるという意識が持てる場所に
- ・派手ではなく、落ち着いた場所に。バタバタはダメ
- ・一度は立ち寄りたい
- ・時間から解放

● 山下ふ頭を中心とした国際交流都市

- ・居住空間として活用
- ・外国人が住める住宅。国際交流の拠点に

● 都市競争力、インキュベーション機能

- ・都市競争力をつけることによる横浜全体の人口増加
- ・生活環境、仕事の充実
- ・職住近接、地産地消
- ・新しい産業、サイバー、宇宙
- ・イノベーションセンター、インキュベーションセンター

- ・産官学連携による海洋研究
- ・マリンスポーツのメッカ。大会開催や選手育成
- ・日替わり、週替わりでチャレンジできるお店。安価で回転率良く、気軽に参加できる

● ブランド力のある街に

- ・人が集まる、お金が集まることによってブランド力が高まる
- ・“飾る宝も入り来る港”に
- ・みなとみらいに企業や研究所が集まっているので、街全体で実験や体験が出来る場に
- ・日本のシリコンバレー
- ・海外の方が日本、横浜を目指してくる場に
- ・魚市場を新しく

● 景観を活かす

- ・景色がキレイ
- ・港の景色が楽しめるのは横浜の財産
- ・MMやベイブリッジの景色を活かす

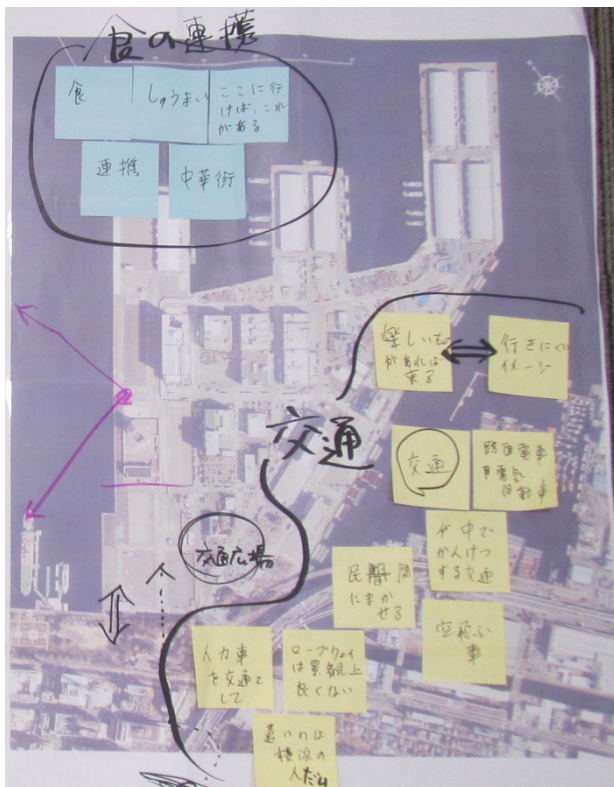
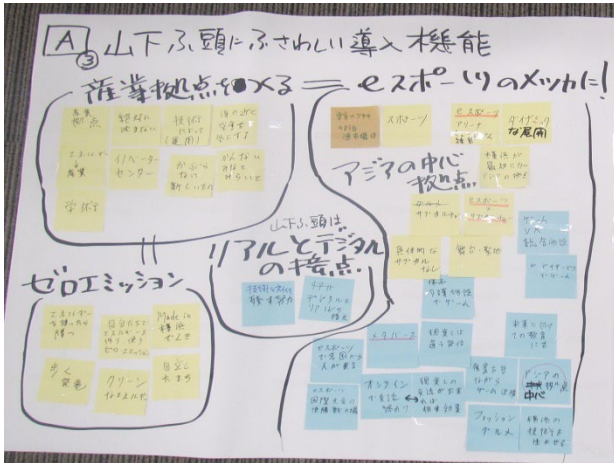
● 新しい歴史をつくる

- ・横浜市歌のフレーズにちなんで、新しい歴史をつくる
- ・かつて横浜の玄関は海だった。今だったらアナログとデジタルの融合（窓口）
- ・海から見る＝海が下

● その他

- ・落ち着いた静かな空間
- ・周辺のまちの人が来ても良い
- ・人が歩く、緑

③ 導入施設のイメージ



●新たな産業拠点をつくる

- ・先端技術によって新たな産業の拠点を創る
- ・海の近くのなで災害を気にする。先端技術によって絶対に沈まない街に
- ・エネルギー産業。イノベーションセンター
- ・みなとみらいや関内と被らない新しい産業
- ・学術

●ゼロエミッションの実現

- ・自分たちでエネルギーをつくり、使う。ゼロエミッションの実現
- ・メイドイン横浜電気。歩く発電
- ・クリーンエネルギーによる自立した街に

- ・エネルギーを握ったら勝つ

●eスポーツのメッカに

- ・eスポーツアリーナ、練習場、博物館、何か一つに特化したダイナミックな展開を
- ・横浜が最初にやることでアジアの中心拠点になる
- ・eスポーツ×サブカルチャー。サブカルの舞台、聖地に
- ・介護、デイサービスもメタバース活用
- ・ゲーム、VRの総合施設
- ・ファッション、グルメ
- ・東京の築地のような魚市場

●山下ふ頭はリアルとデジタルの接点

- ・普通はオンラインの交流で終わるが、リアルな交流は山下ふ頭で
- ・夜景を見ながらeスポーツの観戦、国際大会の決勝は横浜で
- ・リアル・デジタル双方の発信、相乗効果を

●食の連携

- ・ここに来ればこれがあるといった食の発信
- ・中華街との連携

●山下ふ頭へのアクセス

- ・一見、行きにくいイメージがあるが、楽しいものがあれば人は来る
- ・遠いと思っているのは横浜の人だけ
- ・ふ頭内で完結する交通は必要
- ・路面電車、電気自動車、人力車、空飛ぶ車
- ・ロープウェイは景観上良くない

【ゾーニング・空間のイメージ】

- ・みなとみらい側の景観を楽しめるビューポイント
- ・山下公園との接点、交通広場

《ファシリテーター（大木 淳）からのコメント》

- ◇世界から注目されるチャレンジなまち、そこに市民が気軽に利用し楽しめる視点があることが、内港地区全体あるいは山下ふ頭のまちづくりに共通した考え方でまとまりました。
- ◇その上で、企業中心の開発ではなく、長期的な視点と普遍的なテーマが必要で、横浜市歌のフレーズにちなんで新しい歴史をつくるという意見が印象的でした。
- ◇このグループは山下ふ頭をeスポーツのメッカ、リアルとデジタルの接点にして、それに付随するサブカルチャーや新しい産業をつくる話題で大いに盛り上がりました。

Bグループ（8人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

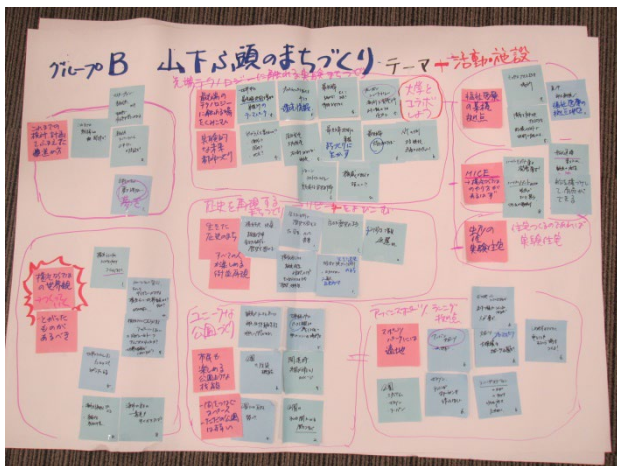
- 歴史を生かし、常に新しいものも取り入れるまち
 - ・横浜の歴史を背負うまち
 - ・赤煉瓦復活は良い
 - ・海辺の街が好き
 - ・昔を思い起こしながら内港地区に生かす
 - ・新しいアミューズメントができています
 - ・パシフィコのネーミング
パシフィコ以外に思い入れはない
- 生活者にはギャップも
 - ・元々の臨海部（神奈川方面）は生活圏
 - ・みなとみらいはお高くとまっている
 - ・来る人と住む人には溝を感じる
- ショッピングには行くがそれぞれの地区が差別化できていない
 - ・観光というより買い物に時々行くまち（磯子から）
 - ・買い物には便利は便利
 - ・ショッピングでもそれぞれの街、地区で差別化できていない
- 一度行けばよい観光地
 - ・人を呼ぶ素材は多いものの可もなく不可もなく
 - ・観光でもここという突出したものがない
 - ・あちこち行ってみようという情報が届いていない
 - ・一度行ったらもういいかな
 - ・みなとみらいも閑古鳥

- ・二度足を運ぶ面白みがない
- ・ロープウェイも誰が乗るのか、千円は高い
- ・ロープウェイは公共性ないし赤字になったらやめれば
- ・どこにでもあるものはいらない
- 学生にとって良い環境とはいえない
 - ・大学が集まってきているが、立地はどうか
 - ・学生の勉強むきの環境といえない

【これからの内港地区に期待するもの】

- 市民と役所の役割を確認した上で、取り組みを考えるべき
 - ・突出したものを考えるのは市民であり、役所ではない
 - ・役所は場を提供
 - ・港湾機能をどう考えるかがまずあるべき
 - ・瑞穂ふ頭、基地の転用では土壤汚染除去が課題になる
 - ・長い期間で見て持続可能になるかを考える
- 横浜には〇〇がある、とアピールしたい
 - ・横浜には〇〇があると誇れるような何かがあると良い
 - ・食をブランドに
 - ・食で、市全体と、食育や農業でつながる
 - ・中華街は世界一
 - ・歴史を見直しつつアップデート
- みながやりたいことを見つけられるまち
 - ・そこにいけば様々な活動に触れる場がある
- 市民が楽しめる、リピートしたくなる
 - ・市民も行くのが楽しくなる
 - ・ファミリーが何度も来たくなる
 - ・市民がそこで心地よい過ごし方ができる
- 経済的にお金を落とす
 - ・観光客も喜んでお金を落とすように
 - ・市がどうやって経済的に残っていくか、人を増やしていくか
- 安心、安全のエリアに
 - ・防災、防犯が一番
 - ・治安の良くないエリアを改善

② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●横浜ならではの世界観で、とがったものを

- ・横浜にしかないものを具現化したい
- ・世界にアピールするような工夫を
- ・多文化、多様性、世界からさまざまなことを初めて受け入れた先取性が横浜らしさ
- ・海外の方の意見も聞くべき
- ・ディズニーランドくらいの、他にないアピールできるものを
- ・世界の目線でのアミューズメント
- ・横浜らしさといっても、それはこれからつくるものという考えでよい

●これまでの計画や経緯を踏まえて検討を

- ・これまでの経緯を確認する
- ・マスタープランやハーバーリゾートの基本計画を発展させる
- ・山本理顕の計画（町家案）が良いと思う 検証すべき
- ・まずは自由に夢を語りたい

●全ての人々が偏らずに楽しめる場所を

- ・外国の人たちにも使ってもらう
- ・市民が行きやすい
- ・市民に開かれた

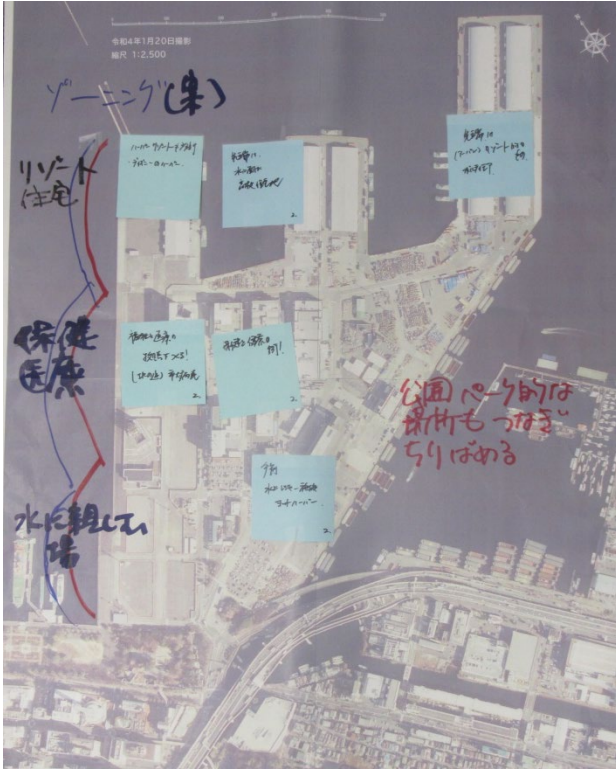
●臨海部の歴史を踏まえた取り組みに

- ・根岸湾の埋め立ては当初高級住宅地造りの構想があった

●明るい未来が見えるものを



③ 導入施設のイメージ



●先端テクノロジーに触れる実験的な未来都市

- ・世界中の最先端技術を集めたまちづくり、TOYOTA のまちのようだが
- ・テクノロジー体験のテーマパーク的のもの
- ・大学も誘致、大学とコラボしよう
- ・権威のある人も招聘する
- ・カーボンニュートラルの発電で電力を自給
- ・風力、太陽光の活用
- ・街に入るとドローン、ラストワンマイル、未来の交通

●福祉、医療、保健を集積するまちに

- ・大規模な病院を誘致（市大病院の再整備の話がある）
- ・先端技術と福祉や医療を結びつける
- ・障害のある方のサポート解決 眼鏡の新しい技術に触れるなど
- ・多様な人がミックスできる場所に
- ・福祉医療はこんな世界もあるのだと知ってもらえる機会に

●ここならではのMICEのあり方を追求

- ・船が直接横付け出来ることを生かした展示や商談の場

●中低層の実験住宅

- ・住宅をつくるのであれば実験的な住宅
- ・外国人などに住んでもらう、高級住宅
- ・海辺の風や環境を考えると低層で

●歴史を再現するまちづくり

- ・テーマパーク（明治村）とは違う、生きた歴史のまち
- ・全ての人を楽しめる古の街並みを再現
- ・屋内では学生、アートや音楽の活動
- ・ここで体験できることを変え続けて飽きないものに
- ・歴史的な駅、鹿鳴館のような情景ごと再現
- ・渋谷ハロウィンに集まるような人も呼込む
- ・路面電車
- ・テーマパーク的なものは瑞穂ふ頭にもっていけばよい

●ユニークな公園づくり

- ・市民の憩いにパーク、公園の要素も盛り込んでいきたい
- ・公園は防災機能も担う
- ・ただの公園では弱い
- ・公園を中心にするのではなく間をつないでいくように配するのでよい

●スポーツ施設 アーバンスポーツ、ランニングステーション

- ・アーバンスポーツには適地 スケボーやBMXを締め出すのではなく、音も問題ない
- ・三ツ沢につくるならば、山下ふ頭につくったほうが人が集まる！
- ・大規模なプロスポーツも可能
- ・風の条件を考える必要がある
- ・ランニングステーション ヨガやサウナなどと合わせウェルネスでにぎわう場に

【ゾーニング、空間のイメージ】

- ・ゾーンに分けて複合していく
- ・公園的なものをちりばめて、間をつなぐ
- ・例えば、
 - 海側に ボルチモアのようなリゾート的街並みの高級住宅地
 - 中央部に 病院や福祉保健施設群
 - まち側に 新山下側ともつながる水辺を楽しむ施設、ヨットハーバー

《ファシリテーター（林 一則）からのコメント》

- ◇関内・関外地区について、ショッピングや観光の場であるが突出した魅力には欠けるなど、やや否定的な評価が多くありました。また、学生にも好ましい環境ではないとの意見もありました。
- ◇山下ふ頭は、未来的な環境技術を取り入れた実験都市にしたいという点は共通するものでした。福祉医療保健施設や実験的住宅を複合したいという意見と、特徴ある歴史的街並みを再現してその中で生きた文化的な活動をとという意見、スポーツのできる公園を主体にしたいという意見がありましたが、グループでひとつの方向にまとまるには至りませんでした。またそれぞれのアイデアに他地区との関係や風への対応など解決すべき課題があるとの指摘もありました。
- ◇そもそもこれまでの経緯を踏まえた検討をすべきである、また行政と民間の役割を明確にすべきという話がありました。以前に港湾の計画に関わっていた方、山本理顕さんの案を推している方がおられ検討の枠組み、取り組み方を問題にされました。

Cグループ（5人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

●魅力・憧れがある

- ・ 関内や野毛は、魅力がある
- ・ MMなど、他地域の憧れである

●エリアごとに特徴がある

- ・ ビジネスや観光等色々である。良い意味で複雑なエリア
- ・ 横浜駅周辺はショッピング、山下ふ頭は観光、東神奈川は印象なし

●その他

- ・ 景色が好き

【期待度(将来像)】

●海の都を目指す、海面活用

- ・ 東洋のベネチア（東京に依存しない）
- ・ 多世代が来られるような、海の景色を創出する
- ・ マリンスポーツを盛んに
- ・ トライアスロン（水泳）が楽しめるように、内港地区全体の水質を改善する

●リング状都市を形成する

- ・ 水面を囲んで、リング状に水際空間がつながっている
- ・ 「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」（H23.3、都市整備局）に将来構想があるので、先人たちの知恵を活かす
- ・ 地域資源（音楽堂等）をつなげる

- ・ 陸・海・空の交通を充実する

* 空飛ぶ車の導入

* ヘリポート付きの乗降場 など

●海の移動手段の確保

- ・ 市民交通としての水上交通の活発化（水が使えるという利点を活かす）

- ・ 既存の海上交通手段の活用

* シーバスの運行頻度の向上

* 羽田からの船便もある

* マリーナクルージュ（レストラン船）

- ・ 様々なニーズに対応した新たな水上交通手段の導入

* 例えば、人力で船を漕ぐボート等（水上の人力車）

- ・ そのために、水域の利活用を開放する規制緩和が必要

- ・ ビジネス的なうまみも必要

●海と川とのつながり

- ・ 郊外の人たちとも海・川でつながっている

- ・ 海と川とのつながりが、まちづくりの導線となる

- ・ 大岡川の環境改善

●瑞穂ふ頭の改善

- ・ 瑞穂ふ頭が「リング」を形成するネックになっているので、改善したい

- ・ 例えば、瑞穂ふ頭の先を埋め立てるなど

●未来的なスポーツ拠点

- ・ 未来的なものが必要…例えば、AR スポーツの「HADO」、eスポーツ 等

- ・ 観光とスポーツを掛け合わせる

●歴史を活かす

- ・ 古い歴史を活かしたまちづくり

- ・ ギンギラギンでない横浜らしさ

●ウォーカーブル、歩けるルートが必要

●横浜への愛着を育む

- ・ PRが重要

- ・ 勉強会を開催する

●まちづくりの心得

- ・人口減少を踏まえた、自立性が必要
- ・市民の自発性が大事
- ・カジノ廃止の件は、市民にも責任があるので、きちんと代案を検討する必要がある
- ・Goto の補助
- ・地域資源のPR



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●海外からの観光誘致

- ・海外から観光客を誘致する
- ・お金を稼ぐことが必要（IRも外貨を稼ぐ目的があった）
- ・アジアとの交流を意識したい
- ・現状は、東京とセットになった日帰り観光なので、宿泊できる観光ホテルを

●ナイトレジャー

- ・夜景を楽しむクルージング、屋形船
- ・中華街の夜間営業
- ・横浜球場で夜通しのイベントを開催

●ダイバーシティ、外国人居住

- ・人口減少社会なので、子育て・教育が必要
- ・グローバルな教育環境を整えて、外国人が住みやすい街にする
- ・外国人が観光で訪れる「滞在」から、「居住」へシフトする
- ・外国人の受け入れは、「ダイバーシティ」につながる

●世界町家

- ・建築家の山本理顕氏が提唱している、各国の人が居住する「世界町家」のアイデアが良い
- ・現実的で、早期実現が可能
- ・ストリートによって、古今東西の街（職住一体型）がある
- ・横浜もその中の一つの街を形成する。鹿鳴館、文明開化、ガンダム等をモチーフに
- ・例えば、沖縄タウンなどは、地域の中で歴史的に成立した経緯がある。各国の街をニュータウンとして整備することが馴染むかどうか検討が必要

●新しさ、特有性

- ・他の地区にない、新しい、斬新な機能、仕組みが必要
- ・ここだからできること
- ・目的はないが、行きたくなるエリア

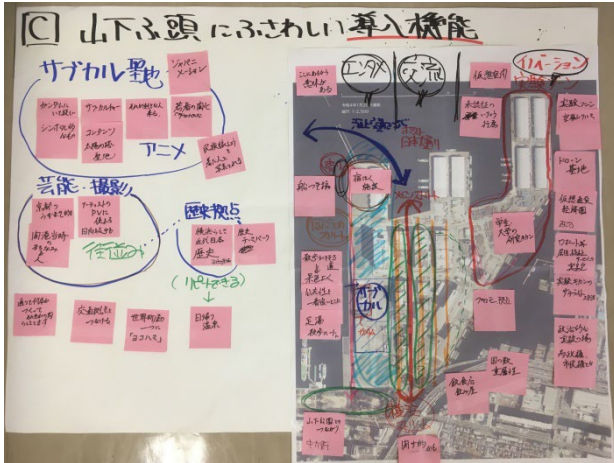
●実証実験の街

- ・22世紀に向けて実証実験を行う街、「みなとみらい22」とする
 - *自動運転（トヨタのウーブン・シティ）
 - *物流実験
 - *電動キックボード
 - *カジノの実証実験

●内港地区をつなぐ拠点の形成

- ・（リング状都市を形成するために）山下ふ頭と内港地区全体のつながりが重要である
- ・そのために、交通拠点を形成し、内港地区をつなげる横浜の玄関口とする
- ・水深が深いので、海のレジャーの始発点に
- ・空とか交通とか体系的なもの
- ・藤沢、鎌倉、県内各地へ

③ 導入施設のイメージ



※山下ふ頭を、西側エリア、中央エリア、東側エリアの3つにゾーニングする

[A. 西側エリア]…エンタメゾーン

●宿泊

- ・突端を宿泊施設とする（眺めが良い、売りになる場所）
- ・クルーズ船の船着き場から宿泊施設が直結

●サブカル

- ・ガンダムをシンボルとして残す
- ・アニメなど日本のサブカル、コンテンツ産業の聖地として、若者の関心を集める
- ・芸能や撮影を行う場所とする
 - ※京都の太秦やアーティストがPVを撮影する場所など（日向坂46が使っていた）
 - ※太陽の塔、開港当時の街並み&ひと、民族衣装を着た人と写真をとれる

●プロモーション拠点

- ・再開発された街をプロモーションする拠点を設ける

●散歩道

- ・海に面する西側は眺めが良い（富士山も見える）ので、山下公園や中華街からつながる散歩道として、市民に公開する

《ファシリテーター（岡村 竹史）からのコメント》

- ◇内港地区の将来像については、都市デザインに関心のある参加者から『インナーハーバー整備構想』が提示されたこともあり、＜海＞を中心とする話題で盛り上がりました。
- ◇山下ふ頭のまちづくりについては、上記の議論から、＜内港地区をつなぐ拠点を形成する＞として、そのための導入機能とゾーニングまで意見がまとまりました。

- ・足湯を所々に設ける

[B. 中央エリア]…交流ゾーン

●メインストリート

- ・中央にメインストリートを整備、日本大通りのように、横浜らしさが体现できる
 - ※横浜の歴史テーマパーク、街並み等
- ・リピートできる工夫が必要（日帰り温泉等）

●世界町家

- ・その裏側に各国のストリートを配置して、職住一体型の世界町家が並び、国際交流が行われる

●交通拠点

- ・海上交通や空飛ぶ車等、横浜の玄関口となる交通拠点を整備する

[C. 東側エリア]…イノベーションゾーン

●実証実験の場

- ・様々な実験を実施…空飛ぶ車、ドローン基地、居住（ロボットによるサービス）、経済（仮想通貨）、政治（参政権、市民権）、医療（未認証の行為）、仮想空間 等

●研究機関

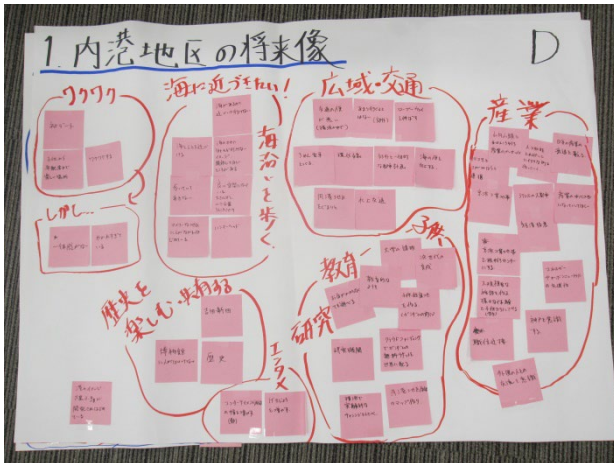
- ・実験を行う機関のサテライトオフィスを誘致する
- ・大学の研究機関を誘致する

●その他

- ・ここにあるから意味がある
- ・閉鎖的かも
- ・飲食店、飲み屋
- ・国の数、重属性

Dグループ（7人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

●ワクワクする場所

- ・初デートに使いたいまち
- ・子供から年配者まで楽しい場所
- ・ワクワクする街
- ・一体感がない
- ・エリアごとに分かれすぎていて横浜としての統一感がない

●海が近い

●一体感がない

- ・海があるのに近づけない、近づきたい
- ・歩いていて飽きない
- ・海の際までほとんどいけないイメージ。開放してほしいところがある
- ・良い空間になっている。大栈橋、山下公園、臨港パーク、ハンマーヘッド
- ・マイナーな地区に人が流れ始めている
- ・港のイメージが変わってきている、大黒ふ頭が開発され始めている

●広域・交通

- ・交通の便が悪い
- ・あまりいくことはない

【これからのまちづくりに期待すること】

●エンタメ要素を増やす

- ・エンターテインメント施設の幅を増やす
- ・劇場を増やす

●歴史を楽しむ・共有する

- ・博物館に人が入っていない
- ・吉田新田
- ・歴史

●子供を意識した教育・研究

- ・お金が掛からなくても遊べる場所にする
- ・教育的な要素を入れる、大学の誘致
- ・次世代の育成につながる場所
- ・子供遊園地を作る（ガンダムの前に）
- ・研究機関

- ・クラウドファンディングでガンダムの無料チケットを世界に配る

- ・内港地区全体のマップづくり
- ・横浜で実験的なチャレンジをしていく場所

●新しい産業の拠点

- ・山内ふ頭を観光に活かし、産業の活性化につなげる
- ・人工知能を中心としたハイテクな町
- ・日本の産業の衰退を考える
- ・370万都市の産業の中心地になってほしい
- ・京浜工業地帯の技術センター
- ・大規模な施設を作って子供達に様々な体験をさせる。
- ・エネルギーやカーボンニュートラルの先進性を持った産業を誘致
- ・外国の人との交流を意識

●都市の歪みを修正する

- ・経済格差や負の側面を
- ・食住近接の都市を作る

●連携拠点

- ・川崎や相模原の産業集積と連携した、広域産業圏域を形成する
- ・神戸を意識する

●広域・交通

- ・ロープウェイを伸ばす、路面電車をつくる
- ・環状線、郊外と一体的な都市開発
- ・海の便を向上する、水上交通
- ・内港地区をぐるりと

② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●まちづくりのテーマ

- ・カーボンニュートラル
- ・ゼロエネルギー
- ・SDGs 未来都市
- ・エコ、グリーン
- ・電気自動車
- ・太陽光を用いたインフラ
- ・スーパーシティ、スマートシティ
- ・家族客を呼ぶための施設
- ・山下ふ頭を一つの町と見立てる
- ・山下ふ頭に歴史的建造物はないのか
- ・中華街と同じくらいの大きさを活かす

●魅力的な目的地を形成

- ・若い人が楽しめる、行きたくなる場所
- ・大人も子供も楽しめる目的地
- ・一回行けば終わりではなく、また行きたいと思える場所

●市のしっかりしたイニシアチブ

- ・誰が決めるのか、決定者やプロセスを明確にしてほしい
- ・財政難を解決する

●交通計画

- ・山下橋から谷戸橋までも山下ふ頭と一体的に計画すべき
- ・新山下周辺の商業施設まで行くのですら不便
- ・交通利便性が重要
- ・LRT等の鉄道が中まで入る
- ・山下ふ頭から港の見える丘公園までを一体化して計画する

●建物の再利用

- ・歴史的建造物にあたるのか、線引きがわからないが残すべき
- ・いまある建物を再利用する
- ・もし貨物駅の遺構が残っているのであれば、残したい

●山下ふ頭を知る機会を

- ・全体の見学ツアーをしてほしい

●eスポーツ

- ・eスポーツの甲子園
- ・メタバースと対応したリアル
- ・eスポーツは大人から子供まで楽しめる
- ・新しい技術を実験的に格安で使える場所

●異世界を感じる場

- ・現実を忘れるような空間
- ・昭和の街を体験
- ・ロケ地になる場所

●他都市と連携した産業圏の形成

- ・浜松の自動車センターとの連携
- ・日産本社や工場の見学
- ・周辺企業の人たちを巻き込む

●水と親しめる場所

- ・泳ぐ場所、海へのジャンプ台 (飛び込み台)
- ・トライアスロンが行われているように、海で泳げるような設備
- ・釣り場
- ・横浜港に来ているウミガメやイルカを観測できるような場所

●住む場所

- ・住居を整備する
- ・未来的な建築
- ・期限付きの住居 (3年間限定居住など)

●教育的施設

- ・次世代の育成になるような場
- ・ふ頭内で勉強できる場所を作る
- ・市内に数ある博物館の情報をまとめ、存在感、アクセスを向上させる。

●火葬場

- ・火葬場を作り、海上散骨と組み合わせる
- ・横浜らしい場所を人生最後の場所とする

●何かの特区とする

- ・税関やパスポートがいない自由な出入りが可能な特区
- ・カジノ

③ 導入施設のイメージ

●住む場所として

- ・住居
- ・コンドミニウム
- ・スパリゾート

●教育センターなどの教育施設

●eスポーツ

- ・eスポーツのディズニーランド
- ・eスポーツ専用の場所

●eスポーツを絡めて

- ・VR
- ・新しい技術を実験的に使える場所（格安）
- ・子供とロボットが遊べる場所
- ・バーベキューセンター

●Xスポーツ

- ・スケボーやXスポーツ専用の場所をつくる

●火葬場

- ・火葬場、散骨
- ・横浜を人生最後の場所に

●異世界を感じられる場

- ・映画村など

●交通インフラ

- ・山下ふ頭から港の見える丘公園までロープウェイを通す

【ゾーニング、空間のイメージ】

- ・海側の回遊性を上げるために先端の凹んだところを埋め立てる

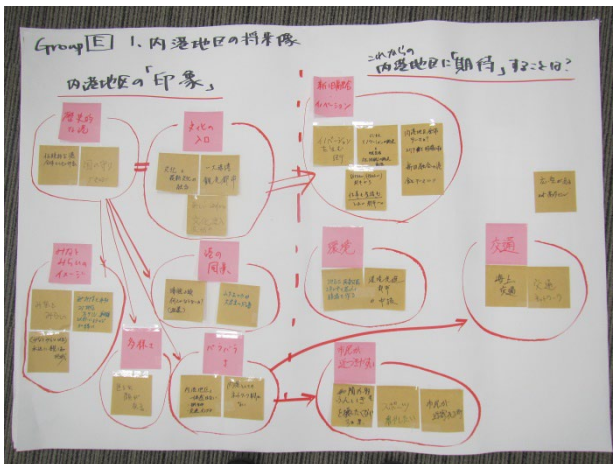


《ファシリテーター（角野 渉）からのコメント》

- ◇内港地区には最先端の産業の中心地として活発化して欲しいという意見と、子供が育つ場所、お金がなくとも楽しめる場所を求める意見が出ていました。
- ◇綺麗な海を感じて楽しめるような場所にしたい、また利便性も高くするために交通インフラもよく考えて整備して欲しい、という意見が強く挙げられていました。
- ◇経済に関しては、内港地区や山下ふ頭だけで解くのではなく、都市間連携を視野に入れた広域な展開を想定して新産業を誘致すべきという戦略的な提案も見られました。

Eグループ（6人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

- 歴史的な港
 - ・ 伝統的な港、全体としての印象
 - ・ 歴史的に国の守り
- 文化の入り口
 - ・ 歴史文化と最新文化の融合
 - ・ 一大港湾、観光都市
 - ・ 新しい海外からの文化流入
- みなとみらいのイメージ
 - ・ みなとみらい
 - ・ 水辺に親しむ地域
 - ・ みなとみらい21地区はホテル、美術館以外にイメージが弱い
- 港の風景
 - ・ 瑞穂ふ頭なんかかならないか？（返還）
 - ・ 山下ふ頭は大変良い風景
- 多様性、個性のあるエリア
 - ・ 色々な顔がある街が混在している
- バラバラさ
 - ・ 内港地区と一体感はない（街並み、交通インフラなど）
 - ・ 内港としてのネットワークがない

【期待度(将来像)】

- 新旧融合・イノベーションを生む街
 - ・ イノベーションを生む街
 - ・ ビジネスイノベーションの拠点×市民生活・文化（体験）の拠点、発信
 - ・ 新旧融合の港 食をテーマに！
 - ・ 訪れやすい/住みたい都市から、仕事も生活もしたい都市へ
- 環境で先進的な取り組みを
 - ・ 地区で再生可能エネルギーを
 - ・ 環境先進都市の中核
- 市民が近づきやすいエリアに
 - ・ 関内や野毛の雰囲気壊したくない
 - ・ スポーツを増やしたい
 - ・ 市民が近寄れる街
- 交通
 - ・ 海上交通
 - ・ 交通ネットワーク
- その他
 - ・ 広い空がある。not 高層ビル



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●まちづくりの主役

- ・子供も行ってみたいくなる
- ・企業、法人も大事
- ・税金+働く場
- ・子供たちが描く夢を実現、視覚化する（無料の）国立公園
- ・若い人
- ・子供と大人が考える都市
- ・つくる場、あそぶ場、まなぶ場、3つの拠点が不可欠

●運動の街

- ・賑わい、スポーツ、交流
- ・ニューヨークブルックリンパークをモデルに、みなとみらいを眺めながら市民が身体を動かし、楽しめる街へ

●実験特区

- ・メタバース 空想と現実
- ・実証実験特区、規制が無い、または緩い場所になること

●働く場所をつくる

- ・働く場所と生活する、個人の商店のスペースが会ってもいいと思う
- ・MM21と同質な商業施設は少ない。テーマを持った個性ある街へ
- ・大規模施設をつくるのではなく

●横浜市としての課題

- ・税金、財源減
- ・人口減、少子高齢化
- ・防災、減災が少ない
- ・メンテナンス、維持費の少ないもの

●豊かな食・自然と一体の暮らし

- ・食 生産、見学、販売 野菜や魚
- ・食育 横浜の野菜、畜産、水産
- ・自然と一体の暮らし

●研究・文化の拠点に

- ・消費、遊びから研究開発、文化発信へ
- ・環境先進都市 再生可能エネルギーの研究開発一大拠点
- ・横浜市の税金に貢献するのは、スポーツ、イノベーション特区、再生エネルギー、文化振興の場
- ・関内との差別化
- ・他の地区に無いもの

●その他

- ・税金の多くは企業
- ・モノじゃなく、コンテンツ、人材

③ 導入施設のイメージ



●スポーツ施設

- ・ サッカースタジアム
→35,000～40,000 席、球技専用（日産スタジアム 70,000 人、三ツ沢 10,000 人）
→サッカー、ラグビー80%の 32,000 人が集まるスタジアムに
- ・ アーバンスポーツエリア
→スケボー、BMX、3×3、フットサル、音楽フェス
- ・ M I C Eはいらない

●研究機関・施設

- ・ 蓄電施設
- ・ 防災施設
- ・ カーボンニュートラル
- ・ 治外法権的特区
- ・ 水耕栽培
- ・ 観光の拠点にするの？しないの？

●交通アクセス

- ・ 山下ふ頭の外からの交通アクセス
- ・ 山下公園～MM2 1 廃線跡と L R T の区分け
- ・ ヘリポート
- ・ 歩車分離道路

●生活の場としての機能

- ・ ふ頭内のゾーニング
- ・ 住居は必要
- ・ 実験住宅
- ・ 海外からの移住者（中低層マンション）
- ・ 住居はいらない
- ・ ニュータウンは世代交代しづらい
- ・ 未来のショールーム
- ・ 住まいと研究施設
- ・ 研究者
- ・ 教育全部揃えられない
- ・ 学校と幼稚園

●その他

- ・ 特区（工業団地）と緑地（未来農園）

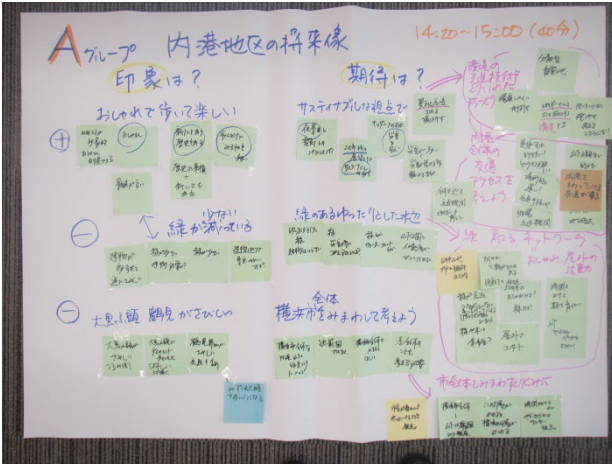
《ファシリテーター（小泉 瑛一）からのコメント》

- ◇内港地区の印象として、歴史的な港、文化の入り口というイメージを持っている方が多い一方、現代の町並みとしてはみなとみらい地区のイメージが強いという印象でした。
- ◇山下ふ頭のまちづくりのテーマとしては、全年齢を対象にしつつ、スポーツや実験特区というキーワードが出て、単なる消費の場ではなく、新しいイノベーションや市民の健康を作り出していこうという意味を感じました。
- ◇導入したい施設は、40,000 席程度の球技専用競技場やアーバンスポーツの施設、研究機関や実験住宅などで未来の生活を先行して体験発信できる場を求める声が高かったことが印象的でした。

(3) 第3回 (6月18日) 北部エリア

Aグループ (8人)

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

- おしゃれで歩いて楽しい(プラス要素)
 - ・みなとみらいの印象が強い。おしゃれで自慢できる
 - ・景観が良い
 - ・新しさもあり、歴史もある
 - ・歩くだけで見るものも多い
- 建物主体で緑が少ない、減っている(マイナス要素)
 - ・緑が少ない
 - ・建物が多すぎる 目立つ 逆にさみしい
 - ・これ以上建物が必要かと思う
 - ・建物ばかりで東京みたいになっていく
- 大黒ふ頭、鶴見側がさみしい(マイナス要素)
 - ・大黒ふ頭、鶴見側 (ふれーゆ辺り) は淋しい印象
 - ・交通の便も悪く行きにくい
 - ・大黒にダイヤモンドプリンセスが停泊するが遠い
 - ・瑞穂ふ頭が中心となる

【これからの内港地区に期待するもの】

- サステナブル、防災、異文化交流
 - ・20年後の展望をもったサステナブルな取り組みに
 - ・夜景の演出は、使う電力とのバランスを考えた

- ・キッザニアのように災害について学べる場
- ・災害が増えているので、防災減災を学ぶ
- ・異文化交流ができる場所に

↓

●先端の環境技術を取り入れたまちづくり

- ・環境に優しい技術を
- ・エネルギーを作る
- ・ゴミを回収する
- ・分散型の蓄電池
- ・使いたい時に電池を使えるシステムを

●緑の多いゆったりした水辺に

- ・ゆったりとした緑を主体にし、大きな建物はいらない
- ・山下公園の人の密度にはびっくりした もっとゆったりしたい
- ・ウォーターフロントに緑が繋がっていない
- ・緑地は災害時にも使える

↓

●ネットワークになった、育てる、おしゃれな緑

- ・未来のおしゃれは、緑の多さだろう 将来的な価値をもつ
- ・緑や木は、余裕ある気持ちになれる
- ・点在しつながっていない緑をネットワークにしていく
- ・屋外でひろびろコンサート
- ・ニューヨークのセントラルパークのようなパーク
- ・時間をかけて緑を育てるべき
- ・白神山地のブナの植樹のような息の長い取り組み

●横浜市全体をみまわして考えよう

- ・横浜市全体で見て内港、山下の位置付けを考えるべき
 - ・狭い範囲だけで考えてはダメ
 - ・みなと全体のことを考える必要がある
- ↓

●ぐるりと結ぶ内港

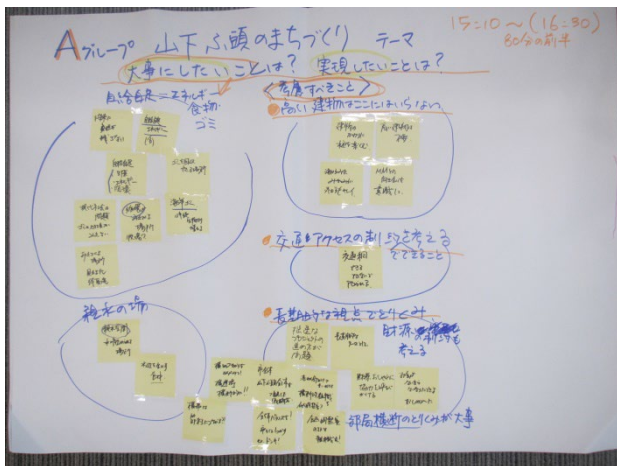
- ・ぜひ行きたい、どうしても欲しいというものがないと、山下ふ頭まで行かない
- ・場所的に遠い 交通手段が要る
- ・地下の駅
- ・内港をぐるりと回っていけるような交通が要る
- ・循環の交通機関
- ・ぐるりと巡れると楽しい、その第一歩に
- ・交通もエネルギーも負担も、内港ぐるりで考えたい
- ・将来は中軸的な位置として瑞穂ふ頭が大事になる可能性
- ・ベイブリッジは歩行者や一般車が渡れないのか

●市全体を視野に、時間をかけて取り組み

- ・この印象が変わると横浜の印象が変わる
- ・山下は横浜にとって縮図という視座をもつ
- ・時間をかけてやらなければならないという視点が大事
- ・市長が変わってもブレずにやっていけるような取り組みに



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



【テーマ1 エネルギー、食べ物、ゴミの自給自足】

- ・将来に負担を残さない
- ・エネルギーを自給自足
- ・野菜など栽培、牧場
- ・ゴミを回収して使う
- ・循環が見える場所、見える化と体験が大事
- ・ゴミのいき場所が見えないのは現代社会の問題
- ・海洋ゴミへの取り組み 10年後に生き物がより増える

【テーマ2 親水空間を】

- ・直接、水に触れられる場所
- ・水辺を生かした食材づくりもできないか

【考慮すべきこと】

●高い建物はここには要らない

- ・建物でなく水辺を楽しむ
- ・高い建物は不要
- ・海から見た景観を守る
- ・みなとみらいもきれいに見える
- ・みなとみらいとの向き合いを意識する

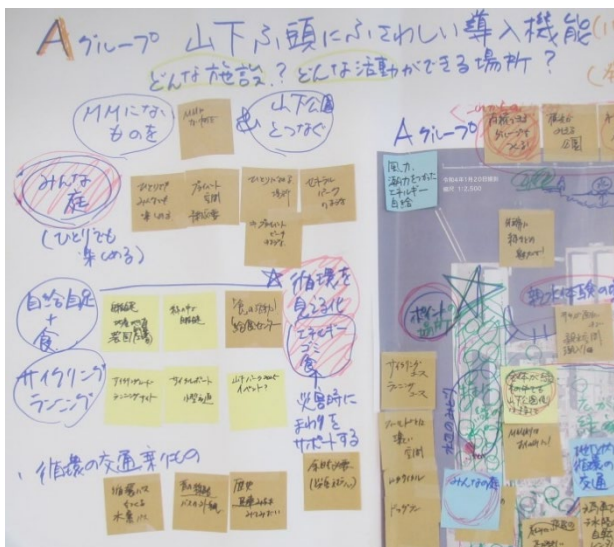
●交通アクセスの制約のもとでできることを考える

- ・交通網の弱さで、できる、できないことが限られる

●長期的な視点で、財源の制約も考え、部局横断的な取り組みを

- ・拙速なプロジェクトの進め方が問題
- ・じっくり長期的テーマとして検討する
- ・お金がないならなににできることを、おしやれに
- ・財源の協力もおしやれに呼びかける
- ・港湾局だけでなく、横断的な組織で進めるべきだ
- ・かつての企画調整室のような組織が要る
- ・横串で考えることは節約につながる
- ・周りも含めてのバランスをとるように（新山下周辺の商業施設で環境にそぐわないものもある）

③ 導入施設のイメージ



●みんなの庭

- ・みなとみらいにないものを
- ・山下公園とつなぐ
- ・セントラルパークのような緑
- ・みんなでも、ひとりでも楽しめる
- ・プライベートビーチのような、ひとりになれる場所も
- ・予約が必要なプライベート空間

●循環を可见化する エネルギー、食、ゴミを結ぶ施設を集める

- ・エネルギーの自給自足、風力、潮力を活用
- ・地産地消の農園、野菜工場
- ・緑の中で自給自足
- ・中学校給食センターの立地（市で求められているものでここは適地）
- ・給食センターと結びつけた食の活動を広げる場所に
- ・エネルギー、食で災害時に周辺地域のためにもサポートする
- ・余白も必要 災害時に対応

●サイクリング、ランニング、アーバンスポーツ

- ・サイクリングロード、ランニングサイト
- ・サイクルポート 地域内の小型交通
- ・宮下パークのような、アーバンスポーツも
- ・レンタサイクル

●地区内に楽しい交通手段

- ・循環バスは水素バス
- ・昔の線路を復元してレトロなバスを
- ・馬車道の馬車をここで再現してみたい

●これからも取り組みを続けていきたい

- ・グループをつくり検討を続けていきたい
- ・提案プロジェクトのネーミングも募集していく（セントラルパーク的な）
- ・地域通貨で運営するなどの仕組みも検討

【ゾーニング、空間のイメージ】

- ・全体に緑が広がる場所に
 - * 緑の中での屋外コンサート
 - * コンクリート地面でなく緑のスペースに
- ・山下公園側の水際
 - * 特に緑濃いゾーン 山下公園から一体でつながる水辺の緑
 - * みんなの庭のメインゾーン
 - * 突き出した先端部分の魅力がポイント
- ・楕円の葉状の先端部分
 - * 凹部の水際で親水体験の場
 - * 潮入り
- ・食のゾーン
 - * 給食センター 中学校給食のため
 - * 水上レストラン、レストランボート
 - * 給食のレストラン
 - * 農園工場
 - * 塩害対策でアイスプラントやトマト栽培
 - * 魚を養殖
- ・防災、減災のスペース
 - * 災害時に活用できる場所
 - * 防災の施設、備蓄倉庫
- ・外周ぐるりの水際
 - * サイクリングコース
 - * ランニングコース、ドッグラン
 - * 入り口の雰囲気づくり
 - * 新山下の商業施設がそぐわない
 - * 周りも含めて取り組んでいく体制を

- 地区内を循環する交通
 - * 馬車でめぐる
 - * 水陸両用自転車を開発してレンタル
 - * 周りの内港地区にも広げていく
- 元町側からの入り口部分



《ファシリテーター（林 一則）からのコメント》

- ◇内港地区の将来像では、緑の多いゆったりした気持ちになれる水辺が大事という方向にまとまりました。内港をぐるりと結んで交通もエネルギーも負担も考えるべきとの話が共感を得ていました。
- ◇山下ふ頭は、その考えを受けて、全体が緑の空間「みんなの庭」で、その中にエネルギー、食、廃棄物の循環や自給が見える化する小ぶりの施設などが点在するというイメージをふくらませました。それらは防災減災や、中学校給食など周辺も含めた課題にも貢献するとの考えです。
- ◇NYセントラルパークのようなおしゃれな使い方のできるものを、おしゃれな進め方で実現していきたい。豊かな緑や水や環境こそがこれからはおしゃれである、横串で考えることは節約につながるという、取り組みのスタイルへの意見が印象的でした。

Bグループ（8人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

●横浜市を中心

- ・横浜の魅力を発信
- ・かなり開発されたイメージ
- ・最先端。何でも夢が叶う

●交流

- ・観光、ホテルがたくさん
- ・商業、買い物
- ・鉄道の直通・乗り入れが増えたので、市外の人と昼間から交流できる

●ポジティブな印象

- ・市民にとっても親しみを持てる
- ・母子についての取り組みが良い
- ・清潔感がある（日本大通りなど）

●ネガティブな印象

- ・海岸が目前にあるが、建物のせいで海が見えない
- ・横浜港臨港幹線道路に歩道がない
- ・表から少し入り込んだところは、怖い印象がある。治安が良くない場所もある
- ・中華街などは、ごみがたくさんある。環境が良くない場所もある

【期待度(将来像)】

●きれいな街に

- ・全体的にきれいな街にする
- ・景観がバラバラなので、統一感をもたせたい（部材等）

- ・みなとみらい地区など新しい街はきれいだが、古い街の場合、道が狭いなどゴチャゴチャしているので、基盤整備が必要

- ・街全体を花の街にする

●海をきれいに

- ・海は見えるが、きれいでない
- ・持続可能という観点からも、もう少し海をきれいにしたい

●観光を目玉に

- ・観光が少し弱い
- ・開港・物流のイメージがあるが、実際には取扱量は多くない。物流で勝負しないで、観光に力を入れる
- ・夜遅くまで店舗を営業することが必要

●歴史をアピール

- ・歴史を意識したまちづくり
- ・歴史を感じるゲートウェイ

●グリーンインフラによる防災

- ・防災の観点からも、緑を多くすべき
- ・広場（オープンスペース）を確保する

●気持ちがリラックスする街

- ・コロナ禍の在宅勤務を踏まえ、リラックスできる場所が必要
- ・気晴らしができて、ホッとする、気持ちが落ち着く街に
- ・ごちゃごちゃしていると気分が悪い

●交通問題の解消

- ・山下公園あたりは北関東に人気があるエリアで、自動車で渋滞する
- ・高速道路からの接続がよくない
- ・車で来やすいようにすると、更に発展する

●ふ頭の安全性

- ・一般的にふ頭は立ち入り禁止になっている
- ・危険なので
- ・安全性に配慮した上で、物流の様子など身近に見られると良い

●地区ごとの特色とエリア全体の連続性

- ・ 関内地区などは歴史があつて特色があるが、横浜駅や東神奈川などは印象が薄いので、地区の特色を出すことが必要
- ・ エリア全体に連続性がないので、つながりを意識する



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●ふ頭の記憶を残す、港らしさ

- ・ふ頭の機能がわかるような、かつての歴史を感じる施設とする
- ・全てを更地にしない。使える建物を残す。ファサードだけ残す
- ・ふ頭だとわかる歴史性があると良い
- ・ふ頭が見られるようにしたい。見学できる港がない
- ・港であることを想起させたい
- ・歴史性を感じられるように

●未来につながる

- ・未来の人たちにもつながっていくような場所になってほしい
- ・100年経っても、市民が議論して、市民の憩いの街とした歴史がわかるようにしたい

●エンタメ、アート

- ・海のブロードウェイ、ミュージカル
- ・アート
- ・トリエンナーレを広げていく

●環境、サステナブル

- ・海や緑を満喫できるように
- ・海がきれいになっていく、浄化される過程が学べる
- ・緑化率を20%とする
- ・全体的な開発においてカーボンゼロとする

●防災・減災

- ・防災を意識したまちづくり
- ・津波に対応した防潮堤、水密扉など

●健康、ウォーカブル

- ・運動しないとストレスがたまる
- ・身近に体を動かせる、ストレス発散の場所
- ・山下公園から歩ける、ゆったりとしたまちづくり
- ・ゆっくり歩けるような散歩コース

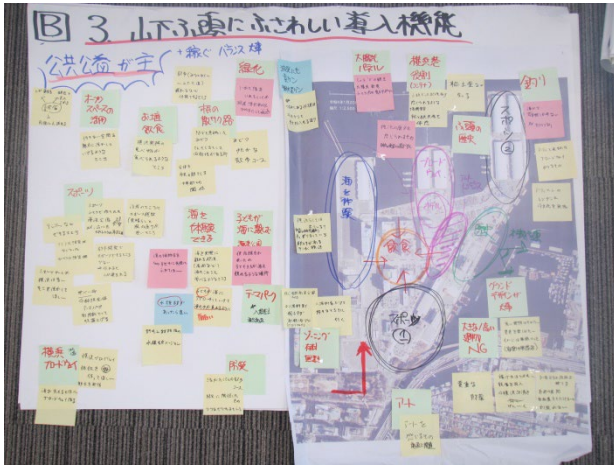
●交通

- ・海中道路（臨港幹線道路）の整備

●維持管理コスト

- ・維持費、メンテナンス費用がなるべくかからないようにする

③ 導入施設のイメージ



● 山下ふ頭は貴重な財産

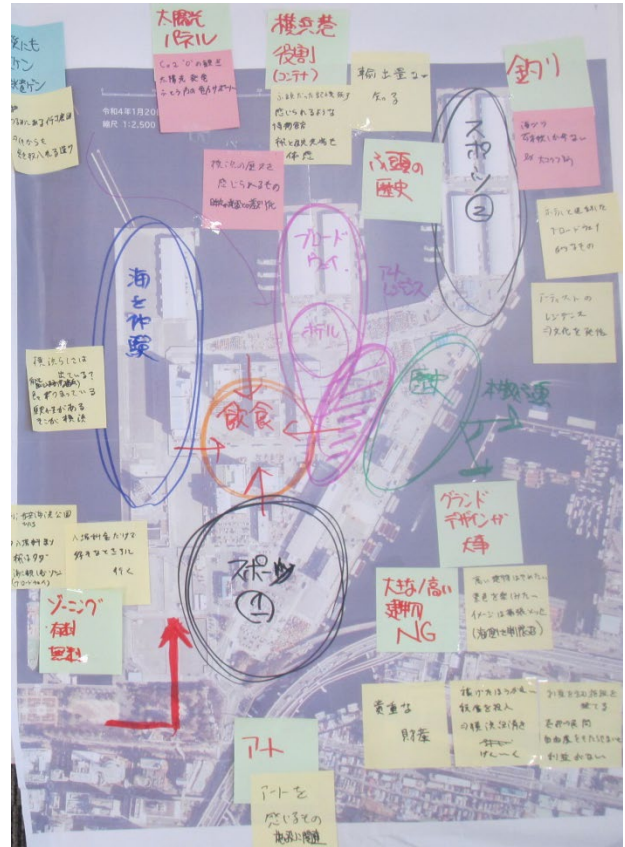
- ・ 基本は、公共公益施設
- ・ 一方で、「横浜経済を牽引する」という意味で、稼ぐ施設も入れる必要がある
- ・ ただ稼ぐだけなら、民間に売却すれば良いが、どんな民間でも良いということではないし、市民が利用できなくなることもある。そのバランスが大事

● グランドデザインが大事

- ・ 大きな建物、高い建物はやめたい。景色を楽しみたい
- ・ 特に海側について、制限することが必要
- ・ カーボンニュートラルの観点から、各施設に太陽光パネルを設置し、ふ頭内の電力を賄う
- ・ 横浜らしさを出したい。様々な機能が詰まっているのも、横浜らしさかもしれない
- ・ 幕張メッセのようなイメージになるか

● グリーンインフラ、防災、散策路

- ・ 現在の緑化率 10%を 20%とする
- ・ 防災・減災を意識した緑（海岸防災林など）
- ・ 観光客も引きつけるような緑（イチゴ農園など）
- ・ 緑豊かな散歩コース
- ・ 街全体を市民の散策路とし、みなとみらい、山下公園、中華街などつなげて、回遊性をもたせる
- ・ 休憩できる場所が必要



● オープンスペースの活用、アート

- ・ 施設がない空間をいかす
- ・ アートを点在させる

【ゾーニング、空間のイメージ】

● 海を体験できる海浜公園

- ・ 子供たちが海に親しめるような場所（例：ひたち海浜公園）
- ・ 実際に海に触れられるような砂浜を整備
- ・ 子供が海にアプローチできるように
- ・ 実際の海の中が見られるようにする
- ・ 海の怖さを学べるようなところ
- ・ 海の博物館
- ・ 水族館（野毛山動物園の水族館バージョン）
- ・ テーマパークにして、入場料をとる（市民は無料）。入場料だけ支払えば、好きな施設を体験できるようにする
- ・ 有料と無料のゾーニングをすることもある
- ・ 本牧や大黒のように、海釣りができるようにする

⇒西側の突端にゾーニング

●スポーツ施設

- ・横浜はスポーツチームが多いので、そこを生かしてほしい
- ・横浜FマリノスはMMにあった練習場を横須賀に移転する予定になっている
- ・都市開発が進みスポーツができるところが横浜は少ないので、整備すると人が集まる
- ・沿岸の見晴らしと風通しの良いところに、スポーツ施設を整備する
- ・大井ふ頭中央海浜公園スポーツの森は、陸上競技場、野球場、テニスコート等があるスポーツ公園となっている
- ・試合を行うことで、入場料と周辺の飲食店に人が流れる等で、利益が得られる。

⇒東側の突端と南側の2箇所にゾーニング

●横浜ブロードウェイ

- ・海が見える場所に、横浜ブロードウェイを作り、魅力を発信する
- ・その後ろに、観客や関係者が宿泊できるホテルを整備する
- ・ホテルだけでなく、アーティストが滞在するレジデンスも整備し、文化を発信する
- ・ブロードウェイは、公益施設のイメージである

⇒中央の突端にブロードウェイ、その背後にホテル・レジデンスをゾーニング

●横浜の歴史

- ・ふ頭だった記憶が感じられるような博物館
- ・貨物量を知ることができる
- ・本牧ふ頭が眺められる場所が良い
- ・横浜の歴史を感じられるもの（日本丸の施設との差別化が必要）

⇒本牧ふ頭側にゾーニング

●飲食・お土産

- ・他のゾーン（各方面）から利用しやすいように、エリアの中心部に飲食・お土産店を配置する
- ・横浜発祥の食べ物が食べられるような場所

⇒中央にゾーニング

《ファシリテーター（岡村 竹史）からのコメント》

◇内港地区の将来像と山下ふ頭のまちづくりのテーマについては、景観、環境、防災、交通などについて様々な課題に関する意見が多くありました。

◇その上で、導入機能について一通り各人が意見を述べた後、改めて「この場所は、公共公益なのか、稼ぐ場なのか」という議論になり、「そのバランスが大事」ということで意見がまとまり、それを踏まえた導入機能とゾーニングになりました。

Cグループ（7人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

●横浜の顔となる地域

- ・港は横浜の顔
- ・この辺りに住んではいないが、サイクリングで走りに来る場所
- ・花火があると見にくる
- ・みなとみらいのイメージは強い
- ・独特の良さがある、山下ふ頭にもそれを求めている

●エリア全体を活かせてない

- ・大黒ふ頭など車を持ってないといけない
- ・大黒ふ頭や瑞穂ふ頭など、一般人では入れない場所がある
- ・広いエリアを使い切るのが肝要だが、それが難しい場所
- ・交通アクセスが悪い
- ・知らないことも多い地域

●内港地区の範囲について

- ・鶴見も内港地区に入れるべき
- ・鶴見のPR

●不安

- ・内港地区に投資が偏りすぎている
- ・財政への危機感がある
- ・先行きに対する危機感がある
- ・将来への不安なイメージがある
- ・ありふれた街になりそう
- ・内港地区への投資が大きい割には、給食の内容がひどいなど、お金の使い方に不満
- ・市民税が高い、毎年3兆円の赤字

●今の都市の構造

- ・計画的に魅力が作られた場所
- ・6大事業によって現在の都市の構造が作られた
- ・羽田空港が近い
- ・外国人のアクセス

【将来への期待】

●開発は民間に任せべきか

- ・これ以上の開発をやめて欲しい
- ・これ以上のホテルは不要
- ・民間のお金を市が誘導する
- ・民間に丸投げは良くない
- ・大きな資本を誘致するよりも、個人事業主や中小企業のオフィスをたくさん作り、それらが活発なコミュニケーションを図れるようにする
- ・大きな構想の不在

●大切なこと

- ・大切なのは「住みやすさ」

●サイクリングを通じて魅力を作る

- ・サイクリングロードの整備
- ・自転車専用道の整備
- ・四国のしまなみ海道のような魅力的なサイクリングコースを提案

⇒内港地区マップを

② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●現在のマスタープランについて

- ・現在のマスタープランに否定的なイメージを持っている
- ・横浜らしさを感じることがない、表面的
- ・ディズニーランドくらいの広さを活かす
- ・ホテルはたくさんあるのでもう需要はない

●これまでの経緯を大切に

- ・国際化を進めるにあたって、横浜の個性がなくならないように
- ・これまで横浜を作ってきた経緯を大切に

●目指す街は

- ・住みやすい街
- ・山下公園が連続するように作る

●横浜らしい強いコンテンツ

- ・ランドマークとなる強いコンテンツを作る
- ・何が横浜らしさか、それは昭和の時代かも

●歴史を生かしてまちづくり

- ・古い街を維持することに投資
- ・中華街だけでなく、関内などをアピール
- ・水道の有名な街だった
- ・これまでも歴史を生かした都市デザインはあった
- ・キング、クイーン、ジャックの三塔
- ・外から来た人に横浜の歴史を知ってもらう
- ・明治の開港から今までが横浜の歴史
- ・横浜の歴史を広く伝えられる場所がない
- ・山下ふ頭の歴史に触れる施設
- ・横浜にしかないものを大切に
- ・横浜やふ頭の歴史がわかるという施設

- ・歴史と観光を一緒にPR
- ・横浜を起点に様々なところへ（横須賀など）
- ・観光と歴史情報を融合した「パリ・ヴィジット」を参考にする

●教育の場・子供が楽しむ

- ・教育体験、子供のエンターテインメントの場
- ・子供の教育に歴史を巻き込まないで欲しい
- ・子供への投資が必要
- ・どんなコンテンツだったとしても、子供が見学できるようにして欲しい
- ・水辺をうまく使って遊べる場所

●水環境を活かす

- ・景色の中に水が見えることを売りにする
- ・水が汚い
- ・生物多様性、生態系に配慮した環境
- ・海底にプランクトンが繁殖したヘドロが堆積している
- ・イルカを見る場所

●周辺都市とのつながり

- ・浦賀
- ・お台場など東京から近いことのメリット、アクセスを生かす
- ・子安のあたりを生かす

●PRが足りない

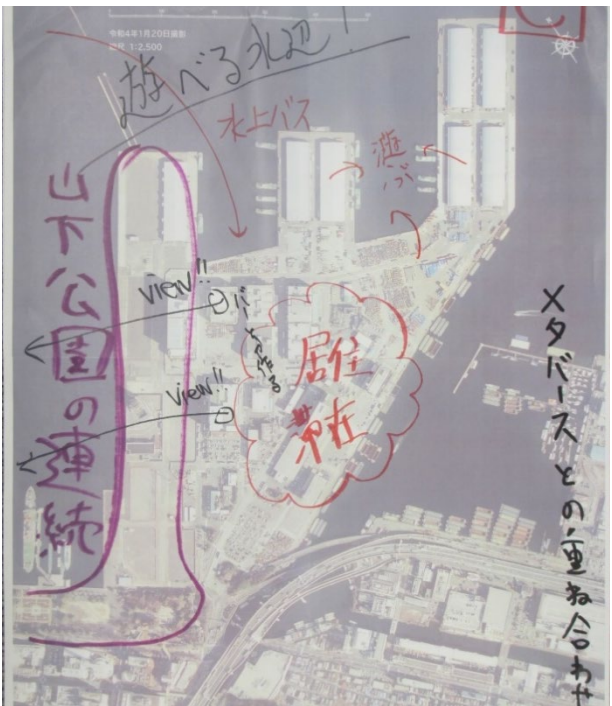
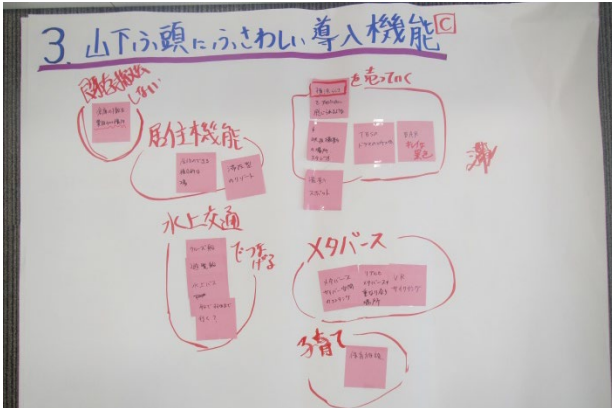
- ・PRが足りない、記憶に残らない

●産業について

- ・最先端のイノベーションをPRする
- ・京浜工業地帯の技術を生かす
- ・クリエイティブと歴史的な工業を融合
- ・日本のイノベーションを横浜から発信



③ 導入施設のイメージ



●子供のための施設

- ・コンパクトなスタジオをたくさん設ける
- ・保育施設など

●既存建造物を撤去しない

- ・倉庫の撤去に400億円かける必要はない

《ファシリテーター（角野 渉）からのコメント》

- ◇内港地区は横浜の顔となる地域であるが、自由に入れられない場所があったり、アクセスの悪い場所があるためにエリア全体をまだ生かしきれてない、という今後の伸び代について考えを巡らすような議論がありました。
- ◇他のエリアに比して投資が偏っているが、どこにでも見られるような都市になりつつあること、税金の投入の仕方などに対して不満が上がっていました。
- ◇住みやすい街を目指して、今あるものや環境を資源として有効に使いながら、経済的には最先端を目指していく、という方向をメンバーの誰もが意識していました。

●居住機能

- ・居住のできる複合的な場
- ・滞在型のリゾート施設

●横浜らしさを売っていく

- ・横浜らしさを感じられるような映画撮影の場所や、スタジオ
- ・撮影スポットの提案、ロケ地
- ・綺麗な夜景を楽しめるBAR

●メタバースコンテンツ

- ・メタバース、サイバー空間のコンテンツ
- ・リアルとメタバースの重なり合う場所
- ・VRサイクリング

●水上交通でつなげる

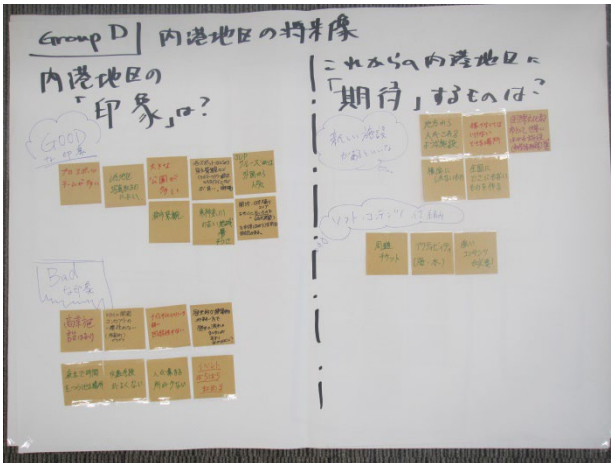
- ・クルーズ船、遊覧船、水上バス
- ・船で羽田まで結ぶ

【ゾーニング、空間のイメージ】

- ・居住のできる複合的な場、滞在型のリゾート施設をエリア中央に
- ・遊べる水辺
- ・山下公園からの連続、ビューポイント

Dグループ（9人）

① 内港地区の将来像



【Good な印象】

- ・プロスポーツチームが多い
- ・山手地区が写真を撮るのに良い
- ・大きな公園が多い
- ・都市景観
- ・各スポットなどから見る景観など（ランドマークタワー周辺のスカイラインなど）がよい。日本大通りも美しい
- ・東神奈川の古い倉庫
- ・SUPクルーズは海外から人気
- ・関内・日本大通りエリアを中心に古いもの（近代建築）を利用しながら活用する技術がある

【Bad な印象】

- ・商業施設ばかり
- ・MMの開発コンセプトに一貫性がない。高島町がガラガラ（空き地がおおい）
- ・ナイトタイムエコノミーが弱い。回遊性がない
- ・歴史的な建築物がある一方で歴史の流れのまとまりがあまりわからない
- ・夜まで時間をつぶせる場所がない
- ・交通手段がよくない
- ・人が集まるところが少ない
- ・イベントがバラバラ

【これからのまちづくりに期待すること】

●新しい施設ができるといい

- ・地方から人が来れるような施設
- ・稼がなくてはいけない、稼ぐことができる場所
- ・国際文化都市として、世界に誇れる施設（科学博物館）がほしい
- ・横浜にしかないもの
- ・全国にどこにもないものを作る

●ソフト・コンテンツ・仕組み

- ・交通の周遊チケット
- ・海、水辺のアクティビティ



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●スポーツ・エンタメ

- ・運動公園
- ・山下ふ頭を起爆剤に
 - *人が集まる＝人の流れが生まれる、世界から注目される
 - ↓
 - *WINWINの回遊性
 - ↓
 - *スポーツ大会やF1、博物館
- ・食とF1
- ・グローバル版ケンミンショー
- ・夢と冒険全世代型エンターテイメント開発
(ペットも一緒に利用できる)
- ・定期的に訪れることができる場所

●緑と水際

- ・水際を活かす
- ・基本は緑で、2～3の市民のための施設を
- ・山下公園や港のみえる丘公園のような緑のつながり
- ・京急を使った水産物の物流

●ここにしかないオリジナリティを

- ・100年後も残るようなもの
- ・東京との差別化(二番煎じはNG)
- ・国際文化都市にふさわしいもの
- ・NY自由の女神、シドニーのオペラハウス、サンフランシスコのケーブルカー、シンガポールのマーライオンにあたるような横浜のシンボル
- ・若い人たちが遊びに行きたくなるようなアクティビティ
- ・日本国中の文化を集めた施設を！方言などの本当のものなど

●宇宙産業

- ・宇宙港をつくる
- ・宇宙をテーマに、防災、研究の博物館機能
- ・新しい港町
- ・宇宙のテーマパーク
- ・ハマウイング、瑞穂ふ頭、エコの街、実験都市
- ・航空宇宙産業の集積
- ・教育、博物館との連携

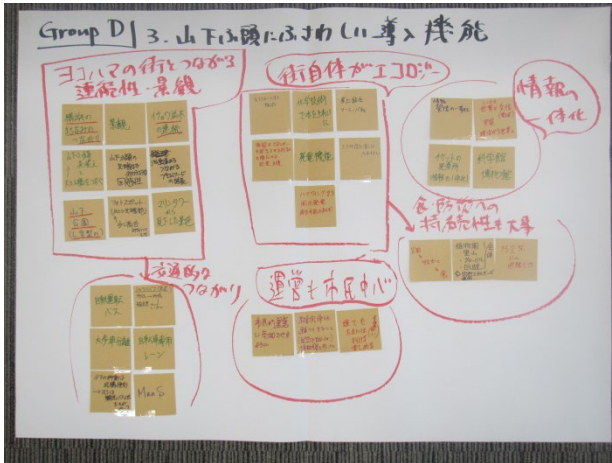
●歴史を活かす

- ・横浜は歴史ある都市→昔から今までの町並みの変遷の再現
- ・和の歴史がない
- ・ロケ施設

●その他

- ・地下道をつかって周辺のまちとつなげる

③ 導入施設のイメージ



●横浜の街とつながる連続性、景観

- ・横浜の街並みのつながり
- ・景観
- ・銀杏並木の連続
- ・山下ふ頭先端と大さん橋をつなぐ
- ・山下ふ頭の先端まで行けるような回遊性
- ・自動車道からつながるプロムナードの延長
- ・山下公園とL字型にふ頭がつながる緑地
- ・フォトスポットをふ頭先端部につくる。少し高台みたいにして
- ・マリントワーから見下ろした景色

●交通的なつながり

- ・自動運転バス
- ・シェアバイクを市民が所有して観光者にレンタルする
- ・歩車分離
- ・自動車専用レーン

・縦の移動は結構便利だが横は観光バスっぽいものがない

・M a a S

・水を綺麗にする装置をふ頭につける

・科学技術で水を綺麗に

・屋上緑化ソーラーパネル

・施設はエネルギーを発生させる機能をもたせる。発電目標を設定。

・発電機能

・エコな船、車しか入れない

・ハマウイング2や3をつくる。風力発電や再生可能エネルギー

●情報の一体化

・情報の一体化が必要

・世界と交信できる電波塔

・チケットの発券所

・科学館や博物館の入館情報がわかる場所

●食・防災による持続的なまちづくり

・畑 → 収穫 → 食べる

・植物園・里山・グローバル・回遊→自然エネルギーで循環

・防災型ドーム。避難できる場所

●運営も市民中心

・市民が運営に参加できるように

・教育関係とも連携すること。博物館を中心に連携

・誰でもたまには行ける、楽しめる

《ファシリテーター（小泉 瑛一）からのコメント》

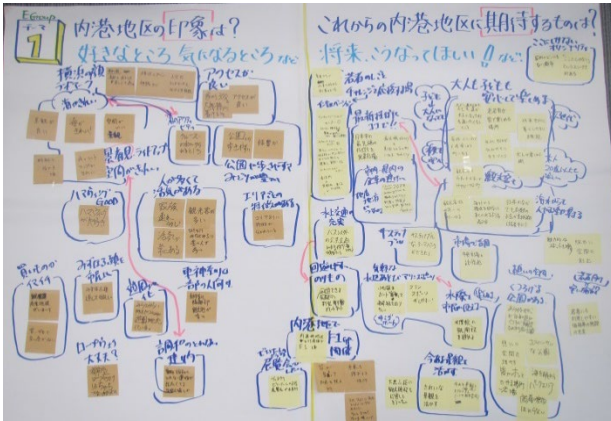
◇内港地区に持つ良い印象は、公園が多いことや都市景観が良いことなど、近代横浜の都市デザインに関する評価が現れていました。一方、みなとみらいは商業空間ばかりであることや、開発の一貫性のなさが指摘された。また、交通アクセスの悪さ（域内交通）についても言及がありました。

◇まちづくりのテーマは、山下ふ頭を横浜経済活性化の起爆剤にしたいという気持ちや、ここにしか無いオリジナリティを求める声がありました。

◇施設への案でユニークなものは、航空宇宙産業の研究施設や普及施設、宇宙港を誘致するというものがあり、現状の横浜の課題からだけではない視点を導入することが大切だと感じました。

Eグループ（9人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

- 横浜の顔でランドマークの場所
 - ・ 横浜の顔、道路を通るとき美しさを感じる
 - ・ 横浜の中心、神奈川の中心
 - ・ 人々のランドマークとなりうる存在
- アクセスが良い
 - ・ 家から 30 分で大栈橋
 - ・ アクセスが良い
- 景観、ライトアップ、海や空間がきれい
 - ・ 景観が良い
 - ・ 海がきれい
 - ・ 空間がいい（景観）
 - ・ 夜のライトアップがきれい
- 海のアクティビティがあって良い
 - ・ クルーズに出かけられるところ
- 公園や歩きやすさ、みどり豊かな場所
 - ・ 公園とか歩きやすい
 - ・ 緑豊か
- ハマウイングが大好き
- 観光客や家族連れなど、人が多くて活気がある
 - ・ 家族連れ多し
 - ・ 観光客が多い
 - ・ 活気が常にある
 - ・ 好きなまちみなとみらい 若い人が多い
- エリアごとの特徴がある
- 買い物をするのに良い店がない
 - ・ 商業施設がいまいち
 - ・ 買い物で良い店がない

- 瑞穂ふ頭を市民に返してほしい
- みなとみらいがやや遊園地化している
- 東神奈川は限られた人向けの場所になっている（観光地がない）
- ロープウェイ
 - ・ 都市型ロープウェイは、ないほうがよい
- 調和のとれない建物がある
 - ・ 調和のとれない建物がある（結婚式場とか）

【内港地区の将来像】

- ここにしかないオリジナリティがあると良い
 - ・ 国内のどこにもない都市
 - ・ 「ここにしかない」というユニークさがある
- 若者の仕事、チャレンジを応援する場としてインキュベーション機能があると良い
- 市内、県内企業が連携し、地産地消につなげる
 - ・ 若者たちが仕事を始める、創業する場
 - ・ インキュベーションセンター① レストラン経営者と農家が新しい商品を考案する
 - ・ インキュベーションセンター② レストランと他種が何か新しいサービスや製品を発売し、実験する
 - ・ インキュベーションセンター③ smart city や carbon neutral を推進する人たちが新案を構築し、それを実験、実証する 製造業とか
- 中央卸売市場をもっと活用したい
- 最新技術をココで発表・体験できると良い
 - ・ 日本中の最先端の技術を発表する場
 - ・ 最先端技術の実証ナンバーワンの街になる Tech City
- 未来を探究するために知恵が集まる場所になって欲しい
 - ・ 皆が集まって知恵を絞るところ
 - ・ 未来を探求する場所

- 地域の様々な文化、スポーツ、エンタメを生かすハブになると良い
 - ・文化、スポーツ、エンタメは十分あるのでそれをまとめて活かす場、ハブ
- 大人も子供も夜安心して楽しめることが大切
 - ・大人に連れられた子供達が大人になってからも通いたくなる場所
 - ・老若男女皆で楽しめる場所
 - ・年代問わず住みやすいまちづくり
 - ・将来世代に暮らしやすい機能
 - ・家族、小さい子供も夜楽しめる街になる
 - ・大人が楽しめる街
 - ・観光客も市民もお互いが Happy になる街
- 海外から人やお金が集まる場所になって欲しい
 - ・観光客数世界一の町になる
 - ・海外から横浜を目指して来てくれるような都市
 - ・日本のなかでも有数のお金が生まれる街（経済中心）
- 水上交通が充実すると良い
 - ・バス以外の公共交通が伸びている街（海とかを）
- 回遊しやすい乗り物が増えると良い
 - ・気軽に回遊できる新型乗物スケートボード
- 気軽な水辺あそびマリンスポーツ
 - ・小さな手漕ぎボートに乗って海岸線を回りたい
 - ・マリンスポーツがしやすい

- 水際を市民が使える(楽しめる)
 - ・水際線の市民開放を進める
- サステイナブルな場所であって欲しい
 - ・サステイナブルなテーマパークができれば
- 内港地区でF1グランプリを開催したい
- ビエンナーレのような展覧会をしたい
- 今ある景観を守り、活かしたい
 - ・きれいな景観を活かす
 - ・今ある景観（海、港）を大切にする（一つの都市空間）
- 若者向けに安価で楽しめる施設があると良い
- 魅力的で賑わいのある場所であって欲しい
 - ・魅力的なスポットを増やす
 - ・賑わい空間の創出
- 憩いの空間が広がり、くつろげる公園がある
 - ・あらゆる世代が自由に遊びくつろぐ解放された広い公園
 - ・憩いの空間を増やす
 - ・ユニバーサルな公園
 - ・皆がホッとできる場所ー広場
 - ・海を眺めるパークエリア
 - ・高い建物がない



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●ふ頭から市全体が向上する場所にしたい

- ・市全体の都市作りの中での位置づけ（例：地産地消、防災、市民の憩いの場）
- ・地下に防災拠点、上には何も無い公園（イベントができる）
- ・中学校給食のための給食センター

●次世代に相応しく、環境や防災に配慮した場所にしたい

- ・次世代にふさわしい環境、防災
- ・将来のお客様が楽しめる環境配慮型商業施設

●芸術、アート、音楽などを感じる場

- ・ハイテクなコンサートホールとしてスペースは確保し、機能は柔軟に変動させられると良い
- ・芸術（アート、音楽、映像）
- ・新たな技術を活用したコンサートホール
- ・象徴的な野外音楽祭

●有名建築家の象徴的な建物もあると良い

●海外から横浜ブランドを伝えて人が集まり、賑わうと良い

- ・活気
- ・観光施設 文化施設の充実化
- ・世界中から人が集まる場所
- ・新たな賑わい拠点の形成
- ・国外からも観光したいと思えるような魅力がある

●多文化交流が促進される場所

- ・国際平和、国際交流の街

●収益 経済性も大切

- ・収益につなげる

●横浜の若者のしごと 起業、チャレンジの応援ができると良い

- ・インキュベーション
- ・人を活かす（産業、雇用）
- ・アイデアを出す空間

・会議室

・実験室

・実証する場所

- ・β版を試すために必要な施設

●ビジネスでも使えるコンベンションとしての場になると良い

- ・複合施設
 - ホテル
 - コンベンションセンター
 - 商業施設

●市民が遊びとビジネスをつなぐ

- ・ECOテーマパーク
- ・技術発表場としてのステージ（区画割して複数）

③ 導入施設のイメージ



● 港や海の景観を守る、保つ

- ・ 高い建物をやめる
- ・ 港～海の景観を保つこと
- ・ 景観
- ・ 周辺地域の景観との調和

● 海と親しんで水際も活用できる

- ・ 海との親しみ
- ・ 岸壁の保全、活用

● 水辺ウォーキング

- ・ 回遊できるウォーキングコース

● 海が見えるコテージ

- ・ 海が見えるコテージ（バーベキューや釣り、マリンスポーツが楽しめる）
- ・ 浜辺（ちょっとリゾートっぽい）水着は禁止かな？

● 海上アスレチック

● 質が高く人が集まる魅力的なテーマパーク

- ・ ディズニークルーズ
- ・ アニメのテーマパーク
- ・ ライトアップ
- ・ 質の高いテーマパーク（ヒロサワシティボールパーク）
- ・ どこにでもあるものでないもの（ありがちな商業施設やテーマパークではない）

● 温泉施設

● 海洋研究の拠点

- ・ 海洋研究、啓発の街

● あらゆる世代の憩いの空間

- ・ 子供から大人まであらゆる世代が楽しめるユニバーサルな公園、水辺

● 地域の人にも使えるプチ贅沢の場

- ・ 収益を市民に還元してもらう
- ・ 地域住民も使えるように
- ・ 家族が安心して過ごせる場所

● ここにしかないおしゃれでかっこいい公園

- ・ 公園 - シンガポール - NY、ハイライン
- ・ 大～小のグラウンド

【ゾーニング、空間のイメージ】

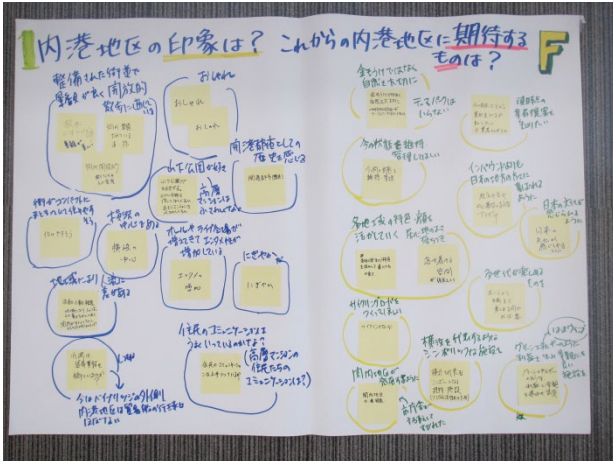
- ・ 地下に防災拠点、上は何もない公園（イベントができる）

《ファシリテーター（佐藤 宣章）からのコメント》

- ◇内港地区の将来像については、横浜の顔として、大人も子供も外国人も、多くの人が安心して楽しめ、賑わいが生まれるまちであって欲しいというご意見が多くみられました。他にも、若者の起業やチャレンジを応援する場になって欲しいというアイデアが印象的でした。
- ◇山下ふ頭のまちづくりについては、上記の内港地区と関連して、横浜ブランドを伝えて海外から人が集まり、賑わう場所としての意見が多くみられ、集客するための施設が求められたことが印象的でした。関連して、芸術・アート・音楽にも触れられる機能のアイデアも出されました。
- ◇山下ふ頭から、横浜市全体が向上するようなことも求められており、地産地消や防災といった機能のアイデアも印象的でした。

Fグループ（6人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

- 整備された街並みで景観が良く開放的、散歩に適している
 - ・ 散歩にはとても良い
 - ・ 景観が美しい
 - ・ 道や緑など街が整備されている
 - ・ 街が開放的（街並や人の密度）
- 開港都市としての歴史を感じる
- 山下公園が好き
- 高層マンションはふさわしくない
 - ・ よけいな物をつくってほしくない
- 街がコンパクトにまとまっていて住みやすそう
- 横浜の中心である
- 地域により人流に差がある
 - ・ 流動人数の格差
 - ・ 地域により人の流れの量に違いがある
 - ・ 関内が少なくなって、山下公園あたりにはいるのでは？
- ホールやライブ会場が増えてきてエンタメ性が増加している
- おしゃれ
- にぎやかだ
- 住民コミュニケーションはうまくいっているのか
 - ・ 高層マンションの住民たちのコミュニケーション

- 内港は貿易業務を続けているのか？（質問）

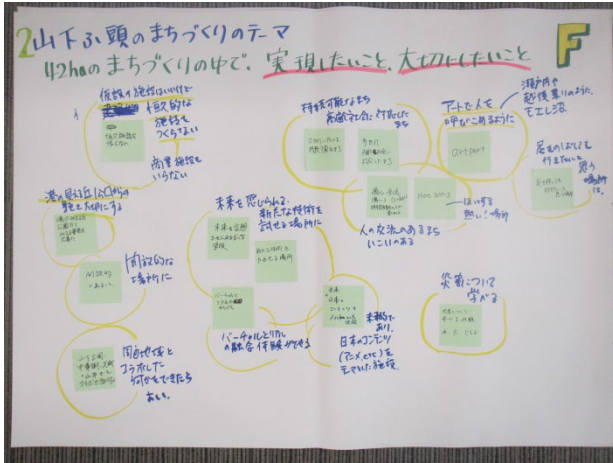
→今はベイブリッジの外側、内港地区は貿易船の行き来はほぼない

【内港地区の将来像】

- 各地域の特色・顔を活かして居心地が良く落ち着けるように
 - ・ 各地域の特色を活かして、居心地の良さ
 - ・ 落ち着ける空間が欲しい
- 金もうけではなく自然を大切に
- テーマパークはいらない
- 今の街の状態を維持・管理してほしい
- インバウンドよりも日本の地方の方々に喜ばれるように
 - 日本の文化が感じられるように
 - 若い人から年寄まで多世代が楽しめるものを
 - サイクリングロードをつくってほしい
- 関内地区が発展するように
 - ・ 市庁舎が移転してさびれた
- 横浜を代表するようなシンボリックな施設を（更なる活性化のため）
- グリーンエネルギー（はまウイング）のように利益を生み景観にも良い施設を
- 現時点の業者提案を知りたい
 - ・ 今の時点で業者さんからどんな案が出ているか知りたい



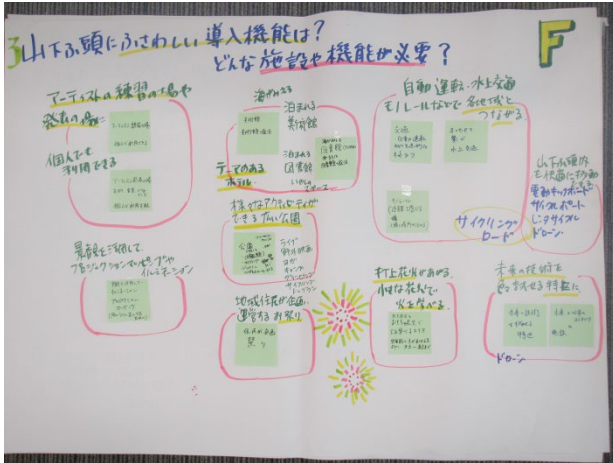
② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



- 仮設の施設はいいけど常設の施設をつくらない、商業施設もいらない
- 港の見える丘公園からの景色を大切にする
- 開放的な場所に
- 周辺地域とコラボした何かをできたらよい
 - ・ 山下公園・中華街・元町・山手などとコラボできる何か
- 未来を感じられる・新たな技術を試せる場所に
 - ・ 未来を空想させられるような施設
 - ・ 新たな技術を試せる場所
- バーチャルとリアル融合体験ができる
- 未来的であり、日本のコンテンツをテーマとした施設
 - ・ 未来+日本のコンテンツ (アニメなど) をメインとした施設

- 持続可能なまち 高齢社会に対応したまち
 - ・ 次世代に向けた持続可能なまち
 - ・ 多世代、高齢社会に対応したまち
- 人の交流があり憩いのある街、ほっとする街
 - ・ 癒し (憩い)、人と交流
 - ・ 不特定多数の人が楽しめる
 - ・ Hotスペース—ほっとする熱い! 場所
- アートで人を呼び込めるように—瀬戸内や越後妻有、モエレ沼のように
 - ・ artport
- 足をのばしても行きたいと思う場所に
- 災害について学べる
 - ・ 災害について学べる仕組—水害、火災、地震など

③ 導入施設のイメージ



●アーティストの練習の場や発表の場に

- ・アーティスト練習の場、個人で利用できる
- ・アーティスト発表の場 芸術、音楽、パフォーマンス 個人で利用可能
- ・アートのオブジェが点在している

●泊まれる美術館・泊まれる図書館などテーマのあるホテル

- ・美術館＋宿泊
- ・海が見える図書館（TSUTAYA みたいな）または図書館＋宿泊
- ・海が見える癒しのスペースに

●自動運転・水上交通・モノレールなどで各地域とつながる

- ・自動運転などの先進的なネットワーク
- ・各地区を繋ぐ水上交通
- ・モノレール（近未来を感じる・ふ頭の場所が分かる）

●山下ふ頭内も快適に移動できる

- ・サイクリングロード
- ・レンタサイクルポート
- ・ランニングロード
- ・電動キックボード

●景観を活用してプロジェクションマッピングやイルミネーション

- ・景観を活用してイルミネーション
- ・プロジェクションマッピング（海に映し出してもきれい）

●様々なアクティビティができる広い公園

- ・大きな公園で色々なことができる
- ・野外映画、サイクリング、ドッグラン、グラмпینگ、キャンプ、ヨガ、野外ライブ、3 on 3 のバスケットコート、アートの発表

●地域住民が企画・運営するお祭り

●打上花火があがる、小さな花火で火を学べる

- ・花火の打ち上げ場所
- ・おもちゃ花火で火を学べるエリア
- ・災害時に火が扱えるように、点火から消火まで

●未来の技術を色々試せる特区に

- ・未来の技術を試せる特区に
- ・未来×日本のコンテンツがある施設
- ・ドローン
- ・未来の船の経験できる場所（自動運転の船の乗船体験）

●病院船の停泊

- ・災害のあった地域にかけつけるなど有事に備える
- ・ふだんも利用できてよい！

●岸壁をうまく利用できないか

- ・他地域とつなぐ水上交通
- ・自動運転の船の乗船体験
- ・病院船の停泊

【ゾーニング、空間のイメージ】

- ・エリア中央に広い公園（野外映画、サイクリング、ドッグラン、グランピング、キャンプ、ヨガ、野外ライブ、3 on 3 のバスケットコート、アートの発表）
- ・突端にグランピング施設、泊まれる美術館、海に見える図書館
- ・外周はランニング、サイクリングコース

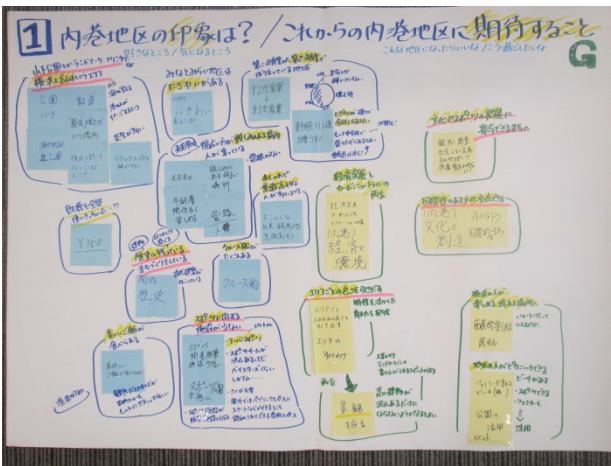


《ファシリテーター（小林 春美）からのコメント》

- ◇内港地区に対して、整備された街並・景観の美しさ・開港都市としての歴史などを評価する声が多く、将来に渡っても各地域の特色を活かしつつ落ち着いたまちであって欲しいというご意見が多くありました。
- ◇山下ふ頭のまちづくりについては、未来を感じられる・新たな技術を試せる場所にというご意見が多くあったほか、瀬戸内や越後妻有のように、アートで人を呼び込めるような場所にというアイデアが印象的でした。
- ◇山下ふ頭の導入機能については、上記のご意見に関連して、アーティストの練習や発表の場、宿泊のできる美術館というご意見や、普段も利用でき、災害のあった地域に海路で駆けつける病院船の停泊というユニークなアイデアもありました。

Gグループ（7人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

●山下公園やランドマーク、マリンタワーなど「横浜と言えば」というエリア

- ・公園、バラ、散策
- ・港の見える丘公園
- ・「横浜」と言えばという場所
- ・横浜と聞いてイメージするエリア
- ・リラックスできる緑が多い
- ・横浜外の人が「横浜」でイメージする所
- ・芝生が多い

●みなとみらい地区はにぎわいがある

●第二次産業から第三次産業で成り立っている地域

- ・第二次産業→第三次産業
- ・東神奈川以東の印象薄い
- ・米軍基地
- ・瑞穂ふ頭や大黒ふ頭は輝いていない
- ・賑わいや輝きが内港全体に広がるとよい
- ・もっと市全体で（北部も）盛り上げられるとよい
- ・港湾局以外の他部署も連携して、市全体を盛り上げてほしい

●老若男女、幅広い方が親しみのある場所

- ・人が集まっている
- ・電線がない
- ・老若男女
- ・親しみのある明るい場所
- ・年齢層関係なく楽しめる

●おしゃれで意識高そうな人が多いエリア

- ・オシャレな商業、観光地
- ・意識高そう

●財源を全部使い切ってしまったような印象

- ・Y150

●歴史的な建造物が残っていて、なつかしさを感ずるまちづくりをしている

- ・近代建築がのこっている
- ・関内、歴史がある

●クルーズ船がたくさんある

●美味しいご飯が食べられる

- ・美味しいご飯が食べられる
- ・観光だとみなとみらいだが、関内などのエリアももっとにぎわってほしい

●スポーツに関する施設が少ない

- ・スポーツ関連施策、施設、公園が少ない
- ・スケートなどのアーバンスポーツ
- ・横浜はスポーツチームが沢山あるけど、このエリアはベイスターズくらいしかない
- ・スポーツ公園は柵が必要になる
- ・海外ではパブリックスペースで、スケートなどができると認知されている専用スペースがある
- ・スポーツ施設は防災施設にもなる

●浜辺がない

●山下ふ頭はガンダムというイメージ



【内港地区の将来像】

●文化やスポーツの発展に寄与できるまちへ

- ・観光、商業充実している為文化やスポーツ発展寄与の地方に

●今の景観を守りながら、エリアごとの良さを引きだすまちづくり

- ・特性を活かした魅力を発信
- ・エリアごとそれぞれの良さを引き出す
- ・エリアのすみわけ
- ・景観を守る
- ・工業エリアでランドマークごしの富士山が撮れる写真スポットがある
- ・高い建物が沢山あるだけにならないようになるとよい
- ・環境と経済の両立

●経済発展とカーボンニュートラルの両立

- ・経済発展の中心の地、イノベーションの場
- ・(内港) 経済と環境

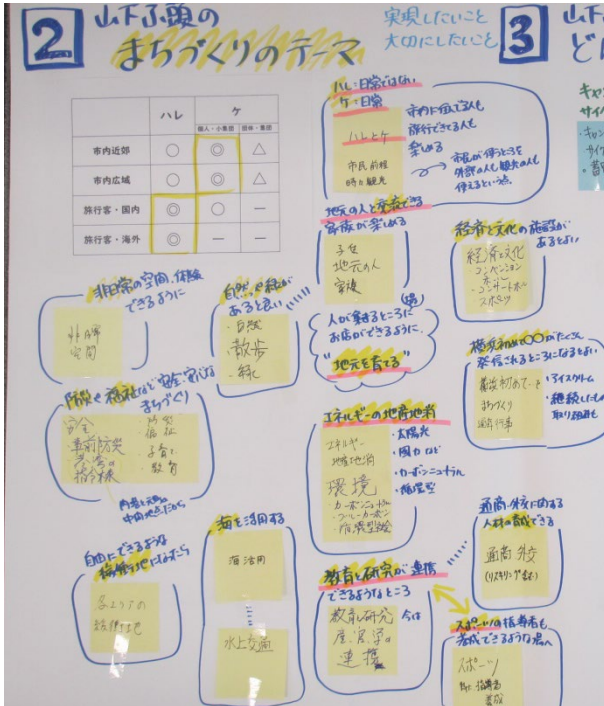
●国際性のある文化交流ができるまち

- ・(内港) 文化と交流
- ・外に向う国際的なまち

●横浜の人が楽しめる、誇れる場所へ

- ・いいところ！と言えるような場所に
- ・市民が楽しめる誇れる
- ・地元の人がピクニックできる
- ・ビーチがある
- ・スポーツできる
- ・ファミリーが来れる砂のビーチ
- ・公園の活用、イベント

② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●ハレ(日常ではない)とケ(常)のあるまち

- ・ハレとケ
- ・市民前提、時々観光
- ・市民が使うところを外部の人も観光の人も使えるという視点
- ・市内に住んでる人も旅行できてる人も楽しめる

●地元の人と交流でき、家族でも楽しめる

- ・子供、地元の人、家族
- ・人が集まる場所(場)にお店ができるという発想。お店をつくって人を集めるのではない
- ・地元を育てるという気持ち

●経済と文化の施設があるとよい

- ・経済と文化
- ・コンベンションホール
- ・コンサートホール
- ・スポーツ

●自然や緑があるとよい

- ・自然
- ・散歩
- ・緑
- ・地域密着

●非日常の空間、体験できる

- ・非日常空間
- 防災や福祉など安全、安心なまちづくり

- ・安全
- ・事前防災
- ・港湾の指令棟(内港と元町の間地点)
- ・防災
- ・福祉
- ・子育て
- ・教育

●横浜から初めての〇〇がたくさん発信される ところになるとよい

- ・横浜初めて…を
- ・まちづくり、通年行事
- ・アイスクリームなどは横浜から広がった食べ物
- ・継続する取り組みにする

●エネルギーの地産地消

- ・エネルギー地産地消
- ・環境
- ・カーボンニュートラル
- ・ブルーカーボン
- ・循環型社会

●自由にできるような緩衝地になったら良い

- ・各エリアの緩衝地

●水上交通など、海を活用する

- ・海活用
- ・水上交通

●教育と研究が連携できるような場所へ

- ・教育と研究
- ・産、官、学の連携

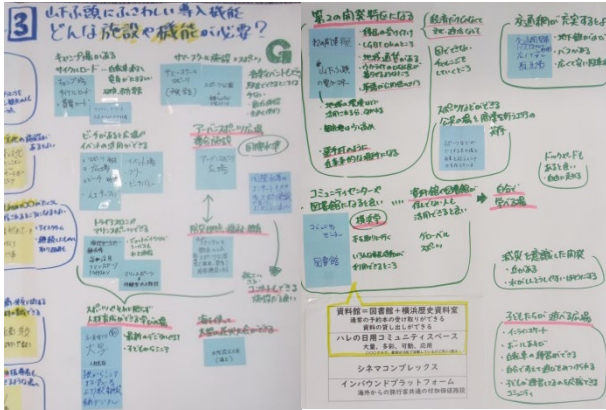
●通商、外交に関する人材の育成できる

- ・通商、外交(リスクリング含む)

●スポーツの指導者も育成できるような場所へ

- ・スポーツ特に指導者養成

③ 導入施設のイメージ



● キャンプ場がある

- ・ 研究、教育、要素
- ・ キャンプ場

● 蓄電ができるサイクリングロードがある

- ・ サイクリングロードで自転車通ると電気がたまるとか
- ・ サイクリングロード、蓄電ロード
- ・ 市民がスポーツできる場
- ・ 熱量が循環する

● スポーツができるサマースクール施設

- ・ 宿泊施設
- ・ 交通も便利
- ・ サマースクールスポーツ（子供学生）

● スポーツ広場で音楽フェスなど大規模イベントができる

- ・ 音楽イベントもできる
- ・ 駅近でフェスができる場所は少ない
- ・ スポーツ公園→音楽フェスなど大型イベントができる

● ビーチがあると広場としての利用やイベントでの活用ができる

- ・ スポーツ施設、広場、ビーチ、砂場
- ・ 人工サーフィン
- ・ イベント場、フリー、ビーチバレー

● アーバンスポーツ広場

● 国際基準のコンサートができる施設

- ・ 国際基準のコンサートもできるスポーツ施設で且つコンベンションホール
- ・ 県民ホールは建物が古い
- ・ コンサートもできる施設だと良い

● スポーツ施設が防災や福祉、教育の拠点にもなる

- ・ サッカースタジアムを拠点とした総合型スポーツ公園（福祉・教育）
- ・ 防災施設となる

● トライアスロンやマリンスポーツができる

- ・ ジェットバイク
- ・ シーバス
- ・ 海活用、マリンスポーツ、トライアスロン
- ・ マリンスポーツ&体験型水上施設

● スポーツを含む、人材育成ができる学びの場

- ・ 最新のデジタルやITなど
- ・ 子供からシニアまで学べる
- ・ 広い意味での学び大学、人材育成
- ・ 子供からシニアまで学べるIT/教育施設、最新デジタル

● 海を使って大型の花火大会ができる

- ・ 大型花火大会（海上）

● 第二の開発特区になる

- ・ 経済だけでなく文化・政治などの特区
- ・ 国でできないチャレンジをしていく
- ・ 第二の開発特区
- ・ 移民の受け付け

● LGBTなど自由に婚姻ができる

- ・ LGBTなど自由に婚姻ができる

● 地域通貨がある

- ・ ウクライナの非難民が暮らせるところ

● 英語が公用語のエリア

- ・ 山下ふ頭の電子マネー、手数料は、地域の環境などに活用される

● 観光客の手数料は少し高め

- ・ 観光客の手数料は少し高め
- ・ 選手村のような近未来的な場所が日常的になる

● 交通網が充実するとよい

- ・ 交通網整備
- ・ バス（できれば地下鉄）
- ・ 広くて安い駐車場
- ・ 地下鉄が山下ふ頭までのびるとよい
- ・ バスがある

●スポーツなどができる公共の場と商業を行うエリアの共存

- ・スポーツなどができる公共の場と商業を行うエリアが共存している

●ドッグヤードもあると良い

- ・犬も自由に走れる

●コミュニティセンターや図書館になるとよい

- ・資料館や図書館が住んでいない人も活用できるとよい
- ・自分で学べる場、横浜学
- ・身近な図書館で取り寄せができるが、あえて本を取りに行きたくなる場所
- ・いろいろな市民活動が利用できる場所
- ・コミュニティセンター、図書館
- ・資料館＝図書館＋横浜歴史資料室
- ・通常予約本の受け取りができる
- ・資料の貸し出しができる
- ・ハレの日用コミュニティスペース
- ・大量、多彩、可動、応用（○○○クラブ、普段は18区で活動しているけど年に1度は）

●シネマコンプレックス

●インバウンドプラットホーム

- ・海外からの旅行者共通の付加価値施設

●減災を意識した開発

- ・丘がある
- ・水が浸透しやすい舗装にする
- ・減災、防災都市

●子供たちが遊べる広場

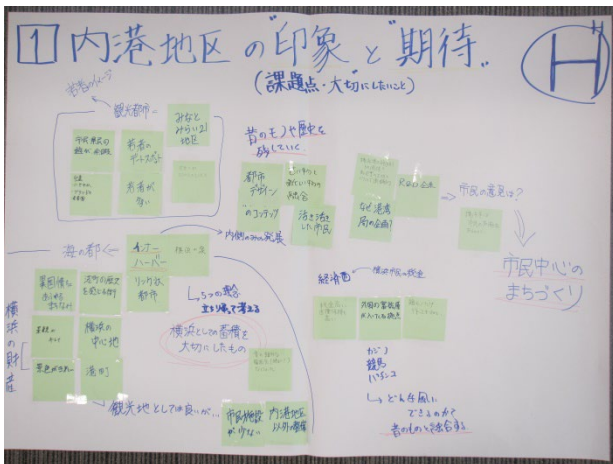
- ・インラインスケート、ボールあそび
- ・自転車の練習ができる
- ・自分で考えて遊びをみつけられる
- ・子供が練習しているのを応援できるコミュニティ

《ファシリテーター（相澤 くるみ）からのコメント》

- ◇「スポーツや文化・教育等、参加者の意見は共通していた」「スポーツや教育、憩いの場とする」と行った商業利用以外の意見が多かった」など、市民ならではの意見やアイデアがたくさん出ました。
- ◇「自分が思いもよらなかったアイデアを聞いて触発された」「多くの人が集まればより多くの意見・アイデアが出る」「年代がバラバラなのが最初不安でしたが、逆によかった」など、参加してよかったとの感想が多くありました。

Hグループ(6人)

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象と利点】

- 観光都市、若者のイメージ
 - ・市民、県民の遊び、余暇の場所
 - ・若者のデートスポット
 - ・みなとみらい21地区が中心のイメージが強い
 - ・賑やか、ブランド力、若者が多い
 - ・若者のまち
 - ・横浜のシンボル
- 海の都、美しい街並み
 - ・異国情緒あふれる美しい街並み
 - ・景観が綺麗（横浜の財産）
 - ・港町の歴史を感じる街
 - ・港町、海の都
- 横浜としての蓄積を大切にしたもの
 - ・昔の雑多な雰囲気（昭和）がなくなった
- 積み重ねた都市計画
 - ・インナーハーバー構想がある
 - ・リング状都市の考え方は今でも踏襲する必要がある
 - ・5つの都市計画理念
- 昔のモノや歴史を残していく
 - ・都市デザイン
 - ・新しい横浜のコンテンツ
 - ・古いものと新しいものの融合
 - ・生き活きとした市民

【これからの課題】

- 市民利用施設や市民の意見を集める場
 - ・市民利用施設が少ない
 - ・横浜市は市民の声を聴く気があるのか
 - ・税金高い、医療保険も高い
 - ・外国の富裕層が入ってくる拠点
 - ・箱ものだけが作られている印象がある
 - ・カジノ、競馬、パチンコをどんな風にできるのか、昔のものと融合する必要がある
 - ・横浜港埠頭(株)との関係、私企業の土地なので閉鎖的か
 - ・なぜ港湾局の企画なのか
 - ・R&D企業

【内港地区の将来像】

- 横浜としての蓄積を大切にする
- 昔のものを新しいものとの融合
- 市民中心のまちづくり



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ、
導入施設のイメージ



【先進的なまち横浜】

●都市のDX=ITの横浜

- ・企業間の連携
- ・ITモビリティ、移動手段
- ・空間のドラえもん（ITやVRでなんでも現れる空間）
- ・スマートシティの実験場（AR、VR）
- ・IT専門の大学
- ・新しいITベンチャーなど
- ・ファミリー層向けのものや施設（テーマパーク）

●再生、最新エネルギー供給の拠点

- ・再生エネルギーの活用
- ・太陽電池
- ・水素を動力源に
- ・ヘドロの再利用
- ・緑が溢れる森や公園

●新しい横浜

●横浜に足りないもの

- ・魅力ある催しが開催可能なホテル
- ・ペットと泊まれるホテル
- ・都市部のペット可の施設
- ・新しいサービスや機能が横浜に来る理由につながる

●横浜ならではのもの

- ・国際都市
- ・各国の住民がいる
- ・多文化交流の場

- ・一つの街で、住む、働く、遊ぶ

【港としての都市】

●海洋関係の施設の充実

- ・海に関する施設を
- ・都市に最新技術研究
- ・防衛施設、平和的な「武器」と戦略、シミュレーション場所
- ・横須賀の施設との連携

●海辺と歴史の活用

- ・平和のためのシンボル地区
- ・歴史の継承を目的とした施設
- ・港としての役割から変化する必要がある
- ・横浜の歴史が一目でわかる地域やミュージアム
- ・山下公園とあわせた市民の憩いの場

【住みやすい横浜】

●住宅機能の整備

- ・市民向けの施設＝公共施設
- ・被災時使用可能な給食センター、給食レストラン
- ・誰もが利用できるデイサービスや介護施設
- ・四次元的なサービス提供
- ・病院、先進医療
- ・防災
- ・医療拠点、医療船

●都市デザイン 50年

- ・都市デザイン50年を機に、さらなる観光、MICEを推進
- ・世界に誇れるような大きな会議場

【フレキシブルな視点】

- ・観光の船が立ち寄れる
- ・水陸ボーダレスな空間、サービスが提供できる
- ・いろいろな用途に応じてフレキシブルに対応できることが大切

《ファシリテーター（高橋 慧一）からのコメント》

- ◇内港地区のまちづくりについて、海辺の環境や美しい街並み、観光都市としての利点を活かす中で、古いものを残すとともに、これまでの都市デザインの功績を重視する考え方が印象的でした。
- ◇山下ふ頭のまちづくりのテーマ、導入機能については、先進的な取組みによって新しい横浜をつくりたい、港としての都市のイメージを大切にしたいという意見とともに、住宅や市民向けサービスに関する意見がありました。

(4) 第4回（6月26日）南部エリア

Aグループ（8人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

● 特異な地域性

- ・ 関内・関外は地区によって全然印象が違って面白い
- ・ 生活の種類の違い、差がある地域が混在している
- ・ 企業
- ・ 建築物

● 観光都市、巡れる街

- ・ 食のテーマパーク
- ・ 飲み屋の常連の関係性
- ・ 大学時代に遊んでいた
- ・ フォトジェニックな街
- ・ 明るいデートスポット
- ・ イベント会場
- ・ 山下公園、月に1回子供と散歩
- ・ 運動した思い出・集う

● 歴史的な街、貴重な景観

- ・ 横浜の顔 外から見た横浜
- ・ 古い横浜
- ・ 歴史、希少性
- ・ 外部へのアピールが高い

● 海

- ・ 「太陽にほえろ」のイメージ
- ・ みなとみらいのビルは整っている

- ・ 市民にとっては大切な場所
- ・ 魚影が濃い
- ・ 風が気持ちよい
- ・ 公園
- ・ 船

【まちづくりの課題】

● 曖昧な地域性と治安の悪さ

- ・ 関外の治安に問題がある
- ・ 他の街と同じでチェーン店が増えてきた
- ・ 中途半端な国際性
- ・ 明確な場所の特性がない
- ・ 地区ごとの地域性を活かしたい

● 利便性が悪い

- ・ 移動しづらい、集まりづらい
- ・ 駐車場が少ない
- ・ 交通の便がイマイチ
- ・ 東京が遠い、車なら楽

● 仕事、観光、生活が一つになってしまっている

● お金を落とすところが少ない

- ・ お金を落とすところがない
- ・ スーパーリッチな人が来ない
- ・ カジノをやりたい
- ・ 財源がない

【期待、将来像】

● インフラ整備、財政源

● 税金の助けになるように

● 地区の象徴が欲しい

● フォトジェニックな街

● 未来を開けるような街

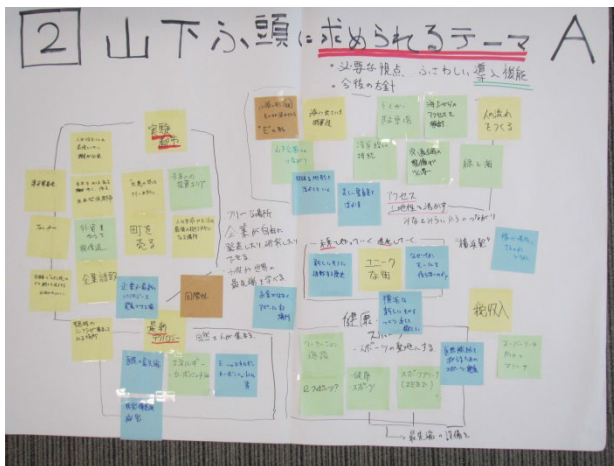
● 未来を見る、知る、開く、作る街

● 未来発信

● 海上の交通網の利便性を高める

● 市民に限らず外からも人が来て欲しい

② 山下ふ頭に求めるもの、導入機能や施設



【まちづくりのテーマ】

- 未来を作っていく、進化していく
- ・ユニークな街
- ・なぜショッピングセンターを作らないのか
 - ・横浜は常に新しいものをつくり出してほしい
 - ・稼ぐ場所にすべきか、どうか？ (税収入)
 - ・人が住むことを前提としない

【導入機能】

- 実験都市
 - ・未来を知る、見る、作る、未来発信都市
 - ・出島のようなフリータウン
 - ・未来への投資エリア
 - ・企業が指針のテクノロジーを発表できる街
 - ・外資系を誘致し、税優遇
 - ・国際性
 - ・人の生命や生活の最後の拠り所になる場所 (災害時のエネルギー供給など)
 - ・町を企業に売る
 - ・緊急時にインフラが集まっている場所
 - ・人が住むことを前提にしない設備が必要
 - ・準米軍基地

● 最新テクノロジーによって、自然と人が集まる

- ・医療の最先端
- ・エネルギー、カーボンニュートラル
- ・防災体験、減災
- ・企業が自由に発表したり、研究したりできる場所
- ・子供が世界の最先端を学べる

● 土地性、美しい景観を活かす

- ・(Eの字のような) ふ頭の形をそのまま活かす
- ・海に出ている特異性のある形状
- ・山下公園との繋がり
- ・特殊な地形を活かしていく
- ・緑と海

● 街へのアクセス

- ・人の流れをつくる
- ・海上からのアクセスを検討
- ・交通網の整備が必要
- ・湾岸線との接続
- ・ドでかい駐車場
- ・山下公園とのつながり

● 健康、スポーツに特化、スポーツの聖地に

- ・健康、スポーツ
- ・ワーケーション施設
- ・eスポーツ
- ・スポーツアリーナ
- ・メタバース上のスポーツアリーナ
- ・スーパーリッチ向けのマリナー
- ・医療補助を減らすためのスポーツ、健康の施設

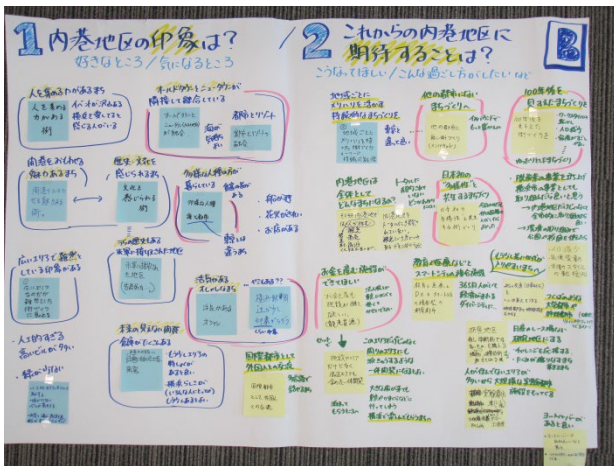


《ファシリテーター(高橋 慧一)からのコメント》

- ◇内港地区のまちづくりについて、海があって観光が盛んという様々な利点があるが、利便性が悪い、お金を落とすところがないといった課題が挙げられ、未来が開ける、未来をつくるという将来への期待があることが印象的でした。
- ◇山下ふ頭のまちづくりのテーマを議論した際も、そうした未来志向が反映されたテーマが提案されました。
- ◇導入機能についても同じく未来志向型の最新テクノロジーや実験的な取組みを求める意見が多かったように思います。

Bグループ(7人)

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

- 人を集める力があるまち
 - ・イベントが沢山ある
 - ・横浜を愛してると感じる人がいる
 - ・人を集める力がある街
- オールドタウンとニュータウンが隣接して融合している
 - ・海が気持ちよい
 - ・オールドタウンとニュータウン（MM地区）が融合
 - ・都市とリゾートの融合
- 開港の歴史を想わせる魅力あるまち
- 歴史・文化を感じられるまち
- 米軍に接收されたという裏の歴史もあるまち
- 多様な人種が暮らしている
- 貧富の差がある
- 船が好き
- 花火がきれい
- 内港地区になると広いエリアで、雑然としている印象がある
- 活気があるオシャレなまち
 - ・お店がある
 - ・若者のデートスポット
 - ・ベイエリアの華やかさ
- 暗い印象があるエリアもある
 - ・横浜駅周辺の印象が少し違う（暗い印象）

●未来の见えない開発だと感じる

- ・倉庫がたくさんある
- ・未来の见えない開発
- ・もう少しエリアの特色があると良い
- ・いろいろな人にとっての横浜らしさがあるとよい
- ・「横浜らしさ」は人によって違う
- ・持続可能性、モノをつくらない
- ・都市の転換

●人工的な高いビルが多く、緑が少ない

- ・緑が少ない
- ・人工的すぎてしまうという気がする
- ・ビルが高すぎる

【内港地区の将来像】

●地域ごとにメリハリを活かす持続的なまちづくりをしてほしい

- ・東京と違って良い
- ・地域ごとにメリハリを持った街づくり、キーワードは持続可能性

●他の都市にないまちづくりへ

- ・インバウンドでもっと盛んに
- ・他の都市に無い街づくり（インバウンド）

●100年後を見据えたまちづくりをしてほしい

- ・100年後を見据えた街づくりを
- ・ワークスタイルの転換
- ・人口減少
- ・家族が過ごしやすいまち
- ・ゆったりとしたまちづくり

●内港地区は全体としてどんなまちになるのか全体を発信してほしい

- ・そもそも内港地区は、どんなまちになるのか。くくりきれないが
- ・人が住むのは想定外？
- ・観光、商売、宿泊
- ・内港地区をトータルで紹介されていない
- ・観光という点でいうならデモンストレーションが・・・

●日本初の“多様性”と共生するまちづくりをしてほしい

- ・日本初の“多様性”と共生する街づくり
- ・今日のワークショップも他の国籍の人がいたらよかった
- ・コンパクトシティ
- ・ダイバーシティ
- ・日本の先進都市

●脱炭素の事業を立ち上げ、横浜市の事業としても取り組んだら良い

- ・内港地区だけじゃなくて全市的に取り組めたら良い
- ・環境の取り組みで公園や校庭を使えたら
- ・人口減少
- ・気候変動
- ・労働スタイルの転換（A I）
- ・地下熱の利用
- ・下水の再生エネルギーの利用
- ・風力発電
- ・ソーラーパネルの設置

●つくばのような大学都市にする

- ・船の交通（日常的な）を
- ・小中高大を作る
- ・つくば市のように大学や研究機関がある

●姉妹都市にし、リトル・イタリーのようなまちに

- ・姉妹都市の姉妹校をむかえる
- ・日本初のグローバル都市

●匠が織りなす研究地区にする

- ・チャレンジを応援する
- ・匠が織りなすまち、集まるまち
- ・研究地区、但し学術的ではないもの「職人」、織物（スカーフ）、建築技術、「匠」など

●大規模な実験都市、施設を誘致する

- ・実験都市、車（レース場）、隔離センター、大規模療養センター、刑務所、ゴミ処理
- ・日産のレース場など
- ・人が住んでいないエリアを活かす

●ヨットハーバーがあるとよい

- ・ヨットハーバーがあればいいなと思う
- ・富裕層を横浜に入れる
- ・リトルイタリーのような街をつくる

●教育や医療などのスマートシティの複合施設

- ・365 日人がいて経済がまわるダイバーシティになると良い
- ・教育と医療と DX とスマートシティの複合型の科学都市
- ・若い世代が入りやすいまちへ

●お金を産む施設ができてほしい

- ・法人税が東京に比べて低く、稼いでいない
- ・お金を産む施設が出来て欲しい（観光資源）

●内港地区だけではなく、周りのエリアにも波及するような一体開発になるとよい

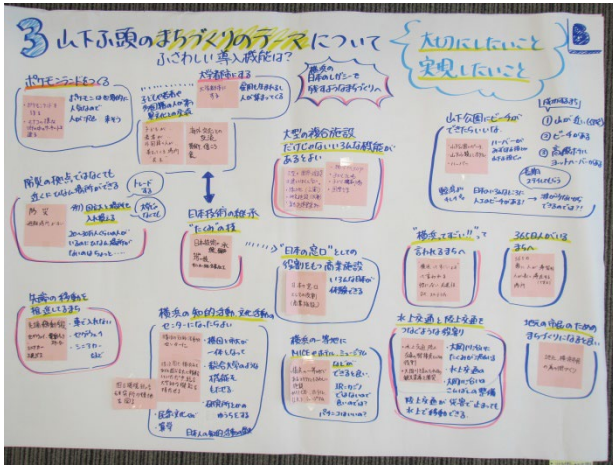
- ・施設やエリアだけでなく周辺エリアも含めた一体開発
- ・大きな船が来ても東京や鎌倉などに行ってしまう

●国際都市として外国人との交流がある

- ・多言語で話せるまち
- ・国際都市として、外国人との交流

② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ

・導入施設のイメージ



※グループの希望により、まちづくりのテーマと導入機能を一緒に検討

- 横浜の、日本のレガシーを残すようなまちづくり
- ポケモンランドをつくる
 - ・ポケモンは世界的に有名なので人が沢山来そう
 - ・モナコのような街の中のサーキットを造る
 - ・ポケモンGOをしている人が多い
- 大学都市にする
 - ・雇用も生まれ、人が集まってくる・若者を呼んで活気づける
- 子供や若者や多国籍の人が集う、異文化との交流ができるまち
 - ・子供が…若者が…多国籍の人が…集まってくる場所“共生”

- 地元の市民のためのまちづくりになると良い
 - ・海外文化との交流 芸術、信仰、食
- 日本技術の継承“匠”の技が体感できるまち
 - ・中小零細金属加工工業などの日本技術の継承「巧の技」
- “日本の窓口”としての役割をもつ商業施設
 - ・いろんな日本が体験できる
 - ・日本の窓口としての役割（商業施設）
 - ・全国のアンテナショップ
 - ・港の玄関口としての横浜を活かしたもの
- 近くの安全な場所と役割を入れ替えることで新しい防災の拠点ではなくても避難場所をつくる
 - ・防災、避難場所がない
 - ・地理的に安全な国立大と場所を入れ替えることで避難場所ができる
 - ・海の近くのため、山下ふ頭が防災拠点なのは心配
 - ・大学ではなくても安全場所とトレードする
 - ・20～30万人くらいの人が周辺にいるが、避難場所がないのは不安
- 山下公園にビーチができると良い
 - ・山下公園にビーチ、山下ふ頭にホテル
 - ・ハーバー
 - ・東京湾よりキレイ
 - ・日本のいろんなところに人工のビーチがあるから不可能ではない
 - ・波が少ないからできるのではないかな
 - ・ビーチをつくることで長期ステイしてもらいきっかけに
 - ・海が近くて成功しているまちに共通することとして、①山が近い（住宅）、②ビーチがある、③高級ホテル ヨットハーバーがある
- “横浜ってすごい”と言われるまちへ
 - ・他にない先進性、DX、スマートシティ

●365 日人がいるまちへ

- ・365日、常に人が滞留する、人が長く滞在する（できる）場所

- ・人が居続けることで税収にもつながる

●先端の移動を推進・導入しているまち

- ・車では入れない
- ・セグウェイ、シニアカーなど
- ・先端移動手段、電動キックスクーター
- ・3連バス

●横浜の知的活動、文化活動のセンター

- ・横浜の知的活動のセンターに
- ・横浜国大、横浜市大等の国公立大に移転していただき、総合大学的な機能を持たせる
- ・国立環境総合研究所の誘致を図る
- ・研究所とかの誘致をする
- ・民衆文化、算学など
- ・日本人の知的活動の歴史
- ・日本を牽引するような施設になってほしい

●横浜の一等地にMICEやホテル、ミュージアムなどができると良い

- ・IR＝カジノではないので良いのでは？
- ・パチンコはいいの？
- ・横浜の一等地であるエリアにふさわしい施設、機能を
- ・MICE、ホテル、IR、ミュージアム
- ・企業自らの出資でできる仕組み（IRの可能性）
- ・IRシンガポールをベンチマーク

●水上交通と陸上交通をつなぐような結節点にし、観光資源にする

- ・水上交通、陸上交通の結節点としての役割
- ・大岡川を含めた水辺の観光資源を開発
- ・大岡川沿いに匠が沢山いる

- ・大岡川沿いの栈橋の整備が必要
- ・陸上交通が災害で止まっても水上で移動できる
- ・山下ふ頭近くを整備するだけで良い
- ・環状型水路
- ・山下公園と山下ふ頭の間が通れるようになれば、ぐるっと一周でき、観光資源になる（「赤い靴丸」という名前にする）
- ・首都高の下というのがネガティブに思われがちだが、雨に濡れないメリットにもなる
- ・横浜の歴史観光にもなる

●地元の市民のためのまちづくりになると良い

【ゾーニング、空間のイメージ】

- 大型の複合施設だけじゃない、公園や研究施設などいろんなエリア・機能があるとよい
- ・大型の遊興施設は建ててほしくない
- ・緑地（公園）、著名な建築家の建物など
- ・研究施設（医療）、国際大学
- ・物づくりエリア
- ・子供広場、子供



《ファシリテーター（相澤 くるみ）からのコメント》

◇「大勢でアイデアを出し合うと面白い発想が出てよかった」「世代を超えて、横浜の未来について話ができ、大変有意義でした」「“横浜愛”を熱く語り合った」「市民の声を聞いていただける機会をもらえて嬉しい」などの感想がありました。

◇また、「市民だけでなく街、産、学も含めて議論をしてもらいたい」「100年後を見据えた横浜全体のまちづくりを展望するための意見交換会を続けてほしい」などの要望もありました。

Cグループ（7人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

- デートスポット、洒落た街
 - ・ デートスポット
 - ・ ドラマ撮影が行われる、洒落た街
 - ・ ファッション、グルメ、歴史がある
 - ・ 素敵なバーや飲み屋がある
 - ・ 本牧、赤レンガあたり
- 物流拠点としての港
 - ・ 内港地区の貨物は、日本の物流の4割を締めている。内航船は5,000隻ある
 - ・ 燃料の補給を行ったり、食料を調達できる場所となっている
 - ・ 大黒ふ頭を見学したが、世界を相手にビジネスを行っている
- 新しいものを受け入れる、進取の気性がある
- 人とのつながりがある
 - ・ 関内・外、東神奈川、みなとみらい地区では、人とのつながりがある
- 犬に優しい街
 - ・ 30代から犬を飼い始めたが、元町はドッグフレンドリーな街
- ネガティブな面もある
 - ・ 人間味がない、機械的な感じがする
 - ・ 生粋のハマっ子は少ない

- 市民向けではない観光、賑わい
 - ・ 観光に行くが、続けて行きたい場所ではない。リピートしない
 - ・ 施設はあるが、市民に活かされていない
 - ・ 横浜に飲みには行くが、賑やか過ぎて好きではない
- 教育について
 - ・ 日本で一番教育が進んでいると言われていたが、そうでもない
- 釣りができる場所がない

【期待度(将来像)】

- 歴史を大切に
 - ・ 開港の原点をまちづくりに活かす
 - ・ 歴史と文化を大切にする
 - ・ 歴史（ジャック、クイーン、キング等）を残しながら、現代にふさわしい街にする
- 未来へ寄与する
 - ・ 100年後に残せるものを！
 - ・ 子育て世代を始めとして、全世代の未来へ寄与するもの
- 世界の富裕層をターゲットとする
 - ・ 世界の富裕層が集まる街に（例：モナコ）
 - ・ 極端な話として、市民が入れなくても構わない
- 観光のハブとなる
 - ・ 横浜だけでなく、東日本エリアの観光・商業を牽引する（西日本は大阪に任せる）
 - ・ 鎌倉や三浦をパッケージにした観光
- 飲み屋・宿泊機能の充実
 - ・ 外国人が夜まで楽しい街（バー、クラブ等）
 - ・ 庶民が気軽に入れる飲み屋を残す（思い出横丁等）
 - ・ 宿泊できる場所があると良い

●船と船員に優しい街、港のアピール

- ・船と船員に優しい街
- ・日本丸、氷川丸は知っているが、港のことは知らない
- ・子供達に、船や港のことを教えられる場がない
- ・港の職業を学ぶことができない
- ・国際的な港を学ぶ（姉妹都市であるオデッサ等）

●商業ビルは不要、公園に

- ・商業ビルはもう要らない
- ・コンクリートから、公園へ

●子育てしやすい街

●防災に強い



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



【開発のあり方を考える】

●場のストーリーが必要

- ここにいかないといけないこと、できないことを考えることが必要
 - * 広い敷地でしかできないこと
 - * 周囲が海という立地を活かす

●景観を大切に

- オリジナリティのある建築物
- 市民が入れる建築を
- 海の中からビルをたてる
- 山下公園からの景色・景観を損なわない
- シンボルとなる建物

●大規模か、小規模か

- 「開発」をどうとらえるのか。低開発でも良いのではないか。人間が生きやすい環境を作ることが重要（例：子供が遊べる場）
- 箱モノは、維持費がかかるので、起爆剤になるようなものでなければならない

●無駄な施設は作らない

- 無駄な施設は作らない。何も作らなくても良いかもしれない
- 半端に作るなら、作らない方が良い。そっとしておいて、歴史遺産とすることもある（例：軍艦島）
- 作っても誰にも使われないこともある。お金をかけずに市民が楽しめるようなものに

【稼げる場とする】

●核となる施設のあり方

- 稼げる施設が必要。外に開く（開港）のイメージ
- ハードとソフトのパッケージ化が必要

●観光のハブとなる

- 観光のハブとなり、外貨を獲得する
- 宿泊施設、ホテルを整備する
- I R もあり

●テーマパークにする

- 子供達が遊んで学べるテーマパークにする。子供が来れば、大人もついてくる
- オープンスペースがゆったりある
- 何回行っても楽しいところ
- 憩いの場

【ターゲットを決める】

●高齢者か子育て世代か、内向きか外向きか

- 高齢者か子育て世代か、ターゲットをはっきりさせることが必要
- 全世代が楽しめる
- 世代間と国際間のインタラクティブが重要

●お金を使ってもら

- お金を使ってもらう人をターゲットにする
- ここで儲けたお金で、市の財政に貢献し、福祉にまわすこともできる
- 若い世代に、高齢者の負担のしわ寄せが来ないようにする

●高齢者

- 「介護の最先端はヨコハマ」であるとして、富裕層の高齢者への介護サービスもある

●子供

- 子供が楽しめる場所
- 果樹のなる場所

【まちづくりのテーマ】

●大きな一つのテーマとする

- ・機能は、一つの大きなテーマとする
- ・大きな土地なので、切り刻まない。アレもコレもでない、統一のテーマが必要

●横浜を象徴する場所とする

- ・横浜の文化・歴史を次世代に伝える博物館を整備する
- ・既存施設（開港記念会館等）は小さいので、総合的な施設が必要
- ・文化の発信力が弱い
- ・市内遺跡を残す（タタラ遺跡、戦争遺跡等）
- ・赤レンガのようにふ頭の先にある倉庫等で残せるものは残す

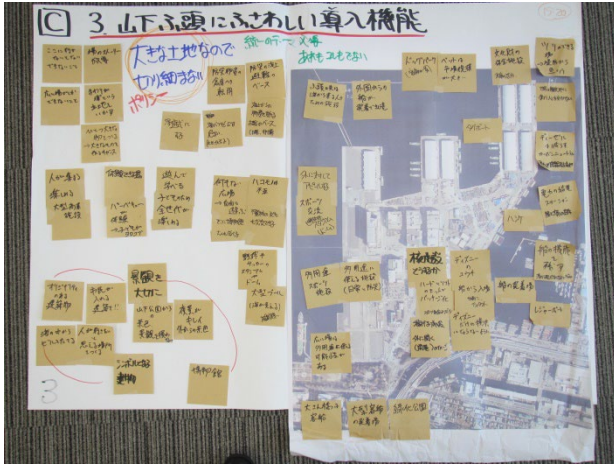
●横浜の玄関口、ポートとする

- ・横浜の玄関口、まさに「ポート」とする
- ・横浜を定義できる場所とする。例えば、歴史・文化を回遊したくなるゲートウェイとする

●船の機能を残す

- ・現在は、ふ頭の先端にタグボート、ふ頭の本牧側に舢（はしけ）、本牧にレジャーボードがある
- ・これらの船の機能を残す。港から船がなくなると寂しい。船の発着場は残す
- ・船においても、カーボンニュートラルはある。ディーゼルが減少し、電力供給する施設が必要
- ・船が防災に貢献できることもある（避難所、電源供給等）
- ・ヨットハーバーとすれば、稼ぐこともできるし、景観的にも良い
- ・陸と海が共存する

③ 導入施設のイメージ



【核となる施設】

●ディズニーランド

- ・ディズニーを誘致する。横浜ディズニー・シー
- ・船から入場できれば、世界的にもインパクトがある
- ・ディズニーも悪くないが、ディズニーだけの横浜にならないように考えることが必要（横浜のようになっては駄目）

●大規模商業施設の中に複合機能

- ・人が集まる、楽しめる大型商業施設
- ・大規模商業施設の中に複合機能を入れる
 - *ものづくりができる市民ギャラリー（今の市民ギャラリーには市民は行かない）
 - *ひきこもりや特別支援者が輝ける場所
 - *国際交流の場所
 - *リモートワークができる場所
 - *eスポーツ

●広場、公園

- ・箱モノは不要
- ・何もない広場で、自由に遊ぶ
- ・緑化公園

【付随施設】

●スポーツ施設

- ・外に対してアピールできる、世界的なスタジアム（ドーム）
- ・国際的な活用と、市民向けの活用ができる（例：不登校の子供も交流できるように）

- ・海が見える大型プールは、海とプールの相乗効果が得られる
- ・スポーツ施設は核施設にはならない。あくまで付随施設のイメージ

●立地を考慮した防災施設

- ・災害時に、海からの物資供給を受け取れる補給基地
 - ・海上避難ができる基地
 - ・既存の倉庫を防災物資の倉庫として活用
 - ・海拔ゼロメートルの港は、水をかぶるので、防災拠点としては脆弱。防災拠点とするのであれば、浮遊式にするなど、対策を施すことが必要
- ※平時の機能は未定

●海からのアクセス

- ・ふ頭の先端は、海から来る人のための施設とする
- ・外国から、高級プレジャーボードでセレブがやって来るようにする
- ・大型客船の発着場も必要

●体験できる場

- ・原体験をつむげる場所（例：船、DX）
- ・BBQが体験できると、子供が喜ぶ

●博物館

- ・大人も子供も学べる博物館

●倉庫の活用

- ・倉庫を活用し、市内の文化財の保全施設とする
- ・倉庫を活用し、SOHO等とする

●ドッグパーク

- ・犬に優しい街。家族の一員になれるように
- ・ペットは市場規模が大きい

●釣り場

- ・釣りができる場所が欲しい
- ・世界の観光地に釣り人は見かけないので、いかがか

【景観】

●オリジナリティのある建物、シンボルとなる建物

- ・皆が行きたいと思える、オリジナリティのある建物、シンボルとなる建物が必要
- ・海中にビルを建てて、ふ頭とつなげる

●景観への配慮

- ・山下公園からの眺めを意識して、景観を損なわないようにする
- ・夜景がきれいなので、大切にしたい（外からふ頭への眺め）

《ファシリテーター（岡村 竹史）からのコメント》

◇内港地区の将来像及び山下ふ頭のまちづくりのテーマについては、〈まちづくりの前提や方針〉のような事柄が議論され、今後のまちづくりに必要な〈論点〉のようなものが幾つか出てきたことに意義があるように感じました。

◇導入機能については、一通り各人が導入機能を述べた後に、上記の〈まちづくりの前提や方針〉の議論に立ち返る流れとなりました。その中で「一つの大きな機能とする。大きな土地なので切り刻まない」という前提について、概ね意見がまとまりました。

Dグループ（6名）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

- それぞれの地区に顔があり、内港として一貫したイメージでは捉えられない
 - ・横浜ならではのものが、それぞれにある
 - ・パッと見て横浜とわかる情景、シーンがあちこちにはある
 - ・バラバラのイメージ
 - ・「内港地区」って聞き慣れない言葉
 - ・内港地区全体での一貫したイメージはない
- 港町であり、きれいになった海、水に注目したい
 - ・海、水がかつてよりきれいになった
 - ・基本「港町」ははずせない
 - ・クイーンエリザベス二世号の見学は印象的だった
- みなとみらいは、ビジネス＋観光で、迷走している感もあり
 - ・観光地感が強いみなとみらい
 - ・みなとみらいができた時には驚いた 造船所の頃から大きく様変わりした
 - ・横浜博からショッピング、エンターテインメントが出来たが、つぎはぎ
 - ・ビジネスか観光か、迷走している感じも
 - ・市民にとってはなじめない面もある
- 関内関外は、汚い、治安が悪いところもあるが、ダイバーシティは面白い
 - ・関内は昔ながらの街
 - ・横浜人にとっては山下公園、野毛山は遠足で行くところ

- ・治安が悪いところがある
- ・汚いイメージ、ギャップがある
- ・関外側は駅向こうであり、横浜ではないという感覚
- ・伊勢佐木町は多国籍の街になり、ダイバーシティが感じられる
- ・観光、ショッピングルートは山下公園からみなとみらいの範囲

【期待(将来像)】

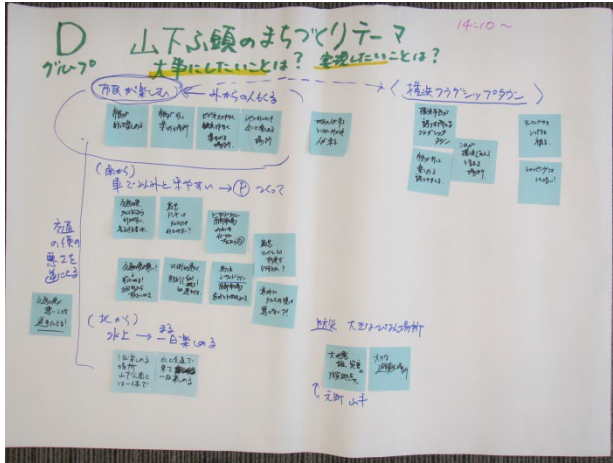
- 内港、みなと交流軸をひとつくりには考えにくい
 - ・内港全体が結びついている必要はあるのか
 - ・「みなと交流軸」として捉えるのは実感しにくい
 - ・地区ごとの役割分担はよくできていた
- でも、山下ふ頭は広い視野で象徴になりうる場所と言える
 - ・山下ふ頭は変わり方次第では横浜の象徴になりうる
 - ・神奈川県、横浜にとってのシンボルに
 - ・瑞穂ふ頭が返還されると内港がつながってくるかも
- 回遊は難しいので、水上の交通で結び、一体感を創り出したい
 - ・内港地区全体はぐるりと回遊できる範囲ではない
 - ・山下ふ頭も駅からは1km以上で、歩けない、遠い
 - ・人を呼ぶには交通の便の強化
 - ・海上交通、船の便、シーバスを
 - ・海を活用すれば内港の一体感もできる
 - ・水上交通は防災面からも役立つのでは
 - ・市民が行く場所としての役割を重視したい

●内港のイメージを固めていく上で、山下ふ頭は大事 ～観光か、市民が使う場所かによって、将来は方向づけられる

- ・山下ふ頭の整備で横浜としての統一感を出していく
- ・何をもって軸とするかを検討すべき
- ・ガンダムで観光のイメージが強く、市民が行く場所でない印象



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●市民が楽しむ場所に そうすれば外からも人が来る

- ・市民が行って楽しめる場所
- ・ビジネスでなく観光でもなく集まれる場所
- ・他に行くよりも近くで楽しめる場所
- ・地元の人々が来るところに外からの人も来る

●横浜フラグシップタウンに

- ・横浜市民が誇りをもてるフラグシップタウンと呼べるように
- ・市民が行って楽しめる、誇りをもてるのが基本
- ・これが横浜じゃん!と言える場所に
- ・テーマパーク的なものはシーパラなどと他と被る
- ・ショッピングは共食いになってしまう

●交通の便の悪さを逆手にとってまる一日楽しめるものに

- ・1日ずっといて楽しめるものに 一回行っただけで終わらせない

●市の南の方からは意外と車で来やすいので、駐車場を用意する

- ・新山下付近の商業施設は車で行きやすい
- ・産業道路を使えば市の南部（金沢、磯子方面）からは行きやすい
- ・鳥浜シーサイドタウンや南部市場のようなイメージで利用されるとよい
- ・意外に車の便は悪くない

●市の北の方からは水上、海上アクセスを活用したい

- ・山下公園と一体でまる1日楽しめる場所に
- ・水上交通で来るアクセスを

●防災の拠点、大きな避難場所にもする

- ・大地震や災害時の防災拠点機能をもたせる
- ・津波高潮などはそれほどではないが考慮して対応
- ・大きな避難場所になる 山手や元町地区からの避難

③ 導入施設のイメージ



- **スポーツコンプレックスと医療健康拠点とを結びつけ、防災拠点機能ももちあわせる**
 - ・ 山下公園は外向きで市民のものとは言い難い（東京ではお台場公園がそういう場所）
 - ・ スポーツと健康、医療と防災は連携、結びつけていける

【陸側、南側】

- **スタジアムを中心にした複合コンプレックス＝ホテル、ショッピング施設、アーバンスポーツ、砂浜プールなどの複合**
 - ・ ロンドンやバルセロナにあるようなスタジアムの下が商業施設
 - ・ スポーツ中心で1日滞在できる
 - ・ プロスポーツと共に市民スポーツにも利用
- **スタジアムのイメージ**
 - ・ 大きなスタジアム サッカーやラグビーのプロチームの拠点
 - ・ 三ツ沢の再整備を考えるならこちらの方が好立地
 - ・ 球技用の観客とプレイヤーの距離が近い観戦しやすいものが欲しい
 - ・ 芝生のことを考えると屋根付きでなくてもよい
 - ・ 施設は市が作り、運営は球団がやっている日ハムのようなやり方を工夫
- **市場的な商業施設**
 - ・ スタジアムの下に商業、店舗
 - ・ 佐世保でもスタジアムと商業施設の複合した物がある（ジャパネットが関わる長崎スタジアムシティ 複合施設）
 - ・ 人気の南部市場のようなものが日常利用を促す
 - ・ 横浜にゆかりのあるお店を誘致
- **砂浜プール**
 - ・ 海水と触れ合える場所も お台場みたいな砂浜（臨港パークに小さな砂浜は整備される）
 - ・ 海辺に代わる砂浜プールのようなもの

【海側、北側】

●市民の健康・医療・福祉のユニークな拠点

- ・リゾートイメージをもった健康・医療・福祉の施設群をまとめて誘致
- ・タラソセラピー 海辺、海水による健康・美容
- ・病院船も接岸できる・世界に評価されるような医療施設 外国人もわざわざやってくるような
- ・市大病院の再整備、新病院を誘致したい（根岸が候補地になっている）
- ・市民が使える病院であることが基本
- ・先進医療 重粒子線、加速器なども備えた病院
- ・スポーツ医学の施設 スポーツ施設と連携できる
- ・長期の療養 養護の施設
- ・ベイブリッジを見ながら老後をおくるとよい

●大人数に対応するアクセスと歩行環境を整備

- ・大型の客船を使って人を運ぶ
- ・駅から大きな歩行者デッキでつなぐ
- ・ロープウェイを延伸する
- ・小机、日産スタジアムのノウハウはあるはずでありそれを活用する
- ・車で来る人のための駐車場を東側ゾーンに配置して、施設間で時に応じて使い回す
- ・地区内で歩行者と車を分離する配置にする

●丘から海への緑と景観づくり

- ・西側の水際は山下公園からつながる緑
- ・歩く、座れる緑地に小さなショップが点在
- ・高いビルは不要
- ・海から丘の方に高くなっていく建物のイメージ
- ・海と丘を考えた景観づくり

《ファシリテーター（林 一則）からのコメント》

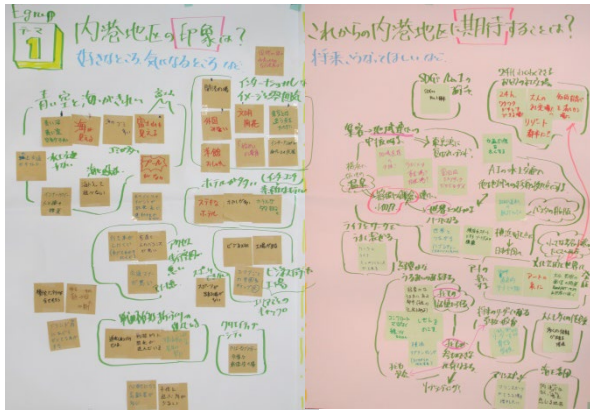
◇内港地区に対して、場所ごとのイメージや印象が異なる、みなとみらいはビジネスと観光で迷走している感があるとの指摘でした。山下ふ頭の使い方次第で内港の中核のイメージが固まってくるだろうという意見が主流でした。

◇山下ふ頭のまちづくりについては、それを受けて、市民が楽しむ場所をまず考え、そうすれば外からの人も来るとの考えを確認しました。市場的な商業施設と複合したスポーツコンプレックスと、リゾートイメージもある医療健康拠点を結びつけて中核にしたいという方向になりました。山下公園や東京のお台場公園は外向きすぎる、南部市場のようなものは人気が続くという評価があったのが印象的でした。

◇また、大人数の施設に必要な交通の便への対応について、市の南側からは車のアクセスも意外とよいので駐車場を、市の北側からは水上海上アクセスを活用したい、また一回行けば1日ずっと楽しめるものという対応が検討されたのも特徴です。

Eグループ（9人）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

- 青い空と海がきれい空気がきれい
- 海のごみが多い
- 富士山が見える
- 水上交通が足りない
- プールや海で遊べない
- 人と港の接点がある
- まちづくりやイベントが散発的な印象、運動性が少ない
- インターナショナルなイメージと雰囲気がある
 - ・ 開港の場、文明開花
 - ・ 外国みたい、洋館おしゃれ
 - ・ 「始め」の宝庫
 - ・ 東京都とは違う点を大切に
 - ・ インターナショナル 海外との交流
- ホテルが多く、ランドマークになる素敵なホテルがある
 - ・ ホテルが多いが、多すぎる
- アクセスや歩行環境が悪い
 - ・ 行き来がしにくい（市バスがわかりにくい）
 - ・ 歩道と人のバランスが悪い
- 交通マナーが悪い
- スポーツができる場所が少ない
- ビジネス街や工場など、エリアごとの雰囲気、ギャップが大きい
- 横浜に行けばさまざまなものが揃い、体験できるブランド力がある
- ブランド力で人が集まるため、魅力を高めるための連携や工夫が少ない

● 戦略的な開発やまちづくりが進んでいる

- ・ 進化しつづけている
- ・ 横浜市の行政の長年の努力
- クリエイティブシティのイメージがある
- 心配になる高齢者が多い
- 子供と遊ぶところが少ない

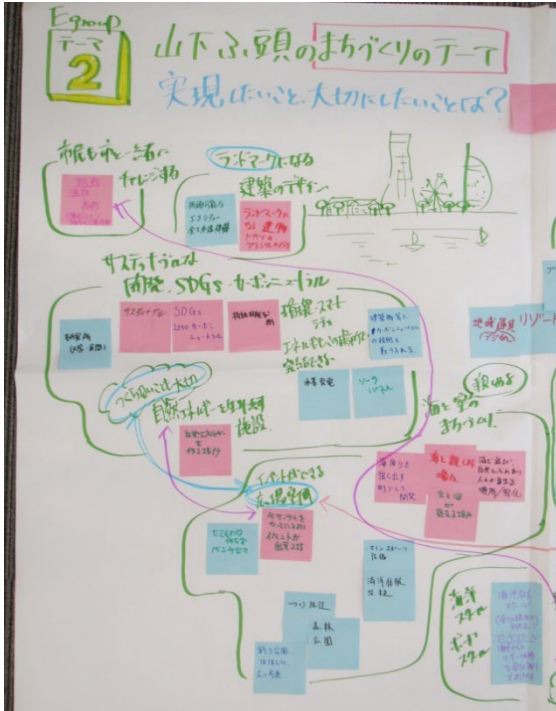
【内港地区の将来像】

- SDGs ナンバーワンの都市
- 横浜の集客力を活かし、他都市との地域連携の中核にしたい
 - ・ 地域連携の中核
 - ・ ライバルは東京湾？相模湾？
 - ・ 異国風エキゾチックだけではダメ
- 箱根や鎌倉、小田原と連携し、世界から日本に人が集まるハブにしたい
 - ・ 温泉などの横浜にないものがある都市と連携するための拠点にする
 - 箱根や鎌倉、小田原と連携
 - ・ 世界とつながるハブシティ（日本のベストアルバム）
 - ・ 横浜をスタートとするツーリズムの構築
- AIが搭載された水上交通で他地域への移動拠点到にしたい
 - ・ 交通の便をよくする
 - ・ 自動運転が搭載された水運の拠点（バスタの船版）
 - ・ 横浜を拠点に全国へ人を運ぶ
- 大人の社交場、リゾート地になってほしい
 - ・ 24h ワクワクドキドキできる場に
 - ・ 知的好奇心を満たせる場に
 - ・ 大人の社交場、リゾート都市に！！
- 文化芸術を世界に発信する場になってほしい
 - ・ 小さな芝居小屋がたくさんある
 - ・ 直接的にアートとの共存、アートの泉に
 - ・ 文化、芸術の発信の拠点 BankART を世界に
- ライフとワークのバランスの取れたまちにしたい

- 緑豊かなうるおいのあるまちにしたい
 - ・ 子供の記憶に残る
 - ・ コンクリートではなく緑・川を大切に
 - ・ 自然を残す
- 子供が参加できる元気なまちにリブランディングしたい
 - ・ 横浜のリブランディング、子供学会
 - ・ 子供の記憶に残したい
- 将来のリーダーを育てるための教育や学校を充実させたい
 - ・ リーダーを育てる学校
- 大人も多くの体験環境があると良い



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●市民も市と一緒にチャレンジする姿勢を持つことが大切

- ・ 挑戦 温故知新（横浜らしさ）箱もので解決しない

●敷地内で循環するサステイナブルな開発、SDGs、カーボンニュートラルを大切にしたい

- ・ 研究所（大学、民間）
- ・ サステイナブル
- ・ SDGs 2050 カーボンニュートラル
- ・ 持続可能な街
- ・ 建築物等にカーボンニュートラルの技術を取り入れる
- ・ エネルギーもこの場所で完結できる
- ・ 水素発電、ソーラーパネル

●ランドマークになる建築デザインにこだわりたい

- ・ 持続可能なエコシティー 全て木造建築
- ・ ランドマークになる建物 ドバイやブラジルのような

●自然エネルギーを生み出す場

●建物を建てないことも視野に入れ、イベントができる広い空間などがあると良い

- ・ 建物はつくらずベンチだけ
- ・ 今ガンダムをやっているようなイベントができる場

●海と空が親しめる開発やまちづくりをしてほしい

- ・ 海周りを強く出す町づくり、開発
- ・ 海と親しめる場々
- ・ 海で遊び、自然とふれあい、人々が集まる場所／線化
- ・ 空と海が見える場所

●変化や多様性を受け入れるインクルーシブなまちづくり

- ・ ダイバーシティ
- ・ 全てを受け入れるインクルーシブなまちづくり

③ 導入施設のイメージ



●多機能スタジアムで集客し、滞在の時間を稼ぎ、地区内に人の流れをつくる

- ・多目的のスタジアムで4~10万人を集めて地区内に展開する
- ・ミュージアム教育
- ・多目的スタジアム
- ・複合型スタジアム（ミュージアム、シップ、教育）

●老若男女が集まるエンターテイメント、社交の場としての機能

- ・老若男女の集うエンターテイメント
- ・社交の場に
- ・インフィニティプール、リゾート
- ・地域デジタル通貨

●水上交通を利用した日本中/世界中から人が集まるツーリズム拠点

- ・ツーリズム拠点
- ・国外向けアウトター バスタ横浜山下
- ・自動運転の水上バス ハブベース
- ・宇宙旅行の拠点にする（スペースポート）
- ・関東海上交通の要（大小）

●クリエイティブシティの拠点

- ・クリエイティブビティーシティー
- ・香港M+、オスロなど世界に発信する創造拠点

●未来のリーダー、子供たちを育てる教育機能で人のイノベーションを起こす

- ・未来への授業 国際リーダーを出す
- ・海洋教育スクール（全ての横浜の）子供たち
- ・ボーディングスクール 海外からのリーダー候補を全寮制で預かる

●マリンスポーツや海でのアクティビティを体験できる機能

- ・マリンスポーツ体験、海洋体験学校
- ・釣り施設、森林公園

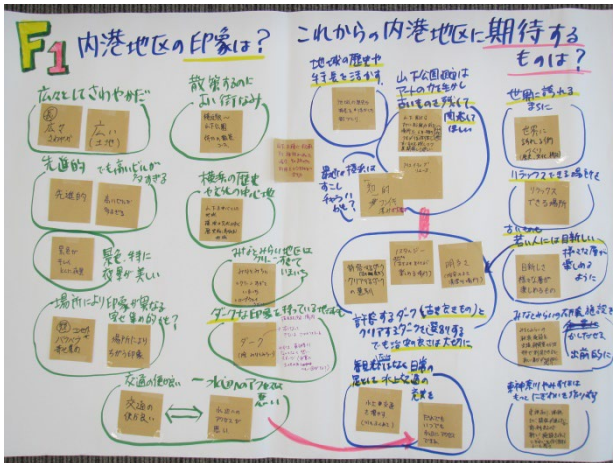
《ファシリテーター（佐藤 宜章）からのコメント》

◇内港地区の将来像については、横浜ブランドで海外から集客し、鎌倉や小田原、箱根などの他都市と連携して、水上交通の導入も導入しながら、滞在時間を伸ばすような、世界とつながるハブにするといったアイデアで盛り上がりました。他にも、24時間ワクワクできる大人の社交場として、文化芸術が楽しめるようなまちになってほしいという意見が印象的でした。

◇山下ふ頭のまちづくりについては、上記の内港地区と関連して、世界中から人が集まるツーリズムの拠点を狙いたいというアイデアや、世界中から老若男女が集まり、楽しめるエンターテイメントシティとしてのアイデアが出されたほか、サステイナブルな開発や、カーボンニュートラルも抑えておきたいというご意見が多くみられました。

Fグループ（7名）

① 内港地区の将来像



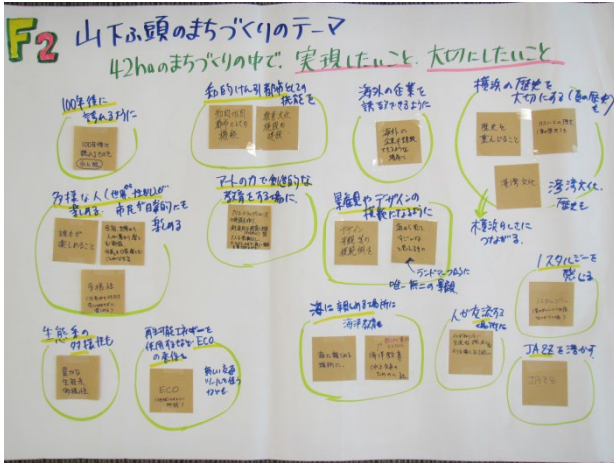
【内港地区の印象】

- 広々としてさわやかだ
- 散策するのによい街なみ
 - ・ 横浜駅～山下公園は休日の散策コース
- 先進的、でも高いビルが多すぎる
- 横浜の歴史や文化の中心地
 - ・ 山下を中心とした地域は横浜の文化の中心、歴史的に意味のある地域
- 景色、特に夜景が美しい
- みなとみらい地区はクリーンすぎていまいち
 - ・ ロープウェイがいまいち
- 場所により印象が異なる 寄せ集め感的かも？
 - ・ コンセプトがバラバラで寄せ集め感がある
 - ・ 場所により違う印象
- ダークな印象を持っている地域も
 - ・ みなとみらいを除いてダーク
 - ・ 横浜駅周辺や関内は古くなってきている、さびれてきている
 - ・ 瑞穂や東神奈川はなんとなく怖いイメージ（米軍の土地があるのも一因かな？）
- 最近の横浜は少しチャライかも？
 - ・ 「知」的フンイキ 深みが大切
- 交通の便がいい
- 水辺へのアクセスは悪い

【内港地区の将来像】

- 地域の歴史や特徴を活かす
- 山下公園周辺はアート力を生かし古いものを残して開発してほしい
 - ・ 山下周辺はすでにある魅力的な場所と、アートの力を使って、人や物のつながりを作り出し、古いものを残しつつ再開発して欲しい
 - ・ クリエイティブリユース
- 許容するダーク(古き良きもの)とクリアするダークを選別する でも治安の良さは大切に
 - ・ ノスタルジー（ヨコハマの古きよき文化が楽しめる場所）
 - ・ 明るさ（治安の良さ、清潔な場所）
- 山下ふ頭に移転する施設があった場合は、その跡地利用が大切
- 世界に誇れるまちに
 - ・ 歴史、文化、機能
- リラックスできる場所を
- 古いものも若い人には目新しい、様々な層が楽しめるように
- みなとみらいの研究施設を出前的に貸し出せる
 - ・ みなとみらいの研究施設を出張研究室のような形で利用できると新しい喜びが生まれると思う
- 観光だけではなく日常の足としての水上交通
 - ・ 水上交通を増やす（川も含めて）
 - ・ 誰でもいつでも水辺にアクセスできる
- 東神奈川や瑞穂はもっとにぎわいを作り出す
 - ・ 東神奈川や瑞穂はまだ開発が進んでいない部分もあるので、新しい施設を作るとにぎわいを作り出すとよいと思う

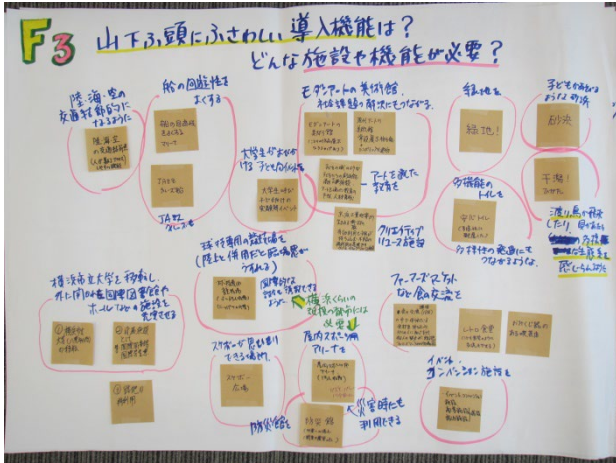
② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



- 100 年後誇れるように(水と緑)
- 知的けん引都市としての機能を
 - ・ 教育文化施設の建設など
- 海外の企業を誘致できるように
- 横浜の歴史を大切に(負の歴史も)
 - ・ 歴史を重んじること
 - ・ ヨコハマの歴史(負の歴史)も
 - ・ 港湾文化
 - 横浜らしさにつながる
- アートの力で創造的な教育をする場に
 - ・ クリエイティブリユースの施設を作り、創造的な教育に利用(子供中心)する
 - ・ 大人も楽しめるし、アーティストの手で新しい製品も作れるかも!
- 多様な人が楽しめる、市民が日常的に楽しめる
 - ・ 誰もが楽しめること
 - ・ 全国、世界から人が集まり楽しむ施設、市民も日常的に楽しむことができる
 - ・ 多様性(出身地や性別も気にせずに楽しめる)

- 生態系の多様性も
 - ・ 豊かな生態系、多様性
- 景観やデザインの模範になるように
 - ・ デザイン、景観等の模範例を
 - ・ 海から見てすごいなと思えるもの、ランダムな唯一無二の景観
- ノスタルジーを感じる
 - ・ 昔のかっこいいお店、なつかしい味
- 再生可能エネルギーを使用するなど ECO の発信を
 - ・ ECO(地球にやさしい地域)
 - ・ 再生可能エネルギーを使った新しい交通ツールを使うなども
- 海に親しめる場所に 海洋教育も
 - ・ 海に親しめる
 - ・ 海洋教育 船舶免許をとるなど(水上交通のための) etc.
- 人が交流する場所に
 - ・ 人々が知り合い交流する機会となるような場になって欲しい
- JAZZ を活かす

③ 導入施設のイメージ



- 陸、海、空の交通結節点になるように
 - ・ 陸海空、人が集まるアクセスしやすい機能
- 船の回遊性をよくする
 - ・ マリーナ
 - ・ JAZZ クルーズ船
- モダンアートの美術館、アートの教育や社会課題の解決にもつながる
 - ・ モダンアートの美術館（子供の作品展示やワークショップあり）
 - ・ 現代アートの美術館 常設展示物も含む←シンボリックな建物
 - ・ 子供の城のような子供たちの創造性を高める施設
 - ・ アートを通じた教育のできる人材育成
- 大学生が対応する子供向けイベントを
 - ・ 子供向けの実験等イベント
- クリエイティブリユース施設
 - ・ 京浜工業地帯から生まれる廃材の有効利用と、市民が持ち込む不用品の再利用の意味でのクリエイティブリユース施設
- 横浜市立大学を移転し、外に開かれた国際図書館やホールなどの施設を充実させる。跡地の再利用も
 - ・ ①横浜市立大学（八景キャンパス）の移転
 - ・ ②附属施設として国際図書館、国際学生寮など
 - ・ ③跡地の再利用

- 球技専用の競技場を（陸上と併用だと臨場感がうすれる）国際的な試合も誘致できるように
 - ・ 球技専用競技場（5～6万人収容）（ニッパツの代替）
 - 横浜くらいの規模の都市には必要
- 屋内スポーツ用アリーナを
 - ・ 屋内スポーツ用アリーナ（1万人収容）（バスケット、バレー、ハンドボール etc.）
 - 災害時にも利用できる
- 防災館を
 - ・ 地震への備え 関東大震災 etc.
- スポーツが思いきりできる場所
 - ・ スケボー広場など
- ファーマーズマーケットなど食の交流を
 - ・ 食の交流、横浜18区の中で作られている食材を持ち込み、多くの人に知ってもらう
 - ・ 作る人の努力が実を結ぶファーマーズマーケットのような場を作る
 - ・ レトロ食堂（子供食堂のように交流もできる）
 - ・ おみくじ機のある喫茶店
- イベント、コンベンション施設を
 - ・ 商業施設・宿泊施設併設
- 緑地！
- 子供があそべるような砂浜
- 渡り鳥が飛来したり、貝があつたり多様な生態系を感じられるように
 - ・ 干潟
- 多様性の発信にもつながるような多機能のトイレを（安心トイレ）



【ゾーニング、空間のイメージ】

- ・山下ふ頭地区の間に航路を設け、カヤックやクルーズ船などが通れるようにする（橋は2ヶ所程度必要）

《ファシリテーター（小林 春美）からのコメント》

- ◇内港地区に対して、山下公園周辺は横浜の文化や歴史の中心で先進的であるというご意見がある一方、地域によってはさびれてきているとか少し怖いイメージがあるというご意見もありました。将来像としては、すでにある魅力的な場所・古き良きものを活かしつつ、治安の良さは大切に、ノスタルジーを楽しめるまちにというご意見で盛り上がりました。
- ◇山下ふ頭のまちづくりについては、「100年後にも誇れるように」というご意見が出され、世界から多様な人々が集い、また市民が日常的に楽しめることを前提としつつ、知的けん引都市としての機能や、アートの中で創造的な教育が行われる場に、などのご意見がありました。
- ◇山下ふ頭の導入機能については、横浜にはモダンアートの美術館が無いので、創造性を高める教育、引いては社会課題の解決にもつながるような美術館や、京浜工業地帯から出る廃材を有効利用したクリエイティブリユース施設、5～6万人収容の球技専用の競技場、1万人収容の屋内スポーツ用アリーナ（災害時にも利用できる）など、具体的なアイデアが多く出されました。

Gグループ（6名）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

●東京にはない綺麗なところ

- ・海に近い、綺麗で人がたくさんいるところ
- ・東京にはあまり見ないような場所
- ・デートスポット

●この街ならではの魅力がある

- ・みなとみらいから桜木町の景色が素敵
- ・景色がいいのにもったいない
- ・横浜の主な印象はみなとみらい、桜木町
- ・街ならではの景色、建物を大切にしたい
- ・どうしてもみなとみらいに行ってしまう

●中区はちょっと違う

- ・内港地区のあたりに関してはあまり詳しくない
- ・南区に住んでいるが中区や西区は全然違う

●歴史を感じるまち

- ・明治以降、文明開化
- ・歴史を大事にしたまちづくり
- ・建物のエリア分けをする
- ・歴史を感じるまち
- ・山下ふ頭には歴史的建造物がない
- ・街の成り立ちを知ることができる場所

●個性的な街がある

- ・飲み屋街の野毛
- ・中区元町、オシャレ
- ・関内が魅力的、寿町など

●入れないので馴染みにくい場所

- ・大黒ふ頭など入れない地域がある
- ・ダイヤモンド・プリンセス号が着岸していた場所
- ・大黒ふ頭って内港地区？
- ・瑞穂ふ頭が返還された場合、米軍基地を一つの歴史として生かしていく

【将来への期待】

●力を入れるべきこと

- ・日本ならではのものを感じる体験
- ・赤煉瓦のようなものを関内にも。核になる場所
- ・中華街と山下公園との間が移動しやすくなるように

●観光に力を入れる

- ・横浜で一泊したいと思えるコンテンツ作り
- ・グローバルに観光案内
- ・観光案内所が弱い
- ・山手のことについてもっと知りたい。

●エネルギーを生み出す街

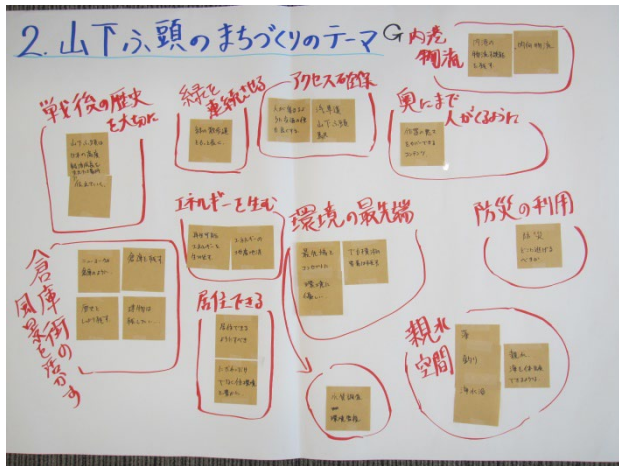
- ・エネルギーにおいて、地球に優しいを横浜から発信
- ・風力発電をもっと活発に
- ・エネルギーの生産地とする

●大型開発は要らない

- ・大きなオフィスビルは要らない
- ・ショッピングモールはもう要らない
- ・小さなイベント、東京ではできないようなも



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●戦後の歴史を大切に

- ・山下ふ頭は戦後の高度経済成長を支えた場所であることを伝えていく

●倉庫街の風景を残す

- ・ニューヨークのように、倉庫街の風景を残して価値を生み出す
- ・既存の倉庫を残す
- ・建物は残したい
- ・歴史をしっかりと残す

●緑を連続させる

- ・緑の散歩道をもっと長く整備する

●アクセス確保

- ・人が集まるように交通の便を良くする
- ・山下ふ頭駅を作り、鉄道によるアクセス

●エネルギーを生む

- ・再生可能エネルギーを生み出す。
- ・エネルギーの地産地消

●居住できる場所

- ・居住できるようにすべき
- ・賑わいだけでなく住環境を豊かに

●環境で最先端

- ・最先端であることをコンセプトにする
- ・環境に優しい
- ・横浜の要素は残す
- ・水質調査を行う
- ・環境監視機能を置く

●内港物流拠点

- ・内港の物流機能を残す

●ふ頭の奥にまで人が来るようにする

- ・位置の悪さをカバーできるような強力なコンテンツが必要

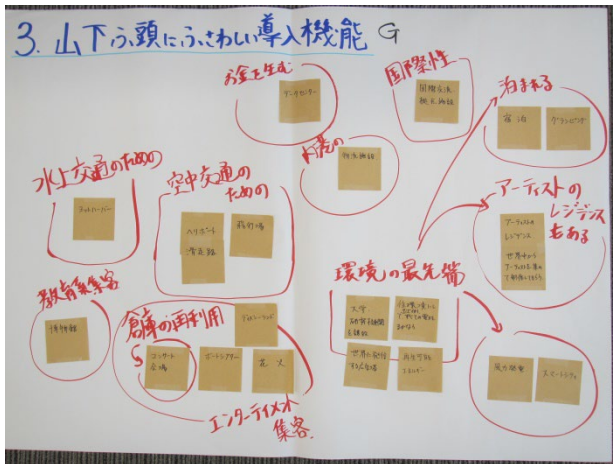
●防災の利用

- ・災害時にどこに逃げるべきか

●親水空間

- ・アマモを育てる
- ・釣り場
- ・海水浴場を設ける
- ・海を体験できるような親水空間

③ 導入施設のイメージ



●水上交通のための施設

- ・ヨットハーバーなど

●空中交通のための施設

- ・ヘリポート
- ・滑走路、飛行場

●教育系集客施設

- ・博物館など

●お金を生む施設

- ・データセンターなど

●内港物流機能を残す

●国際性、国際交流拠点

●環境の最先端施設

- ・大学、研究機関を誘致
- ・世界に発信する広告塔
- ・住環境を確保して、そこで使う全ての電力を賄う

●再生可能エネルギー施設

●風力発電施設

●スマートシティ

- ・環境の最先端の環境に身を置いたアーティスト・イン・レジデンス 世界中からアーティストを集めて制作してもらう

●環境の最先端の環境に身を置いて泊まれる施設

●グランピング施設

●港湾施設の再利用によるエンターテインメント

- ・コンサート会場、ボートシアター
- ・ディズニーランド
- ・花火

【ゾーニング、空間のイメージ】

- ・ふ頭の先端まで人を呼ぶ強力なコンテンツ、交通
- ・山下公園からの緑の連続
- ・滑走路、親水空間

《ファシリテーター（角野 渉）からのコメント》

- ◇内港地区はデートスポットにもなる綺麗な沿岸エリアという印象を持ち、また横浜開港の歴史が感じられる。エリア間を移動しやすくする等、グローバルな視点に立った観光案内が必要といった意見がありました。
- ◇大規模のショッピングモールやオフィスビルではなく、小規模な場所や機会がたくさん集積するような街の作り方が必要という意見が強かったです。
- ◇倉庫などの港湾施設は壊さずに転用して使い続ける、物流拠点としての機能も少し残すなど、これまでの歴史を大切にしたいという思いが共有されていました。
- ◇最先端へのこだわり、環境への意識、居住できる場所にすることで24時間人がいる場所になって欲しい、という既存のまちがアップグレードして山下ふ頭に拡張していく、というイメージを描いているように感じました。

Hグループ（7名）

① 内港地区の将来像



【内港地区の印象】

●横浜と言えばというエリアだが…

- ・ザ・ヨコハマというエリアだが、外から見た横浜
- ・県外者は内港地区しか見えていない。外から来る人のための場所

●各地区のつながりがわかりにくく、あまりに雑然としている

- ・外から見ておしゃれな街。でも実際はとても広くて統一感がない
- ・多機能、多分野の集積があるが一貫していない
- ・各地区のつながりがわかりにくい。中心性がない
- ・商業、文化施設、色々あるが、分散してごちゃ混ぜ状態

●文化の発信が足りていない

- ・外から来る人に、ここに行くといいと言にくい

- ・どこに行くと良いよ、と言える場所を知らない
- ・これというものが足りない。一度行けば良い。好きな地区ではあるが
- ・明確な文化の発信地、あるいは文化の発信が足りていないのではないか

●市民のためのエリアになっていない

- ・車では行かない、行けない
- ・観光だけで終わってしまう
- ・市外の人を呼ぶことはできるが、市民のための場所にはなっていない

●100年後が見えない

- ・日本全国に誇れる歴史がある都市だが、100年先の未来が見えない
- ・横浜の歴史は決して長くない。海外から見た立ち位置が難しい

【期待すること】

●将来像を考える上の前提

- ・昔は工場、今は商業。かつて内港地区の人口規模は1万人程度
- ・現在の人口規模ははるかに大きく、それに見合ったインフラとなっているか
- ・このエリアに外貨（市県外も含む）を落としてもらわないと市の財源も確保しにくい

●まちづくりには変化し続ける柔軟性を

- ・まちづくりには変化し続ける柔軟性が不可欠。文化的にも機能的にも

●共生都市

- ・共生できる都市
- ・市内外全ての横浜に来る人にウィンウィンとなるような場所にしたい

●文化都市

- ・みなとみらいは、当初は公園などを中心に文化的なものを中心にまちづくりをしていたが、現在は商業施設ばかり
- ・文化の再発信が必要

- ・環境（自然）とリンクしながらエネルギーをつくる視点など、横浜の文化とは何かをもう一度見直す必要がある

●教育都市

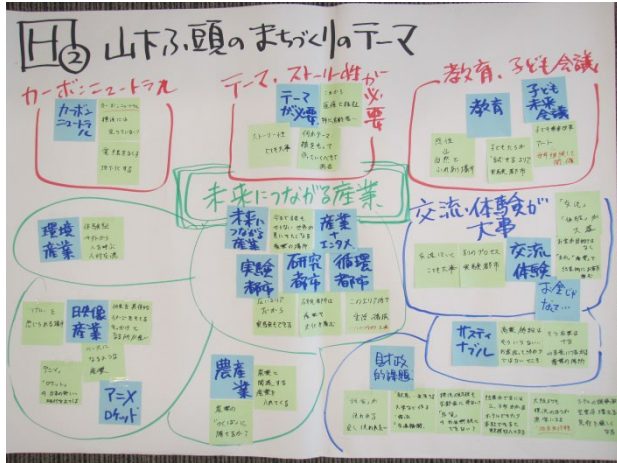
- ・まちづくりとは新しい価値をつくること。そのためには教育、人を育てること
- ・歴史を考える、文化を考える、資源を考えること
- ・横浜だけで完結しないこと。横須賀、八王子、富岡など、歴史的文化的につながる地域がたくさんある
- ・他都市との連携によって文化、教育の発信

●季節の変化が感じられる街に

- ・横浜の中で季節を感じられるエリアになってほしい
- ・緑地と水が大事
- ・海もあるし、もっとすごい花火大会があっても良いのでは



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ



●テーマ、ストーリー性が大事

- ・何か核となるテーマをつくるべき
- ・これからは高齢者に対する医療、福祉
- ・そのテーマに至ったストーリーが大事

●未来につながる産業都市

- ・今までだれもやらなかった、世界が見に来なくなる産業の拠点
- ・産業とエンタメの融合
- ・実験都市=広いエリアだからこそこできる
- ・研究都市=研究は産業や文化を生み出す。
- ・循環都市=エリア内で完結するエネルギー、資源、生活循環

●環境産業、カーボンニュートラル

- ・環境対策、横浜には足りていない
- ・体験型環境産業、外から人を呼ぶ人的交流

●映像産業

- ・横浜はよく映像化される場所。
- ・映像のリアルを感じられる場所。
- ・アニメ、ロケット、こうしたものがあれば将来に具体的なイメージを持てるきっかけとなる

●農業関連産業

- ・つくばは農とロケット。横浜は勝てるか
- ・農業と関連するような産業を考えても良い

●教育・子供会議

- ・子供の感性を育てるには自然とふれあう場所が必要
- ・子供たちがいろいろ試せるエリア、実験都市
- ・子供未来会議、アートの発表会場として

●交流・体験という視点

- ・実験都市の実現には、交流・体験の視点が不可欠
- ・お金が目的ではなく、交流・体験によって産業、文化を生み、結果としてお金を生む

●サステナブルという視点

- ・商業施設はもういらぬ
- ・お金払って終わりという場所にしたくない
- ・将来につながる産業の場所に

●財政的課題について

- ・税金は“良く”使われてほしい
- ・教育にお金が使われるべき。大学、それに伴う宿泊、交通機関など
- ・横浜の財政も京都並みに危ない。ホテルや本社機能の誘致、外貨獲得も無視できない
- ・ホテルの競争過多、空室率、先行きが不安

③ 導入施設のイメージ



【核となる施設】

●エリア中央にリサーチ&ディベロップメントエリア

- ・エリア中央に研究所などのラボ
- ・大学もいいけれど、研究所など見学できる方が良い
- ・最初は大きいラボ、その後小規模なベンチャーなど相互に高め合って研究できるものも誘致

●スタジオラボ

- ・映像スタジオ。松竹大船撮影所のような。アメリカのユニバーサルスタジオのような
- ・外国では映像スタジオはツアー見学が盛ん。それが産業になっている
- ・日本では見て楽しんで終わる。実際に作るころは見れない

【空間のイメージ】

●丘をつくる

- ・平面だけでなく立体的な空間も意識しても良いのではないか。
- ・中央の研究施設を丘にする
- ・防災上も有利
- ・牧場があっても面白い

●市民が使えるオープンなエリアを

- ・ふ頭のフリンジを全てオープンな広場に
- ・中央の研究施設と連動し、自由な発想ができるエリアを確保する
- ・共生を象徴するエリア
- ・何も考えなくても使える。運動ができる。気軽に行ける
- ・木、緑が豊か。木造の家があってもいい
- ・人を呼べる、だれもが使えるギャラリー
- ・レンタサイクルで気軽に周遊
- ・EVで移動。100円くらい
- ・突端には温泉。砂浜があると良い
- ・山下公園からの入り口が大事。入りやすいイメージをつくりたい

●文教エリアに近接

- ・山手は文教エリア。フェリス、女学校
- ・関内、みなとみらいにも大学が増えている
- ・文教エリアの近くにIRはやはりおかしい

《ファシリテーター（大木 淳）からのコメント》

- ◇内港地区の現状に対して、外から見た横浜であり市民のための場所になっていないという意見が強く出ていました。その上で、市民が訪れる、利用するという視点から、文化、教育、自然環境などに関する意見が主軸となり、活発な話し合いが行われたことがとても印象的でした。
- ◇山下ふ頭のまちづくりについても前段の軸が反映され、未来につながる産業都市という切り口で、交流・体験によって産業、文化を生み、結果としてお金を生むという考え方がまとまりました。
- ◇山下ふ頭の導入機能については、スタジオ・研究施設を核として市民が利用できる空間を確保したいとの思いが強く、丘をつくる、牧場をつくるなどのユニークな意見で盛り上がりました。

3 総括（統括ファシリテーターによるまとめ）

(1) 各回の総評

ア 第1回（5月29日）東部エリア（鶴見、神奈川、西、中、南）

① 内港地区の将来像

【内港地区の印象について】

内港地区のイメージとそれを裏付ける要素

「横浜の顔」「横浜らしい」というイメージがあり、「海」「港」「歴史」「文化」「景観」「街並み」といった要素がそれを裏付けています。それらを「美しい」「魅力的」「エモーショナル」「インスタ映えする」「新旧が共存」「雑多」「東京にはない」などの表現で肯定的に捉える意見が多い一方、「良さが失われている（生かされていない）」「活気が落ちている」などの意見もありました。

市民と内港地区の距離感

「歩いて楽しい」「ウォーカブル」「開放的」「観光地」という意見がある反面、「買い物」「親水」などの視点では市民生活との距離を感じさせる意見がありました。

地区ごとのイメージ

地区ごとに「個性」「特性」「役割」があって、それを「魅力」「住みやすさ」と捉える意見がある一方、「画一化している」「つながりが薄い」という意見に加え、特に「東神奈川」「瑞穂ふ頭」「大黒ふ頭」は他地区との隔たりを課題とする意見がありました。

その他

「防災」や「まちづくりの大手企業への依存」に対して懸念する意見がありました。

【これからのまちづくりへの期待、内港地区の将来像について】

先進性、国際性、世界に注目されるまち

「最先端」「先進性」「チャレンジ精神」などによって、「国際色豊かな」「世界から注目される」まちを目指すといった意見がありました。

次世代を意識したまちづくり

「サステイナブル」「スマートシティ」「多様性」など、「次世代」あるいは「次世代コミュニティ」を意識した意見がありました。

地域特性を生かす、オリジナリティのあるまちづくり

「海」「緑」「空」などの「景観」を保つ、「歴史」「文化」「食」「雑さ」「レトロ感」などの「地域特性」を生かすことで「オリジナリティ」を高め、「世界を代表する港町」としたいという意見がありました。

水際線の回遊と市民の憩いの場づくり

地域特性、オリジナリティの中でも「海」「海岸線」「水辺」の保全や活用を意識し、「人と船」「海と陸」をつなぐ「海上交通」や「公園」などのネットワークによる水際線の回遊や市民のための憩いの場を求める意見が多くありました。

② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ

【まちづくりの前提】

開発の考え方

「整備されすぎない」「将来の余地も残す」「時代に応じて変化」「常に進化する」「長期的な視野」「一点に集中する」「狙いを絞る」といった考え方に加え、「高層ビルは建てない」「工事は横浜の事業者に」「格差やホームレスの問題」などの意見がありました。

市民が楽しめる、気軽に利用できる

「市民が楽しめる」「気軽に散歩できる」という視点とともに、「市民と観光客の共存」「来街や宿泊、居住のターゲットは誰か」「もっと人を呼びたい」「若者の誘致」という意見がありました。

その他

「税込アップ」「交通アクセスの改善」「他エリアとのコネクティビティ」「医療・教育の先端技術特区に指定する」などの意見がありました。

【まちづくりのテーマ】

先端技術によるカーボンニュートラル、サステナビリティ

「最先端の技術」「自然環境にも配慮」「世界水準の再生エネルギー地区」「防災拠点、基地」による「カーボンニュートラル」「サステナブル」の実現と「海、水辺」「景観の魅力」「歴史・文化」を活かしたまちづくりに関する意見がありました。

ダイバーシティ、チャレンジ性、スマートシティ

「外国人」「スタートアップ企業」「アーティスト」「学生」などを受け入れる「ダイバーシティ」の視点や、「メタバースとリアル」の結節点」「市民参加の場」「社会実験」など、「チャレンジ性」や「スマートシティ」に関する意見がありました。

オンリーワン、選ばれる都市

「山下ふ頭らしさ」「ここにしかないもの」「総合エンターテイメントエリア」「ユニバーサルデザイン」などで「都市競争を勝ち抜く」「選ばれる」都市とする意見がありました。

その他

他地区とのつながりをわかりやすく伝える「ストーリー」「モノではなくコト消費の場」「いつでも新しい発見や体験」「子育てや教育」「未病対策」などの意見がありました。

③ 山下ふ頭にふさわしい導入機能

スタジアム、テーマパーク

「“世界一”のシンボル」や「フォトスポット」となるような、「ドームスタジアム」「テーマパーク」「スポーツを中心にした複合的な公園、浜」によって「エンタメ」「アーバンスポーツ」「eスポーツ」「食」などを展開するといったアイデアが出されました。

大学、研究機関

「実験的なまちづくり」を進める上で「研究機関」「大学」の誘致、「アートや建築、文化の実験的な拠点」「海辺の環境づくりの実験的な取り組み」などのアイデアが出されました。

歴史・文化の発信、学びの拠点

「開港当時の横浜を感じたり、体験できる」「鉄道発祥の地」「日本、横浜文化の学びの場」「港の歴史やまちを案内できる起点」として、「博物館など文化施設」「教育施設」「インバウンドの

基地」「古民家の移築、再利用」などのアイデアが出されました。

市民が利用できる空間

「市民が水に親しめる」「市民のための施設」を求める上で、「エリア内を回遊できる仕掛け」「サイクリング・コース」「リトリート施設」「広場、芝生、デッキ」「マラソン大会」「釣り」「花火大会」「野外フェス」「セルフメデュケーションサポート施設」などのアイデアが出されました。

交通アクセス

「山下ふ頭へのアクセス」について、「水上バス」「市電」「L R T」などのアイデアが出されました。

その他

「フォーミュラーEの開催」「F 1開催」「“赤い靴ふ頭”など、横浜らしい名称」「エリア内N O現金」「地域通貨」「防災機能」などの意見がありました。

イ 第2回（6月12日）西部エリア（保土ヶ谷、旭、泉、瀬谷）

① 内港地区の将来像

【内港地区の印象について】

内港地区のイメージとそれを裏付ける要素

「横浜の顔」「魅力」「憧れ」というイメージがあり、「海」「歴史」「文化」「景観」「ワクワク」「歴史を生かし、常に新しいものも取り入れる」「文化の入り口」といった要素がそれを裏付けています。一方で「来る人と住む人には溝を感じる」「一度行けば良い（突出したものがない）観光地」という意見もあります。

地区ごとのイメージ

地区ごとに「特徴がある」「色々な顔がある」という反面、「空地が目立つ」「寂しい印象もある（みなとみらい）」「統一感、一体感がない」とする意見もあります。

【これからのまちづくりへの期待、内港地区の将来像について】

国際交流、国際競争力のあるまちづくり

「国際交流」「国際競争力」「チャレンジ精神」などによって、「新しい産業拠点」「未来的なスポーツ拠点」「世界から“クール”と言われる」などのまちづくりの方向性に関する意見がありました。

海の都、海の移動手段

「海」と「川」「水際空間」をつなぐ、そのための「海の移動手段」をつくることで「海の都」をつくるという意見もありました。

歴史を活かす、新旧の融合

「歴史を楽しむ、共有する」「新旧の融合」などによって「イノベーション」を生むという意見もありました。

住める、人がふれあうまち

「バリアフリー」「ジェンダー平等」などの視点から「人が住む」「ふれあう」「横浜への愛着」という意見とともに、「市民が近づきやすい」「市民が楽しめる」ために「ウォークブル」「職住近接」や防災、防犯、治安などの「安心、安全」を進めたいとの意見がありました。

② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ

【まちづくりの前提】

開発の考え方

「税込、財源の減少」「人口減、少子高齢化」などの情勢をふまえて、「市のしっかりしたイニシアチブ」「メンテナンス、維持費の少ないもの」を求める声の他、「いまある建物を再利用」「山下ふ頭を一つの町と見立てる」「これまでの計画や経緯を踏まえて」「マスタープランやハーバリーゾート基本計画を発展」するなどの意見がありました。

まちづくりの主役は市民、子供

「市民も楽しめる」「落ち着いた街」「まちづくりの主役は子供」「次世代の育成になる」「働く場所と生活する場所」「住む場所」といった意見がありました。

その他

「魅力的な目的地」「また行きたいと思える」「山下ふ頭のこと良く知らない」「山下ふ頭を知る機会ほしい」「自由な出入りが可能な特区」などの意見がありました。

【まちづくりのテーマ】

多文化、多様性、国際交流都市

「多文化」「多様性」「先取性」など、横浜市歌にある「飾る宝も入り来る港」に表現される「国際交流都市」を目指す考え方とともに、「外国人が住める」「外国人も利用しやすい」「世界町家」「滞在から居住へ」といった居住に関する意見がありました。またこれを背景として、「都市競争力」「インキュベート機能」「職住近接」「地産地消」「消費から研究開発、文化発信へ」などの「新しい産業の創造」に関する意見がありました。

実証実験都市

「カーボンニュートラル」「スーパーシティ」「スマートシティ」「eスポーツの甲子園」「スポーツ、イノベーション特区」などによって、「実証実験の街」「みなとみらい22」「他の地区にない」「オンリーワン」のまちを目指す意見がありました。

地区間連携、他都市との連携

「内港地区をつなぐ拠点の形成」「他都市と連携した産業圏の形成」などの意見がありました。

③ 山下ふ頭にふさわしい導入機能

先端技術、新たな産業拠点

先端技術によって「新たな産業の拠点」をつくる観点から、「テクノロジー体験のテーマパーク」「福祉や医療」「防災関連研究機関」「実験を行う機関のサテライトオフィス、大学の研究機関を誘致」「イノベーションセンター」「ドローン基地」「エネルギー産業」によって、「ゼロエミッション」「カーボンニュートラル」を実現するアイデアが出されました。

eスポーツ、サブカルチャーの拠点

「eスポーツ×サブカルチャーのメッカ」「リアルとデジタルの接点」「サブカル、コンテンツ産業の聖地」「アニメ」「ガンダムをシンボルに」「食の発信」などのアイデアが出されました。

山下ふ頭へのアクセス

「海上交通」「路面電車」「電気自動車」「人力車」「空飛ぶ車」「ヘリポート」「歩車分離道路」「山下ふ頭から港の見える丘公園までロープウェイを通す」「山下公園や中華街からつながる散歩道」などのアイデアが出されました。

居住機能

居住機能について、「中低層の実験住宅」「世界町家」などで「外国人」の居住や「国際交流」を促進するアイデアや、「研究者の住まい」「学校と幼稚園」が必要との意見がありました。

スポーツ、防災機能のある公園

市民が日常的に利用できる公園について、「防災機能」「アーバンスポーツエリア」「ランニングステーション」「足湯」「スケボー」「BMX」「3×3」「フットサル」「音楽フェス」などの利用に関するアイデアが出されました。

その他

「火葬場」「ロケ地、映画村」「古の街並み歴史を再現」「横浜の歴史テーマパーク」などの意見がありました。

ウ 第3回（6月18日）北部エリア（港北、緑、青葉、都筑）

① 内港地区の将来像

【内港地区の印象について】

内港地区のイメージとそれを裏付ける要素

「横浜の顔」「横浜のランドマーク」というイメージがあり、「海」「港」「開港の歴史」「文化」「景観」「街並み」といった要素がそれを裏付けています。それらを「美しい」「清潔感」「おしゃれ」「にぎやか」「新しさ」「フォトジェニック」などで表現する一方、「商業施設ばかり」「ナイトタイムエコノミーが弱い」「建物で海が見えない」「調和のとれない建物がある」などの意見がありました。

市民と内港地区の距離感

「歩きやすい」「親しみが持てる」「住みやすそう」「大きな公園」という意見がある反面、「買い物」「治安」などの視点では不満に関する意見がありました。また、「プロスポーツチームが多い」という横浜のイメージがありつつも、内港地区には「市民利用施設」「スポーツに関する施設」が少ないといった意見もありました。

地区ごとのイメージ

「瑞穂ふ頭」「大黒ふ頭」を指して「エリア全体を活かせていない」、「鶴見」も内港地区の一部とする意見や、「地域の人流に差がある」「交通アクセスが悪い」といった一部地区のまちづくりへの不満に関する意見がありました。

その他

「内港地区に投資が偏りすぎている」「歴史の流れのまとまりがあまりわからない」「都市デザイン」「6大事業」などの意見がありました。

【これからのまちづくりへの期待、内港地区の将来像について】

サステイナブルなまちづくり

「最先端の技術」「経済発展とカーボンニュートラルの両立」「防災・減災」「グリーンインフラ」などによって、将来展望のある「サステイナブル」なまちづくりを進めたいという意見がありました。

国際交流、異文化交流

「地方から人が来れる」「海外からも人やお金が集まる」といった視点によって、「国際交流」「異文化交流」「日本の文化が感じられる」「文化やスポーツの発展に寄与する」「世界に誇れる」などの方向性に関する意見がありました。

チャレンジを応援、インキュベーション機能

「個人事業主」「中小企業」「若者」に対する「チャレンジを応援」「インキュベーション機能」によって、「活発なコミュニケーション」「地産地消」「多世代が楽しめる」「住みやすさ」を生むといった意見がありました。

緑、公園、エリアの連続性

「緑のネットワーク」「憩いの空間」「今ある景観を守る」などの視点とともに、「地区ごとの特色」を活かし「エリア全体の連続性」を求める意見がありました。

市民中心のまちづくり

「横浜の人が楽しめる、誇れる」「市民中心」のまちづくりを求める意見がありました。

② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ

【まちづくりの前提】

開発の考え方

「長期的な視点」「収益」「財源」「維持費、メンテナンス費用」をふまえた上で「部局横断的な取り組み」が必要との意見がありました。また、「現在のマスタープランは横浜らしさを感じられない」「PRが足りない」といった意見もありました。

横浜らしさ、ふ頭らしさを残す

「高い建物はここには要らない」「海から見た景観を守る」「商業施設もいらない」「使える建物を残す」といった意見があり、その上で「ふ頭の記憶を残す」「港らしさを残す」「港であることを想起させる」「横浜の個性がなくならないように」「強いコンテンツが必要」といった「100年後も残る」「オリジナリティ」「東京との差別化」「横浜のシンボル」「有名建築家の象徴的な建物」を求める意見がありました。

市民が使える、楽しめる

「市民の憩いの場」「開放的な場所」「地元の人と交流」「家族でも楽しめる」「市民が使うところを外部の人も観光の人も使える」といったイメージに加え、「市民が議論した歴史がわかるようにしたい」という意見もありました。

【まちづくりのテーマ】

持続可能なまち

「エネルギーの地産地消」「食べ物の自給自足」「循環型社会」「海洋ゴミへの取り組み」「生物多様性」「生態系に配慮」などによる「持続可能なまち」「カーボンニュートラル」を目指す意見がありました。

世界から注目される、先進的なまち

「歴史と観光を一緒にPR」「古いものを維持することに投資すべき」「水環境を活かす」などの取り組みに加え、「エンタメ、アート」「バーチャルとリアルの融合体験」「日本のコンテンツ（アニメなど）」「国際スポーツ大会」「F1」「宇宙港」「企業間の連携」「スマートシティの実験場」などによって、「世界から注目される」「最先端のイノベーション」を生むまちを目指すといった意見がありました。

次世代、市民のための取組

「親水空間」「防災・減災」「健康、ウォーカブル」「住みやすい」「福祉」「若者の仕事、起業、チャレンジの応援」「子供への投資」「市民向けの施設」「人材の育成」といった取組みによって次世代に繋がる、市民のためのまちづくりに繋がる等の意見がありました。

地域特性を活かす

「海中道路の整備」「緑と水際を活かす」「海辺と歴史の活用」「山下公園、港のみえる丘公園からの緑のつながり」「海洋関係の研究施設」など、地域特性を活かしたまちづくりに関する意見がありました。

③ 山下ふ頭にふさわしい導入機能

エネルギー循環、地産地消

「エネルギーの自給自足」「地産地消」「食の循環」の観点から、「風力、潮力」「再生可能エネ

ルギー、最新エネルギー供給の拠点」「科学技術で水を綺麗に」「循環が見える化」「エコな船や車しか入れない」「農園」「中学校給食センター」などのアイデアが出されました。

防災・減災機能

「災害時に対応できる」機能、施設について、「防災・減災を意識した緑」「グリーンインフラ」「防災型ドーム」「避難できる場所」「病院船の停泊」などのアイデアが出されました。

地区内の回遊、アクセス

地区内を「楽しく回遊できる」観点から、「自動運転バス」「シェアバイク」「歩車分離」「自動車専用レーン」「電動キックボード」「水辺の回遊コース、ウォーキングルート」「M a a Sによる移動の快適化」などのアイデアが出されました。また、山下ふ頭へのアクセスとして「水上交通」「船で羽田まで結ぶ」などの意見がありました。

滞在型リゾート施設、テーマパーク

居住・滞在の観点から、「滞在型のリゾート施設」「質が高く人が集まる魅力的なテーマパーク」「泊まれる美術館・泊まれる図書館」「スタジオ」「綺麗な夜景を楽しめるBAR」「アニメなどテーマのあるホテル」「海が見えるコテージ、浜辺」「温泉」「ライトアップ」「プロジェクションマッピング」「イルミネーション」などのアイデアが出されました。

その他

「チケットの発券所、科学館や博物館の入館情報がわかる場所」「博物館などの運営は市民が中心に」「インバウンドプラットホーム」「IT専門大学の誘致」「海洋研究、啓発の拠点」「地域通貨」などの意見がありました。

エ 第4回（6月26日）南部エリア（港南、磯子、金沢、戸塚、栄）

① 内港地区の将来像

【内港地区の印象について】

内港地区のイメージとそれを裏付ける要素

「横浜の顔」「ザ・ヨコハマ」というエリアであるとの認識で、「観光都市」「テーマパーク」「食」「フォトジェニック」「巡れる街」「洒落た街」「進取の気性がある」「インターナショナル」「ブランド力がある」「クリエイティブシティ」「歴史や文化の中心地」といったイメージがあり、「青い空と海」「富士山」「広々としてさわやか」「夜景」「東京にはない」などの魅力に関する意見があります。一方で「全体を一貫したイメージでは捉えられない」「内港地区って聞き慣れない」「まちづくりやイベントが散発点で連動性が少ない」などの意見もありました。

市民と内港地区の距離感

「人間味がない」「機械的な感じ」「外から来る人のための場所」「市民のためのエリアになっていない」という市民生活との隔たりを感じさせる意見があり、「スポーツができる場所が少ない」「水辺のアクセスは悪い」といった不満の声もありました。

地区ごとのイメージ

内港地区は複数の地区が混在している状況に対して、「地区によって印象が違う」「個性的な街がある」「オールドタウンとニュータウンが隣接」「多国籍」「貧富差」「多様な人種」「ダイバーシティ」といった意見の他、一部地区によっては「地域の特性が曖昧」「治安の悪さ」、「大黒ふ頭」「瑞穂ふ頭」について「馴染みにくい」といった意見がありました。

その他

「100年先の未来が見えない」「内港地区に投資が偏りすぎている」「変化し続ける柔軟性が不可欠」などのまちづくりに対する意見がありました。

【これからのまちづくりへの期待、内港地区の将来像について】

サステナブルなまちづくり

「ワークスタイルの変化」「ライフワークバランス」「人口減少」「脱炭素」「防災」などによって、「100年後を見据えた」「未来を開けるような」「SDGs」「持続可能」なまちづくりを進めたいという意見がありました。

実験都市、国際交流都市

「大学」「研究機関」の誘致による「実験都市」「スマートシティ」、「自国文化と異国文化の融合」「多様性」「共生」による「国際交流」などのまちづくりの方向性に関する意見がありました。

まちづくりのターゲット

「横浜で一泊したいと思えるコンテンツ」「観光」に力を入れることで「世界から日本に人が集まるハブ」「他都市との連携の中核」として「富裕層」を受け入れる、或いは「教育」「人を育てる」という視点で「将来のリーダー」「子育て世代」「子供」などに対するまちづくりに関する意見がありました。

その他

「内港地区の全体像を発信してほしい」「水上交通で結び一体感を」「大型開発は要らない」「季節の変化が感じられる」などの要望がありました。

② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ

【まちづくりの前提】

開発の考え方

「新しい歴史をつくる」「何かに特化したものが必要」「横浜のレガシーを残す」「ここにしかない、ここでしかできないこと」「ターゲットをはっきりさせる」「100年後に誇れるもの」といった考え方に関する意見がある一方、「大型の遊興施設は建ててほしくない」「商業施設はもういらぬ」「倉庫街の風景を残す」「物流機能を残す」「緑を連続させる」「大きな土地を切り刻まない」「市民も市と一緒にチャレンジする姿勢」などの意見がありました。

立地、敷地の特性

「広い敷地」「周りが海」という立地や敷地を活かす上で、「駐車場」「山下ふ頭駅」「海上アクセス」などを求める意見がありました。

市民が楽しめる

「市民のための」「市民が楽しむ」といった視点に対して、「そうすれば外からも人が来る」「ふ頭の奥にまで人が来るように強力なコンテンツが必要」「医療、福祉が重要なテーマ」「教育にもっとお金が使われるべき」「災害時にどこに逃げるべきか」といった意見がありました。

【まちづくりのテーマ】

先進性、創造性、チャレンジ精神

「サステナブル」「SDGs」「カーボンニュートラル」「DX」「スマートシティ」「実験都市」「研究都市」「循環都市」「未来発信都市」「未来につながる産業都市」の実現のために、「先進性」「新しいものに挑戦」「未来を創る」「変化や多様性を受け入れる」「インクルーシブ」「産業とエンタメの融合」「日本技術の継承」などの意見がありました。

交流・体験が生まれるまち

「多様な人が楽しめる」「異文化との交流」「市民が日常的に楽しめる」などの「交流・体験」の視点から、「産業、文化」を生む、「大学都市」にして「雇用」「活気」を生む、「居住できる場所」による「滞留・滞在」できる環境をつくるといった意見の他、「子供たちがいろいろ試せる」「アートで創造的な教育」などの意見がありました。

横浜の玄関口、フラッグシップタウン

「海と空に親しめる」「景観や都市デザインの模範」「陸と海の共存」「ノスタルジーを感じる」「ふ頭の機能を残す」などによって、「横浜の玄関口」「ゲートウェイ」「フラッグシップタウン」とする意見がありました。

③ 山下ふ頭にふさわしい導入機能

実験都市、クリエイティブシティ

「実験都市」「クリエイティブシティ」「(自由に実験ができる)フリータウン」「リサーチ&開発エリア」「未来への投資エリア」「未来のリーダー、子供たちを育てる」「人のイノベーション」といった観点から、「最先端テクノロジーが集積し、体験できる街」「外資系を誘致」「街を企業にレンタル」「横浜国大、横浜市大などの国公立大の誘致」「海洋教育スクール」「クリエイティブリユース施設」「再生可能エネルギー施設」などのアイデアが出されました。

災害時に対応できる機能

「災害時のエネルギー供給」「緊急時にインフラが集まっている場所」「海からの物資供給を受け取れる補給基地」「屋内スポーツ用アリーナ（災害時にも利用できる）」などのアイデアが出されました。

交通機能

「水上交通と陸上交通をつなぐ結節点」といった観点から、特に「海上からの交通アクセス」について「自動運転の水上バス」「高級プレジャーボード」「大型客船」「船を体験できる場」「マリーナ」「カヤック」といったアイデアの他、「駐車場の設置」「湾岸線との接続」「駅から大きな歩行者デッキでつなぐ」「ロープウェイ」「地区内で歩行者と車を分離」「バスタ横浜山下」「ヘリポート」「飛行場」「滑走路」「宇宙旅行の拠点（スペースポート）」などの意見がありました。

市民生活、健康、教育に寄与する施設、機能

市民生活に関する観点から、「健康、スポーツ」「医療補助を減らす」「長期の療養、養護施設」「マリンスポーツ」「何もない広場で、自由に遊ぶ」「ドッグパーク」「砂浜プール」「釣り」「森林公園」「砂浜、干潟」「ワーケーション施設」「eスポーツ、リアルとメタバース上のスポーツアリーナ」「ものづくりができる市民ギャラリー」「モダンアートの美術館」「海洋体験学校」「多様性の発信につながる多機能のトイレ」「ファーマーズマーケット」などのアイデアが出されました。

テーマパーク

多様なテーマパークのアイデアとして、「ポケモンランド」「ディズニーランドを誘致」「モナコのような街の中のサーキット」「日本技術の継承、“匠”の技を体感できる施設」「ボートシアター」「花火」「インフィニティプール」「球技専用の競技場（国際的な試合も誘致）」「大人も子供も学べる博物館」「映像スタジオ」「地域デジタル通貨」などのアイデアが出されました。

その他

「倉庫を活用し、市内の文化財の保全施設やSOHOに」「お金を生む施設（データセンターなど）」「内港物流機能を残す」などの意見がありました。

(2) 全4回の総括

全4回（計29グループ）の総評より、表題及び意見の内容が共通するものを、その内容が示す意味ごとに分類しました。その際に、話し合いのプロセスで重要とされた単語や、グループワークによる創造的な文節等を可能な限り抽出し、意見の傾向を可視化しました。

① 内港地区の将来像

【内港地区の印象】

「横浜の顔」と言えるエリア

共通認識	「横浜の顔」「横浜のランドマーク」「ザ・ヨコハマ」「憧れの場所」
共通認識を裏付ける要素	「海」「港」「開港の歴史」「文化」「景観」「街並み」「夜景」「進取の気性がある」「インターナショナル」「ブランド力がある」「クリエイティブシティ」「歴史や文化の中心地、入り口」「新旧が共存」「横浜ならではの食」「観光都市」「テーマパーク」「プロスポーツチームが多い」「雑多」「東京にはない」
共通認識に対して好意的、肯定的な形容	「美しい」「魅力的」「清潔感」「おしゃれ」「にぎやか」「新しさ」「エモーショナル」「インスタ映えする」「フォトジェニック」「ウォークブル」「開放的」「住みやすそう」
共通認識に対して問題視する形容	「一度行けば良い観光地」「人間味がない」「機械的」「活気が落ちている」「まちづくりやイベントが散発的で連動性が少ない」「商業施設ばかり」「ナイトタイムエコノミーが弱い」「市民利用施設、スポーツ施設が少ない」「良さが失われている」「建物で海が見えない」「調和のとれない建物がある」「水辺のアクセスが悪い」

市民生活との距離

市民生活との距離を感じさせる意見	「市民のためのエリアになっていない」「外から来る人のための場所」「来る人と住む人に溝」
------------------	---

地区ごとの個性と一体感

内港地区を構成する各地区のイメージ	「個性」「特徴がある」「色々な顔がある」「多国籍」「ダイバーシティ」
各地区に対して問題視する形容	「画一化している」「統一感、一体感がない」「エリア全体を活かせていない」「つながりが薄い」「地域の人流に差がある」「交通アクセスが悪い」
特定の地区に対して問題視する形容	「瑞穂ふ頭」「大黒ふ頭」「東神奈川臨海部」「鶴見」 「地域の特性が曖昧」「治安の悪さ」「馴染みにくい」

【内港地区の将来像】

国際交流・異文化交流

意識すべきこと、取組の方向性	「ハブ（スポーツ、文化、エンタメ）」「世界から日本に人が集まるハブ」 「観光に力を入れる」「富裕層の来街」「文化芸術を発信する場」「美術展覧会」 「国際色豊かな」「世界から注目される」「世界に誇れる」 「海外からも人やお金が集まる」 「日本の文化が感じられる」 「文化やスポーツの発展に寄与する」 「歴史を楽しむ、共有する」 「新旧の融合」 「横浜で一泊したいと思えるコンテンツ」 「他都市との連携の中核」
----------------	--

サステナブル

意識すべきこと、取組の方向性	「SDGs（エネルギー、脱炭素、環境）」 「防災」「防犯」「税金」「多様性」 「次世代コミュニティ」 「ワークスタイルの変化」 「ライフワークバランス」 「人口減少」 「100年後を見据えた」 「未来を開けるようなまちづくり」 「職住近接」 「グリーンインフラ」
----------------	--

先進性

意識すべきこと、取組の方向性	「最先端（医療、介護）」 「大学・研究機関の誘致」 「個人事業主」「中小企業」 「若者」の「チャレンジを応援」する 「インキュベーション機能」 「実験都市」 「新旧融合イノベーション」 「スマートシティ」 「チャレンジ精神」 「経済発展とカーボンニュートラルの両立」 「活発なコミュニケーション」
----------------	--

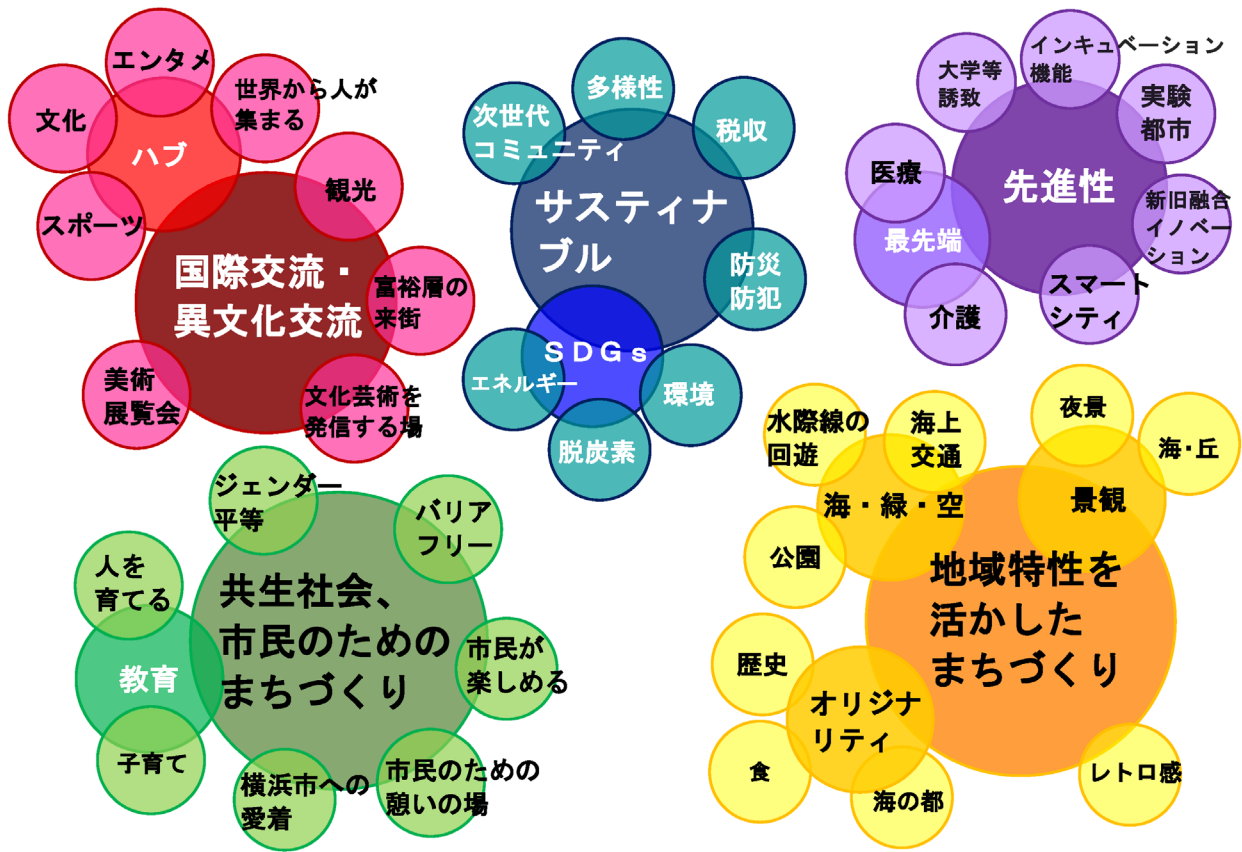
共生社会、市民のためのまちづくり

意識すべきこと、取組の方向性	「教育」「子育て」「人を育てる」 「ジェンダー平等」「バリアフリー」 「市民のための憩いの場」 「横浜への愛着」 「市民が楽しめる」 「ふれあう」 「人が住む」 「将来のリーダーを育てる」 「多様性」 「市民が近づきやすい」
----------------	---

地域特性を活かしたまちづくり

意識すべきこと（活かすべき魅力）、取組の方向性	「海」「緑」「空」 「海上交通」 「公園・緑のネットワーク」 「水際線の回遊」 「景観（夜景、海・丘）」 「オリジナリティ」 「歴史」「文化」「食」 「海の都」 「レトロ感」 「猥雑さ」 「世界を代表する港町」 「海の移動手段」 「海と陸をつなぐ」 「エリア全体の連続性」 「今ある景観を守る」 「憩いの空間をつくる」
-------------------------	--

【内港地区の将来像(概要)】



② 山下ふ頭のまちづくりのテーマ

【まちづくりの前提】

長期的な視野を持ったまちづくり

開発の考え方	「新しい歴史をつくる」「横浜のレガシーを残す」「100年後も残る」「東京との差別化」「整備されすぎない」「将来の余地も残す」「時代に応じて変化」「常に進化する」「一点に集中する」「狙いを絞る」「高層ビルは建てない」「使える建物を残す」「これまでの計画や経緯を踏まえて」「マスタープランやハーバーリゾート基本計画を発展」「市のしっかりしたイニシアチブ」「市民が議論した歴史がわかるようにしたい」
--------	--

【まちづくりの視点、テーマ】

シンボリックな空間の創造

意識すべきこと及び 取組の方向性	「ランドマークとなる建物」「フラグシップタウン」「世界に誇れる」「横浜らしさ」「ブランド力」「“世界一”のシンボル」「世界から注目される」「山下ふ頭らしさ」「オンリーワン」「都市間競争」「選ばれる都市」「横浜の玄関口」「ゲートウェイ」「フォトスポット」「総合エンターテイメントエリア」「スポーツ、イノベーション特区」「国際スポーツ大会」「eスポーツの甲子園」「アート」「日本のコンテンツ（アニメなど）の発信拠点」「F1開催」「宇宙港」
---------------------	---

歴史・文化を生かしたまちづくり

意識すべきこと及び 取組の方向性	「美術館・博物館」「アート」「横浜の歴史、横浜らしさ」「歴史を再現するまち」「既存施設を生かしたまちづくり」「開港当時の横浜を感じたり、体験できる」「歴史を楽しむ、共有する」「新旧の融合」などによって「イノベーション」を生むまちづくり「鉄道発祥の地」「日本、横浜文化の学びの場」「港の歴史やまちを案内できる起点」、「博物館など文化施設」「教育施設」「インバウンドの基地」「古民家の移築、再利用」「モダンアートの美術館」「歴史と観光を一緒にPR」
---------------------	--

サステイナブル

意識すべきこと及び 取組の方向性	「カーボンニュートラル」「健康的な暮らし」「エネルギー循環」「自給自足」「自然エネルギー」「自然環境に配慮」「循環型社会」「生物多様性」「SDGs」「変化や多様性を受け入れる」「世界水準の再生可能エネルギー地区」「エネルギーの地産地消」「食べ物の自給自足」「循環都市」「海洋ゴミへの取り組み」「防災・減災」「防災拠点、基地」「医療・福祉」
---------------------	---

市民のための再開発

意識すべきこと及び 取組の方向性	「スポーツ施設」「庭・丘・公園」「散歩、サイクリング」「滞在施設」「市民が日常的に楽しめる」「地元の人と交流」「家族でも楽しめる」「市民と観光客の共存」「落ち着いた街」「住みやすい街」「健康、ウォーカブル」「未病対策」「若者の仕事、起業、チャレンジの応援」「雇用・活気を生む」「居住できる場所」「モノではなくコト消費の場」「いつでも新しい発見や体験」「市民の憩いの場」「気軽に散歩できる」
---------------------	--

子育て・教育

意識すべきこと及び 取組の方向性	「生涯学習の場」「産学連携拠点」「学園都市」「子供たちがいろいろチャレンジできる」「日本、横浜文化の学びの場」「子供が楽しむ場」「まちづくりの主役は子供」「次世代の育成」「子供への投資」「未来への投資エリア」「未来のリーダー、子供たちを育てる」「先端技術拠点」「大人も子供も学べる博物館」「日本技術の継承、“匠”の技を体感できる施設」「ものづくりができる市民ギャラリー」「海洋体験学校」「モダンアートの美術館」「アートの力で創造的な教育」「日本、横浜文化の学びの場」「大学都市」
---------------------	---

財源・税収・収益

意識すべきこと及び 取組の方向性	「財源の制約も考慮」「財政的課題も考慮」「稼げる場」「観光や企業誘致」「税収、財源の減少」「人口減、少子高齢化」「収益」「もっと人を呼びたい」「メンテナンス、維持費の少ないもの」
---------------------	---

【その他】

その他特徴的かつ重要なテーマとして、次のものが挙げられます。

先進性、新たな産業の創造

意識すべきこと及び 取組の方向性	「最先端の技術」「チャレンジ性」「スマートシティ」「先取性」「スーパーシティ」「DX」「未来を創る」「クリエイティブシティ」「人のイノベーション」「実証実験の街」「(自由に実験ができる)フリータウン」「未来につながる産業都市」「他都市と連携した産業圏の形成」「メタバースとリアルとの結節点」「市民による社会実験の場」「インキュベーション機能」「企業間の連携」「最先端テクノロジーが集積し、体験できる街」「街を企業にレンタル」「産業とエンタメの融合」「みなとみらい2.2」「スタートアップ企業」
---------------------	--

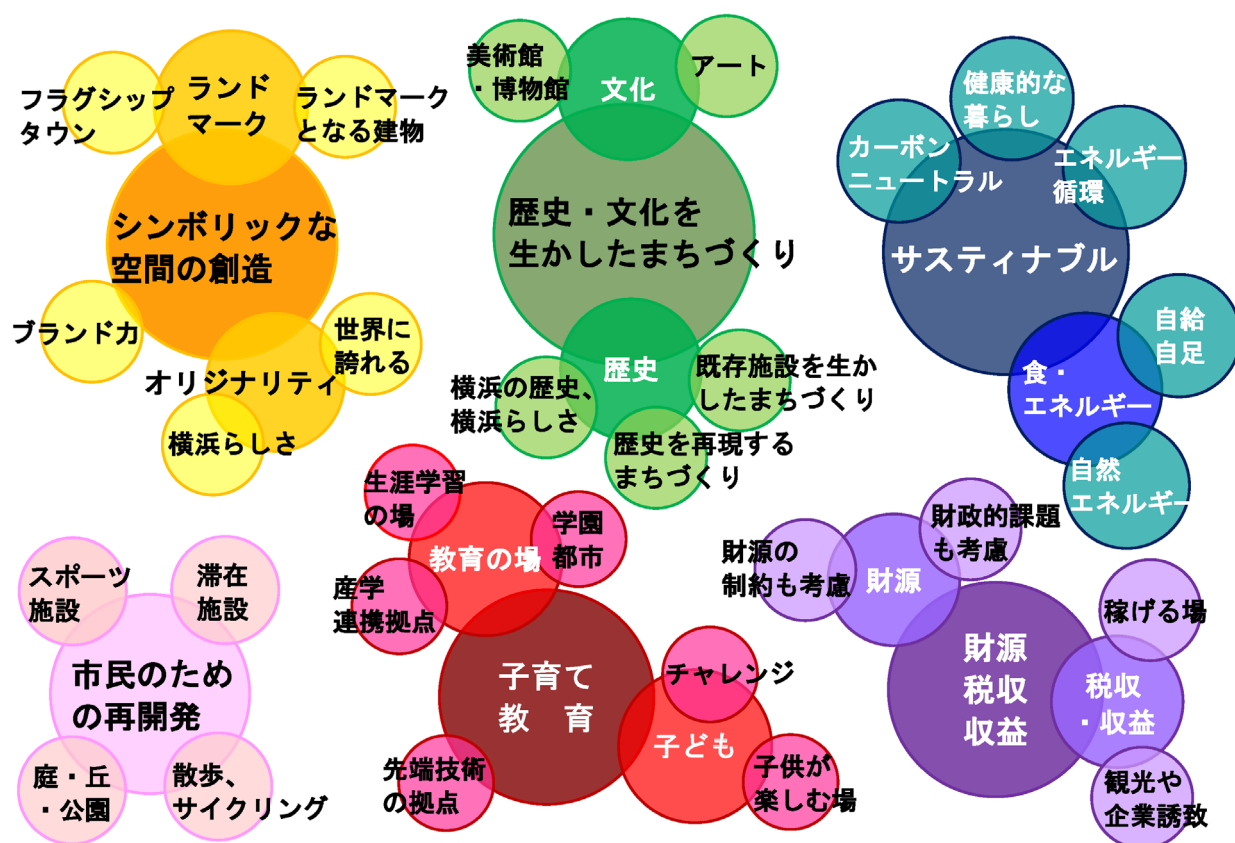
国際性

意識すべきこと及び 取組の方向性	「多文化」「多様性」「“飾る宝も入り来る港”（横浜市歌）」「国際交流都市」「多様な人が楽しめる」「異文化との交流」「外国人が住める」「外国人も利用しやすい」「世界町家」
---------------------	--

地域の特性を生かす

意識すべきこと及び 取組の方向性	「海、水辺」「陸と海の共存」「景観の魅力」「海と空に親しめる」「ノスタルジーを感じる」「内港地区をつなぐ拠点」「海辺と歴史の活用」「親水空間」「緑と水際を活かす」「山下公園、港のみえる丘公園からの緑のつながり」「海中道路の整備」「海洋関係の研究施設」「景観や都市デザインの模範となる」
---------------------	--

【まちづくりの視点、テーマ(概要)】



③ 山下ふ頭にふさわしい導入機能

【導入機能、施設のイメージ】

スポーツ

導入機能・施設のイメージ	「多機能スタジアム」「ドームスタジアム」「アーバンスポーツ」「マリンスポーツ」「eスポーツの拠点」「eスポーツ×サブカルチャーのメッカ」「リアルとメタバースのスポーツアリーナ」「球技専用の競技場（国際的な試合も誘致）」「フォーミュラーEの開催」「モナコのような街の中のサーキット」「F1開催」「マラソン」「サイクリング」「スケボー」「BMX」「3×3」「フットサル」「温泉」「足湯」「屋内スポーツ用アリーナ（災害時にも利用できる）」「スポーツを中心にした複合的な公園、浜」
--------------	--

エンターテイメント

導入機能・施設のイメージ	「フェス（音楽フェス、野外フェス）」「コンサート」「テーマパーク（世界に誇れる、スマートシティ、歴史）」「花火大会」「体験学習（サバイバル、防災）」「リアルとデジタルの接点」「ロケ地、映画村」「映像スタジオ」「古の街並み歴史を再現」「海が見えるコテージ、浜辺」 「サブカル、コンテンツ産業の聖地」「ポケモンランド」「ディズニーランドを誘致」「ボートシアター」「インフィニティプール」「横浜の食体験」 「アニメ」「ガンダムをシンボルに」「ライトアップ」「プロジェクションマッピング」「イルミネーション」「“赤い靴ふ頭”など、横浜らしい名称」
--------------	---

企業・大学・研究開発

導入機能・施設のイメージ	「開発特区」「最先端テクノロジー」「大学都市」「海洋研究、啓発の拠点」 「産業拠点」「最先端技術発信の場」「実験都市」「実験を行う機関のサテライトオフィス、大学の研究施設」「イノベーションセンター」「ドローン基地」「エネルギー関連産業」「再生可能エネルギー、最新エネルギー供給の拠点」「農園」「先端福祉・医療施設」 「横浜国大、横浜市大などの国公立大の誘致」「IT専門大学」「防災関連研究機関」「風力、潮力の利用」「海辺の環境づくりの実験的な取り組み」 「海洋教育スクール」「科学技術で水を綺麗に」「クリエイティブリユース」「循環が見える化」
--------------	--

公園

導入機能・施設のイメージ	<p>「サイクリングコース」「マラソンコース」「水辺の回遊コース、ウォーキングルート」「山下公園との連続性」「海水浴場」「憩いの場」「広場、デッキ」「市民が水に親しめる」「市民のための施設」「大きな公園」「何もない広場で、自由に遊ぶ」「エリア内を回遊できる」「ランニングステーション」「砂浜、干潟」「砂浜プール」「マリーナ」</p> <p>「ファーマーズマーケット」「船を体験できる場」「ドッグパーク」「リトリート施設」「多様性の発信につながる多機能のトイレ」「セルフメデュケーションサポート施設」「釣り」</p>
--------------	---

交通

導入機能・施設のイメージ	<p>「モノレール」「空中交通」「市電」「交通網の充実」「地区内循環」「水中通路」「水上交通と陸上交通をつなぐ結節点」「湾岸線との接続」「バスタ横浜山下」「駐車場」「歩車分離道路」</p> <p>「海上交通」「自動運転バス」「シェアバイク」「電動キックボード」「自動運転の水上バス」「市電」「L R T」「路面電車」「電気自動車」「人力車」「空飛ぶ車」「ヘリポート」「飛行場」「滑走路」「宇宙旅行の拠点（スペースポート）」「エコな船や車しか入れない」「M a a Sによる移動の快適化」「船で羽田まで結ぶ」「高級プレジャーボード」「大型客船」「カヤック」</p> <p>「山下公園や中華街からつながる散歩道」「山下ふ頭から港の見える丘公園までロープウェイを通す」</p>
--------------	---

【その他】

その他特徴的かつ重要な機能として、次のものが挙げられます。

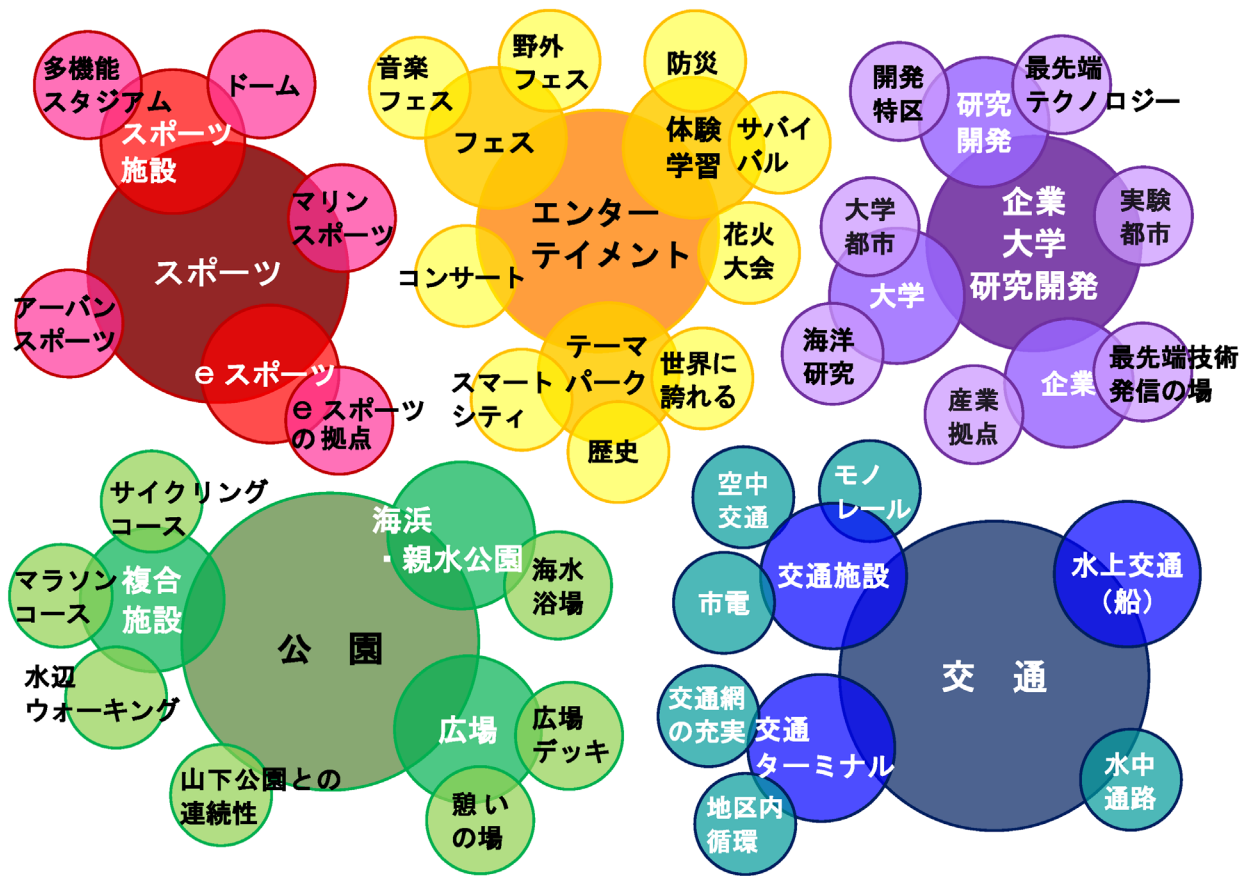
滞在・居住機能

導入機能・施設のイメージ	<p>「滞在型のリゾート施設」「泊まれる美術館・泊まれる図書館」「中低層の実験住宅」「世界町家」「研究者の住まい」「インバウンドプラットホーム」</p> <p>「ワーケーション施設」「倉庫を活用したSOHO」「綺麗な夜景を楽しむBAR」「アニメなどテーマのあるホテル」「学校と幼稚園」「火葬場」</p> <p>「エリア内NO現金」「地域通貨」</p>
--------------	---

防災機能

導入機能・施設のイメージ	<p>「グリーンインフラ」「防災ドーム」「災害時のエネルギー供給拠点」「緊急時に必要なインフラが集まっている」「海からの物資供給を受け取れる補給基地」「防災・減災を意識した緑」「避難できる場所」「病院船の停泊」</p>
--------------	---

【導入機能、施設のイメージ(概要)】



【ゾーニング空間】

特定の機能、施設を核とするアイデア

<p>ゾーニング・空間のイメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●エリア中央付近に世界一のシンボルを ●クルーズ船の船着き場から直結するM I C E・宿泊施設 ●海側にボルチモアのようなリゾート的街並みの高級住宅地、中央部に病院や福祉保健施設群、まち側に新山下側ともつながる水辺を楽しむ施設、ヨットハーバー ●山下ふ頭を、西側エリア（エンタメ・ゾーン）、中央エリア（交流ゾーン）、東側エリア（イノベーション・ゾーン）の3つにゾーニングする ●西側の突端に海を体験できる海浜公園（砂浜、博物館、水族館、海釣り）、東側の突端と南側の2箇所にはスポーツ施設（横浜はスポーツチームが多いのでそこを生かしてほしい）、中央の突端に横浜ブロードウェイ、その背後にホテル・レジデンス（アーティストが滞在するレジデンス）、本牧ふ頭側に横浜の歴史、ふ頭だった記憶が感じられるような博物館 ●エリアの中心部に飲食・お土産（横浜発祥の食が楽しめる） ●居住のできる複合的な場、滞在型のリゾート施設をエリア中央に ●ディズニーランドを核として、ドームスタジアムを付随施設とする ●オリジナリティのある、シンボルとなる建物（海中にビルを建ててふ頭とつなげる） ●北側にスタジアムを中心にした複合コンプレックス（ホテル、ショッピング施設、アーバンスポーツ、砂浜プールなど）、南側に市民のための健康・医療・福祉拠点、東側に駐車場 ●地区中央にリサーチ&ディベロップメントエリア、研究施設を丘にする（防災上も有利、牧場があっても面白い） ●大型の複合施設だけじゃない、公園や研究施設などいろんなエリア、機能があるとよい（緑地、研究施設、著名建築家による建物、ものづくりエリア、子供広場、国際大学など）
----------------------	---

公園などオープンスペースを軸とするアイデア

<p>ゾーニング・空間のイメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●外周に散歩、ジョギング、サイクリング、ドッグランのルート ●ふ頭のフリンジを全てオープンな広場に（レンタサイクルで気軽に周遊、EVで移動、突端には温泉や砂浜があると良い） ●地下に防災拠点、上は何もない公園（イベントができる） ●エリア中央に広い公園（野外映画、サイクリング、ドッグラン、グランピング、キャンプ、ヨガ、野外ライブ、3on3のバスケットコート、アートの発表） ●山下公園にビーチができると良い ●全体に緑が広がる場所に ●公園を中心にするのではなく、施設の間をつないでいくように配する
----------------------	--

ふ頭の形状に着目するアイデア

ゾーニング・ 空間のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ● 3つの突端をつなぐ跳ね橋を整備（くぼんだ所は海水浴場に） ● 海側の回遊性を上げるために先端の凹んだところを埋め立てる ● 街を見渡すビューポイントをつくる ● 自動車からつながるプロムナードの延長、山下公園とL字型にふ頭が つながる緑地 ● フォトスポットをふ頭先端部につくる。少し高台みたいにして ● ふ頭の突端、Eの字を活かして水上からのアクセスや景観をつくる ● ふ頭の先端は海から来る人のための施設とする ● ふ頭の間（山下公園の付け根）に航路を設け、カヤックなどが通れるよ うにする（橋は2ヶ所程度必要） ● 海底に大さん橋まで通じる散策路を整備
-------------------	---

景観や周辺地域との連続性を重視するアイデア

ゾーニング・ 空間のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ● 突端から山下公園側は公園的な利用を（倉庫を一部残して使う） ● 山下公園からの入り口が大事（入りやすいイメージを） ● 山下公園側の水際は、特に緑濃いゾーンに ● 山下公園からの連続、ビューポイント ● 山下公園との繋がりを意識する ● 丘から海への緑と景観づくり（西側の水際は山下公園からつながる緑、 海から丘の方に高くなっていく建物のイメージ） ● マリントワーから見下ろした景色を意識する ● 元町側からの入り口部分の雰囲気づくり
-------------------	---

第 3 章 事業者提案募集結果

1 事業者提案募集結果の概要

(1) 目的

本市では、横浜港港湾計画改訂に向けて、内港地区の将来像の検討を行うとともに、それを踏まえて山下ふ頭再開発の新たな事業計画策定を進めていくこととしました。

この事業者提案は、内港地区の将来像や山下ふ頭再開発（特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律によるものを除く。）のコンセプト、土地利用のイメージ、想定する導入施設、開発の事業性等を具体的にお示しいただき、本市と対話を行いながら、港湾計画の改訂内容、山下ふ頭再開発の新たな事業計画に関する条件整理や事業の枠組み等の検討に活用していきます。

(2) スケジュール

登 録：令和3年12月23日（木）から令和4年5月31日（火）まで
提案書提出期限：令和4年6月30日（木）まで

(3) 提案項目

【内港地区】

① 内港地区の将来像

【山下ふ頭再開発】

② 開発コンセプト

③ 土地利用イメージ図

④ 想定する導入施設

⑤ 開発の事業性（投資見込み、収支計画の見通し、集客見通しなど）

⑥ その他のご意見・ご要望

(4) 提案件数

10件

(5) 提案事業者名（掲載は50音順）

・鹿島建設株式会社

・株式会社竹中工務店 横浜支店

・株式会社TERRAデザイン（代表法人）

グループ構成員：株式会社空間設計パートナーズ、万葉倶楽部株式会社

・横浜魚類株式会社（代表法人）

グループ構成員：金港青果株式会社、横浜魚市場卸協同組合、横浜市場冷蔵株式会社、
横浜中央卸売市場関連事業者協同組合、横浜中央市場青果卸協同組合、
横浜丸魚株式会社、横浜丸中青果株式会社

・一般社団法人横浜港ハーバーリゾート協会

・リスト株式会社（代表法人）

グループ構成員：株式会社ホテル、ニューグランド

※その他、4者については事業者名の公表を希望しませんでした。

(6) 令和4年8月29日公表内容

いただいた10件の提案のうち、イメージ図、開発コンセプト及び導入施設が提案され、事業者の承諾を得たものを掲載します。

ア 企業・大学等のイノベーション施設を中心とした提案



A案

(7) 開発コンセプト

『Civic Campus City』

(4) 導入施設

キャンパス型オフィス 93 万㎡
グローバル企業、研究機関、
大学等
中長期型滞在施設 16 万㎡
サービスアパートメント、
スポーツ・医療ツーリズム、
研修施設、研究者用滞在施設等
複合集客施設 6 万㎡
ホール・シアター、
ミュージアム、フードホール、
エンターテインメント施設
リゾート型滞在施設 5 万㎡
(200~300 室)
賑わい施設 4 万㎡ 商業、飲等

イ 大規模集客施設を中心とした提案



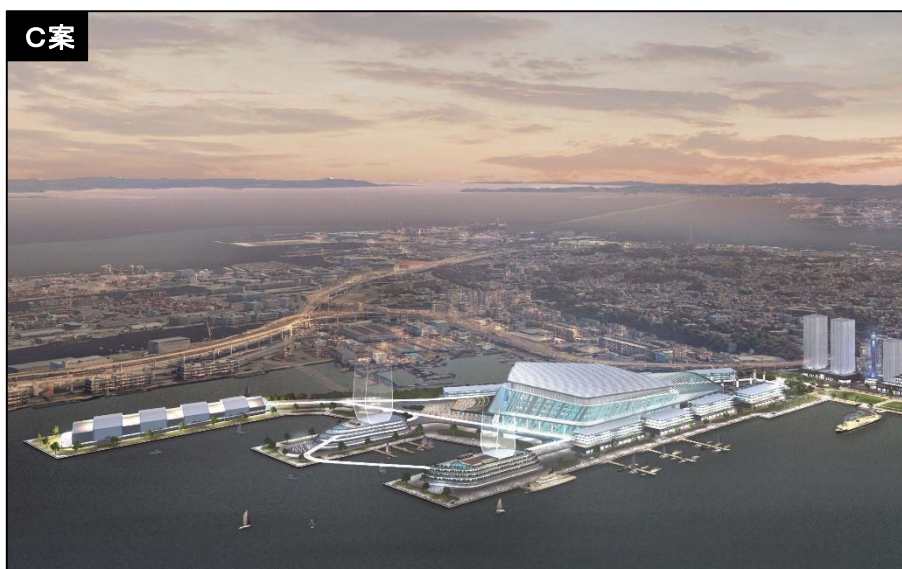
B案

(7) 開発コンセプト

『夢・希望・期待・楽しさを
抱ける場所』

(4) 導入施設

国際展示場 25 万㎡
コンサート・イベント会場
(7~8 万人収容)
SDGs・水素エネルギー施設
その他施設
次世代中長期滞在型宿泊施設
(7,000~10,000 室)
植物工場・生鮮食料品市場・
レストラン、給食センター、
F1、医療防災拠点、教育施設



C案

(7) 開発コンセプト

『周辺市街地の魅力向上を目指
した FUSION ISLAND』

(4) 導入施設

マルチアリーナ 12 万㎡
スポーツ、コンサート、
コンベンション等
ホテル 28 万㎡ (3,500 室)
商業施設等 13 万㎡
展示場・会議室 10 万㎡
客船ターミナル 1 万㎡
エネルギー施設 1 万㎡
歩行者デッキ 14 万㎡

ウ 緑を中心とした提案



(7) 開発コンセプト

『世界一の環境港湾都市
山下山～緑の山をつくる』

(イ) 導入施設

緑 28 万㎡

水素発電・浄化システム 7 万㎡

滞在・研修施設 9 万㎡

運動・健康施設 4 万㎡

水際線プロムナード 3 万㎡

客船ターミナル 5 万㎡

生態館 2 万㎡



(7) 開発コンセプト

『スマート・グリーンシティ型
開発』

(イ) 導入施設 (検討例)

エンターテイメント施設

海上一体型半屋外シアター、

水上ステージ、

全天候型プール等

フードマーケット

文化芸術施設

メディア芸術 (デジタルアート)

グローバル拠点施設

研究施設

海洋リサーチパーク

水産ガストロノミーセンター

開発の効果 ※提案のあったデータの範囲のみを掲載

投資見込み額	年間延べ来街者数	雇用者数
約 1,000～8,000 億円	約 530～4,500 万人	約 2.5～12.6 万人

開発に関する主なご意見等

ア 埠頭内だけでなく、周辺地区の開発促進やアクセス強化も必要である。

イ 段階的な開発の考え方も導入する必要がある。

ウ 整備における公民の役割分担の協議や行政による支援をお願いしたい。

2 事業者提案の内容

開発事業提案募集実施要領で求めた提案項目について、事業者の承諾を得た提案内容を

- (1)内港地区の将来像、及び、山下ふ頭再開発の開発コンセプトや土地利用イメージ図、
想定する導入施設 P. 205
- (2)山下ふ頭再開発に取り入れる視点 P. 247
- (3)開発の事業性 P. 254
- (4)市へのご意見ご要望 P. 255

にて取りまとめをしました。

なお、1 (6) の令和4年8月29日公表内容では、事業者提案における山下ふ頭再開発部分のみ結果概要として公表しています。

(1) 内港地区の将来像、及び、山下ふ頭再開発の開発コンセプトや土地利用イメージ図、 想定する導入施設

①「内港地区の将来像」

瑞穂ふ頭地区、東神奈川臨海部周辺地区、横浜駅周辺地区、みなとみらい21地区、関内・関外地区、大黒ふ頭（スカイウォーク周辺）地区などを対象とする内港地区の将来像の意見を募集しました。

内港地区の将来像については、開港以来、日本の新しい産業や文化を先導してきた横浜・内港地区の歴史をふまえ、周辺地区と連携した新たな賑わいやイノベーション創出による活性化、都市の魅力向上を目指すものなどがありました。

②山下ふ頭再開発の 「開発コンセプト」・「土地利用イメージ図」・「想定する導入施設」

山下ふ頭を対象に、開発コンセプト、土地利用イメージ図、想定する導入施設に関する意見を募集しました。

開発コンセプトについては、内港地区の将来像をふまえ、山下ふ頭での取り組みを内港地区へ波及させる視点や、「先進性」、「実証都市」をキーワードとしたエンターテインメント、芸術、環境をテーマとするものや、周辺地区との融合や人々の交流によるイノベーション創出、楽しさをテーマとするものがありました。

土地利用イメージ図については、水辺を活かした解放感のある内容、山下公園からの動線や緑の連続に配慮した内容などの提案や、都心臨海部の環境向上のため、山下ふ頭を緑で覆うという提案もありました。

A案－①、② P. 206

B案－①、② P. 213

C案－①、② P. 228

D案－①、② P. 230

E案－①、② P. 240

F案－①、② P. 242

G案－①、② P. 244

H案－①、② P. 245

A 案①内港地区の将来像

コンセプト：「グリーンイノベーション」を展開し、内港地区が持続的発展するイノベーションのサステナブルリングを形成

横浜開港(1859～) → 「開港場」から発展した産業・文化の発祥地
 ブルーイノベーション(1950頃～) → 製造業を中心とした産業立地
 ホワイトイノベーション(1983頃～) → 多様な都市機能と企業の研究開発拠点の集積

↓ いつの時代もイノベーションの舞台であった「内港地区」の歴史を継承・進化

グリーンイノベーション(2030～)への挑戦

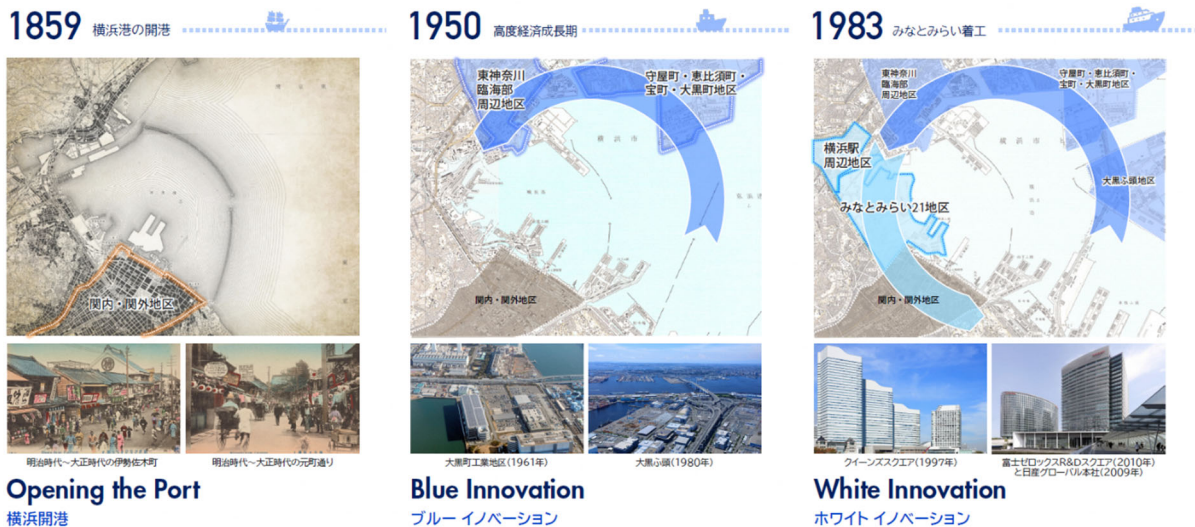
まちによって創出される新技術・新都市文化が、周辺のまちづくりへと展開・還元され、都市全体で次のイノベーションのリソースを育むしくみ

内港地区で目指すグリーンイノベーションとは？

- 企業と来街者の交流など、ソーシャルネットワークによるコラボレーション
- 観光要素を取り入れた新しいワークスタイル創出
- ESGへの意識の高まりに対応したビジネスの創出

イノベーションを生み出し続けるサステナブルリングの形成

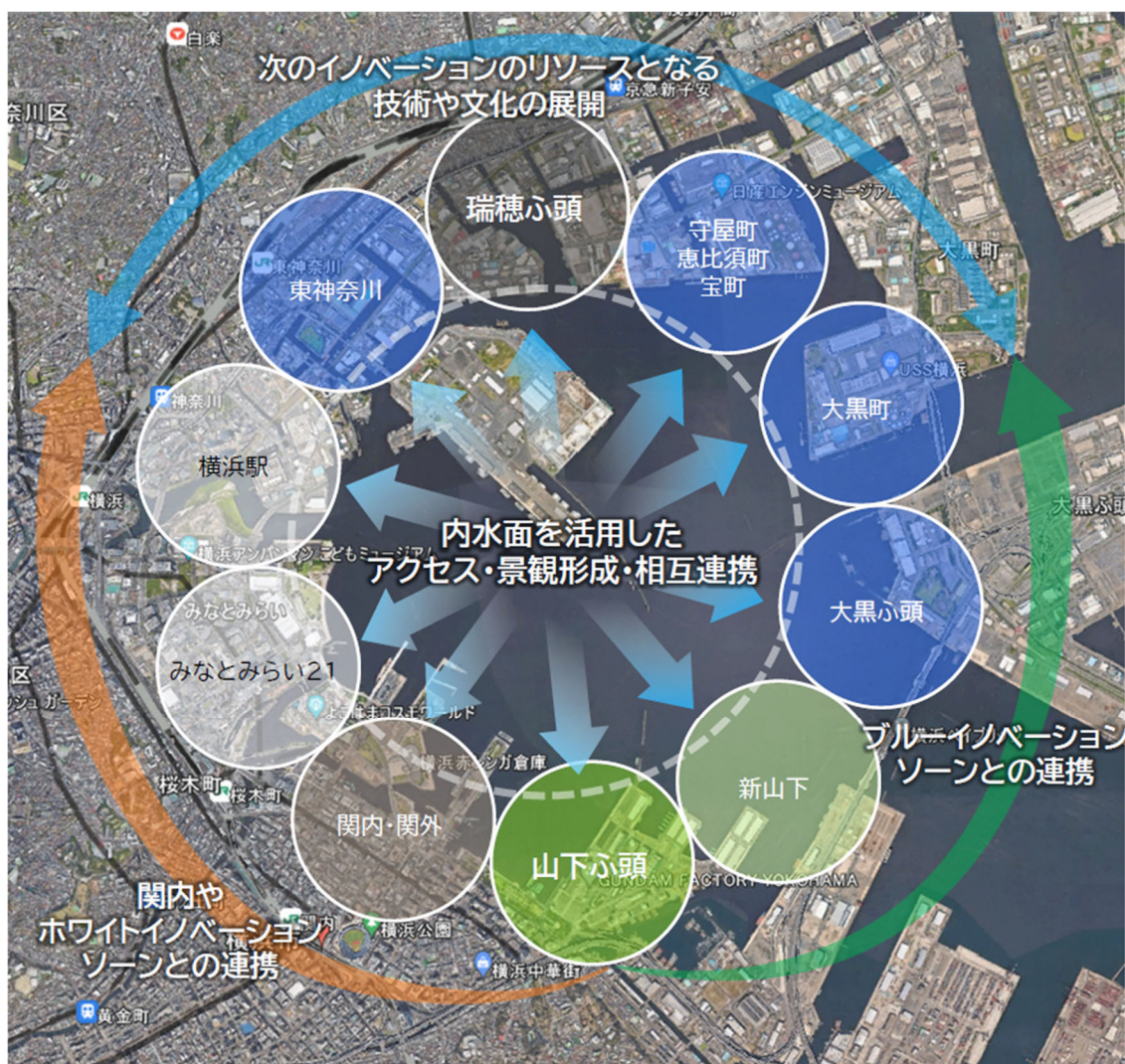
- 山下ふ頭だけでなく周辺のゾーンとの連携によるビジネス創出
- 内水面のアクセス整備や景観形成により、内港地区全体での連携を促進
- 次の時代のイノベーションにより、時代のニーズに応えながら持続的活動に発展



内港地区の持続的発展

イノベーションを生み出し続けるサステナブルリングの形成

- グリーンイノベーションによって育まれるソーシャルネットワークは、山下ふ頭内だけでなく、周辺のイノベーションゾーンとの連携によるビジネス創出(新しい製品やサービスの開発等)を引き起こします。
- 内港地区の各エリアがリング状に連なることで、前述の連携に加え、内水面を生かしたアクセス(水上交通)、横浜らしい景観(見る見られるの関係)を形成し、全体で次のイノベーションへと発展していく「サステナブルリング」を形成します。
- サステナブルリングは、次の色のイノベーション(瑞穂ふ頭とその周辺エリア)によって、時代と共にその輝きを持続的に変化させていきます。



A 案②山下ふ頭再開発の開発コンセプトや土地利用イメージ図、想定する導入施設 開発コンセプト：Civic Campus City

- ・内港地区が築いてきたモノづくりのプライドを継承し、市民と協働で次なる「横浜発祥」を生み出すイノベーションキャンパス
- ・広大な敷地規模を活かし、大学キャンパスのように敷地内の施設が有機的につながった構造とすることで、市民が入りやすく、事業の規模や変化に対応した、多様なイノベーションが自由な場所で展開される街づくりを目指します。

土地利用イメージ図



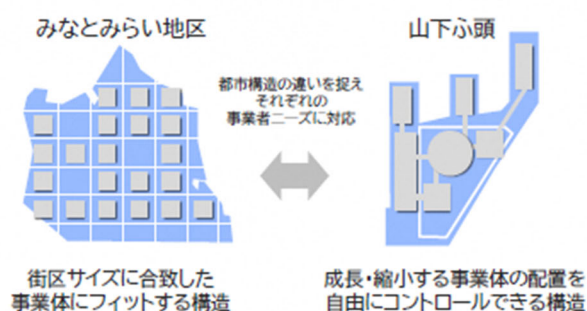
想定する導入施設

- ・キャンパス型オフィス・・930,000 m²
グローバル企業、研究機関、大学等
- ・中長期型滞在施設・・160,000 m²
サービスアパートメント、スポーツ・医療ツーリズム、
研究施設、研究者用滞在施設等
- ・複合集客施設・・60,000 m²
ホール・シアター、ミュージアム、フードホール、
エンターテイメント施設等
- ・リゾート型滞在施設（200～300室）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50,000 m²
- ・賑わい施設（商業・飲食等）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40,000 m²

Civic Campus City

山下ふ頭で実現するキャンパスとは？

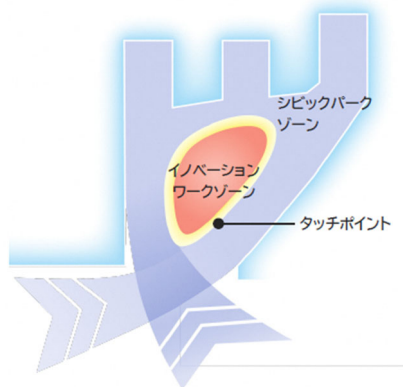
- 個々の活動が各敷地内で展開される一般のオフィス街に対し、山下ふ頭は広大な敷地規模を活かし、大学キャンパスのように敷地内の施設が有機的につながった構造とします。それにより市民が入りやすく、事業の規模や変化に対応した、多様なイノベーションが自由な場所で展開される街づくりを目指します。



市民協働の仕組みづくり

- 市民と企業の交流により、アイデアを高める場(=タッチポイント)を設置
- キャンパス全体で多様なサービスと商品開発を実証実験し、事業化を加速
- 交流をイノベーションへと導く組織づくり

土地利用イメージ図



- シビックパークゾーン(CP)**
- 市民や観光客が水辺を楽しみ、自由に出入りできるゾーン。集客・滞在の機能と連携したイノベティブなサービスも体験できる賑わい空間
- イノベーションワークゾーン(IW)**
- 市民との交流をヒントに新しいイノベーションを創出するキャンパス型オフィス
- タッチポイント**
- 新商品やサービスを発信し、市民と企業のインタラクティブな交流を促進する空間

シビックパークゾーン

開放的で未来的な賑わい溢れるパブリックスペース

未来的な賑わいを感じられるプロムナード



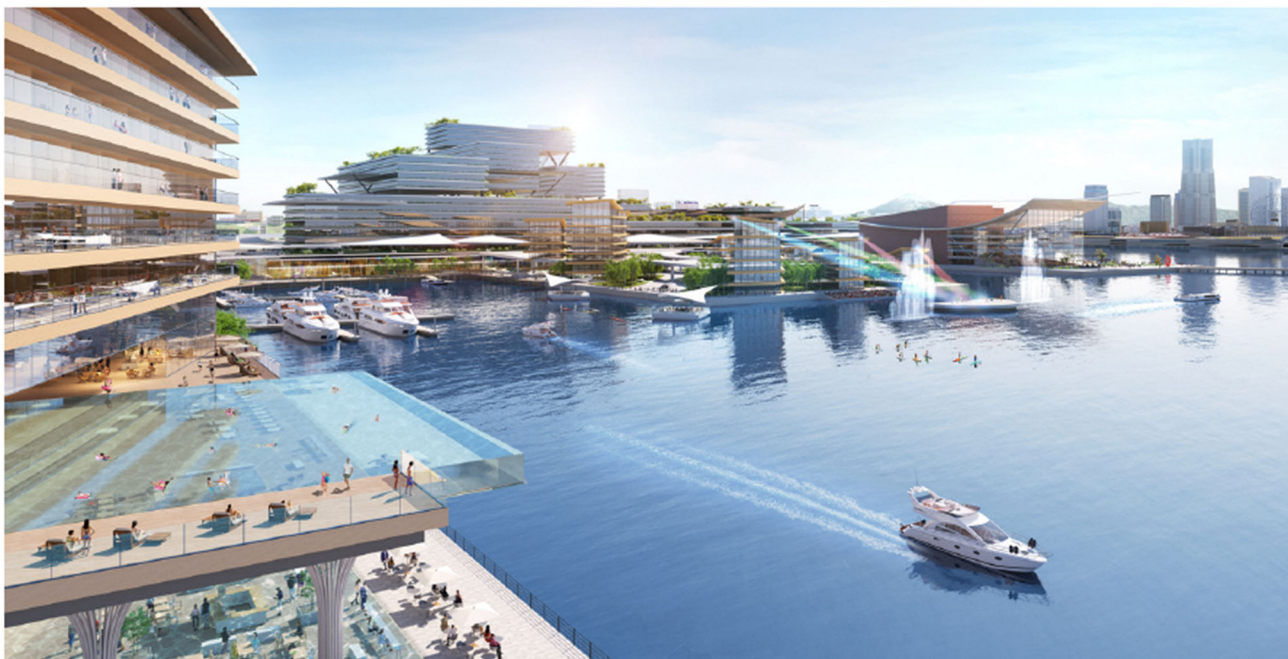
市街地とキャンパスが融合するゲート広場



文化・芸術の拠点となる大規模集客施設(突堤①)



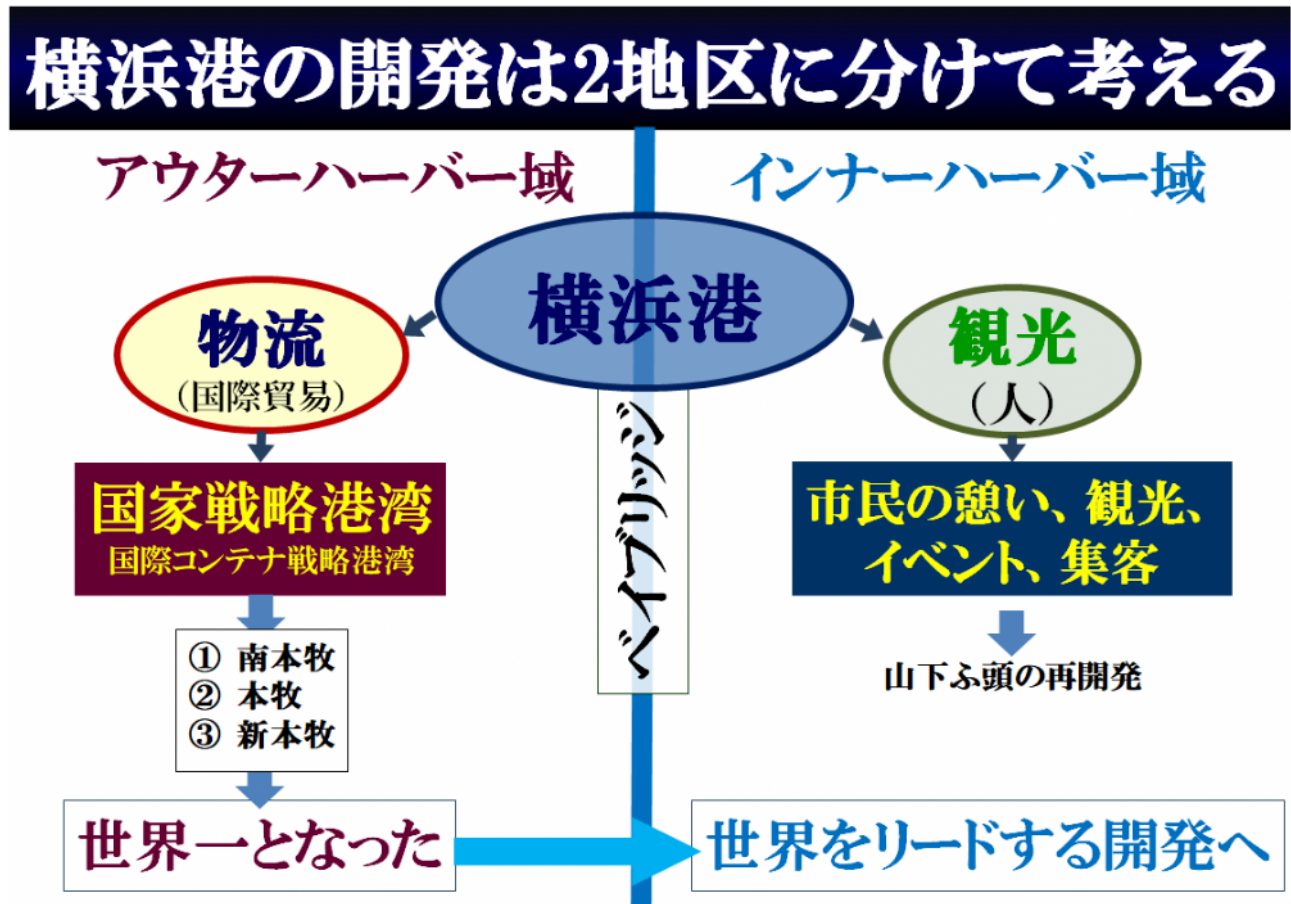
医療・健康・ウェルネスをテーマとしたリゾートエリア(突堤②③)



B案-①内港地区の将来像

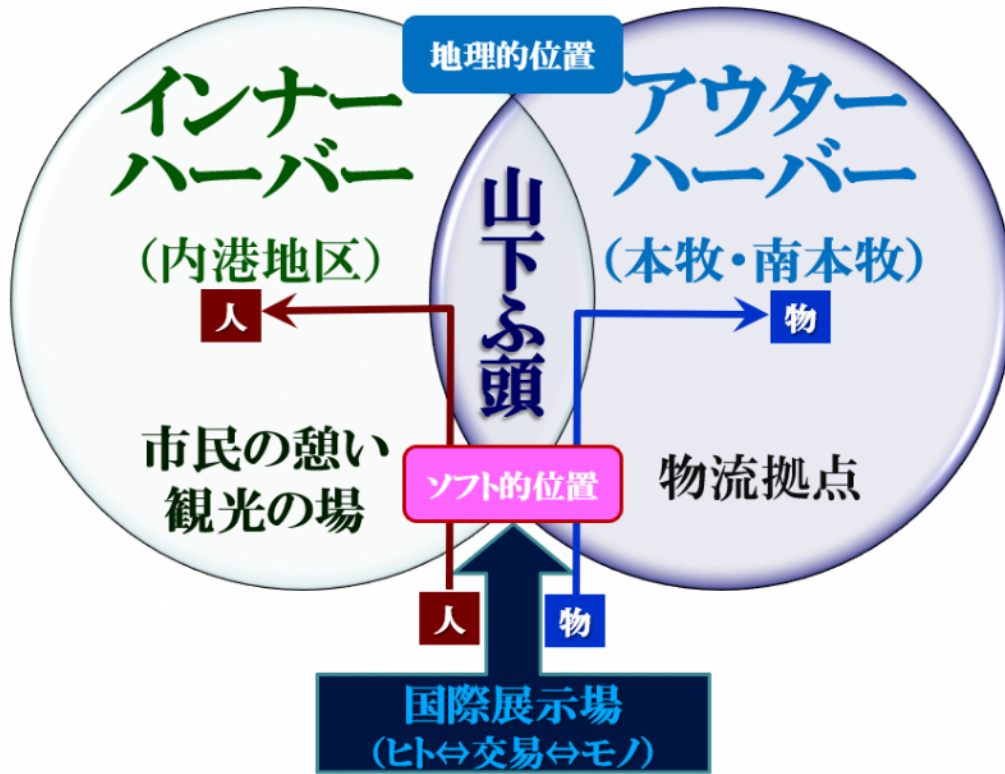
コンセプト：山下ふ頭が物・人の動く中心になることにより、内港地区に接する
横浜市内の各地の経済活性化につなげる

- ・山下ふ頭の再開発は、将来の日本と横浜港を見据えた開発になることが最も重要です。
- ・開発に携わる人は、歴史的使命感を持って、将来の横浜のため、自ら湧き出た地域愛や日本を愛する気持ちで山下ふ頭再開発のグランドデザインを描き、構想の実現を推進しなければなりません。
- ・横浜港は、ベイブリッジを境界に、インナーハーバー域とアウターハーバー域に分かれ、山下ふ頭は丁度その中間域（結節点）にあります。山下ふ頭の特異な立地性を活かし、世界最高水準の国際展示場とコンサート・スポーツイベント会場のハイブリッド型中核施設を導入することにより、インナーハーバー域では、国際見本市や各種イベントに参加、観戦するために、日本国内のみならず、世界中から多くの人々が山下ふ頭に集い、賑わう様になり、それに伴い、アウターハーバー域でも貿易・物流が活性化、トータルで横浜市の経済発展、税収増に寄与する好循環が生まれ、世界一魅力的、豊かで幸せな都市となる将来構想を提案します。
- ・山下ふ頭を訪れる人たちのための交通アクセスの利便性向上策として、山下ふ頭を中心に、横浜駅から港の見える丘公園付近までの隣接域をロープウェイや海上交通、陸上交通などで結びあうシームレスな交通網サービスの整備も肝要となります。



横浜港 臨海部の棲み分け

山下ふ頭は「地理的」にも「ソフト的」にも
展示場を設置する場として中間に位置し理想的立ち位置

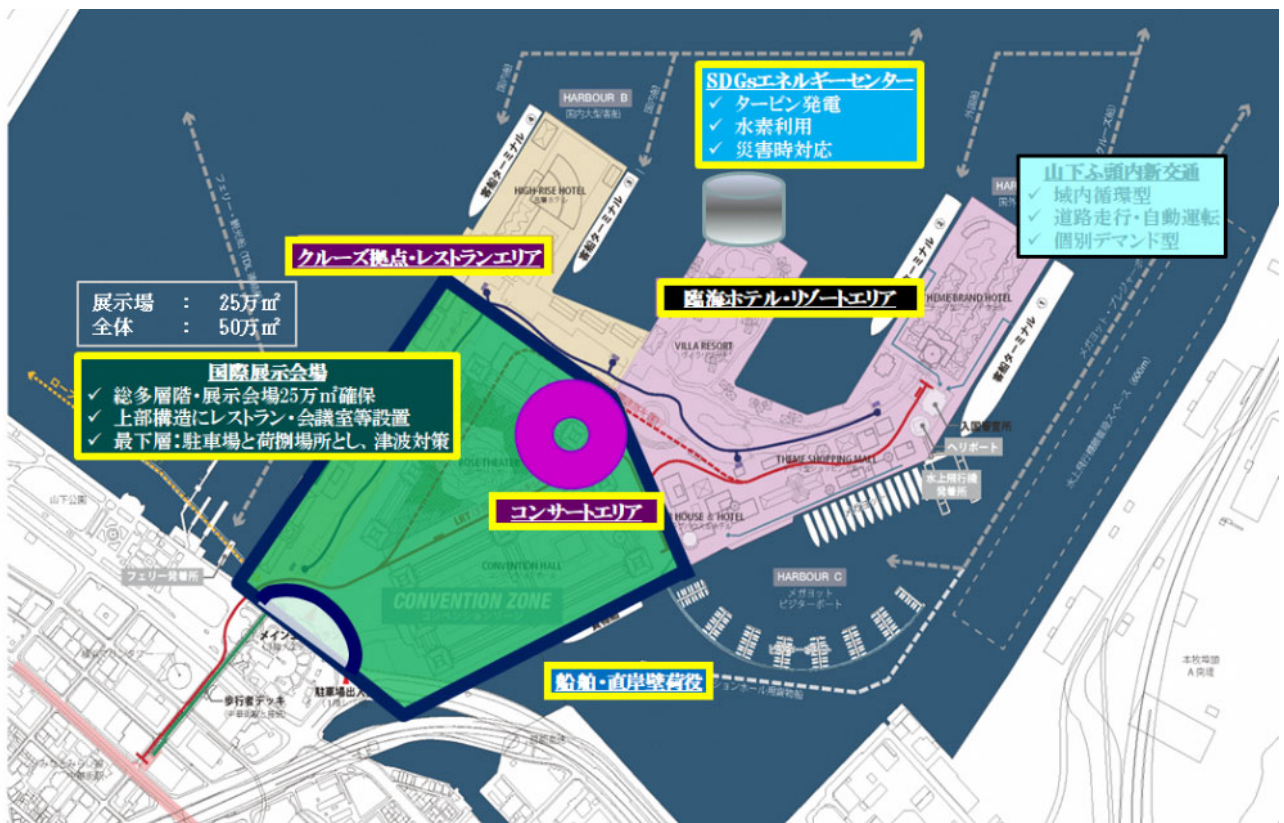


1

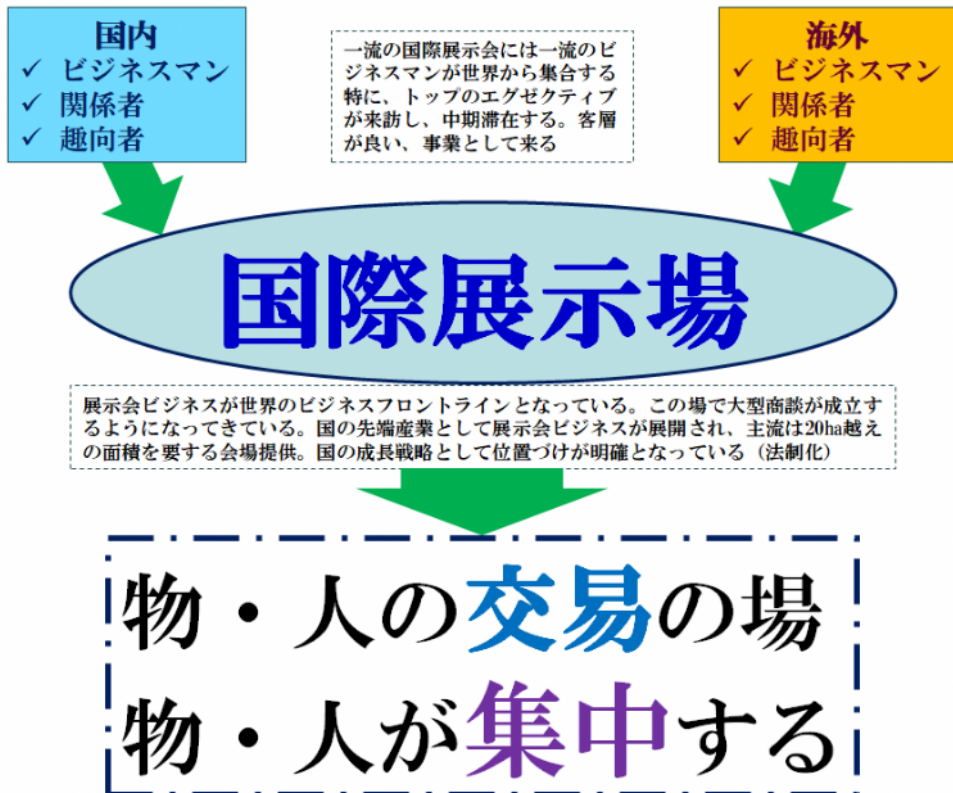


2



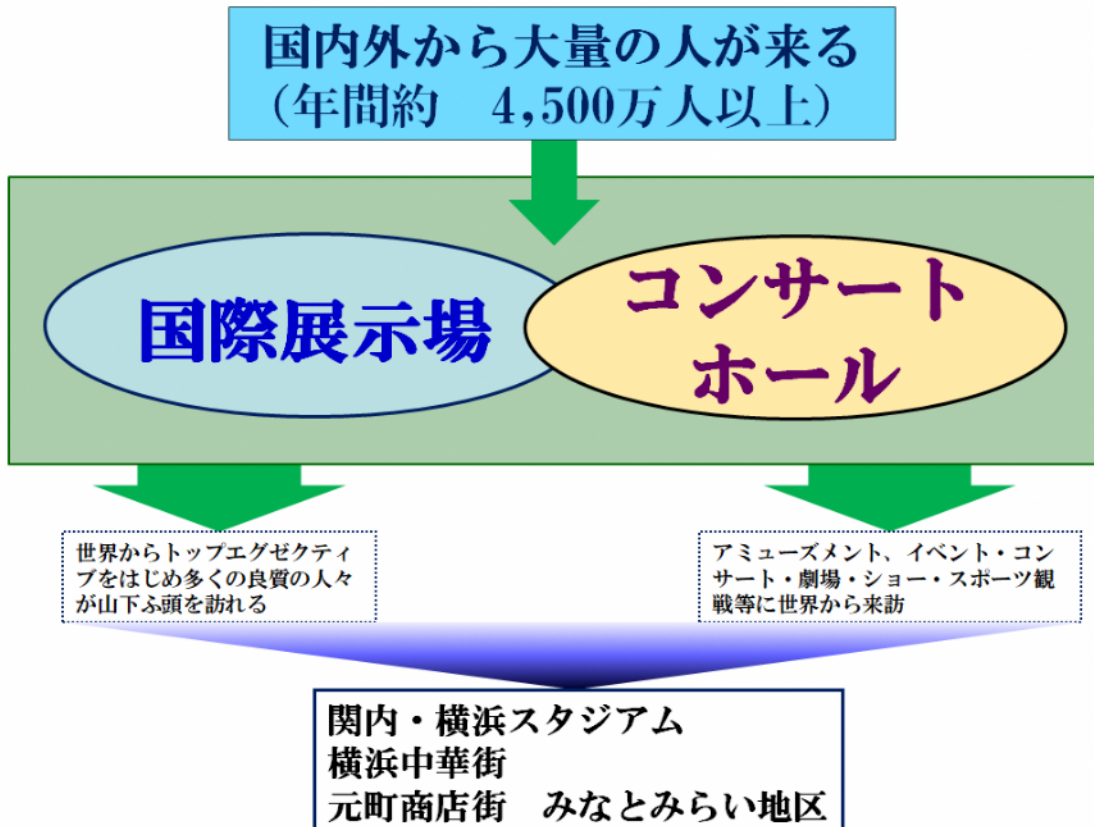


国際展示場を中核としたHRの展開



2

国際展示場を中核としたHRの展開



3



25万㎡

展示会場

15万㎡

駐車場

7万人
コンサート会場



見本市のアイデアは 無限

<見本市の例>

ボートショー (カリフォルニア/マイアミ)



国際 消防・救急展 (インディアナポリス)



国際 ワイン・洋酒展 (デュッセルドルフ)



クリーニング・衛生展 (シドニー)



出所: RX Japan株式会社資料より引用

12

B案②山下ふ頭再開発の開発コンセプトや土地利用イメージ図、想定する導入施設

- ・そもそも、何故、山下ふ頭を再開発する必要があるのでしょうか？ 安政6年の開港以来、163年の栄光の歴史を持つ横浜港、日本を代表する港です。従って、世界に対して恥ずかしい開発はできません。開発の根底となる観念として、「畏怖、誇り、尊厳、模範、牽引、先輩への尊敬など」が必要となってきます。この伝統ある横浜港で「博打場」など開帳してはダメなことくらいわかりそうなものでありますが、実際、IR・カジノ誘致をめぐる死闘が繰り広げられました。

安政6年開港以来の栄光の歴史 (畏怖、誇り、尊厳、模範、牽引、先輩への尊敬)

1858年7月29日 (安政5年6月19日) に締結された **日米修好通商条約** WIKIPEDIAから引用 に基づき

1859年7月1日 (安政6年) 開港 (武蔵国久良岐郡横浜村-横浜市中区関内付近)

生糸貿易の中心港として、発展してきた。

運上所 (税関) の沿岸に東西の波止場-象の鼻が設けられて貿易が始まった。

明治29年、**神戸港**は輸入港、**横浜港**は輸出港として東西日本を代表する港と格付けされた。

国際貿易港として **日本の近代化を牽引**した。

戦後、1950年 (昭和25年) 港湾法制定、**横浜市**が港湾管理者となり国営港湾から市営へとなった。

現在10ヶ所の埠頭と249のバース (岸壁) を有する。

外資コンテナ取扱個数は東京港に次ぐ国内第2位。

クルーズ客船も寄港数で2003年 (平成15年) に初めて国内港湾第1位となって以来、その地位を保っている

国土交通省より平成22年8月「国際コンテナ戦略港湾」に指定された。

1859年7月1日 (安政6年6月2日) 開港。「安政の開国」による開港五港。

金港 (きんこう) の美称を持つ。

関税法施行令上の開港で国際貿易港 (五大港)

日本三大貿易港に含まれる。

1

IR・カジノの蹉跌を顧みて

1. IR/カジノ: 邪悪、刑法違反、公序良俗に反する事業
2. そもそも、IR/カジノは事業性の検証がなされていない
3. 横浜市民の意見聞かずに開始
4. 山下ふ頭という日本の宝の場所を邪悪な地へ
5. 横浜港運協会から提出の再開発案を完全無視
6. 横浜の利権集団を闇で結集させた
7. トランプ・アデルソンの言いなり
8. 深い考えもせずに、ごり押しして進めた

※何故IR/カジノは廃絶されたのか究明しておく必要があり、IR推進した当事者ははじめをつけるべき

- ・横浜市の都市開発の歴史を振り返ると、みなとみらい地区では、ある程度の開発は行われ、知名度も上がり、集客性も上がりましたが、元来のあるべき姿からは程遠いものになっていると感じます。広域の都市開発は困難を極めますが、山下ふ頭は市街地区から切り離されており、一括開発可能な土地です。一括開発して統一的なトーンの開発の方向性が好ましいと考えます。みなとみらい開発案策定過程における八十島委員会の評価と虫食い状態に開発された結果（実態）を踏まえ、同じ轍を踏むことのなき様、大前提として、本来あるべき都市開発手法をゼロベースで検討する必要があります。

“みなとみらい”開発は不十分

- ◆ 乱立した施設
- ◆ 原案になかった方向へ、無節操な区割り
 - オフィス
 - マンション
 - 集客施設(温泉・遊園地・ラーメン・結婚式場等々)
- ◆ 都市づくりの哲学不在(公募・入札方式が悲劇を生む)
- ◆ 未だに虫食いの土地
- ◆ 臨海の利用無し(横浜の魅力半減) 横浜は港が発祥
横浜港ブランドを自ら放棄も同然
- ◆ 支える地域共同体・主体の不在 スイス・ツェルマットと対照的

委員会・公募・入札方式の弊害→山下ふ頭の再開発ではこのような方式を行わない

- ・具体的にどのような開発をすべきか？ この大きな課題に対応するには、先ず哲学的に考えることが重要となります。YHR は山下ふ頭再開発に際して「理性的に哲学する」（教育、経済、環境、科学、工業、政治、戦争など様々な要素について理性という観点で考える）ことを通じ、合理性を見出すことが重要と考えています。
- ・YHR が哲学的な検討を通じて導き出した開発の方向性、山下ふ頭再開発の目的は、「夢・希望・楽しさを託そう」ということであり、これを更に分解して、①健全（公序良俗・環境）、②子孫への遺産をしっかりと残す、③経済をしっかりとする、の3点を具体的な目標として掲げております。
- ・これらの目的・目標が実現できれば、山下ふ頭は自然と更なる高みへ進み、「山下ふ頭に行けば、探しているものを見出すことができるばかりではなく、偶然に素晴らしい幸運に巡り合い、予想外な発見ができる」、即ち、“Serendipity”を実現できる場を形成することが可能となります。

山下ふ頭の開発の在り方

理性的に哲学する

(政治・経済・科学など考慮して)



**いろいろな案をこれからも提案させて
頂き、横浜市民と一緒により良い案、
納得する案を作り、山下ふ頭の再開発
を推進して行きます**

7

(山下ふ頭再開発の考え方・哲学)

- ・夢・希望・期待・楽しさを抱ける場所
- ・安全・安心で、しかも人がたくさん来て遊べる場所
- ・伝統・文化を感じることのできる場所
- ・我が国らしい臨海部の先進事例となる場所
- ・製造国日本、最先端技術・科学を世界に知ってもらう場所
- ・新しい貿易の形態をとり続ける場所（横浜港らしさ）
- ・是非また来たい場所、付加価値を生む場所
- ・孫子に自信をもって行かせる、次世代につながる場所
- ・新たな横浜港・山下ふ頭ブランド・プライドの創生
- ・横浜市民が誇れる場所、市民に親しみ深い場所
- ・横浜市行政への健全な財務改善に寄与する場所
- ・環境に調和した憩いを感じられる場所
- ・意味・哲学を感じられる、深謀遠慮の場所

日本・横浜の“宝”大事に利用する

夢・希望・楽しさを
託そう

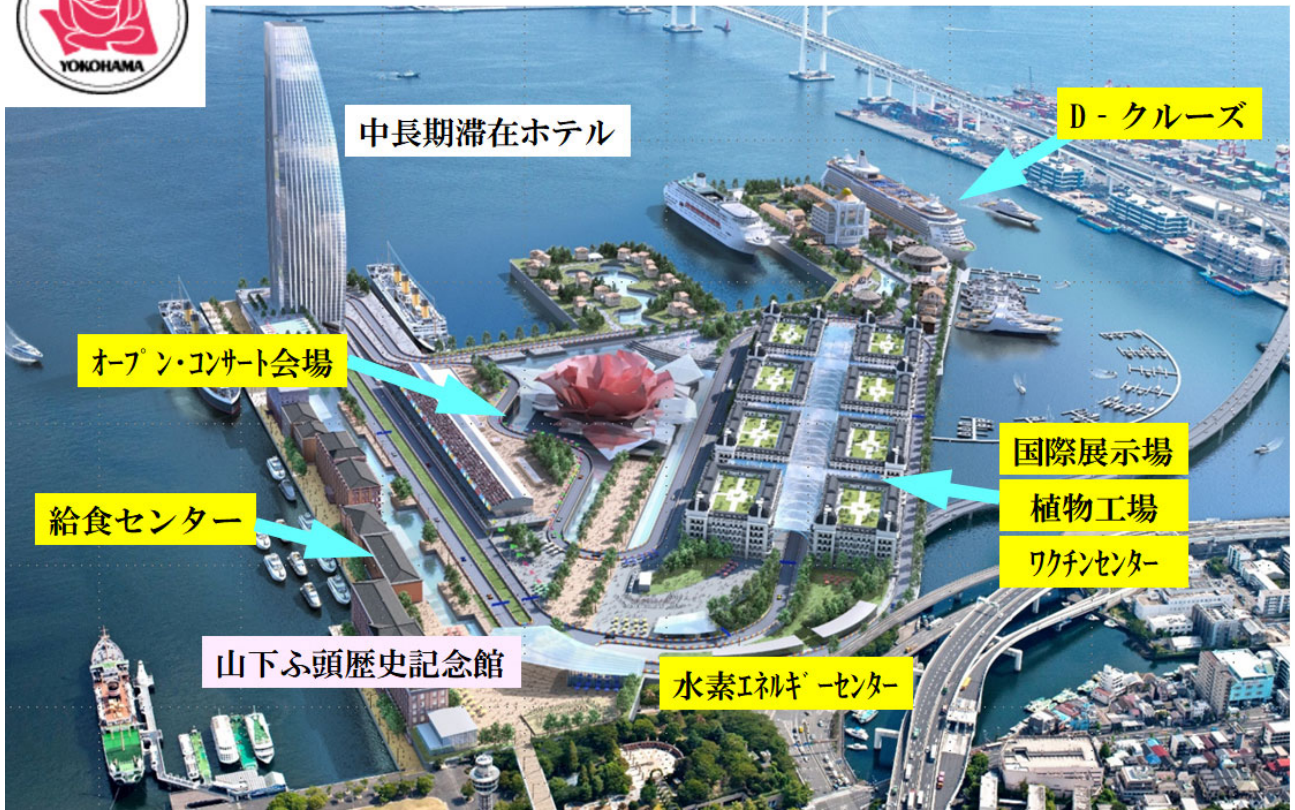
- 健全（公序良俗・環境）
- 子孫への遺産
- 経済をしっかりとる

山下ふ頭に来たら？

国際展示場・コンサート

別のものを探しているときに、偶然に素晴らしい幸運に巡り合ったり、素晴らしいものを発見したりすることのできる場所としたい

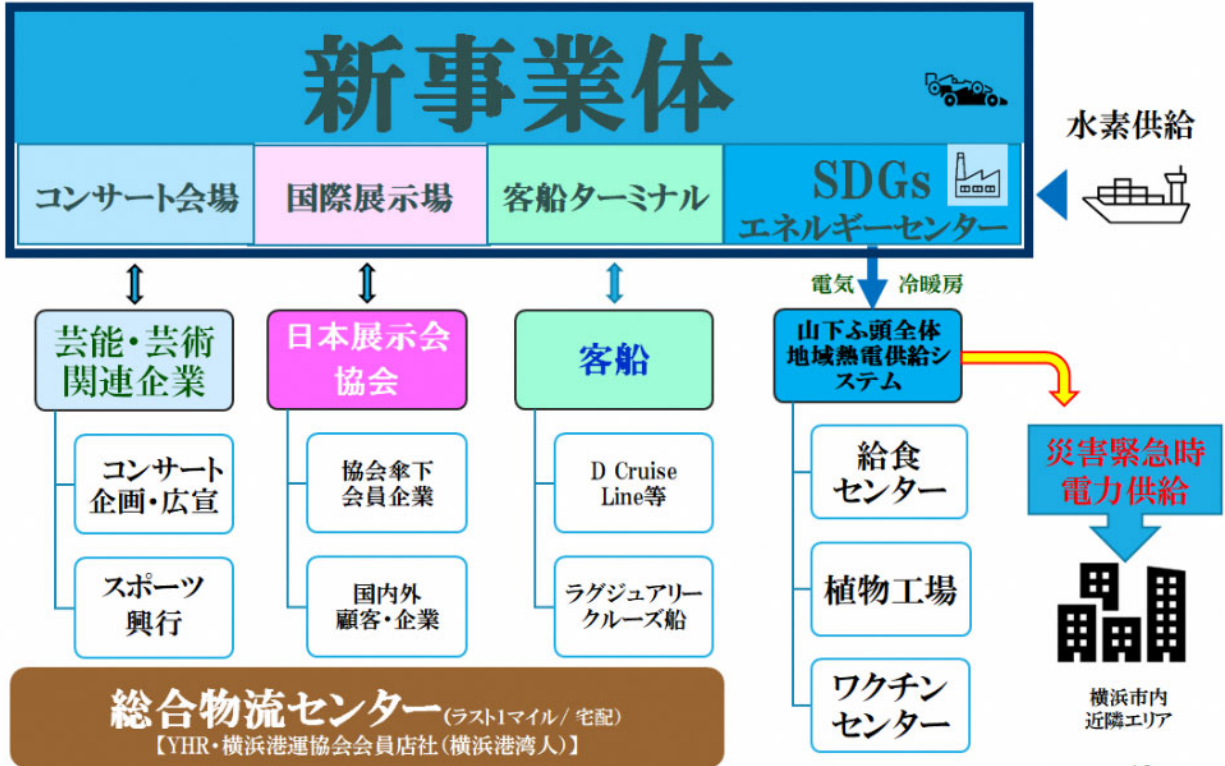
serendipity



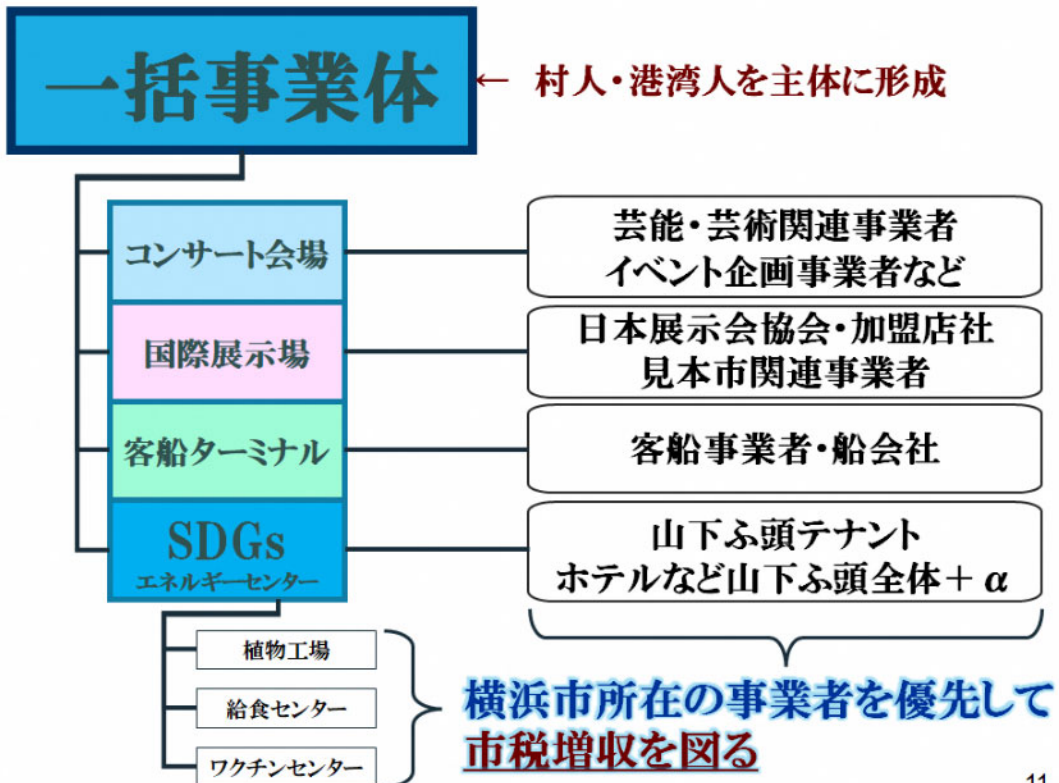
次世代中長期滞在型ホテル



YHR ビジネススキーム



山下ふ頭開発事業に関する事業者



【土地利用イメージ】

- ・世界中からの訪問客がエリア内で一日中楽しみ、リラックスできる空間を創造
- ・ビジネス客と帯同家族、夫々のニーズを満足できる展示場＋エンタメパッケージ
- ・港の眺望、コンサートや F1 など、部屋から直接楽しむことができる宿泊施設設計仕様
- ・港の歴史を学び、海に親しむことのできる公園、マリンアスレチック施設、季節感のある遊歩道
(雨天でも家族で楽しめる全天候型臨海公園)
- ・大型国際クルーズ客船ターミナルを整備

横浜発のオートレース創設(山下ふ頭コース)

- ☆ 将来に向け、日本が自動車立国を維持、発展させるPJT
- ☆ 横浜が当該レース発祥の地として国際的地位を確立する
- ☆ 日本の四輪・自動二輪メーカーとコラボ、事業主体を設立



通常は地下に格納し、
レース開催時にのみ
現れるビルトイン方式の
コースを設計・施工(案)

【導入施設】

- ・国際展示場……………250,000 m²
 - ・コンサート・イベント会場(7～8万人収容)
 - ・SDGs・水素エネルギー施設
 - ・その他施設
- 次世代中長期滞在型宿泊施設(7～10千室)
- 植物工場・生鮮食料品市場・レストラン、
給食センター、F1、医療防災拠点、教育施設

一体開発の具体的目標

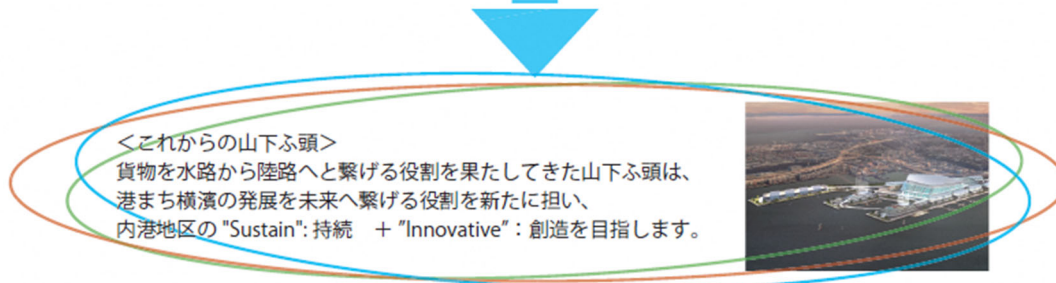
各施設	摘要	目標	単位
国際展示場	世界ランキング10位程度	25	万m ²
宿泊者数	展示会来訪者、コンサート、その他	300	万人/年
展示会来場者数	東京ビッグサイト実績 1400万人/年	4,000	万人/年
コンサート他	コンサート会場:7万人	1,000	万人/年
雇用者数		4	万人/年
	展示会	2	
	コンサートなど他施設	2	
直接経済効果	東京ビッグサイト オリンピック経済的損失額は概ね1～5兆円と試算	3	兆円/年
市税増収総額	IR/カジノの試算が 1,200億円/年程度	1,500	億円/年

C案-①内港地区の将来像

コンセプト：Sustainnovative Harbor ～イノベーションが持続する港まち～

(“Sustainnovative” = “Sustain”：持続 + “Innovative”：創造)

- ・横浜は、開港以来、新しい文化を受け入れ、独自の文化として昇華してきた歴史があります。この「独自文化への昇華」の取り組みは、“創造”として港全体に広がり、この港まちを持続的に発展させる原動力として脈々と受け継がれてきました。
- ・みなとみらい21地区は日本を代表する業務・商業・国際交流などの集積が図られ、関内地区はスタートアップ企業が集まり、両地区が互いに役割分担しながら発展していくことが予想されます。また、新港ふ頭や大さん橋は、港湾機能と市民が交流する貴重な観光資源として一層の賑わいが期待できます。これからの内港地区は、各エリアの特徴を活かしながら、業務・芸術・商業などのさまざまなチャレンジャーが世界へ羽ばたく“港まち横濱”として発展を続けます。



C案②山下ふ頭再開発の開発コンセプト

開発コンセプト：周辺市街地の魅力向上を目指して

～周辺環境、新たなテクノロジー、多様な文化等、エリアの魅力が繋がり、融合することで未来を感じるまち～

「山下ふ頭」を起点とした周辺地区との融合

FUSION ISLAND

「山下ふ頭」の周辺には、
山下公園、大さん橋、横浜中華街、元町・山手地区など、
横浜の歴史においても重要で魅力的な場所が多くあります。

横浜内港地区最大の余白である「山下ふ頭」では
“これまで培われてきた歴史・文化”
“新たなテクノロジーやサスティナビリティ”
“多様な人々と価値観”
を融合してイノベーションを起こし続け、
これからの内港地区や横浜全体を牽引する場所を目指します。

FUSION VALUE ①

これまで培われてきた歴史・文化

○ 歴史ある周辺エリアとの融合

内港地区と繋がり都心臨海部を発展させていくだけでなく、開港から紡がれてきた想いがある元町や横浜中華街や開内地区など、周辺のまちとの融合を図ることによって、エリア全体の更なる魅力向上を図ります。



○ 文化的な都市景観・自然との融合

時代の中で生まれた新旧のシンボルが建ち並ぶ内港地区の景観を継承しながら新たな港まち横浜のシンボルを生み出します。山下公園の緑と連続するイメージを創り、自然と人が憩い、集う場所となります。



FUSION VALUE ②

新たなテクノロジーやサスティナビリティ

○ 先進的なテクノロジーとの融合

豊かな環境と利便性を同時に享受するため、先進的なテクノロジーやAI、センシング、メタバース等を積極的に取り入れたまちづくりを進め、新しいテクノロジーがチャレンジできる環境を提供していきます。



○ エネルギー活用との融合

カーボンニュートラル・環境負荷軽減のため、エネルギーの効率化を図る設備や取組の充実、周辺エリアとのエネルギー連携などのテクノロジーを導入し、サスティナブルな社会に向けて行動していきます。



FUSION VALUE ③

多様な人々と価値観

○ 多様な人々との融合

多種多様な場所や施設を設置し、様々な目的を持った人々を横浜・日本・世界から迎え入れます。訪れた来街者にイノベーションが生まれる環境を創りだし、より大きなイノベーションへと成長させていきます。



○ 多様な価値観との融合

開港以来、多くの価値観を取り入れてきた風土を踏襲し、LGBTs や障がい者、国や人種や宗教、世代や趣味の枠を超えた様々な価値観を持つ人々を温かく受け入れることのできる環境づくりを行います。

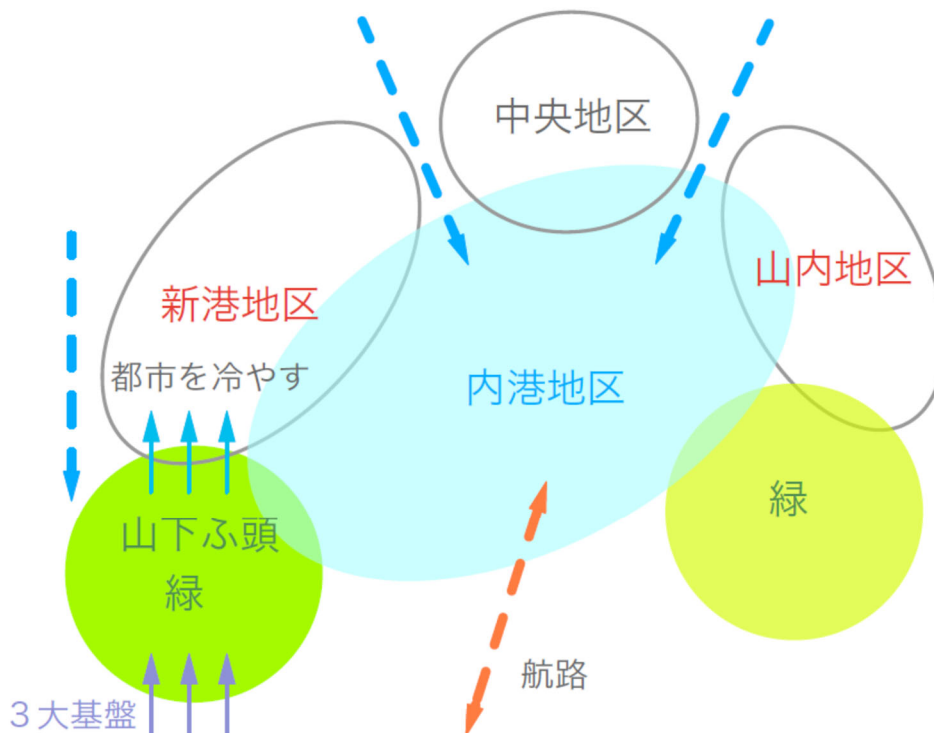


【FUSION VALUE】 → FUSION（融合）させることで魅力が向上し、横浜に根付く新たな価値

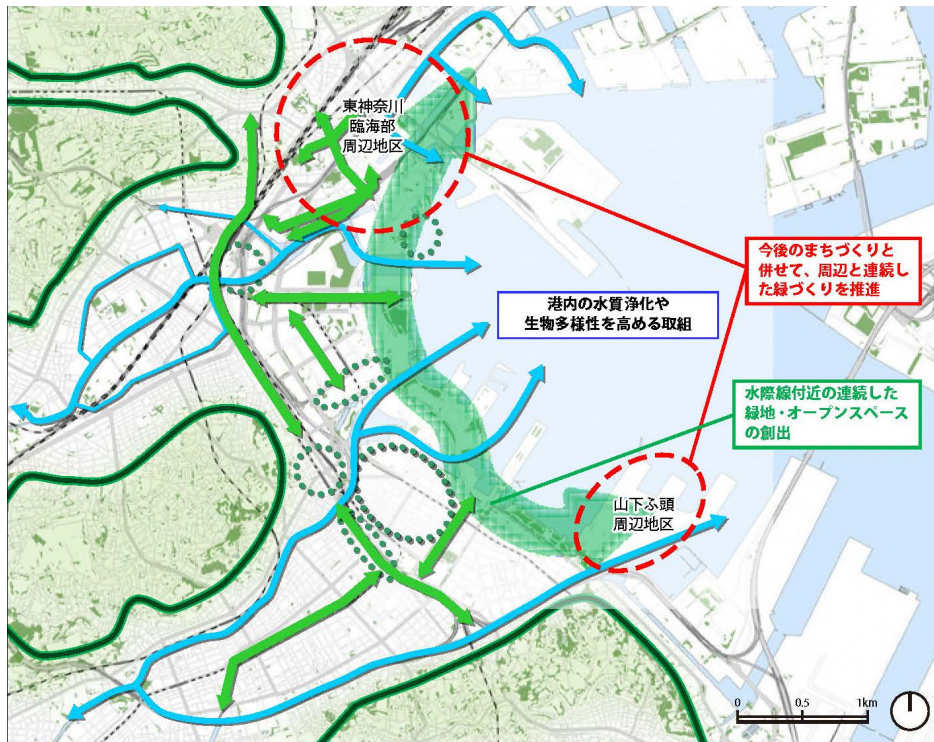
D案-①内港地区の将来像

コンセプト：横浜内港に世界一の環境港湾都市を創るために、都心臨海部を冷やす、きれいにする。また、各地区が歩行者ネットワークでつながり、それぞれの機能で連携し、魅力的な臨海部を形成する。

- ・都市全体の環境を良くするためには、緑が必要である。横浜港 湾岸の横浜駅周辺・関内、伊勢佐木長者町、阪東橋、吉野町周辺は緑被率 10%以下と低くヒートアイランド現象が起きていると推測される。
- ・山下ふ頭を緑被率 60%以上の①『緑の山』を作ること、海上から山下ふ頭への冷えた風が吹けば、大岡川・中村川と2つの川に挟まれていることもあり、関内・関外の気温低下が見込まれる。
横浜駅前地区は、帷子川（かたびらがわ）が中心地区に通っているため、②帷子川周辺の緑化が冷却効果を発揮すると考えられる。



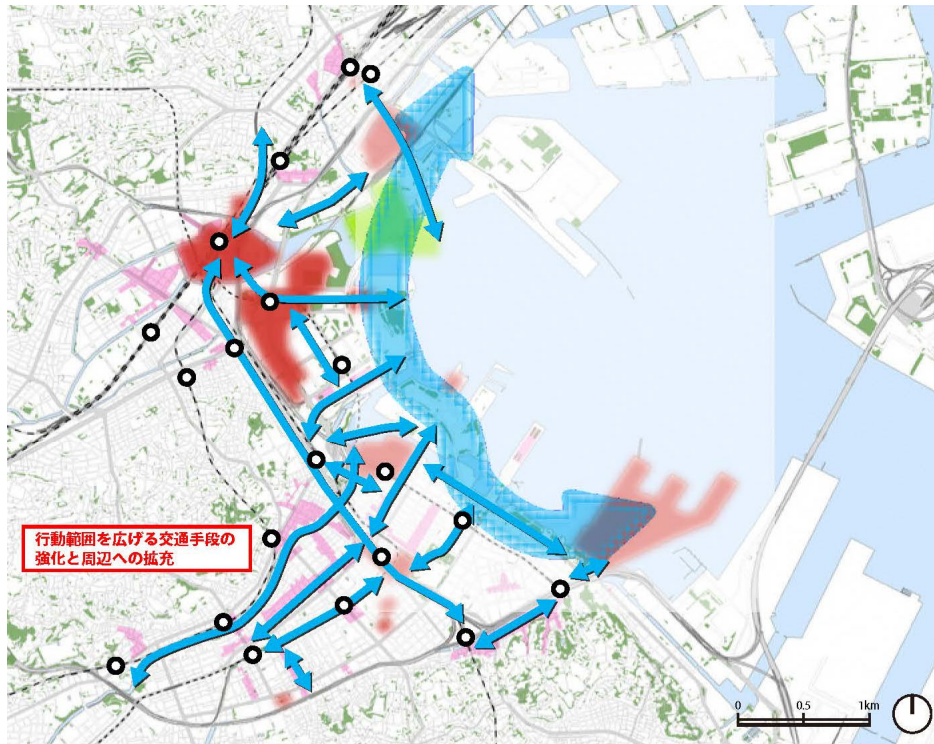
- ・豊かなコミュニケーションがあるというのが都市の基本である。都心臨海部の各地区が歩行者ネットワークでつながり、それぞれの機能で連携し一体のまちづくりを推進する必要がある。



凡例

【海を意識した水・緑・風の環境づくり】

- 水と緑の大景観づくり
- 積極的な緑づくり
- 緑の軸線
- まちづくりに併せて緑づくりを実施
- 斜面緑地
- 風の道・親水空間整備



凡例

【プロジェクト目標年次】

【回遊性を高めるネットワークの強化・拡充】

- 2025年
- 2050年
- 鉄道駅
- 商店街
- 海沿いの歩行者軸
- 地区内を回遊する歩行者軸

出典:横浜市都心臨海部再生マスタープラン 平成27年2月

D案②山下ふ頭再開発の開発コンセプトや土地利用イメージ図、想定する導入施設

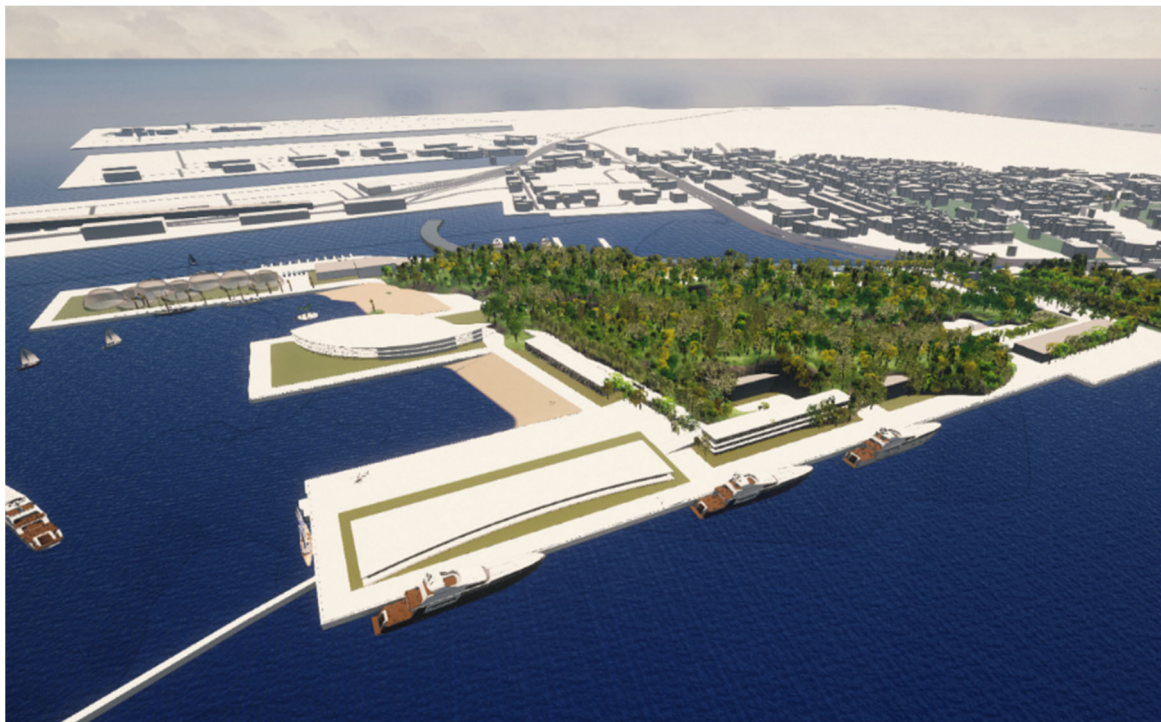
開発コンセプト：世界一の環境港湾都市 -山下山-

・・・横浜内港に緑の山をつくる・・・

- ・都市に大規模な緑が組み合わさることで、「人」・「都市」・「海」が活性化※され、新しい価値観が生まれる。最新のデジタル技術を駆使した、この試みは「新しい港湾都市のあり方」を探る社会実証にもなる。

- ※「人」： 緑の心地よさが人の感性を再生させる
- 「都市」： 緑の蒸散作用が都市をきれいにする
- 「海」： 緑の浄化作用が内港の生態系を生き返らせる

土地利用イメージ図



想定する導入施設

- ・緑・・ 280,000 m²
- ・水素発電・浄化システム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70,000 m²
- ・滞在・研究施設・・ 90,000 m²
- ・運動・健康施設・・ 40,000 m²
- ・水際線プロムナード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30,000 m²
- ・客船ターミナル・・ 50,000 m²
- ・生態館・・ 20,000 m²

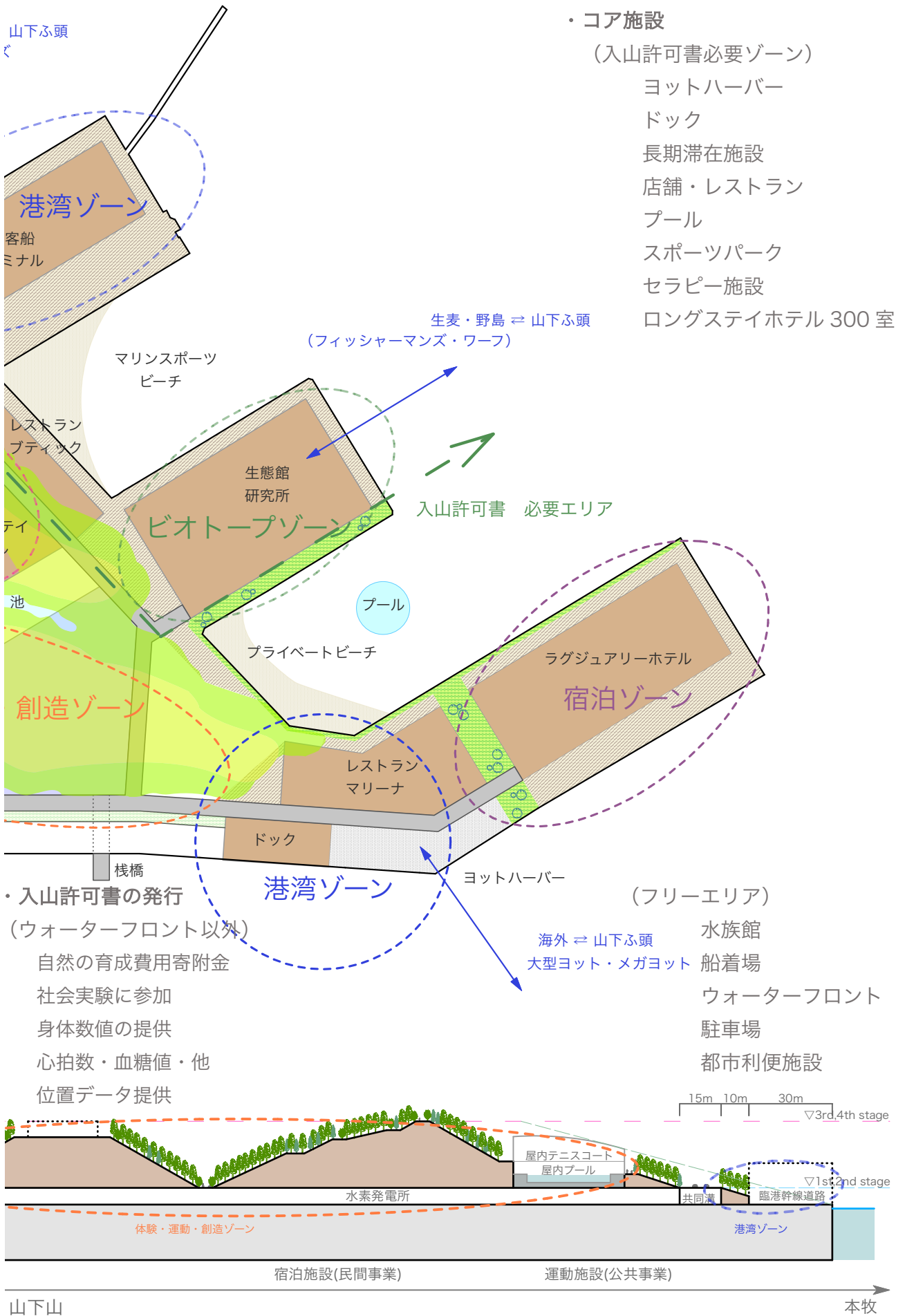
○土地利用イメージ図

山下ふ頭全体に山を作り、緑でおおう

高さを数段階に設定

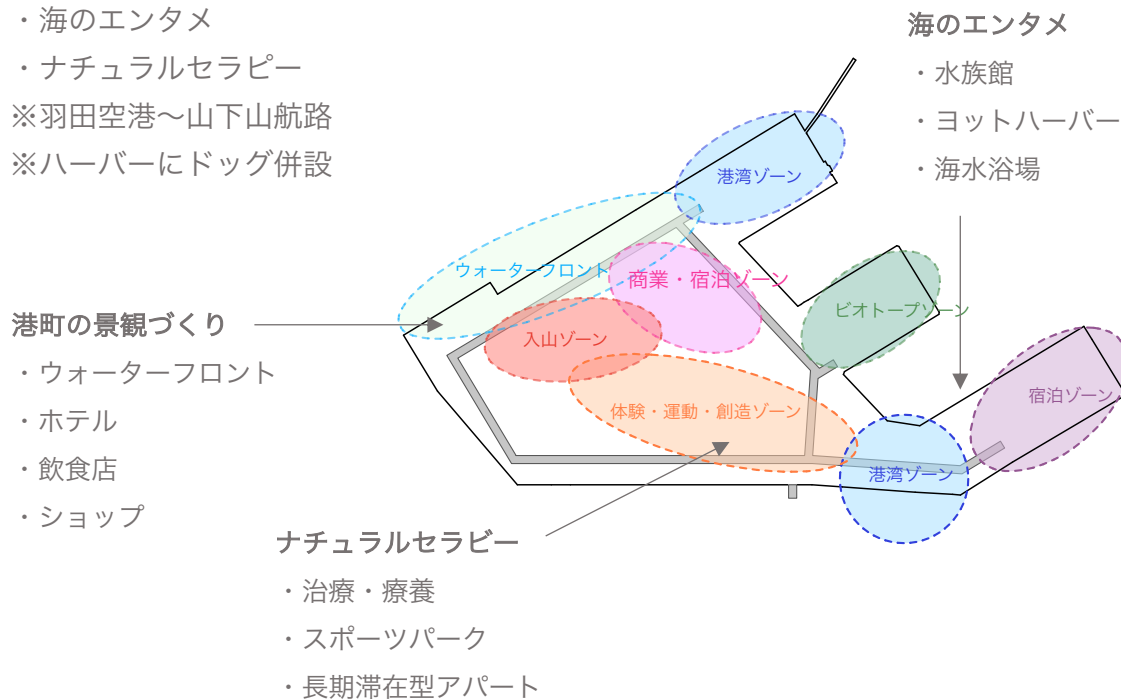
- ・斜面地は全て緑地
全体の60%以上
- ・平地は借地として貸し出す
期間は50年・20年
- ・構造躯体のみ建てて空間を店舗に貸し出す
期間は7年





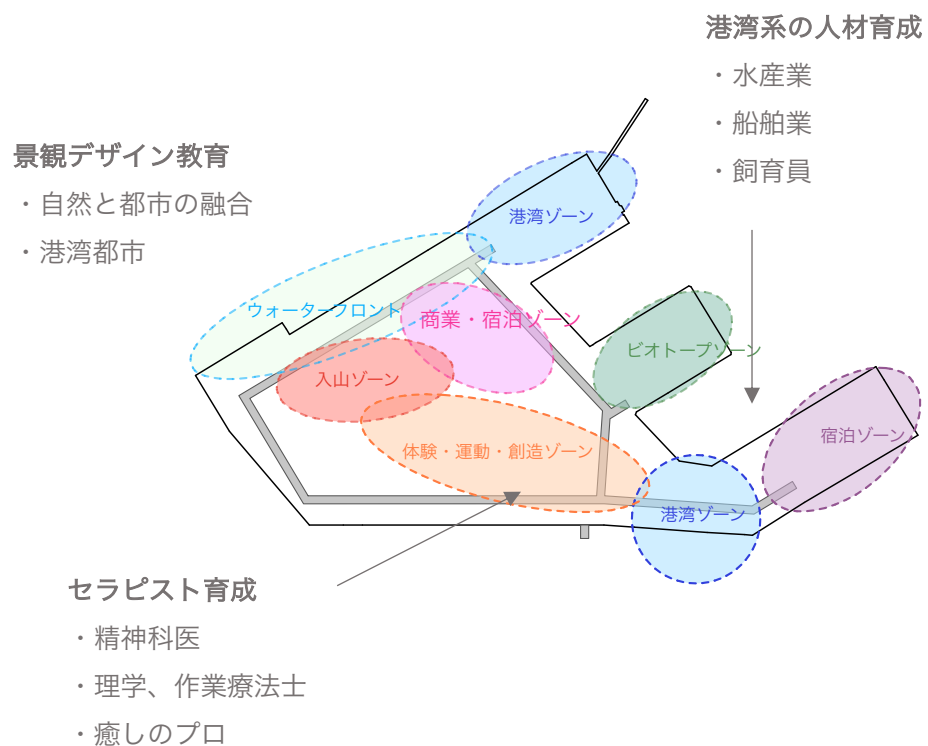
事業・・・魅力的な賑わいの創出

- ・ 港都の景観づくり
- ・ 海のエンタメ
- ・ ナチュラルセラピー
- ※羽田空港～山下山航路
- ※ハーバーにドッグ併設



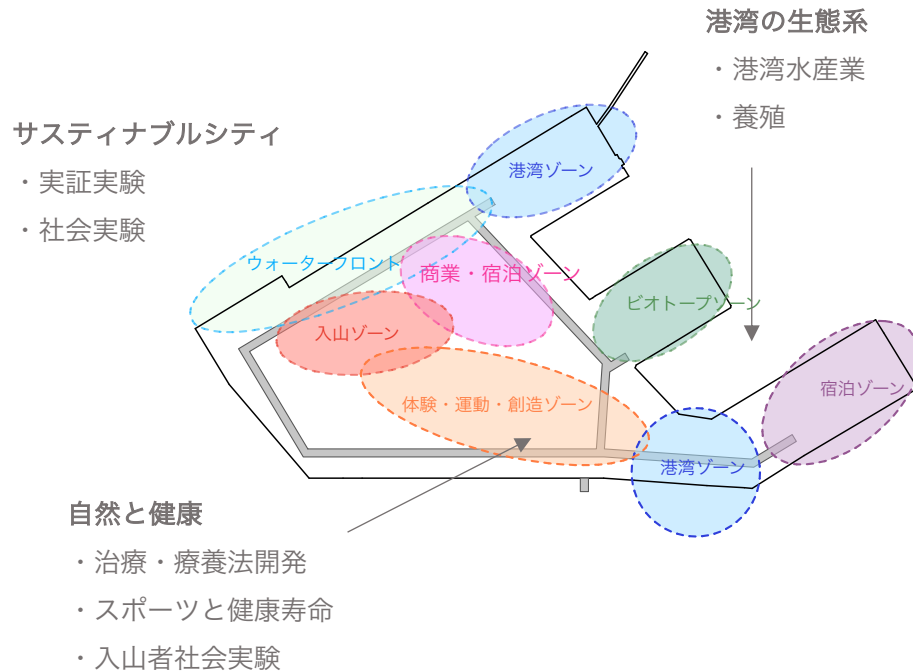
教育・・・グローバルな文化・交流

- ・ 景観デザイン教育
- ・ 港湾系の人材育成
- ・ セラピスト



研究・・・自然資本と都市の共生

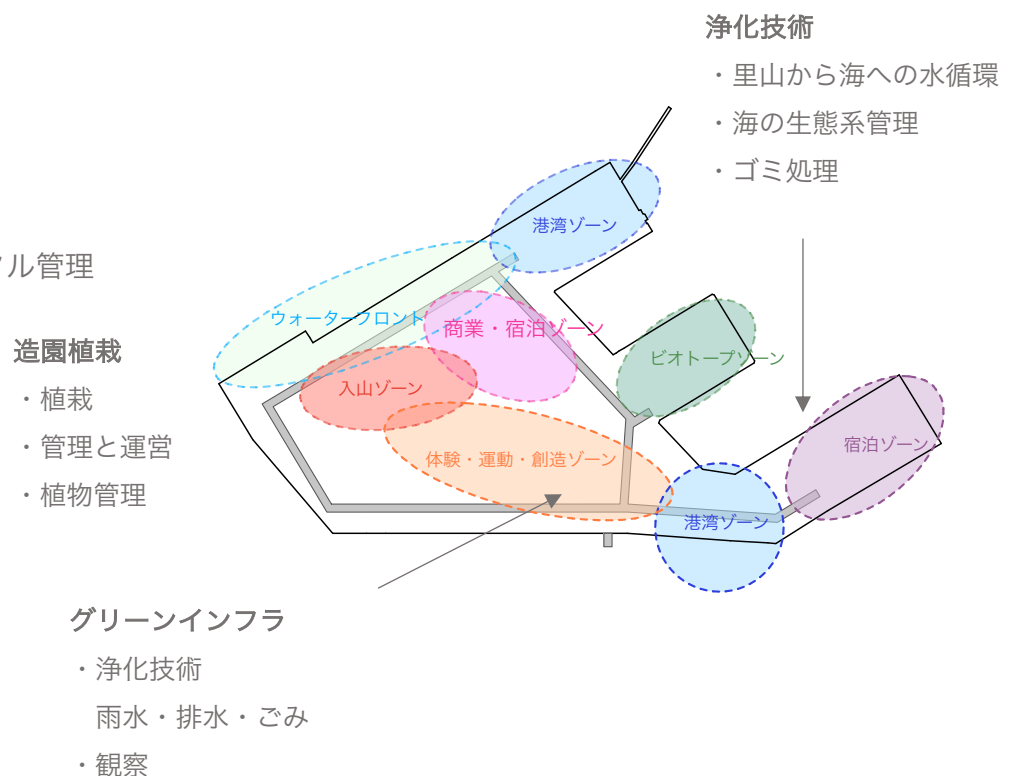
- ・サステイナブルシティ
- ・港湾の生態系
- ・自然と健康



インフラ・・・スマートエリアの創出

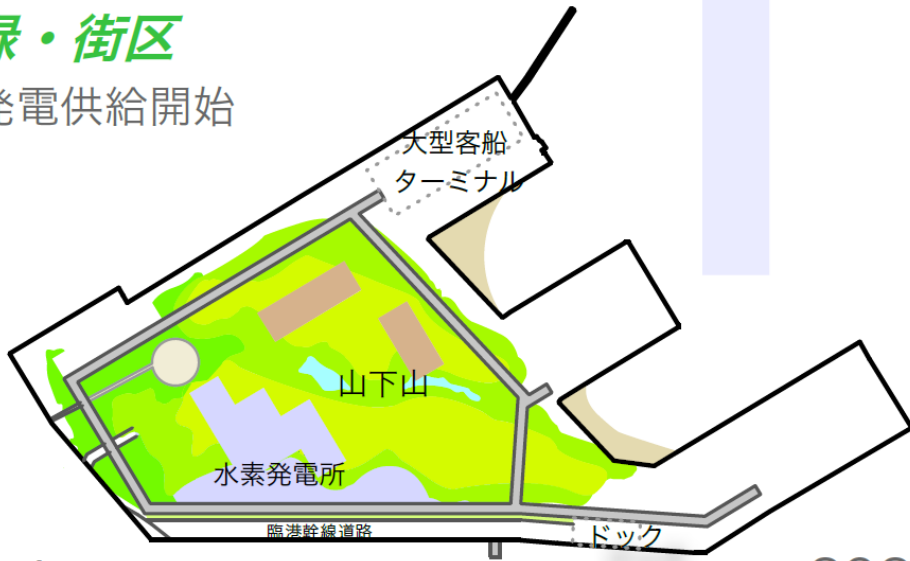
- ・グリーンインフラ
- ・浄化技術
 - 排水
 - 雨水利用
 - ゴミ
- ・造園植栽
- ・防災機能
- ・エネルギー

※都市のデジタル管理



緑・街区

発電供給開始

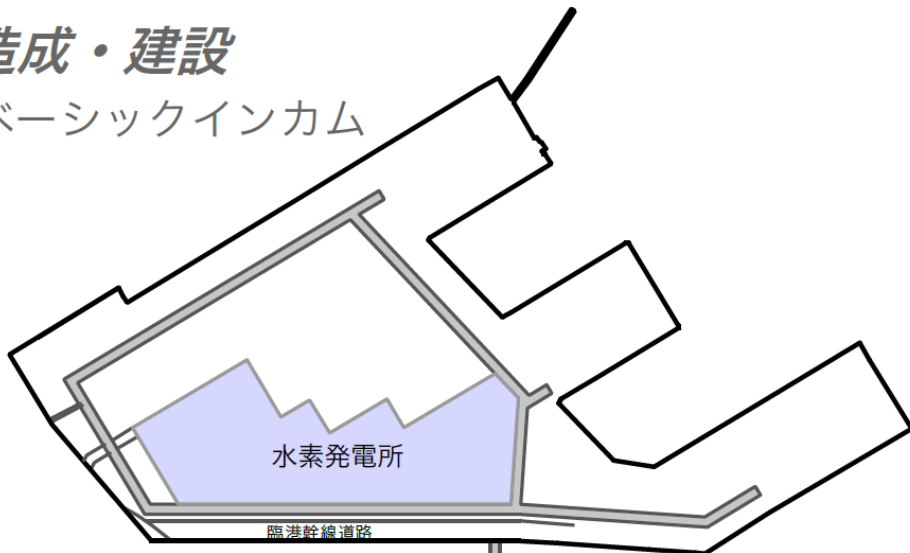


3rd stage

2028

造成・建設

ベーシックインカム

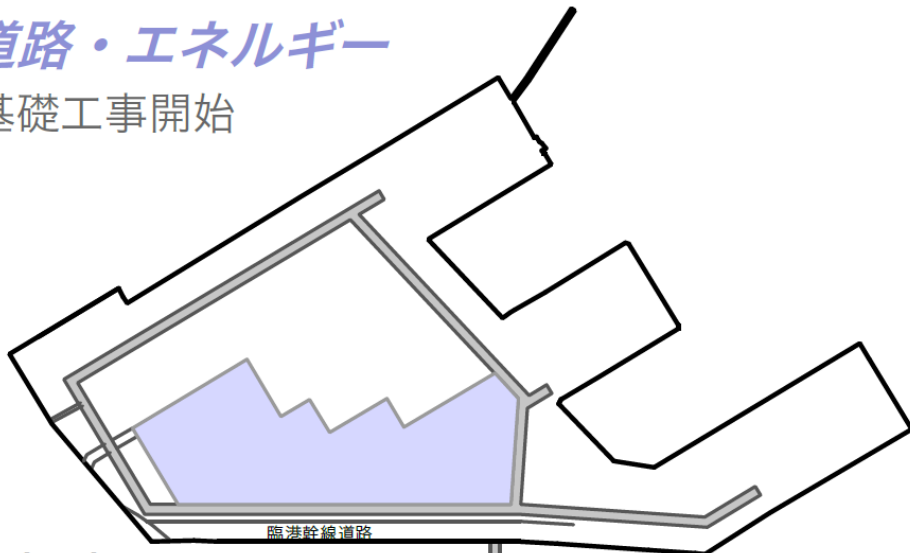


2nd stage

2027

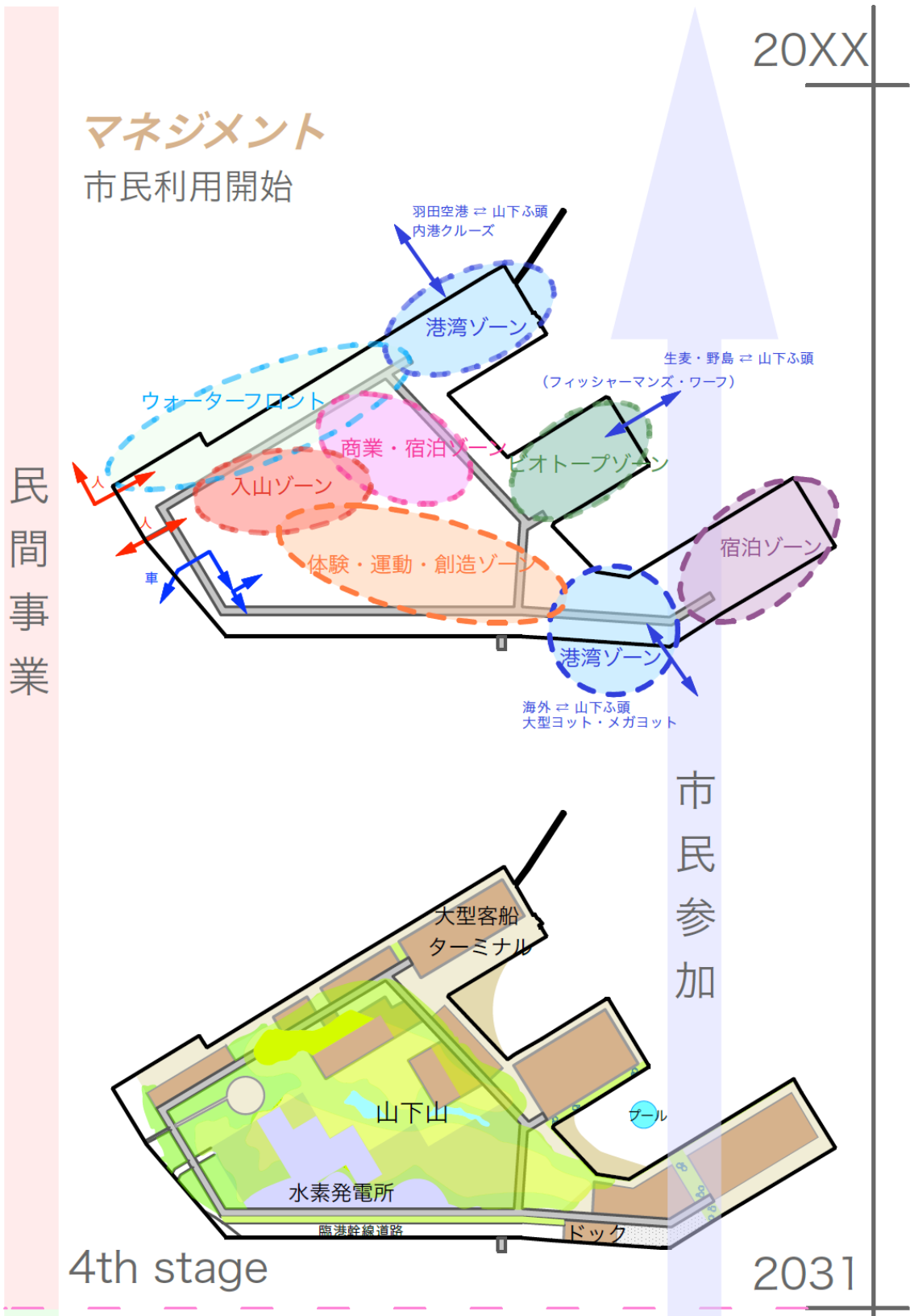
道路・エネルギー

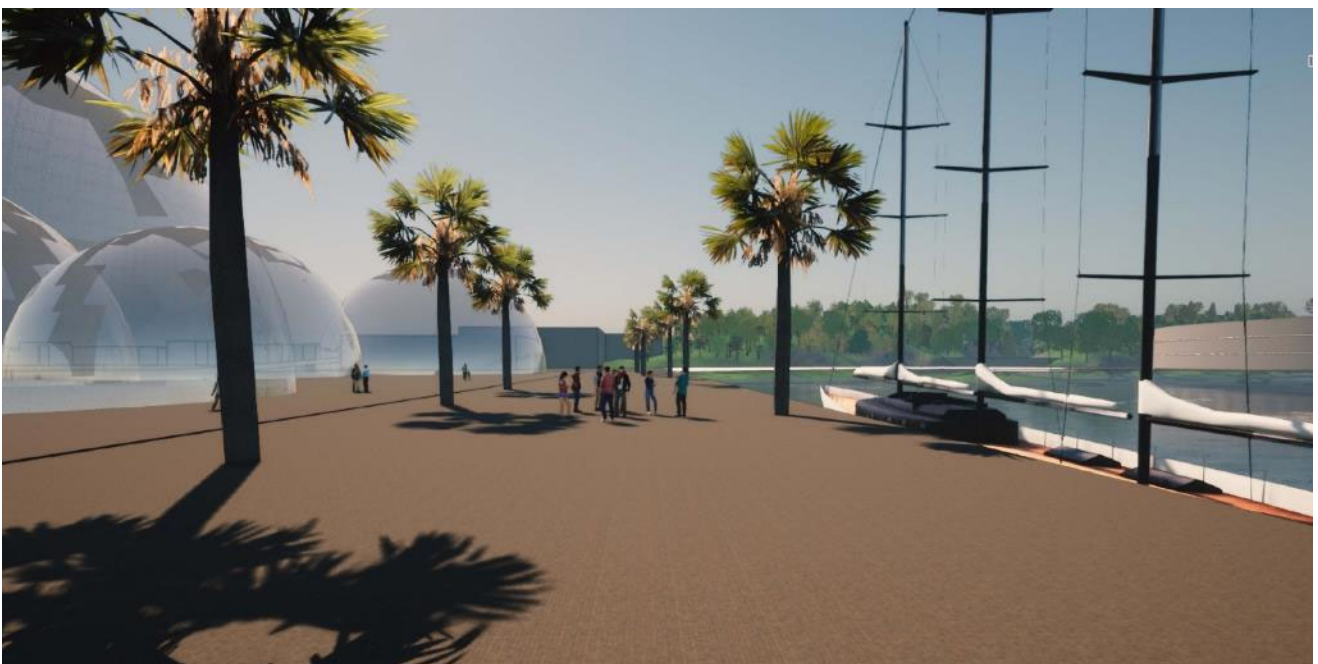
基礎工事開始



1st stage

2022

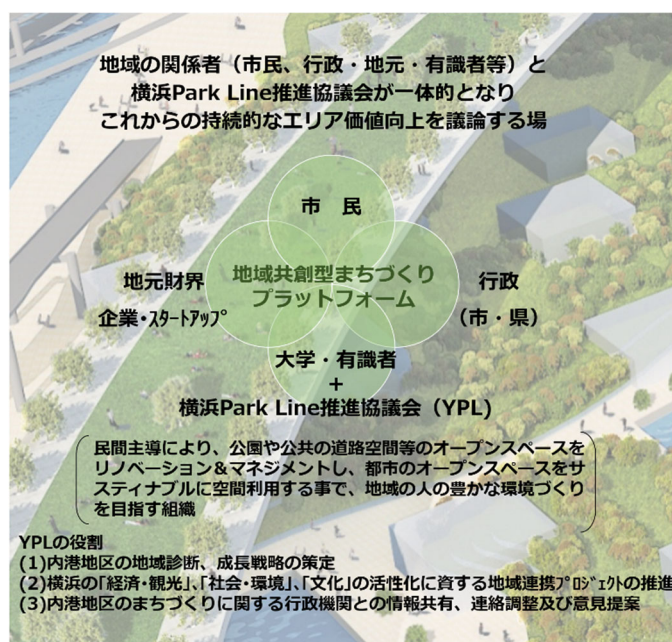




E案①内港地区の将来像

コンセプト：人・自然（海と緑）・テクノロジーが有機的に融合し、成長し続けるまち。市民に開かれた横浜「オーガニックシティ」の実現

- ・都心臨海部拠点（5地区）をつなぎ、豊かな回遊性・滞留性を創造する公共空間ネットワーク「横浜パークライン」の形成
- ・公共空間における、デジタルとグリーンが融合する次世代型都市基盤整備と民間マネジメントによる、豊かなコミュニティを創出する『スマート・グリーンシティ型開発』の実現
- ・地域の関係者と一体的にこれからのまちづくりを検討する「地域共創型まちづくりプラットフォーム」の創設



E案②山下ふ頭再開発の開発コンセプトや土地利用イメージ図、想定する導入施設

開発コンセプト：スマート・グリーンシティ型開発

- ・人・自然（海と緑）・テクノロジーが有機的に融合し、成長し続けるまち。市民に開かれた横浜「オーガニックシティ」の実現に向けた“スマート・グリーンシティ型開発”の社会実証モデル都市へ。
 - ・先進都市としてイノベーションを誘発・発信する3つの次世代型都市基盤（①コミュニティインフラ・②デジタルインフラ・③グリーンインフラ※）と文化創造都心・国際交流都心を目指す3つのグローバルハブ機能（エンターテインメント、メディア・芸術、研究・アカデミー）による次世代の街づくり
- ※ ①多様な人々がつながるコミュニティインフラ
②陸と海にまたがる Society5.0 を実現するデジタルインフラ
③「2027 園芸博」のレガシーを受け継ぐグリーンインフラ

土地利用イメージ図

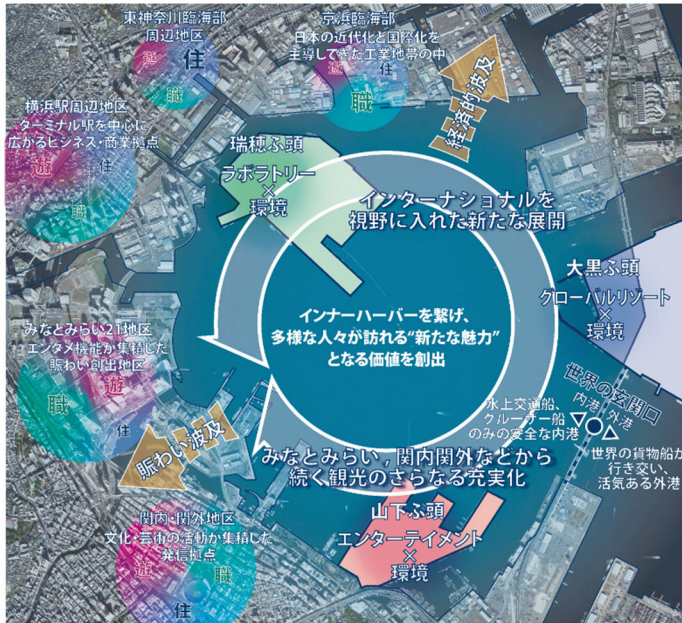


想定する導入施設

- ・エンターテインメント施設
 - 水辺空間と海上が一体となったワールドクラスのエンターテインメント施設（半屋外シアター、水上ステージ、全天候型プール等）
 - フードマーケット（食と農、海の地産地消、文化交流）
- ・文化芸術施設
 - メディア芸術（デジタルアート）のグローバル拠点施設
- ・研究施設
 - 海洋リサーチパーク（地球温暖化・環境問題・海洋ゴミ等）
 - 水産ガストロノミーセンター（AI 養殖場、ラボ、スクール等）

F 案①内港地区の将来像

コンセプト:「都市生活インフラの深化」×「職住遊機能の拡充」×「環境との共生」
により、魅力的なインナーハーバーへと深化し、横浜から「YOKOHAMA」
へ価値を創造・発信



3つの基盤ネットワークによるインナーハーバーの魅力強化

○水と緑の環境ネットワーク

多様な賑わいと自然を繋ぎ全体を活性化させるヒューマンスケールな円環状のネットワーク構築

○モビリティネットワーク

スマートモビリティによる交通ネットワークの強化と水上交通ネットワークの構築による域内外の移動需要促進

○エネルギー・デジタルネットワーク

スマートシティ構想など先進的な取り組みを実装するエネルギー・デジタルネットワークの構築

3つの未開発ふ頭のテーマ設定

○山下ふ頭【エンターテインメント×環境】

- ・賑わい・エネルギー・交通の新たな展開拠点
- ・日本最大の MICE 機能で都市間競争を強化
- ・MM21、関内関外などから続く文化の連続性を踏襲

○大黒ふ頭【グローバルリゾート×環境】

- ・国際客船ターミナルを有する世界の玄関口
- ・国際空港である羽田空港からのアクセス利便性を活用
- ・エコツーリズムの高付加価値化でラグジュアリーマスメ層獲得

○瑞穂ふ頭【ラボラトリー×環境】

- ・産学官が密接に連動した環境技術クラスターの形成
- ・京浜臨海部の次世代への継承と機能転換
- ・社会課題を解決するイノベーションラボラトリーの展開

F 案一②山下ふ頭再開発の開発コンセプトや土地利用イメージ図、想定する導入施設 開発コンセプト：「エンターテインメント×環境」

- ・ 自然と共生する次世代型エンタメパークや日本最大の MICE 施設の整備、賑わい・エネルギー・交通の新たな展開拠点の整備、環境・エンターテインメント・MICE 機能のコラボによるスマートシティ横浜のブランディングにより、都市間競争力を高めるとともに、新たな賑わい波及効果を創出

- ※ ・ 民間活用による実現性の高い事業スキームの構築が必要
- ・ 交通ターミナルとモビリティネットワークだけでなく、住居機能の役割が非常に重要
- ・ 行政側も責任を持つ形での公民連携事業とする(PFI 等)
- ・ 非日常の演出だけでなく、日常生活に密接に紐づく住居機能を設け、交通ターミナル拠点にしたモビリティネットワークで各エリアをつなぐことが都市の活力を創出する。

G案一①内港地区の将来像

コンセプト：「山内ふ頭」において横浜の持つ食文化を広く内外に発信し、周辺への賑わいを創出

- ・中央卸売市場としては、水産物及び青果物などの「食」をテーマとし、SDGs を意識した未利用の産品を含めた県産市産の物販や飲食を中心とするファーマーズマーケット&フィッシャーマンズワーフをイメージした地区に全面協力。ポートサイド地区に繋がる緑のプロムナードも整備し、来街者が憩い楽しめる空間を創出

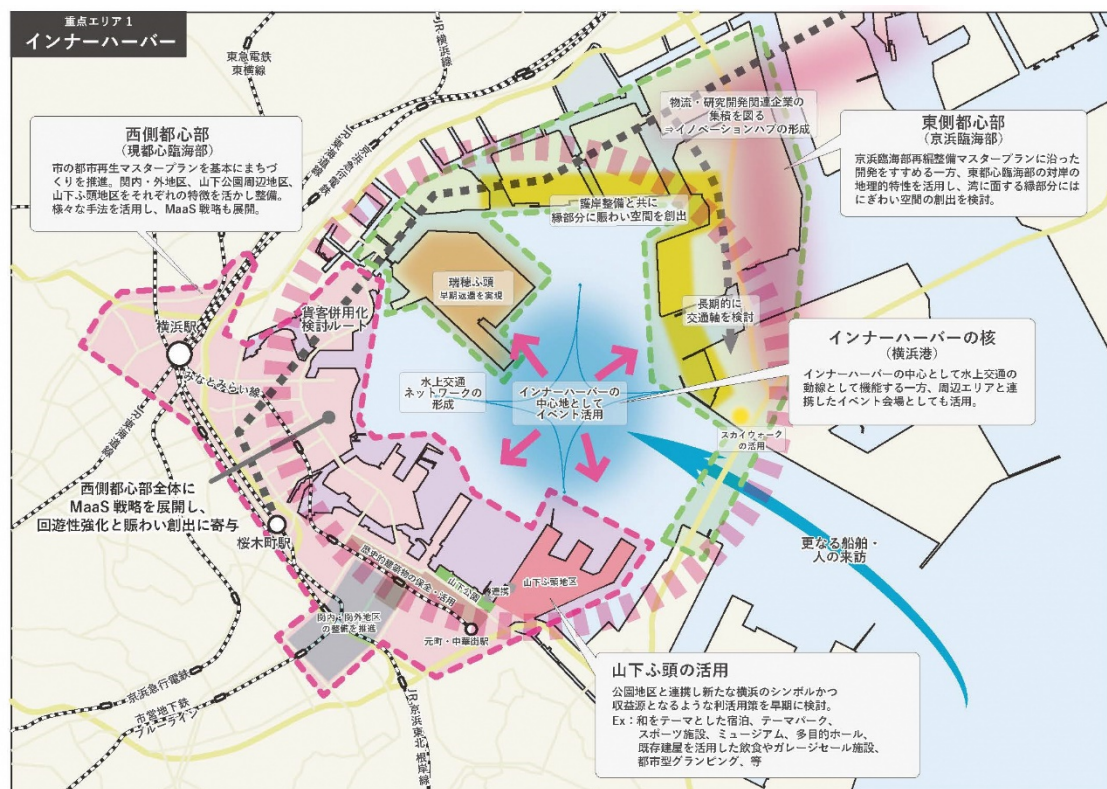
G案一②山下ふ頭再開発の開発コンセプトや土地利用イメージ図、想定する導入施設 **開発コンセプト：「食」で賑わい創出**

- ・山内ふ頭で実現できない場合、「食」で賑わい創出するために、地産地消フィッシャーマンズワーフ&ファーマーズマーケット（地産地消商店街・飲食店街）、山下ふ頭に市内漁港の漁船をつけてその場での水揚げや、通常は洋上廃棄してしまう未利用魚の販売、食のカルチャースクール（食の学校）の創設などを実施

H案-①内港地区の将来像

コンセプト：インナーハーバー構想の具体化—横浜港全体が市活性化の中心に

- ・横浜港全体の構想を描いたインナーハーバー整備構想をアップデート。“海洋都市の実現”もキーワードに、世界に誇るインナーハーバーの形成を目指します。
- ・横浜港はインナーハーバーの核とし、水上交通の動線として機能する一方、周辺エリアと連携したイベント会場としても活用
- ・東側都心部は、京浜臨海部再整備マスタープランに沿った開発を進める一方、東側都心臨海部の対岸の地理的特性を活用し、港に面する緑部分にはにぎわい空間の創出を検討
- ・西側都心部は、市の都市再生マスタープランを基本にまちづくりを推進。関内・外地区、山下公園周辺地区、山下ふ頭地区をそれぞれの特徴を生かし整備。様々な手法を活用し、MaaS戦略も展開



H案-②山下ふ頭再開発の開発コンセプトや土地利用イメージ図、想定する導入施設

開発コンセプト：山下公園地区と連携した新たな横浜のシンボルかつ収益源となるよう利活用策を早期に検討

【想定する導入施設まとめ】

いただいた10件の提案のうち、導入施設が提案され、事業者の承諾を得たものを掲載します。

機能	施設内容	規模
エンターテイメント	次世代型エンターテイメントパーク 等	約 80,000 m ²
業務	キャンパス型オフィス 等	約 930,000 m ²
コンベンション	MICE 施設、国際展示場 等	約 150,000～ 250,000 m ²
滞在	リゾート型滞在施設、中長期型滞在施設、サービスアパートメント 等	約 50,000～ 196,000 m ²
ショッピング	商業、飲食 等	約 40,000～ 60,000 m ²
水辺・親水	水上交通拠点、客船ターミナル 等	
交通インフラ	交通ターミナル、駐車場 等	
その他	公園緑地、エネルギー施設、研究施設 等	

(2) 山下ふ頭再開発に取り入れる視点

いただいた10件の提案のうち、再開発に取り入れる視点が提案され、事業者の承諾を得たものを掲載します。

「山下ふ頭再開発に取り入れる視点」

① 持続可能なまちづくり

【環境への配慮】

- ・地球温暖化の悪影響が世界を覆いつつあるため、SDGs 対応、水素利用の促進
- ・世界人口の増加に伴う、将来的な水不足・食料不足への緩衝性を高める方策の導入
- ・次世代型エネルギー拠点を形成し、インナーハーバー全体のエネルギー創出・循環を強化・拡張
- ・海洋資源の有効活用
- ・SDGs 水素エネルギー供給センター構想、「水素ベース地域熱電供給システム」構築、大災害時は市中へ電力供給（図－1）
- ・SDGs を基軸とした計画やカーボンニュートラルの取組み（図－1）



図－1

- ・「2027 園芸博」のレガシーを受け継ぐグリーンインフラ整備
 - 「砂浜再生」による親水空間形成
 - 「海の森 (アマモ場) づくり」「湿地づくり」による生物多様性の実現と CO² 吸収
 - 地表の緑被率を高めることによるヒートアイランド抑制
- ・グリーンインフラ (緑化) の導入やクリーンエネルギー (水素) の活用による環境未来都市の整備 (図-2)

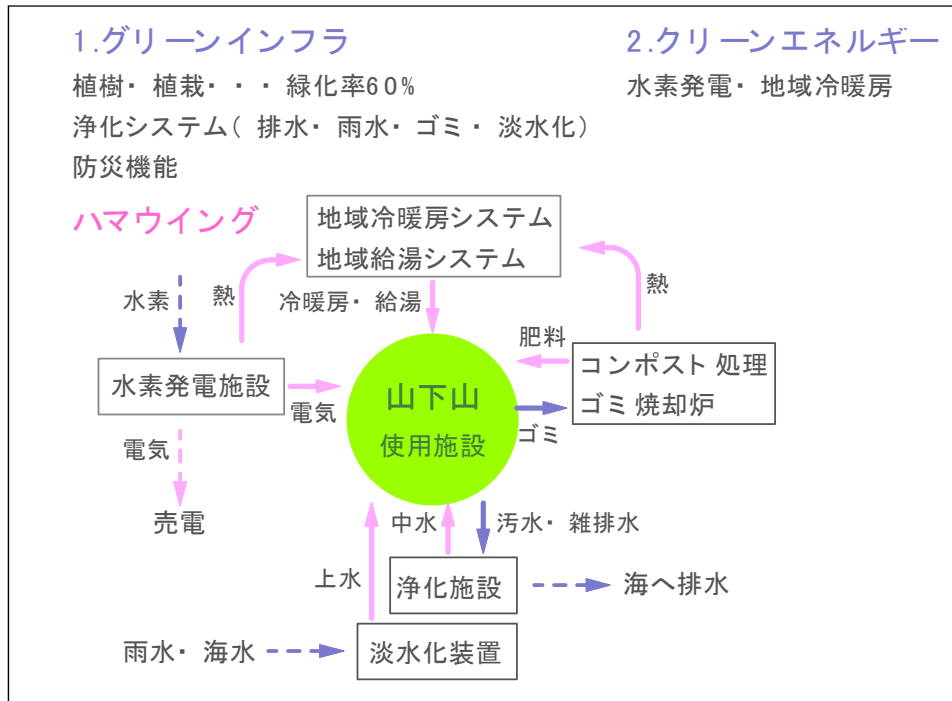


図-2

【防災・安全】

- ・人工地盤構築による BCP 対策 (域外への避難動線や緊急物資輸送用道路の整備)
- ・津波浸水レベルを想定した施設配置
- ・エネルギー拠点や下水処理場等の整備による有事や災害時でも自立した拠点の形成
- ・津波などの災害時に、避難場所となる防災センター機能を持つ医療防災拠点の誘致
- ・ビッグデータ・センシングによる人流シミュレーション、避難シミュレーションの実装
- ・TP3. 7m以上の人工地盤整備
- ・津波高さを想定したエリア内環状道路の整備
- ・5万人想定 of 防災拠点広場、淡水化装置、防災トイレなど防災機能の整備
- ・入山証アプリを活用した情報提供・伝達の整備

【経済成長】

- ・まち・市民・企業の持続的成長
- ・創出されるビジネスや技術のまちづくりへの還元
- ・世界的なイノベーション拠点の整備による横浜の国際的プレゼンスの向上
- ・国際都市競争力の強化
- ・文化創造都心、国際交流都心を目指す3つのハブ機能
 - 「地域×世界目線のエンターテインメント・ハブ」
 - 水辺空間と海上が一体となったワールドクラスの唯一無二のショー
 - 滞在観光に貢献する MICE のアフターベニューづくり
 - 食と農、海の地産地消をミシュランシェフが提供するマーケット
 - 「世界に誇る文化集結のメディア芸術グローバル・ハブ」
 - 横浜メディア芸術グローバル構想
 - 「AIR」(Artist in Residence)事業
 - 「開港文化横浜でのグローバルな研究・アカデミー・ハブによる国際交流」
 - 海洋リサーチパーク (地球温暖化・環境問題・海洋ゴミ等)
 - 水産ガストロノミーセンター (AI 養殖場、ラボ、スクール等)
- ・段階的開発とし、2nd stage でベーシックインカムを整備
- ・ハイブリッド型創造的思考法 (図-3)

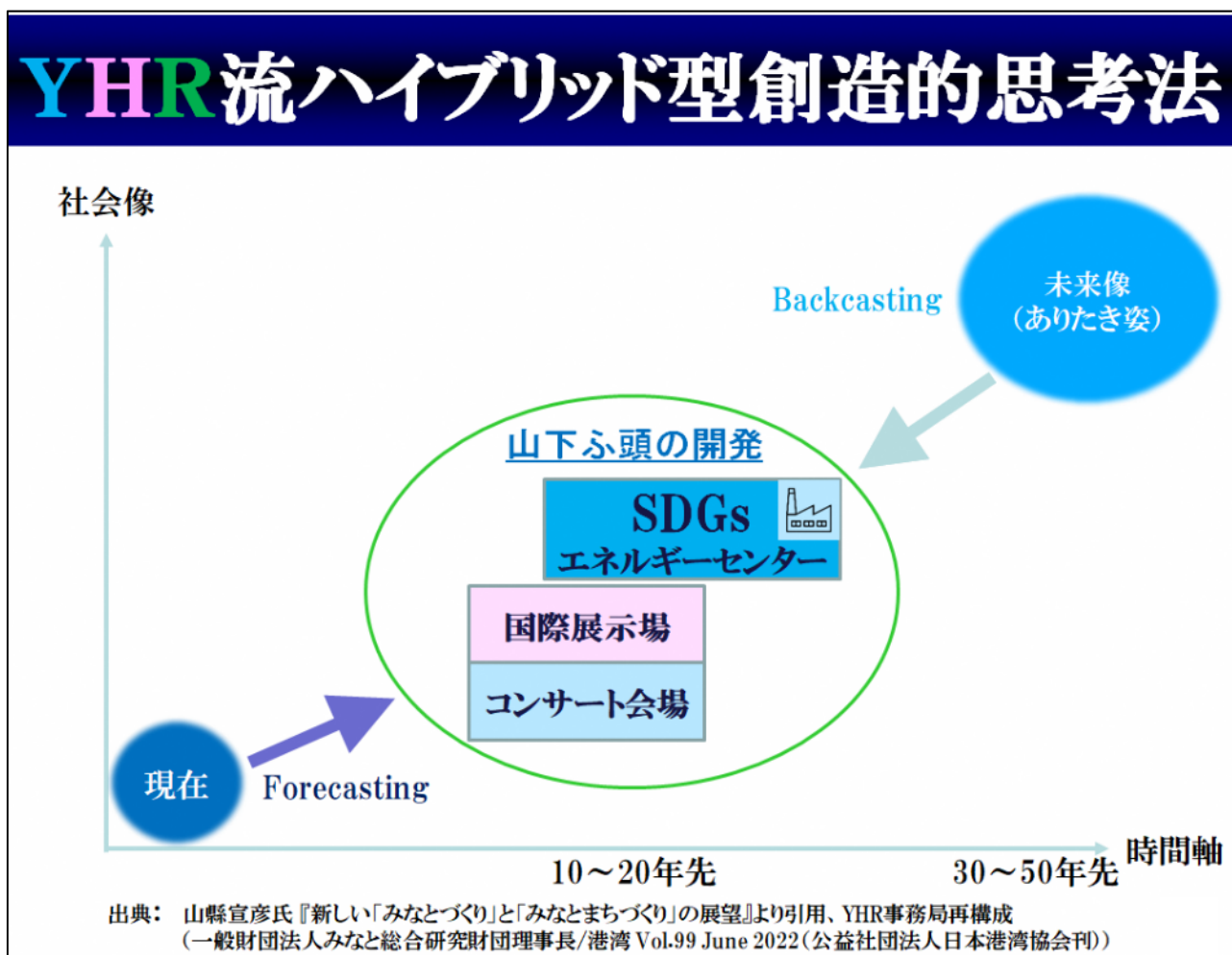


図-3

- ・国際展示場のある港 - 新モデル (図-4)
- ・国際展示会を開催することで、人と物品の両者が大量に流れる経済的に良好な作用 (図-4)

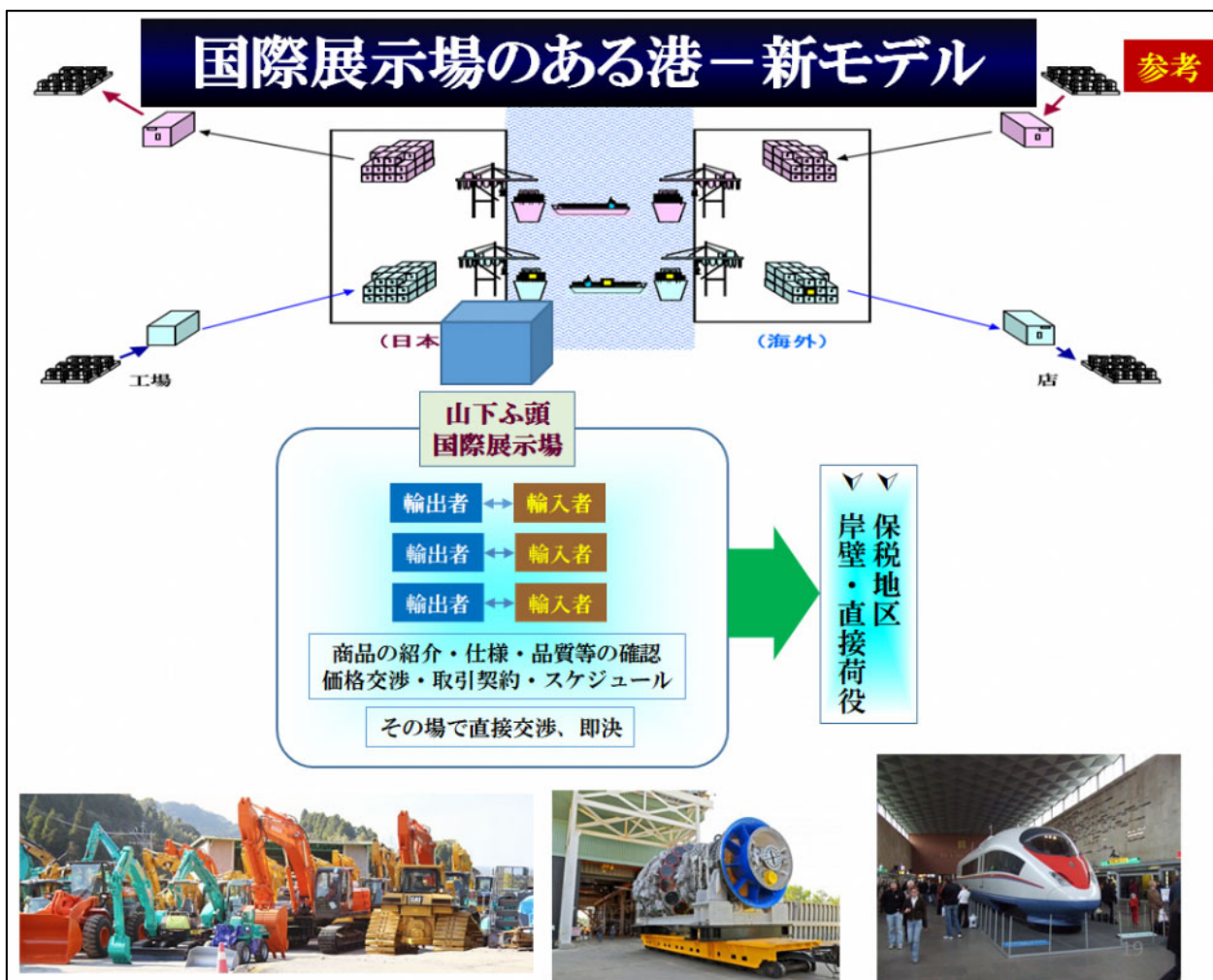


図-4

② 実験都市・先進性

- ・多面的な社会課題を解決するスマートシティへの取組 (社会実験やイベントが実施可能なパイロットフィールドとしての開発)
- ・最新のデジタル技術 (入山証アプリ等) を駆使した社会実証の実施
- ・自動運転モビリティの導入
- ・接客・配送ロボット導入や最先端の広告技術の導入
- ・臨海部の先進事例、新しい貿易形態を意識した展示会・見本市の開催
- ・国策へアプローチする社会実証モデル都市としての開発 (図-5)
- ・公共空間における、デジタルとグリーンが融合する次世代型都市基盤整備と民間マネジメントモデルの実装 (図-5)
- ・供用後も継続して一定エリアを社会実証場所として暫定利用 (図-5)
 (山下ふ頭での社会実証の成果を持続的に都心臨海部のまちづくりで実装)

首都圏で稀有な広大未利用地(43ha)を活用し、国策へアプローチする 次世代型 “スマート・グリーンシティ型開発” の社会実証モデル都市へ

先進都心としてイノベーションを誘発・発信する3つの基盤

[検討例]

- ① **多様な人々につながる
コミュニティインフラ**
⇒水際線に市民の新たな日常の風景を創出
⇒市民参加型共創活動(祭やマルシェ)を通じてコミュニティを醸成
⇒緑豊かな公共空間で QOL, WELL-BEING の向上
⇒社会課題、地域課題を解決する公共サービスの自立
- ② **陸と海にまたがる
Society5.0 の世界
デジタルインフラ**
⇒ビッグデータ・センシングによる人流シミュレーション、避難シミュレーション
⇒まちなか警備、見守りなどのマルチタスクのプラットフォーム
⇒走行中ワイヤレス給電による自動運転
⇒ドローンや自動走行ロボットによる集配サービス
⇒海に浮体する船体技術を活用した「HAKOBUNE」による都市インフラインフラ実証
- ③ **「2027 国芸博」の
レガシーを受け継ぐ
グリーンインフラ**
⇒「砂浜再生」で親水空間形成
⇒「海の森(アネ場)づくり」「湿地づくり」で生物多様性を実現し Co2 回収
⇒地表の緑被率を高めてヒートアイランド抑制
⇒TP+3.7m 以上に人工地盤整備(防災・減災:レジリエンス)

文化創造都心、国際交流都心を目指す3つのハブ機能

[検討例]

- ① **地域×世界目線のエンターテインメント・ハブ**
⇒水辺空間と海上が一体となったワールドクラスの唯一無二のショー
⇒滞在観光に貢献する MICE のアフターベニューづくり
⇒食と農、海の地産地消をミシュランシェフが提供するマーケット
- ② **世界に誇る文化集結のメディア芸術グローバル・ハブ**
⇒横浜メディア芸術グローバル構想の検討
⇒「AIR」(Artist in Residence)事業により「創造都市横浜」の実現に貢献
- ③ **開港文化横浜でのグローバルな研究・アカデミー・ハブ**
⇒海洋リサーチパーク(地球温暖化・環境問題・海洋ゴミ等)
⇒水産ガストロノミーセンター(AI 養殖場、ラボ、スクール等)



社会実証を国へ提言

例えば日本初の『海洋(臨海)版デジタル田園都市構想』、あるいは『海洋版スマート・シティ構想』等国策への提言を行い、民間各社が取り組んでいるイノベーションを街単位で実施。横浜から次世代の街づくりの先行モデル都市として世界に発信。

社会実証の成果を都心臨海部全体へ展開 都心臨海部へ展開し『オーガニック・シティ』の実現

◎官民連携による実証実験と持続的な成長を実現する段階的開発

官民連携による大胆な規制緩和、社会実証実験等により民間活力を導入。
外部環境の変化に左右されず適応し、山下ふ頭のエリア価値の持続的向上を目指すために、官民連携による多段階の開発を提案します。供用開始前段階の暫定利用(社会実証)は、地域のステークホルダーニーズに基づき、エリアが有するポテンシャルの最大化を検討します。

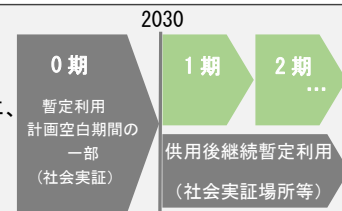
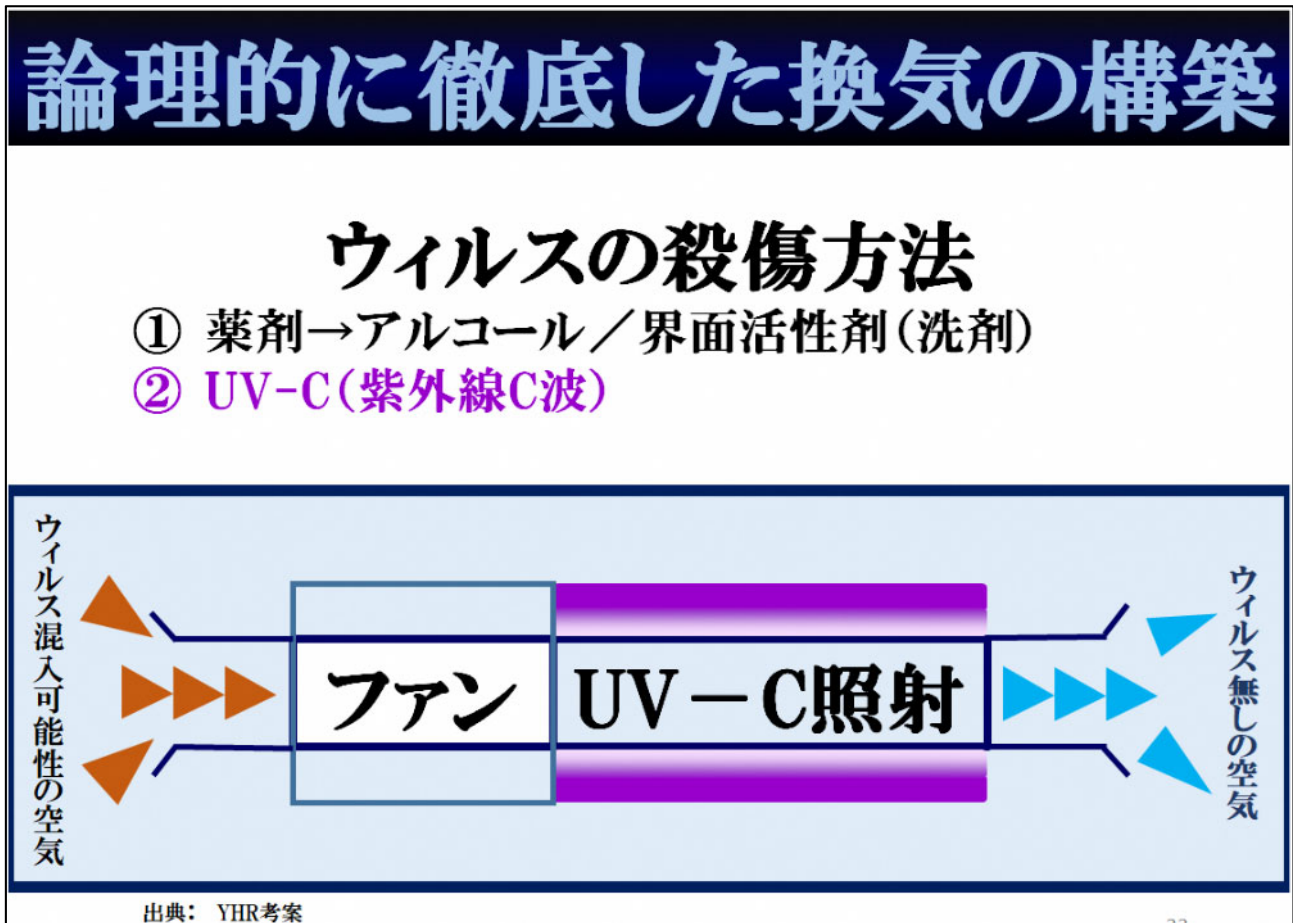


図-5

- ・論理的に徹底した換気の構築（ウイルスの殺傷方法、UV-C〔紫外線C波〕）（図－6）
- ・コロナウイルス対策空調システム開発（図－6）



図－6

③ 多様性社会

- ・民間マネジメントによる新たなコミュニティや、多様な人々がつながるコミュニティインフラの構築
 - 水際線に市民の新たな日常の風景を創出
 - 市民参加型共創活動（祭やマルシェ）を通じてコミュニティを醸成
 - 緑豊かな公共空間でQOL、WELL-BEING向上
 - 社会課題、地域課題を解決する公共サービスの自立
- ・Well-Beingを第一に、障害のある人もない人も、誰もが共に過ごすインクルーシブなエリアの整備
- ・開発手法提案として、「市民の意見を広く遍く聴き、提案されたアイデアを集約」、「山下ふ頭のあるべき姿」を構築すべきと提言しており、そこには当然に「多様性社会」の実現に向けた要素も包含されています。（図－7）

村人とは 横浜市民

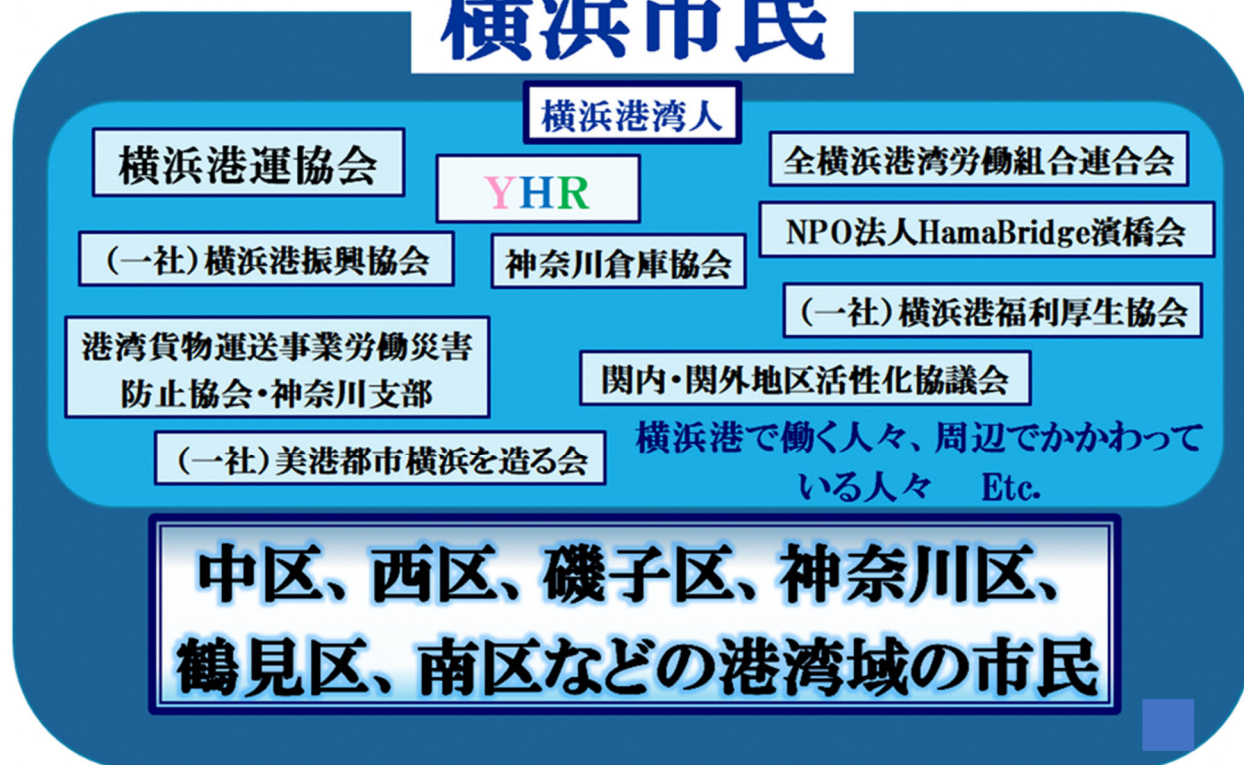


図-7

(3) 開発の事業性

いただいた10件の提案のうち、開発の事業性が提案され、事業者の承諾を得たものを掲載します。

「開発の事業性」

事業収支について、初期投資額は約1,000～8,000億円といった事業収支を見込む提案がありました。

各社の提案は大規模な開発投資を伴うものであり、建設投資効果や来街者数の増加に伴う都市稼働効果、市の増収効果や雇用誘発効果についての具体的な提案もありました。

項目	
初期投資見込額	約1,000～8,000億円
収入（年）	約480～517億円
支出（年）	約72～170億円
来街者数（年）	約530～4,500万人
雇用者数	約1.0～12.6万人

(4) 市へのご意見・ご要望

いただいた10件の提案のうち、市へのご意見・ご要望が提案され、事業者の承諾を得たものを掲載します。

「市へのご意見・ご要望」

本事業への意見・要望として、段階的開発が望ましいという意見が複数あったほか、市もしくは官民連携による基盤整備や維持管理・運営等を求める意見等がありました。

① 開発コンセプト等についての意見・要望

- ・山下公園との連続性や山下公園通りとの街並み調和のため、本事業と連携した周辺地区の開発促進
- ・産官学民による地域共創まちづくりプラットフォームの構築
- ・環境と調和する街自体を創ることが次世代のウォーターフロント開発として、世界への発信が可能になるポテンシャルに繋がる。
- ・みなとみらい地区でのMICE機能をより充実させるために、近隣地区である山下ふ頭エリアは、連携していくエリアと位置付け
- ・山下ふ頭は市民にとって横浜港に残された貴重な宝であるため、慎重な議論を踏まえた事業推進が必要（図－8、図－9）

山下ふ頭開発理念(人)

山下ふ頭は世界・地球のダイヤモンド

- オールヨコハマによる開発が必要
- 村人による手作り
(地元民案・地元民設・地元民営)
村人自ら企画・立案する
- 開発施策を抜本的に見直しする
 - ✓ ゼネコン・デベロッパーが発案することではない
 - ✓ 基本概念を作ってから工事公募すると良い
- 先ず、アイデア募集し、取捨選択する

図-8

村人とは 横浜市民

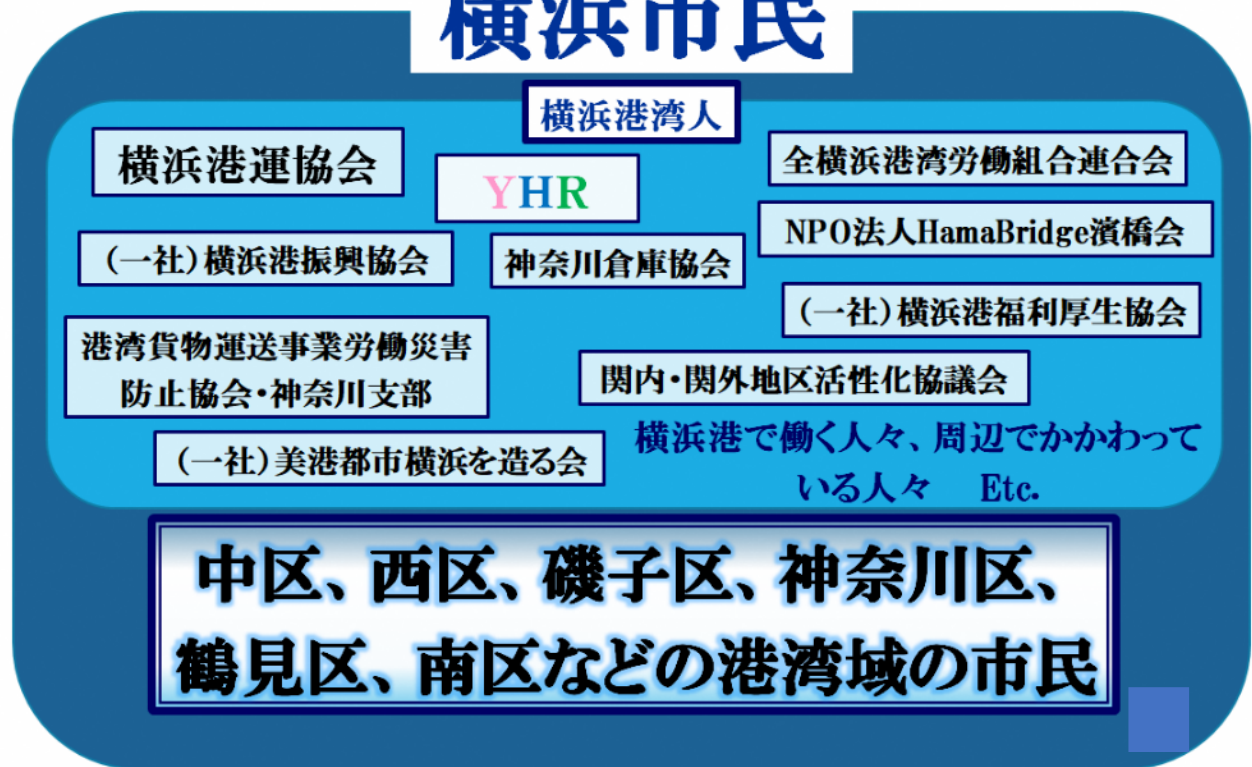


図-9

② 事業スキーム等についての意見・要望

- ・市による基盤整備実施
 - － ふ頭基部における混雑緩和対策及びアクセス強化のため、①元町中華街駅からふ頭基部への歩行ルートの充実、②アクセス手段の多様化（山下ふ頭・みなとみらい間の臨海幹線道路の整備、地下鉄の延伸、水上交通活用等）についての検討
 - － 土壌汚染対策や残置物対策、護岸整備等
 - － 外構部、道路、公園、エネルギー関連施設等
 - － 既設の山下公園駐車場との一体検討による埠頭入口部の接道範囲の拡幅の検討
- ・段階開発の導入及びそれに考慮した土地利用方針の設定
- ・官民連携によるインフラの整備や維持管理・運営
- ・官公庁の補助金を利用
- ・企業立地促進条例の適用範囲拡大と申請受付期間の延長
- ・定期借地事業（期間 20 年～70 年）としての実施
- ・容積の適正配分とそれに伴う地代設定
- ・デッキ等による道路上空利用のための制度活用
- ・イノベーション促進や日常的な賑わい創出を目的とした住宅機能の導入
- ・公設民営による公共性の高い施設（MICE 関連施設、交通ターミナル施設など）の導入
- ・産官学民による公共空間マネジメントを含めた、エリア全体の開発コンセプトを実現可能な企業群を対象とした開発事業者公募
- ・2030 年の開業を目指し、官民での対話をしながら、市も開発事業者も無理のないスケジュールでの事業推進
- ・市民（村人）主体で「ありたき姿」について意見を集約し、開発手法も含め、市民主体でランドデザインを策定すべき（How）（図－10）
- ・開発事業提案募集実施要領の「スケジュール」に記載の「地元代表者・有識者等委員会」に関し、委員会ありきの方針に見え、市が勝手に決めることではない。（図－10）
- ・公募という手法にとらわれず、どのような手法が良いのか精査が必要（図－11、図－12）
- ・過去における委員会方式の失敗事例から学び、将来の開発手法（市民（村人）主体）に活かすべき（図－11、図－12）
- ・委員会方式をとるのであれば、委員長はノーベル賞受賞者から候補を選ぶことを提案する。委員会設立の趣旨（目的）、委員の権限、委員の人事（プロセスの透明性）についても、予め、市民と一緒に議論、コンセンサスを得るプロセスが必須であり、権限は委員（専門家）の視点で市民の意見をブラッシュアップするサポート機能に限定すべき

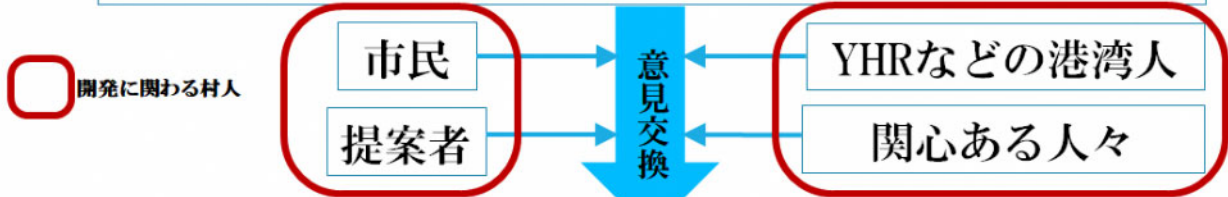
HOW (どのように開発するか)

横浜市行政:IR/カジノ事業推進失敗の反省によるけじめが必須

横浜市が行政として山下ふ頭開発を進める

市民の意見を広く遍く聞き、様々なアイデア提案募集

開発手法、集まったアイデアを集約



開発委員会を招集
山下ふ頭のあるべき姿を構築していく

横浜市・市民・港湾人などが最終案を決定する

図-10

山下ふ頭開発の順序・手順

地元の村人の考え

横浜市民の考え

地元専門家を交えて具体案を昇華

山下ふ頭開発事業計画
市民意見集約・決定

地元建設事業者優先で建設事業決定
(横浜市内への経済波及効果アップ最優先)

図-11

山下ふ頭開発-民案立案

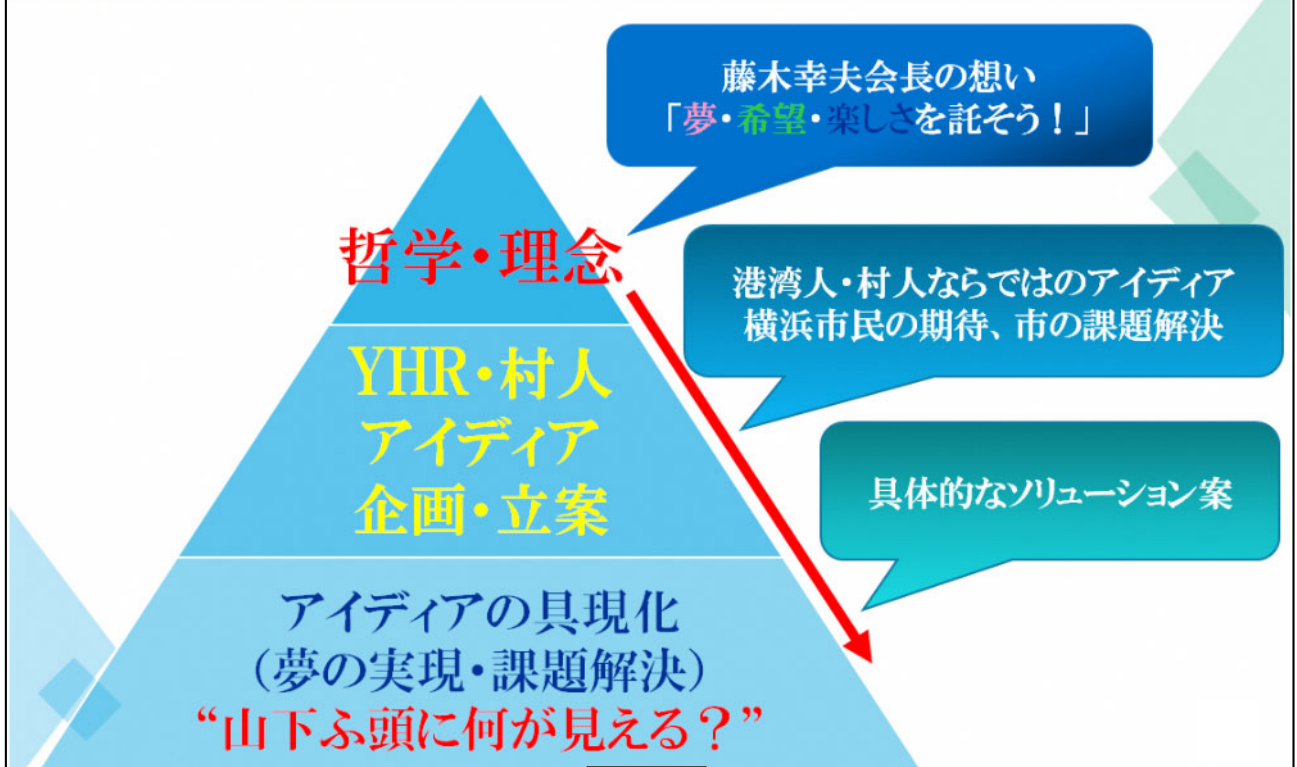


図-12

③ 特区の活用についての意見・要望

- ・外国人材に対する規制改革メニューの活用
- ・規制緩和、特区などの特例措置の検討
- ・特区活用をすることで世界からの注目度が高まるならば、特区活用も考慮していきたい。
- ・経済活性化の切り札として、あらゆるスポーツを対象としたスポーツベッティングの特区実証実験（図-13 ～ 図-19）

スポーツベッティングとは

2

➤ あらゆるスポーツが対象

サッカー、野球、バスケ、テニス、卓球、マラソン、相撲 etc

➤ あらゆる場面が対象

優勝チーム、勝敗、スコア（得点）の合計、最初に得点するチーム（選手）、大谷の次の打席の結果 etc

図-13

スポーツベッティングとは

3

➤ 330兆円市場

➤ 世界最大の市場：米国でも解禁（2018） 日本を除くG7各国で合法

➤ 税収増に直結

➤ 世界のスポーツビジネスの中核 世界にあって、日本にない

スポーツを産業として発展させる切り札
主戦場はオンライン→DX化推進→DX技術の革新

図-14

スマホの進化、通信速度の進化 →ライブ・ベッティング (Watch & Bet)

4

- いつでも、どこでも、スマホでポチッと
- 勝敗、スコア（得点）、優勝チーム・・・
 - ・次にゴールを決めるのはどちらのチーム？
 - ・8回の表と裏、合わせて何点？
 - ・合計得点は、奇数？偶数？
- NFL公式戦平均ベット数 = 45回 / 試合
- ベッティング参加者の週平均視聴時間は2倍に (10h → 18h)

イノベーションの宝庫

図-15

なぜ、山下ふ頭でスポーツベッティングなのか

21

- 経済活性化の切り札
 - ・新たな産業創出、テクノロジー進化（イノベーションの起爆剤）
 - ・新たな財源（税収）
 - ・先進諸国（G7）で合法化されていないのは日本だけ
 - ・2,000兆円を超える個人金融資産を動かす

【懸念点】

- ・依存症、風紀悪化などを懸念する国民感情
- ・八百長の温床になることを懸念するスポーツ界
- ・こうした不安の声を懸念する政治

実証実験を行う必要

図-16

山下ふ頭でのスポーツベッティング特区実証実験

22

【立地条件】

- ・三方を海に囲まれ、入退場のコントロール、警備・監視が容易
- ・横浜市中心部からのアクセスが良く、集客も容易
- ・横浜の新たな観光の目玉としての可能性

【何を建てるか】

- ・オンラインで完結するため、カジノ施設のような巨額設備投資は不要
- ・複合スポーツコンプレックスを建設
⇒実証実験後は、プロスポーツチームの本拠地とするほか、
武道、コンサート、集会等の各種イベントに利用

図-17

山下ふ頭でのスポーツベッティング特区実証実験

23

➤ アリーナ

バスケットボール、バレーボール、アイスホッケー、ハンドボール、卓球、武道など、複数のスポーツイベントが開催できるスポーツコンプレックス。

➤ 開閉式スタジアム

サッカーやラグビーがプレーできる大きさの人工芝スタジアム
(現在、米国のプロサッカーリーグのうち5チームは人工芝)

課題は利便性。野球のプレーを可能にする形状を求めると、利便性は更に落ちる

➤ ホテル、ショッピングセンター、体験型スポーツ施設

図-18

【入場方法】

- 山下ふ頭の専用ゲートから入場（入場は無料）
- 入場の際は、マイナンバーカード（マイナンバーカードと紐づけたクレジットカード、バーコード、QRコードなど）でゲートを通過
場内での支払はすべてキャッシュレス
- 第3セクターの出資者が発行するクレジットカード・電子マネー等のみ使用可能
- 1カ月の使用額に制限を設ける（年齢による制限も検討）
- 地域フィルタによって、場外からのベッティングは出来ない
- 24時間営業（欧米の試合に対応）

図-19